

2020年度 点検評価改善報告書

[教育研究活動報告]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

學 長

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	浅野 嘉延	職名	教授	学位	医学博士 (九州大学 1989 年)
----	-------	----	----	----	--------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、保健統計学、高齢者福祉学、大学運営学	看護学生教育、福祉用具、大学教育・運営

研 究 課 題
これまで、医療現場での臨床医と看護系大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で実際に必要となる知識・技術を有効に教授する教育法の確立を目指してきた。これまで、患者サンプルを用いた実践的な教材を利用して、5 冊のテキストを出版してきた (現在、150 校以上で教科書採用されている)。また、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」での研究から商品化した「車椅子用フットプレートカバー」は、有菌製作所より販売を継続中である。 2021 年度から学長に就任するため、社会から期待される大学であり続けるための運営法を模索したい。

担 当 授 業 科 目
疾病学各論Ⅰ (前期) (看護学科) 医学総論 (前期) (福祉学科) 保健福祉学入門 (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科) 疾病学各論Ⅱ (後期) (看護学科) 看護のための臨床検査 (後期) (看護学科) 保健統計学 (後期) (看護学科) 疾病学特論 (後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保健福祉学入門】 看護学科、福祉学科、栄養学科の1年生に対して、各学科の専門性と多職種連携の意義、社会の期待に応えるための課題などを解説した。授業は学部長、学科長、卒業生などの外部講師によるオムニバス形式とした。遠隔授業に慣れていない新入生にも理解しやすい内容とし、保健福祉学部での勉強や学生生活を送るうえでの指標となるように心掛けた。
授業科目名【保健統計学】 看護学科の学生にとって数少ない社会医学の系統講義である。ただ、馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計 (改訂3版)」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。 ほとんどが遠隔授業であったため、例年以上に復習の時間をとり、繰り返し説明を行うようにした。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。 授業中に統計データから社会問題を考察するなどのレポートを課した。
授業科目名【疾病学各論Ⅰ】【疾病学各論Ⅱ】 自著の教科書「看護のための臨床病態学 (改訂3版)」を使用して、内科疾患を中心に疾病学の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。外科疾患、小児科疾患、精神科疾患の講義は専門の臨床医に依頼し、全体的なコーディネートを行った。 ほとんどが遠隔授業であったが、配布資料などを多用して、対面授業と変わらない授業効果を目指した。外科疾患の手術動画などは遠隔授業の方が見やすかったと考える。

授業科目名【 看護のための臨床検査 】 上記の疾病学各論Ⅰ &Ⅱと連携させて進行し、疾病とリンクして臨床検査の知識が身につくように工夫した。自著の教科書「看護のための臨床検査」を使用して、各々の検査法やデータの解析を解説するとともに、検査データから患者の病態が把握できるように症例提示による解説をした。対面授業では DVD を用いて検査手技などを映像で説明したが、遠隔授業では技術的に供覧できなかった。また、例年行っている心電図測定などの検査演習も遠隔授業のために実施できなかった。 症例を提示して疾患名を考えるレポートを課した。期末試験は教科書持ち込みで患者データを解析するといった（知識だけではなく）思考力を問う問題を出題した。
授業科目名【 疾病学特論 】 卒業後は臨床現場で働くことになる看護学科 4 年生に対して、自著の教科書「解剖生理と疾病の特性（改訂 2 版）」を使用して、疾病学の総復習を行いながら、臨床現場で必要なことを解説した。また、看護師国家試験の直前であるため、国家試験の対策となるようにポイントを示した。
授業科目名【 医学総論 】 福祉学科 2 年生に、基礎医学（解剖生理）、臨床医学（主要疾患）、社会医学（公衆衛生）といった非常に広範囲な内容を講義するため、福祉の業務に関係する内容にポイントを絞って解説した。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、社会福祉士国家試験の出題範囲であるため、国家試験の過去問題の解説も行った

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学会 日本血液学会	内科認定医・専門医試験の病歴要約評価 評議員（1998 年 4 月～現在） 九州支部評議員（2011 年 4 月～現在）	1983 年 6 月～現在 1985 年 6 月～現在
日本癌学会 アメリカ内科学会 日本看護科学学会 日本看護学教育学会	上級会員 FACP（2000 年 1 月～現在）	1986 年 6 月～現在 1998 年 12 月～現在 2008 年 12 月～現在 2008 年 12 月～現在

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
＜教科書の執筆＞ 1. アセスメントができるようになる 検査 まるわかりガイド	単著	2020 年 4 月	照林社 (全 162 ページ)	著者：浅野嘉延 臨床検査の方法やデータの読み方を解説した。
＜その他の執筆＞ 1. 序文	単著	2020 年 4 月	アセスメントができるようになる検査まるわかりガイド、 照林社、2020	著者：浅野嘉延 教科書の序文
2. 感染症と人類の歴史	単著	2020 年 6 月	西南女学院月報 第 674 号:2, 2020	著者：浅野嘉延 巻頭言
3. 副学長就任のご挨拶	単著	2020 年	広報 西南女学院 第 98 号: 2, 2020	著者：浅野嘉延 就任挨拶

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. 生徒の皆さんへのメッセージ ～倫理審査委員会の出した結論～	単著	2020年10月	西南女学院中学校・高等学校 宗教部通信「要」13号:1-2, 2020	著者：浅野嘉延 全体礼拝の後日談
5. 戦場のメリークリスマス	単著	2020年11月	西南女学院月報第679号:2, 2020	著者：浅野嘉延 巻頭言
6. コロナ禍における保健福祉学部の実状	単著	2021年	広報 西南女学院第99号:3, 2020	著者：浅野嘉延 学部長の報告
7. 100周年記念誌編集の進捗状況	単著	2021年	広報 西南女学院第99号:10, 2020	著者：浅野嘉延 編集委員会の報告
<講演など> 1. 互いに愛し合う		2020年7月	西南女学院大学チャペルアワー	演者：浅野嘉延 チャペル奨励
2. 正解のない問い		2020年10月	西南女学院中学校・高等学校 全体礼拝	演者：浅野嘉延 礼拝の講演

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
人生100年時代を健康に豊かに生きるための地域貢献活動の展開～他職種連携による食育推進～	令和2年度 西南女学院大学共同研究費	近江雅代、八木康夫、他、浅野嘉延、他	1,278,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人 福音会 北九州いのちの電話 医療法人起生会 大原病院 神理幼稚園 北九州市医療センター 全国栄養士養成施設協会	産業医 評議員 評議員 産業医 評議員 医の倫理委員会委員 理事	2007年4月～現在 2009年2月～現在 2009年4月～現在 2016年6月～現在 2010年4月～現在 2015年4月～現在 2019年4月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

西南女学院 評議員 2011 年 4 月～現在
 外部資金導入促進プロジェクトメンバー 2013 年 8 月～現在
 茶道部 顧問 2015 年 4 月～現在
 地域連携室 運営協議会委員 2016 年 8 月～現在
 地域連携室 室員（広報担当） 2016 年 8 月～現在
 保健福祉学部長 2019 年 4 月～現在
 西南女学院 理事 2019 年 4 月～現在
 保健福祉学部研究所 所長 2019 年 4 月～現在
 倫理審査委員会 委員長 2019 年 4 月～現在
 動物実験委員会 委員長 2019 年 4 月～現在
 公的研究費運営管理部門 統括責任者 2019 年 4 月～現在
 創立 100 周年記念事業実行委員会 2019 年 7 月～現在
 大学短大事前行事担当 2019 年 7 月～現在
 100 周年記念誌出版WG 2019 年 7 月～8 月
 100 周年記念誌編集委員長 2019 年 10 月～現在
 副学長 2020 年 4 月～現在
 ハンドベル顧問 2020 年 4 月～現在
 学生募集プロジェクトチーム 責任者 2020 年 7 月～現在
 COVID-19 対策班 責任者 2020 年 9 月～現在

大 学

保健福祉学部

看護学科

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	安藤 愛	職名	助教	学位	修士 (看護学) (福岡県立大学 2017 年)
----	------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護学	ストレングス 精神科病棟 精神科看護 継続

研 究 課 題
精神科看護の臨床現場におけるストレングスモデルの活用・継続に向けた課題の明確化

担 当 授 業 科 目
精神看護学演習、看護技術論 (前期) (看護学科) 精神看護方法論、精神看護学実習、看護学 (後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 精神看護学演習 】 コロナ感染症により遠隔授業を行った。主に、実習に向けてペーパーペイシェントによる看護展開とプロセスレコードを活用した自己の対話の振り返り方法の伝授を主に行った。授業の中で自分の行ったアセスメントを発表する時間を設け、他学生との意見や考えの共有、意見交換ができるよう具体的な質問や進行を心がけた。また、授業の中で個人ワークの時間を設け、解説を参考に自分の行ったアセスメントを追加修正することで思考の整理を促した。配布資料の内容は、具体的にすることで復習しやすいように配慮した。毎年、実際の看護がイメージできるように臨床指導者にも演習に参加していただいていたが、本年度はコロナ感染症の影響により臨床指導者の参加は叶わなかった。そのため、臨床現場や精神科看護師の関わりがイメージできるように DVD などの教材を活用した。また、学生が事例の展開を行う過程で患者の気持ちを考え、成育歴や生活歴を踏まえたアセスメントが行えるように具体的な問いかけや解説を心がけた。
授業科目名【 精神看護方法論 】 「パーソナリティ障害」「大人の発達障害」「強迫性障害」「適応障害」「身体合併症」をもつ人の看護を担当した。患者の苦痛や生活のしづらさがイメージしやすいように DVD や本を活用し、学生へ患者の思いに関する問いかけを行うように心がけた。また、特に現代社会で問題になっている事柄や病院での実際の状況などを伝え、自分の身近な問題として興味関心をもてるように工夫した。
授業科目名【 精神看護学実習 】 コロナ感染症の拡大や緊急事態宣言に伴い、臨床における実習が中止となり学内実習を行うことが多かった。臨地実習では、朝・昼・夕の検温、手指消毒・手洗の徹底、アルコールによる物品消毒などの感染予防をしっかり行った。学生が自分の傾向と向き合い受け持ち患者と関係性を築き、患者の希望や思いを尊重した看護計画の立案・実施ができるよう学生の理解度に応じた問いかけを心がけた。学内実習では、臨地実習と同様の流れにし、教員の作成したカルテをもとに事例展開を行った。教員が患者役を行い、看護計画の立案までの 3・4 日間は毎日対話を行った。その際に、自己の対話の傾向を認識できるようにフィードバックを行っていった。また、精神科病院の様子がわかるように DVD や写真の活用、臨床での具体的な事例を話すことを心がけた。

授業科目名【 看護学 】 看護学は、栄養学科の学生を対象とした選択科目である。精神看護学の 2 コマを担当した。精神科のことを学ぶ機会がなかった学生が多かったため病院や病棟のイメージが少しでもつくように精神科の特徴から説明を行った。また、管理栄養士として関わる事の多い状況や看護師との連携について、臨床での事例を伝えながら説明を行った。疾患については、統合失調症中心に行った。栄養指導に関する文献を活用し、精神科における栄養指導の問題や今後の課題について考えられるように工夫した。
授業科目名【 看護技術論 】 ベッドメイキングの演習では、技術の重要なポイントをおさえながら指導した。コロナ感染症予防のため、こまめな手指消毒や換気を促しながら実施した。1 年生は、入学当初から遠隔授業であったため学生同士の対面での関わりがほとんどなく、緊張していたため教員から声をかけ、学生同士で考えることができるように工夫した。患者が臥床している場合のシーツ交換では、患者役は人形で行った。患者としてイメージできるように観察の必要性や配慮についても説明を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県看護協会会員 日本教師学学会会員 日本精神科看護協会会員 日本精神保健看護学会 日本看護科学学会会員 PAS セルフケアセラピー看護学会		2014 年 4 月～現在に至る 2015 年 1 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2020 年 11 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				教育研究業績 総数総数 (2021.3.31現在) 著書：3 (内訳：共3) 学術論文：2 (内訳：共2) 学会発表：3 (内訳：共3)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
第 30 回日本精神保健看護学会学術集会	編集副委員長	2018 年 12 月 3 日～2020 年 6 月 14 日
福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会	会員	2017 年 3 月～現在に至る
PAS セルフケアセラピィ看護学会 第 4 回大会	大会事務局	2020 年 12 月 17 日～2021 年 9 月 5 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
1 年生アドバイザー （2020 年 4 月～2021 年 3 月 31 日）

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	飯野 祥之	職名	助教	学位	修士 (看護学) (九州大学 2012 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学 看護教育学	看護基礎教育 臨床判断 アクティブラーニング

研 究 課 題
看護学生の臨床判断力向上を目指した研究。

担 当 授 業 科 目
成人看護学演習 (前期 看護学科) 成人急性期看護学実習 (後期 看護学科) 成人慢性期看護学実習 (後期 看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 成人看護学演習 (前期 看護学科) 】 ＝看護過程＝ 慢性期・急性期の看護過程事例について、Classroom を用いた演習展開方法の検討に参加した。Web 上での講義やグループワークとなるため、学生との双方向性を保てるようにグループワークの meet を随時教員が巡回して指導を行えるように構成した。実際の演習においては、基本的な看護過程の展開の仕方や記述の仕方の理解を丁寧に説明することを心掛けた。アセスメントの視点がずれている場合が多かったため、各パターンのアセスメントの視点をかみ砕いて説明するとともに、アセスメントに必要な指標についても提示を行った。 ＝技術演習＝ 術後の患者観察についての実技演習に指導、テストの評価をするために参加した。手術や病態について学生の知識の及ばないところはこちらから提示するとともに、既習の知識については教員側から積極的に問いかけ、記憶の想起や知識の深化・定着に努めた。また、術後患者の観察について、初回の説明時はかみ砕いて説明するとともに根拠を説明し、実技練習の際にその根拠を問いながら演習を進めた。 臨地実習における『指導者への報告』について講義の構成・実施を行った。報告の枠組みとして I-SBAR を用いることで、報告の構成を考えやすくなるよう工夫した。報告の際に何を報告する必要があるのか、自分の伝え方で伝える必要があることが伝わったのかなどを考えるきっかけになるように、グループワークで実際に報告を行いそれについて振り返り用紙を用いてリフレクションを行った。 授業科目名【 成人急性期看護学実習 (後期 看護学科) 】 臨地実習から遠隔での学内実習に移行したことにより、模擬患者にて看護実習を展開することとなったため、事例の作成や実習内容の検討を行った。 術後侵襲における生体反応、整形外科手術、心臓外科手術、術後全身管理について事前学習内容を明確に提示して、術後の早い看護展開についていけるように学習を促した。また、術後の患者状態の理解を促すために、患者状態の説明をかみ砕いて行った。また、術後の変化やケアについて説明し、教員も一緒に観察やケアに入るようにして学生の理解力、看護技術の習熟度の把握に努めた。 看護過程についての理解が進んでいない場合が多かったため、看護過程の各セクションの書き方や視点などについて学生の進行に合わせて説明を行った

授業科目名【 成人急性期看護学実習（後期 看護学科） 】

臨地実習から遠隔での学内実習に移行したことにより、模擬患者にて看護実習を展開することとなったため、事例の作成や実習内容の検討を行った。臨地実習での患者とのやりとりや清拭・患者移動などの看護技術を体験できるように、実習内容にコミュニケーションの時間や清拭の実施などを組み込んだ。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	一般会員	2010年7月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
2年次アドバイザー(2020. 4.1～2021. 3.31) 研究推進委員(2019. 4.1～現在に至る)

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	石井 奈央	職名	助教	学位	学士
----	-------	----	----	----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護基礎教育 基礎看護学教育	看護基礎教育 基礎看護教育 生活援助 遠隔実習 カリキュラム開発

研 究 課 題
看護基礎教育における清拭の教育内容に関する研究 コロナ禍における基礎看護学領域の学内実習のあり方

担 当 授 業 科 目
看護技術論 生活援助技術論演習 診療関連技術論演習 看護過程論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【看護技術論】 遠隔講義であったため、教材開発を工夫した。新しく撮影したもの、以前から教材として使用したものを再編集しナレーションを加えるなど、遠隔講義においても学生に伝わりやすいよう努めた。
授業科目名【生活援助技術論】 清潔の単元を担当。密にならないようなグループ編成、学生の寒さとうに配慮した換気をおこない、人権に配慮した。講義と演習の関連性を小田教授から指導を受け、実施した。
授業科目名【看護過程論】 遠隔でのグループワークであったため、進捗状況を細かく確認しながらすすめた。学生に知識を教授するのではなく、学生自身が学問的な問いを立てられるように指導した。コロナ禍であり図書室等への入館が制限される中で、どのように情報を得るのか、どのように文献を調べるのかについては具体的に助言した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ】 学内実習であったため、「仮想電子カルテ」を作成した。なるべく現実の病院に環境を近づけ、リアリティを少しでも持たせられるよう工夫した。学生自身の気付きや学びを肯定的にフィードバックすることに努めた。不足がある部分に関しては、そこを指摘するだけでなく、どうすれば克服できるのかについて学生と話し合った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
ブログ委員

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 石井 美紀代	職名 准教授	学位 修士(看護学) 大分医科大学 2001 年
-----------	--------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅ケア、訪問看護

研 究 課 題
医療・介護の一体化改革によって、医療機関の受け皿を在宅医療・在宅看護に期待されている。また、在宅の定義が単に自宅を指すものではなく、「生活の場」に拡大されている。そこで、地域包括ケアにおいて看護職に求められるニーズおよび協働・連携について研究する。

担 当 授 業 科 目
社会保障概説(看護学科 1 年 後期) 家族と健康(看護学科 2 年 前期) 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ(看護学科 2 年 後期) 看護研究(看護学科 3 年 前期) 在宅看護学(看護学科 3 年 前期) 在宅看護学演習(看護学科 3 年 前期) 在宅看護学実習(看護学科 3 年後期・4 年前期) 看護総合演習(看護学科 4 年 通年) 看護総合実習(看護学科 4 年 通年) 高齢者支援学Ⅰ(保健福祉学部共通科目 2 年集中) 高齢者支援学Ⅱ(保健福祉学部共通科目 4 年集中) ※履修者 0 名で開講せず 看護学(栄養学科 3 年 後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 社会保障概説 】 講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の 4 本柱を、社会福祉士の外部講師と分担して実施した。中学や高校の「公民」の授業で日本国憲法や社会保障制度を学んできて、苦手意識を持っている学生は多い。対面授業であれば学生の反応を見ながら、解説の言葉を変えたり繰り返し説明したりできた。遠隔授業となった今回は、学生の反応がつかめないまま一方的に解説をすることとなった。そのため、過去に国家試験で出題された問題を、授業の最後に解いてもらい、解説することで理解を深めるようにした。また、授業時間を 5 分残して終え、毎回、質問の時間を確保した。 法律や制度は暗記する部分が多いが、遠隔での期末テストでは持ち込みを許可することになり、テスト結果に基づく科目評価では、ほとんどが「優」となった。
授業科目名【 家族と健康 】 講義は家族看護学の教科書を使い、社会学を専門とする外部講師にも 2 回講義してもらって、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説した。理論の解説後は、使える知識になるよう看護の対象となる事例を用いて各自で展開し提出を求め、次の週に解説した。 学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定される。そのため、あえて自分の家族を説明したり分析したりしなかった。昨年は講義の展開に反発する学生がいて学生支援室に相談することがあったが、今年はリモートだったため学生の反応が読めず、講義後も負の反応を見せる学生はいなかった。

授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ 】

この講義は、看護師課程は選択、保健師課程は必修である。保健師課程を目指す学生と、単位取得のみを目指す学生が混在しており、取り組み意欲に差があった。しかし、目標を下げることなく、専門雑誌の記事を資料にして実務とその背景や理論を押さえていった。

例年はグループでディスカッションして、先進的な取り組みについて成功する因子を思考させて理解を深める。今回はリモートでディスカッションが難しく、思考することなく How to の理解止まりであった。リモートでの授業となる場合、その方法について課題が残った。

授業科目名【 在宅看護学・在宅看護学演習 】

今回は、在宅看護学と在宅看護学演習が時間割上続きであった。そのため、演習を中心に、講義と演習を同じテーマで流れを作り、理解を図った。演習の在宅看護過程では、例年、学生は他の科目のメスを優先させることから、シラバスどおりのグループワークや解説が出来ない。今年はリモートであったためグループワークをなくし、共通事例の看護過程を郵送し、それを見本に個人で看護過程の展開をさせた。また、Classroomで頻繁に提出させた。教員4人で担当しているため、コメントに差が出ないように頻繁に打合せ、コメントの内容も出来るだけ統一した。

しかし、学生の授業評価のコメントは教員の個人攻撃や中傷に近いものもあって、リモートで教員が伝えるための言葉選びを反省させられた。学生はリモート授業がストレスフルで、その感情を授業評価に投影させたものかもしれないが、授業評価に疑問をもった。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

在宅看護実習は、現場から得ることが必須である。リモートで実習目的・実習目標を達成させるため、臨地実習で体験することをリモートでも体験できるよう、何を教材にし、臨場感と緊張感を得るためにどんな設定を作るか、とにかく悩んだ。訪問看護ステーションにお願いし、実際に訪問している事例で紙面、画像、動画の情報をいただき、教員の指導に加えて、事例を担当する看護師に各学生が Meet や電話で質問したり助言をいただいたりする機会を、複数回設定し、看護過程を展開させた。学生数だけ事例があるため、教員があらかじめ臨地の看護師と打合せし、事例の情報を共有し、学生の指導をすることは、大変であった。また、療養者の訪問が出来ないため、DVD や YouTube の事例を使い、在宅介護における社会問題についてテーマを決めて、毎日、ディスカッションしていった。

これらの実習方法を確立するまで、助手が「どうですか」「何をすればいいですか」と動揺し、何も考えられない状況であった。助手の動揺を受け止め、混乱を整理し、方向性を示し、行動の指示をすることが求められた。学生に実習の成果を担保すること、助手の段取り力、指導力を支える事を、常に考える1年であった。

授業科目名【 看護総合演習・看護総合実習 】

7人の学生は、例年通り、多領域の選抜を漏れて在宅領域にきた学生であった。それでも、在宅看護はあらゆる年齢、あらゆる疾患を対象としているため、学生にはもともと興味があった分野の在宅バージョンで、テーマを決めてもらった。前期は、自分が設定したテーマについて、ネットで入手可能な論文を読んで調べ、毎週1回、Meet で発表しあった。最上級生だけ図書館の使用が予約制で可能になってからは、図書館利用を呼び掛けた。

臨地実習に行けないため、看護総合実習に変わることで、事例研究の論文を複数読んで、その相違についてまとめさせた。また、自分のテーマに見合ったリモート講演会を探して受講し、報告書の提出を求めた。

看護総合演習・看護総合実習の成果の論文は、論文集にしてゼミ生に配布した。リモートでの論文指導は、学生の進行速度とやる気が影響する。期限を決めてもなかなか提出しない学生がおり、しかも、連絡を絶たれるとなすすべがなかった。

授業科目名【 高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ 】

この講義は総合人間科学に位置し保健福祉学部 3 学科共同で行われるため、福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。初日に講義、2 日目に 3 学科合同グループでディスカッションするが、カリキュラムが違うために学生の特性を捉え、助言の言葉選びが難しかった。

看護学科の学生は、各グループの中でリーダーシップを発揮しており、これまでの授業でディスカッションになれていることが明らかにわかった。

授業科目名【 看護学（栄養学科） 】

この講義は看護学科教員がオムニバスで行い、私は在宅療養における看護師と栄養士の機能について2コマ担当した。在宅療養者の支援を訪問看護師の活動を説明するとともに、「行動変容に結び付く栄養指導とは？」を伏線に、問題提起をした。行動変容の理論と訪問看護師の教育的機能についての説明をして、糖尿病の事例の栄養指導のレポートを課した。リモートであったため授業中の学生の反応はわからないが、授業後に提出されたレポートでは、生活者の価値観（QOL）を想像して指導することが難しいようであった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～（現在に至る）
日本地域看護学会		1997年10月～（現在に至る）
日本看護学教育学会		1998年4月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会		1998年4月～（現在に至る）
日本老年社会科学会		1999年4月～（現在に至る）
日本学校保健学会		1999年4月～（現在に至る）
日本老年看護学会		1999年8月～（現在に至る）
日本看護研究学会		2001年11月～（現在に至る）
日本在宅ケア学会		2004年8月～（現在に至る）

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書） なし				
（学術論文） ある末期がん患者の経験から考える意思決定支援のあり方	共著	2021.3	西南女学院大学紀要 Vol.25	①がん患者の語りをまとめた事例報告である。対象は60歳代男性で、胃がんの末期患者であった。ギアチェンジ期の前後において、療養中の出来事と、経験の意味を明らかにすることを目的とした。対象の語りから8つの出来事と20の経験が抽出された。 ②共著者：石井美紀代、水原美地、中山昌美、吉原悦子、鹿毛美香 ③pp23-32
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市介護認定審査会	委員	2007 年 4 月～2021 年 3 月
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	2020 年 4 月～2021 年 3 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
[大学委員会] 就職委員 [学科役割] カリキュラム検討（オブザーバー）

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 一期 崎 直 美	職名 講 師	学位 修士 (教育学) (熊本大学 2010 年)
-------------	--------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
養護教育	養護教諭、専門職、ケア

研 究 課 題
養護教諭の専門性について研究している。現在、養護教諭の仕事に関する教育学の研究を検討し問題の所在を定め、次に専門職に関する社会学を検討し、理論枠組みを構築している。今年度は、養護教諭を対象とした社会調査を継続して実施し分析している。

担 当 授 業 科 目
対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ (前期) 看護学科
学校保健 (後期) 看護学科
養護概説 (後期) 看護学科
健康相談 (前期) 看護学科
学校保健教育法 (後期) 看護学科
事前及び事後の指導 (4 年生対象) (前期・後期) 看護学科
事前及び事後の指導 (3 年生対象) (後期) 看護学科
養護実習 (前・後期) 看護学科
教育実習Ⅰ (前・後期) 看護学科
教職実践演習〈養護教諭〉 (後期) 看護学科
教職実践演習〈中・高等学校〉 (後期) 看護学科
看護総合演習 (前・後期) 看護学科
看護総合実習 (前・後期) 看護学科

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ】 ①この科目は、看護学科公衆衛生看護関係科目の選択科目である。学生は、公衆衛生看護活動の場である学校における「学校保健」の概要について学ぶ。学校保健は、これまで学生が経験した学校生活で理解できる点もあるため、この経験と結び付くよう説明している。 ②学校における特別支援教育の理解が深まるよう、発達障害の事例を用いる演習を取り入れている。 ③講義内容について思考を深めるように、事前学習に選択式問題を取り入れ提出させている。
授業科目名【学校保健】 ①学校保健は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学生の主体的な学習を促すために、授業における事前学習課題をポートフォリオを作成するよう指導した。 ②事前課題と講義を統合させたり深化させるために、討論したり発表したりする機会を設定した。 ③学校保健でよく利用するホームページや電子書籍サイトの使用方法について紹介し、必要な資料については、学生にダウンロードさせ授業で活用するようにした。 ④学校保健における健康課題を理解するために、図書館の雑誌を紹介し、学生の発表につなげるよう指導した。

授業科目名【養護概説】

- ①養護概説は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学校保健活動を養護教諭として実践していくために必要な基本的な知識・技術を学ぶ。そのため学校保健の内容と連動するように構成している。
- ②主体的な学習を促すために事前学習については、学生に発表の機会を設けている。養護教諭の職務の重要な点や学校で養護教諭の具体的な活動について実務経験を含め説明した。
- ③養護教諭が学校で行う主な仕事について、講義だけでなく演習を取り入れている。
- ④ロールプレイ（救急処置・保健指導など）は、学生が養護教諭と児童生徒役を相互に担うような設定にし、学生の振り返りは自己および他者評価を取り入れている。
- ⑤図書館に所蔵されている養護教諭がよく活用する雑誌を紹介し、養護教諭の具体的な活動について調べ発表する機会を設けている。

授業科目名【健康相談】

- ①養護教諭は、児童生徒に対して身体面だけでなく全人的な支援が求められている。その精神的な支援の基礎となる健康相談の知識・技術について学ぶ。健康相談を行う学生自身が、心の健康を保つことが重要となる。そのため、学生自身が自己理解を深めるような演習を取り入れている。
- ②養護教諭の健康相談に必要とされる心理学領域の基礎理論を学習し、演習で理解を深めた。
- ③養護教諭の職務の特質および保健室の機能を活かした健康相談の基礎・基本を身につけるために、演習では、事例を活用した。
- ④学校における課題を抱える子ども（虐待、不登校など）への理解を深めるだけでなく、そのような子どもたちへの対応について、学生同士で討論させ理解を深めさせた。
- ⑤保健室来室者への対応場面の演習では、ロールプレイを取り入れる演習を実施した。

授業科目名【学校保健教育法】

- ①学校保健教育法は、教職課程における養護教諭一種免許状取得希望学生を対象とした必修科目である。将来、学校で養護教諭として保健教育が担えることを目指して実施できるよう構成している。
- ②学校における保健教育（教科保健・特別活動）は、教職課程での既習を確認しながら進めた。
- ③養護教諭が主に担う保健教育（歯の健康づくり、性に関する教育、環境教育、安全教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教育）について事前学習するように指導し、演習内容と連動するよう授業を構成している。
- ④各学生が実施した模擬授業について、学生自身が実践を振り返ることができるよう他者評価を活用した。
- ⑤情報活用能力を児童生徒に育成するため、学校保健教育で役立つホームページなどを学生に紹介した。
- ⑥授業時間外でも、学習指導案や教材の作成などについて、学生への個別支援を行った。

授業科目名【事前及び事後の指導】 4年生対象（前・後期）

- ①教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を実施する科目である。教職課程の実習は、4年次で、はじめて学生が経験するため、とくに事前指導を充実させるような構成にしている。
- ②主体的に実習となるよう、期間中に経験できる授業や行事について学生自身に情報を収集させ、模擬授業等に活かすように指導した。
- ③学生は、実習で初めて児童生徒へ授業を行うため、学生の指導計画作成や教材づくりは、授業時間外でも支援した。
- ④学生が行う模擬授業の評価は、振り返りを深化させるよう教員だけでなく、学生からの他者評価も取り入れている。
- ⑤実習後に学生が実習校での学びを共有できるよう、実習発表会を実施している。
- ⑥学生主体の実習発表会になるよう、会の進行などについても学生が担うよう指導している。
- ⑦次年度実習予定の3年生が参加できるよう発表会の時間設定を工夫し、他学年との連携を図った。

授業科目名【事前及び事後の指導】 3年生

- ①教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を実施する科目である。教職課程の実習は、4年次で、はじめて学生が経験するため、とくに事前指導を充実させるような構成にしている。
- ②学生の実習時期は、実習に行く学生でそれぞれ異なる。実習時期を考慮しながら、他学科の教職課程の担当者と相談しながらオリエンテーション等の日程は検討している。

授業科目名【養護実習】 ①養護実習は、養護教諭一種免許状取得のためには必修科目である。学校で実際に児童生徒と関わり、養護教諭としての仕事を体験する3週間の実習である。学生はこれまでグループで実施する実習形態で、単独での実習経験がない。そのため、個別面談の機会を設け学習の準備状況を確認している。 ②学生自身が、将来、養護教諭として働くことを目指し積極的に実習するよう指導している。 ③各自の目標が達成できるよう、主体的に実習校と連絡をとり準備をすすめるよう指導した。 ④学生の実習状況を把握し実習の事後指導に役立てるよう、実習校訪問は学生の査定授業の日に可能な限り計画し訪問するようにしている。
授業科目名【教育実習Ⅰ】 ①教育実習は、高等学校教諭一種免許状（看護）の取得のために行う。高等学校における看護教員としての仕事を体験する2週間の実習である。学校で実際に生徒に関り、現職の看護教員の授業を参観したりや担任の役割についても学ぶ。学生はこれまでグループで実施する実習形態で、単独での実習経験がない。そのため、個別面談の機会を設け学習の準備状況を確認している。 ②学生自身が看護師としてのキャリアを考え実習に臨むよう、事前に面談している。 ③各自が実習の際に実践する授業内容について、主体的に実習校と連絡をとって準備をすすめるように指導した。 ④学生は、出身校の実習ではないため、事前に学生と実習校に訪問し意欲を高めていくように指導している。 ⑤学生の実習状況を把握し実習の事後指導に役立てるよう、実習校訪問は学生の査定授業の日に可能な限り計画し訪問するようにしている。
授業科目名【教職実践演習】（養護教諭） ①教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるような機会を設定している。 ②教職課程担当者全員で指導を行う授業には参加し、学生の学習状況を把握した。 ③栄養学科の栄養教諭志望学生と看護学科の養護教諭志望学生で、相互の職務について発表したり討論したりするよう講義を企画している。 ④学生は特別支援学校の実習経験がない。そのため、特別支援学校の養護教諭の職務や子どもたちの実態を学ぶ機会として講話を設定している。 ⑤養護教諭の研究の場を学ぶために、養護教諭養成者や養護教諭が多く参加する学会に学生を参加させた。
授業科目名【教職実践演習】（中・高等学校教諭） ①教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるような機会を設定している。 ②教職課程担当者全員で指導を行う授業に参加し、学生の学習状況を把握している。中・高等学校教諭の講義は、主に学生の模擬授業の際に参加した。
授業科目名【看護総合演習】 ①看護総合演習は、看護学科専門の必修科目である。各個人で看護実践における自己の課題を探究し、看護総合実習に向けて計画を立案し、実習終了後テーマに基づきレポートを作成していく。講義・演習だけでなく個別指導を含めて支援した。 ②レポート作成は、3年次の講義「看護研究」での既習事項を振り返りながら進めた。 ③実習後のレポート発表会は、各自がパワーポイントで資料を作成し、質疑応答するような学会と同様のスタイルで実施した。
授業科目名【看護総合実習】 ①看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、主体的に計画から展開していくことが重要になる。学生が主体的に実習指導者と連絡を取りながら実習を進めるように指導している。 ②学校保健の領域は、養護教諭の職務を体験し、担任などの他職種と連携しながら、学級で保健指導（授業）を実践させていただく。実施させていただく保健指導の準備を看護総合演習で支援し準備した。 ③実習中、学生が学級で保健指導（授業）を実践する際は、可能なかぎり参観し、保健指導の内容を改善していくよう、実習指導者と連携し指導した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会 日本養護教諭教育学会 日本健康相談活動学会 日本教育保健学会 日本看護協会 日本看護学教育学会 日本養護実践学会		2008 年～現在に至る 2008 年～現在に至る 2008 年～現在に至る 2008 年～現在に至る 2008 年～現在に至る 2008 年～現在に至る 2008 年～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
(その他附属研究所 報告会発表) 養護教諭の専門性に関 する基礎研究（中間報 告）	共	2021.3.25	西南女学院大学附属 研究所報告会（於 西 南女学院大学）	①男性養護教諭が発行した 通信をテキストデータ化し、 男性養護教諭と子どもとの 相互関係について分析した。 養護教諭の専門性の再構築 につながる可能性について 報告した。 ②共同発表者名 一期崎直美、新谷恭明、 西丸月美
「教職実践演習」におけ る養護教諭と他職種連 携に関する事例を用い た教育効果の研究	共	2021.3.25	西南女学院大学附属 研究所報告会	①「教職実践演習」において 学生の受講前と受講後に 自己評価式アンケート調査 を行い、行動目標の変化を 分析し、「教職 実践演習」 で事例を用いた養護教諭と 多職種連携のあり方につい て、学生の自己評価をもとに 教育効果の手がかりとした。 ②共同発表者名 西丸月美、一期崎直美

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績 総数 (2021.3.31現在) 著 書 (内訳 単0, 共1) 学術論文 (内訳 単1, 共4) 翻 訳 (内訳 単0, 共0) 学会発表 (内訳 単3, 共3)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
養護教諭の専門性に関する基礎研究	西南女学院大学附属研究所	○一期崎直美 新谷恭明 西丸月美	298,480
「教職実践演習」における養護教諭と他職種連携に関する事例を用いた教育効果の研究	西南女学院大学附属研究所	○西丸月美 一期崎直美	227,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本養護教諭教育学会第 28 回学術集会実行委員会	実行委員	2019～2020 年度

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）	
教職課程委員会委員	2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日
FD委員会委員	2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日
看護学科 1 年・4 年アドバイザー	2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日
教員免許更新講習コーディネーター	2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	井手 裕子	職名	助教	学位	修士(看護学) (大分大学 2006 年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性期看護学 看護教育

研 究 課 題
成人慢性期看護学の教育活動に関して、学生が慢性期にある患者および家族の特徴とその看護を理解するために、学内での演習とそれに連動する臨地実習での指導の在り方について考察する。

担 当 授 業 科 目
・成人看護学演習（前期） ・成人慢性期看護学実習（後期） ・看護学（栄養学科・後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人看護学演習】 <看護過程演習（遠隔授業）> ・全日程遠隔での実施となった。1 グループ 4 人編成で、2 人の教員で 6 グループを担当した。理解度を見極めるのはグループミーティング上やグループフォームを利用した自己評価シートであったが、学生の随時の表情などが把握できない分、記載されている事柄から更なる指導が必要な場合は、個別のメールや電話などでの指導を実施した。またグループワーク時はできるだけカメラを ON にすることを促した。 - 事例は例年通り、慢性期事例（肝硬変）と急性期事例（胃癌）の 2 事例であり、事例ごとにもう一人の教員と担当を変えて、全グループ把握に努め、演習前後に教員間で個々の学生への指導等について調整を図った。 <技術演習（遠隔授業）> ・全日程遠隔での実施となった。 ・糖尿病食事療法の演習では、できるだけ実際の指導場面を想起させるために、日本糖尿病協会作成の CDEJ（日本糖尿病療養指導士）育成動画を視聴させ、グループ間でのディスカッションをさせた。講義では、食品モデルの写真などをスライドとして掲載し、1 単位の量が想像できるように工夫した。 ・血糖測定・インスリン自己注射の技術では、画面を通して教員が患者役、学生が看護師役でロールプレイを実施した。長期間の自己管理を余儀なくされる患者の特徴を理解させるため、頻回に自己採血をすることによりストレスを抱えるような発言をしたり、実際に刺入による出血の場面なども映像で見せたりと臨場感が湧くようにした。 ・術直後の演習では実際の実技が実施できなかったが、術直後の患者の状態の報告の場面では、術後侵襲による生体の変化を問いながら、根拠に基づいた報告になるよう指導した。 授業科目名【成人慢性期看護学実習】 ・今年度は臨地での実習がすべて中止になり、学内実習となった。しかしコロナ感染拡大状況による大学の BCP レベルによって、全日対面のグループ、対面と遠隔が混合のグループ、全日遠隔のグループなどが混在しており、それぞれのグループに応じて工夫をした。 ・実際の患者には接することが出来ないため、模擬患者を設定しその模擬患者を教員が演じることで実習を進めていった。できるだけ現実の患者を演じるようにつとめ、コミュニケーションの場面で学生が自分本位で会話を進める場合は、学生に対し不快な表情をみせるなど、患者に寄り添うことの重要性を伝えた。

- ・実際の病棟での患者の生活をイメージし易いように、個々の患者に応じたベッド周囲の生活物品の配置、医療機器の装着(静脈持続点滴や心電図モニターなど)、治療に係る装具の装着(圧迫骨折患者の腰部への軟性コルセット装着など)また、慢性疾患患者における家族支援の学習のために、他教員に依頼し患者家族を演じてもらった。全面遠隔のグループであっても、これらの映像はPCを2台設置し2方向からベッド周囲が見えるように工夫した。さらに、腹膜透析患者の自己管理指導の場面では、例年は実際の透析器具を臨地で見学させてもらうが、それが不可能であったため、医療機器メーカーへ相談したところ快諾してもらえ、入構手続きを経て来校していただき、透析器具を使用してのデモンストレーションを実施し、患者の自己管理の困難さや支援の重要性を伝えた。
- ・実習記録については、遠隔の場合はGoogle Classroomを介しての指導を行い、Google Meetを利用して学生の顔を見ながら、または電話を利用するなど、出来るだけ直接指導をするように心がけた。
- ・慢性疾患患者の自己管理を支援するにあたり、多職種連携や継続看護、社会資源の活用といった学習も必要不可欠である。これらも臨地での体験が不可能であったため、本来実習に行くはずであった医療施設のホームページに掲載されている様々なサイトや動画などを紹介し、学生が自ら情報を得やすくなるような学習環境を工夫した。
- ・治療や検査の実際(化学療法の治療の実際や骨髄穿刺の実際など)についても、DVDや動画などを利用して臨地での体験にできるだけ近づけるように配慮した。

授業科目名【看護学(栄養学科・後期)】

- ・10月下旬に担当の1回分を実施した。この時期は一時的に対面授業が実施されている時期であった。担当内容は、「慢性疾患を持つ患者の看護 糖尿病患者の自己理解への援助」で、栄養学科の学生に看護者の視点から患者支援の内容について述べた。栄養学科の学生ということで、糖尿病の病態生理や症状、食事療法については既習であるため、薬物療法に視点を置き、実際にインスリン自己注射がどのように行われるかなどを学生達の前でデモンストレーションを行った。単なる技術指導に限らず、慢性疾患患者に寄り添うという事、長期に渡る治療のために如何にしてその自己管理を支援していくかということに重点をおいて講義を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
聖路加看護学会		1996年 4月
日本看護研究学会		1996年 6月
日本看護学教育学会		1998年 4月
日本看護診断学会		1998年 6月
日本糖尿病教育・看護学会		2003年 8月
日本看護科学学会		2008年 10月
日本慢性期看護学会		2017年 7月

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
<3年生アドバイザー> ①個別面談の実施 新型コロナの影響で、例年４月から実施する面談がかなりずれ込み、７月からの開始となった。担当する25名学生の面談を遠隔で実施した。すでに７月になっており、前期の学習がすべて遠隔という異例の事態の中で、かなりの学生が心身ストレスをきたしていた為、グーグルミートを利用した面談では、学生の表情をよく見て、じっくりと話を聞くように努めた。特に一人暮らしをしている学生は、自粛生活を強いられる中、精神面の不安定さを招いていないかなどに留意して接していった。例年ならば後期からの実習への不安などの声もきかれるが、この時点で、今年度の臨地実習はほぼ中止ということが判明しており、学内実習への不安なども聞かれていた為、学内実習の内容が決定次第学生に細やかに伝えていくことなどに努めた。 ②保護者会の企画・実施 新型コロナの影響で、ZOOMを利用したオンラインによる保護者会を11月中旬に実施した。異例の学習形態が進行する中で保護者も様々な不安を抱えていると推察し、コロナ禍における学習環境や実習状況、就職活動などについての説明を行った。就職活動に関しては、遠隔で業者および就職課にも参加してもらった。保護者の参加人数は全体の４分の１にすぎなかったが、事後のアンケート結果では、開催時期や開催方法およびプログラムの内容については9割前後の保護者が「適当であった」と回答しており、概ね有効であったと考える。 ③学習支援（模擬試験実施を含む） 例年3年前期は各領域の演習が開始され課題の量も膨大なうえ、今年度はそれらがすべて遠隔授業となったため、基礎学力の定着度を把握する試験等の実施は、それらが落ち着く後期に入る直前、実習開始前の9月下旬に実施した。Webによる過年度の模試を実施したが、結果は比較的好成績であった。後期の学内各論実習が直後から開始される予定であったため、この試験結果に対する事後指導はとくに実施しなかった。 その後、年度末の3月に、2回目の模擬試験を実施した。こちらはこの時期に実施可能な模試（解剖生理

学・病態生理学) を、同じく Web を利用しての実施となった。この結果も全国平均を若干上回る成績であった。結果の判明が3月第3週目で学生も春季休暇中であるため、3年アドバイザーとしての事後指導はできなかったが、4年次の各総合実習の担当者に成績資料を共有し、今後の学習指導に活用してもらうこととした。

<国家試験対策委員>

新型コロナの影響で、年度初めの4月から9月まではすべて遠隔によるGoogle Classroomやkaname net を利用しての指導となった。模試は7月に第1回をWeb模試として実施した。学生にとっても初めての試みであり、事前に資料を配布し、Meet を利用して入念なオリエンテーションを実施した。

・模擬試験

新型コロナの影響で模擬試験の開始時期が例年よりかなり遅れ、7月に第1回のWebを利用した模試を実施した。その後9月から1月までの計5回の模試は感染拡大防止策を講じながらの対面での実施とした。対面での実施の意義は、国家試験当日、他受験生と共に長時間での受験を実施することへの適応力が身につけるためである。感染防止対策としては、登校時の検温、ソーシャルディスタンスを保つために実施講義室を2〜3分割にし、マスクを外すことを避けるために昼食は挟まず午前中だけの実施とした。

・強化学習

毎回の模擬試験終了後に、低得点率の学生を対象として強化学習を実施した。7月の第1回の模試後は遠隔によったが、その後の模試は感染対策を講じながら対面での実施とした。ただし、国家試験を一か月後に控え、1月の強化学習は、個々の学生の健康面を重要視し遠隔による指導とした。

強化学習対象者の傾向として、学習時間の絶対的不足に加えて、基礎学力が定着していない、自己に適した学習方法が修得できていない、設問の読解力が乏しい、などが挙げられる。従って、集団の指導ではなく個々の学生の傾向に応じた対応が必要であり、回答の正誤のみに注目するのではなく、なぜその回答を選択したのか、その根拠について確認するようにした。またコロナ禍での学習であり、学習環境による精神的ストレスを抱える学生もあり、遠隔での指導時も、学習面だけでなく心身の健康面にも留意し言葉かけを行った。

・その他

例年ならば大学に入構し、空いている演習室や講義室を利用し、友人と一緒に学習できるはずが、今年度はコロナ禍のためそれができない状況であった。家庭の事情により、自宅での学習環境が整わない学生がいたが、大学のCOVID-19対策班に申し許可を得たうえで、個別に大学に入構させて学習環境を提供した。

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	伊藤 直子	職名	教授	学位	学士 (社会学) (佛教大学 1996 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学 地域看護	公衆衛生看護 介護保険 地域包括ケア

研 究 課 題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担 当 授 業 科 目
公衆衛生看護学概論 (後期) 必修 15/15 コマ 疫学 (前期) 選択 15/15 公衆衛生看護管理演習 (後期) 選択 15/15 公衆衛生看護学実習 (通年) 選択 看護総合演習 (通年) 15/15 看護総合実習 (通年) 地域母子保健 (前期) (助産別科) 8/15

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 公衆衛生看護学概論 】 「公衆衛生看護学概論」では、2018 年度より 1 年生後期科目となり、2 年目となった。1 年目の学生からの毎時の授業コメント及び授業評価アンケートを踏まえ、初年次の学生に地域で看護を実践する視点の基盤を養成するための授業内容を検討した。特に、今年度は途中で遠隔授業に変更されたため、授業理解度を把握する毎時の課題に対して、一人一人へコメントを返信した。そのことにより、学生は教員との双方向のコミュニケーションが図れたとの意見が多くみられた。1 年生であることを踏まえると、遠隔ではあったが、主体的学習を促すうえでも個別の対応が効果的であると考え。
授業科目名【 疫学 】 「疫学」では、本年度遠隔授業での展開となった。従来、グループワークを取り入れた授業展開をしているが、今回は、個人での演習作業を中心の展開としたが、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。今年度も授業展開は、教材事例の検討を毎年度実施し、新人保健師が遭遇する事例を精選し、思考判断の醸成に努めた。保健師として問題解決していく充実感を味わえるような工夫を行なっている。保健統計に苦手意識を持っている学生も理解できるよう、授業時間外においても希望する学生には個別に対応している。
授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】 「公衆衛生看護学実習」は、実習施設での実習を 5 週間実施できた学生もいたが、コロナ禍のため 1 週間から 2 週間しか現場に行くことができない学生もいた。残りの実習期間を学内実習として経験することになった。学生の学習意欲及び効果が得られるよう教員間の情報交換を密に行いながら、教育支援を行った。また、実習指導者および施設と教員間の共有も有効に機能し、学生の教育支援が効果的に運営された。最後の実習のまとめでは、現場実習の期間の差と、達成状況に大きく差は見られず、全員の学生が到達レベルに達することができた。また、今年度も実習の成果指標である、保健師国家試験結果は、全員合格したことにより、概ね保健師選択学生の学修成果は評価できる。

授業科目名【 看護総合演習 】【 看護総合実習 】

「看護総合演習」「看護総合実習」は 4 年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。今年度はコロナ禍のため、いずれも遠隔での実習となった。施設の指導者と密に連絡を取りながら、zoom による現場からの指導者とのディスカッションを行いながら、学内実習を勧めた。今年度も受講した学生は、公衆衛生看護学実習において学習した生活エリアの現状から就労者の健康支援が結びつき、これからの包括的な健康管理のあり方に対して、道筋が明確になり、満足度や充実感が高い実習であったと評価している。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 （1996 年 4 月～1997 年 3 月） 訪問看護委員会委員長 （1997 年 4 月～1998 年 3 月） 介護支援専門員支援委員会委員長 （1997 年 4 月～2004 年 3 月） 認定看護管理者研修委員会委員 （2001 年 4 月～2006 年 3 月） 介護保険関連委員会委員長 （2004 年 4 月～2006 年 3 月） 第 46 回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録選考委員（2014 年 3 月～2014 年 9 月） 消費税対応検討委員会委員長 （2015 年 11 月～2016 年 7 月）	1977 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979 年 4 月～現在に至る
日本地域看護学会		1999 年 4 月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000 年 9 月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002 年 4 月～現在に至る
日本病院管理学会		2002 年 9 月～現在に至る
日本高齢者虐待防止学会		2003 年 8 月～現在に至る
日本看護教育学会		2003 年 2 月～現在に至る
日本健康教育学会		2005 年 6 月～現在に至る
日本看護研究学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本臨床救急医学会		2011 年 8 月～2016 年 3 月

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007 年 7 月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012 年 4 月～2020 年 3 月
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012 年 6 月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事（業務執行理事）	2013 年 7 月～2018 年 7 月
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005 年 4 月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013 年 4 月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推進にかかわる意見交換会	構成員	2014 年 2 月～現在に至る
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013 年 4 月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県総合計画審議会	委員	2016 年 7 月～現在に至る
行橋市地域保健計画策定委員会	委員	2017 年 12 月～2018 年 2 月 24 日
行橋市地域保健計画推進委員会	委員	2018 年 2 月 25 日～現在に至る
北九州市健康づくり活動表彰選考	審査員	2018 年 10 月 1 日～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

学校法人西南女学院 評議員 2005 年 4 月～現在に至る

西南女学院大学 教務部長 2013 年 4 月～現在に至る

- ・教務委員会 委員長
- ・教務人間科学小委員会 委員
- ・教職課程委員会 委員
- ・教員免許状更新講習会 委員
- ・大学点検評価改善会議 FD 部門 部門長
- ・教育の質保証プロジェクト会議 代表
- ・教学マネジメント検討会 構成員
- ・3 部門会議（教務部・学生部・入試部） 構成員
- ・教学 I R 推進室 構成員

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 大嶋 満須美	職名 教授	学位 修士 (健康福祉学) 山口県立大学
-----------	-------	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人慢性期看護 看護管理	慢性期、受容過程、家族 組織、人材育成

研 究 課 題
慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護 看護教育

担 当 授 業 科 目
成人看護学概論 (前期)
成人看護学演習 (前期)
緩和・がん看護 (前期)
保健福祉学入門 (前期)
成人慢性期看護方法論 (後期)
成人慢性期看護学実習 (通年)
看護総合実習 (通年)
看護総合演習 (通年)
看護研究演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 成人看護学概論 】 看護学における成人期の位置づけを明確化し、成人看護の対象を地域社会で暮らす生活者として健康の側面から理解できるように、統計資料等を用いて教授した。また、ライフサイクルの視点では青年期にある学生の成長発達と関連づけながら意識化を図り、授業をすすめた。学生の主体性や共同学習の観点から、グループワークや発表を交え授業を構成した。遠隔授業となったが学生の意見には毎回フィードバックに努めた。
授業科目名【 緩和・がん看護学 】 患者の治療や環境において最適とする個別化医療も進んでいる中、がん医療の進歩を把握し、それに伴い看護の専門性と役割拡大を踏まえ解説した。「がん」の罹患による健康障害と患者・家族が歩む治療過程を具体的に解説し、また「緩和」を対象とする考え方の広がりやターミナル期のありようについて資料を基に、現状について教授した。「がん」や「緩和」は、看護者の健康観や人間観そして死と向き合うことの「死生観」を育むと重要な機会として捉え、人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者かかわることの意義について教授した。
授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】 系統別看護の展開として、既習の知識、また導入的科目である成人看護学概論や基礎看護学実習の体験を基盤に、健康障害とアセスメントの視点、および看護について具体例を示しながら解説した。特に、形態機能や疾患と結び付けながら、エビデンスに基づいた対象への看護について教授した。授業は遠隔授業で行ったが、学生の既習の知識が看護実践に応用できるよう単元毎に確認を行い、次回に繋げた。

授業科目名【 成人看護学演習 】 成人看護学実習に向けた前段階として位置づけている。2 年次に学習した看護実践の基盤となる看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による課題演習を基本とし、看護技術の習得を意図し技術演習を組み入れ「看護過程」と「看護技術」を柱として展開した。グループワークと個人ワークを組み合わせ、学生の進行状況を確認しながら解説を行い、個別にも配慮しながら領域担当が全員で関わった。遠隔授業による困難感はあったが、演習終了後、課題や到達度について協議し、教員間で進捗状況や方向性について情報共有を行った。
授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】 学内実習への変更により、実習スケジュールを再編し、模擬患者による実習を展開した。用意した模擬患者事例を中心に、慢性疾患の病態理解と看護の方向性について学生の思考を確認しながら担当教員と指導した。イメージ化を図るため DVD などの視覚教材を使用した。指導においては、アセスメントの視点を重要視し、時間をかけて看護過程の展開が出来ることを目標とした。また慢性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても計画に組み入れた。学生カンファレンスの場を通じ、看護実践について助言を行うとともに学びの共有を図った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。しかし、急遽、学内実習への移行を余儀なくされた状況下、これまで臨地実習で患者や家族、また多くのスタッフ、多職種との関りや直接指導を受け「体験から学ぶ」機会を得ることが出来なかった。この貴重な体験を学内実習でカバーするには限界もあり、且つ実習教材も十分に整備された状況にはない。実習展開においてはさらなる工夫が必要である。
授業科目名【 看護総合実習： 成人慢性期・終末期 】 看護職への将来展望を視野に入れ、学生自らが実習計画を立案し、調整する等、学生の主体性と看護の洞察が深まることを意図した科目である。しかし、COVID-19 の影響で学内実習となり、他のグループと合同で行った。実習展開は受け持ち事例と看護場面を想像し、事前学習をもとに看護技術の実践に繋げた。限られた環境の中で、思考を働かせ、実践計画を立て、メンバーと協力しながら看護技術を提供する過程を通して、エビデンスの確認と共に、社会に出る前の学生として対象に適した個別性のある技術提供のあり方を再確認する機会となった。
授業科目名【 看護総合演習 】 看護総合実習前後の演習として位置づけられている科目である。しかし、臨地実習が急遽中止となり、テーマに沿った文研研究に変更し、その成果発表を行った。学生が関心あるテーマや自己の課題について文献検索を踏まえ、課題に向き合い、主体的に取り組めるよう個別に関わった。学生の思考の整理と言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、また、論文作成のプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。看護に対する洞察は学生自身の専門職としての自立の一步として捉え、成果発表をはじめグループメンバーとの学びの共有により、新たな視点や看護の多様性について学ぶ機会となった。
授業科目名【 保健福祉学入門 】 履修学生は学部 3 学科(看護・福祉・栄養)の 1 年生である。社会の期待に応えるための保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、課題に対する認識を深め、学部の入門編として自己の専門性との関連を学修できるよう構成されている。合同講義を通じ、専門性を深め、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることを意図している。遠隔授業となったが、毎回ミニレポートの提出を行い、「他職種」と自身の専門性における課題の明確化を図った。
授業科目名【 看護研究演習 】 既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。本年度のゼミ生には履修選択者はいなかった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		1975 年～ 現在
日本家族看護学会		1997 年～ 現在

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
一般財団法人 佐波共済会	評議員	2017年5月～ 現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018年4月～ 現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・看護学科 学科長 (2018年4月～ 現在) 運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、教授会、学生総合支援室会議の構成員 学科会議議長 学科運営・人事にかかわる事項 ・看護キャリア支援センター長 (2018年4月～ 現在) 看護キャリアセンター運営にかかわる事項 認定看護管理者教育課程 講師 ファーストレベル講師 (2020年12月5日) 認定教育課程検討委員長 (2018年4月～現在) 認定教育課程運営委員長 (2018年4月～現在)

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	小田日出子	職名	教授	学位	修士(法律学)(九州国際大学 1998 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎看護学, 基礎看護技術 社会人基礎力の育成・向上	看護技術教育, 社会人基礎力, 主体的学習

研 究 課 題
看護技術教育に関する研究 大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究

担 当 授 業 科 目
生活援助技術論演習 (1 年後期) フィジカルアセスメント技術演習 (1 年後期) 看護過程論 (2 年前期) 看護キャリア形成論 (2 年前期) 基礎看護学実習 I (1 年後期), 基礎看護学実習 II (2 年前期) 看護総合演習 (4 年前期・後期) 看護総合実習 (4 年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 看護過程論 】 ・コロナ禍での緊急事態宣言を受けて、2 年次生 92 名を対象に、今年度の授業は全て遠隔で実施した。 ・Google Classroom での講義【知識・理解】、①～④のブレイクアウトウームを利用したグループワーク【思考・判断】、また看護実践としての計画実施【技能】については、各学生グループが企画した援助計画を教員が代行しロールプレイングするという形で看護学実習室から LIVE 配信する方法をとり、受講生が①看護過程の一連のプロセスを理解し、看護問題に対処する手段として、②問題解決的アプローチの方法を習得することを目指した。 ・本授業の概要、流れを把握するために必要な情報(学習目標、授業内容及び授業進行など)は、Google Classroom の「ストリーム」を利用して、事前に受講生全員に配信した。 ・毎回の授業に必要な資料(授業スライド、補足資料、課題など)は、昨年度までの対面授業時よりも数日早く「トピック」毎に提示するようにし、印刷等、学生が余裕をもって授業準備を整えられるように配慮した。 ・講義はグループワークの進捗状況に照らして適時に実施するため、教員間の情報交換を密にし、状況把握に努めた。 ・遠隔での講義は、助教との 2 人体制で実施した。 ・グループ学習活動への支援は基礎看護学分野の教員 5 名と同助手 1 名の計 6 名で行った。通常、1 教員が学生 5～6 名のグループを 2～3 グループずつ担当するが、今年度は、新任者(講師、助教各 1 名)が初めてということもあり、助手 1 名と前述の新任者 2 名については、科目責任者との 2 人体制で担当グループのチューター役割を果たすこととした。 ・グループワーク時の振り返りには独自に作成した観点別評価シートを用い、学生自らが所属するグループの学習活動を客観視するとともに、グループとしての目標達成状況を確認できるようにした。振り返りの結果

は全体で共有し、他との違いを意識させることでグループ学習活動の活性化を図った。

- ・例年、各グループの学習成果の披露と学びの共有を目的に、それぞれが導き出した援助技術を発表する場を設けてきた。今回それは叶わなかったため、代替案として、各グループが企画した援助計画の中から、より妥当と判断した計画を選抜し、教員が代行して「学生編」としてロールプレイングした。併せて「看護師編」も実施し、2通りの看護実践をLIVE配信した後、グループ毎にリフレクションの時間を設け、提供した看護技術の振り返りを行った。「学生編」と「看護師編」を対比させたことで、EBN(根拠に基づく看護)の実践という視点で、より深く考えさせることができたように思う。
- ・当該科目の達成度評価は、授業中に数回に分けて実施した小テスト(50%)、個人学習/課題レポート(30%)、グループワークの中の発言や口頭説明の適切さ(20%)、及び遠隔授業全般を通しての学習貢献度(マインドセット、グループワークの参加状況・参加態度、個人学習への取り組みなど:20%)による総合評価とした。

最終評価はクラス平均が 81.4 点(最高 93 点,最低 68 点)で、昨年度 66.7 点(最高 89 点,最低 41 点)を大きく上回った。評価の内訳も、秀 6(0)名、優 56(14)名、良 27(29)名、可 2(36)名で、再試験該当者なく、受講生 92 名中、学期途中休学の 1 名を除く 91 名が当該科目の履修を修了した。 ※()内は前年度の人数。

授業科目名【 看護キャリア形成論 】

- ・2 年次生 93 名を対象に、今年度の授業は全て遠隔で実施した。
- ・授業は、Google Classroom での講義、個人ワーク及びブレイクアウトームを利用したグループワーク、また先輩 OG によるリモート・パネルディスカッション等で構成した。
- ・授業に必要な情報(授業概要、授業進行等)は、Google Classroom の「ストリーム」を利用して、事前に受講生全員に配信した。特に「評価」については、予め、学習ポートフォリオの作成・提出を求めること、評価対象とすることを含めて具体的かつ丁寧に説明した。
- ・特定のテキストは使用しなかったため、毎回の授業に必要な資料(講義資料、各種ワークシート、課題など)は、昨年度までの対面授業時よりも数日早く「トピック」毎に提示するようにし、印刷等、学生が余裕をもって授業準備を整えられるように配慮した。
- ・講義は助教との 2 人体制で臨んだ。授業中、同席の助教には、チャットを活用して、①学生の入退室状況の確認、②講義内容の要点整理、③学生の質問への回答、④問い合わせへの応答、⑤強制退出等、遠隔授業中のトラブル対応等を依頼し、円滑な授業進行に努めた。
- ・授業では、①“キャリア形成”に関する知識・理論を概説し、看護職としての自身の未来を考える“きっかけ”づくりの場となるように②学生の自己理解を促し、③職業理解を深めさせ、その④キャリア選択に係る意思決定を促し、さらに現時点での⑤看護キャリアプランの作成を支援した。
- ・受講生とは PC の画面越しではあったが、講義の合間に個人ワークやグループワークを取り入れ、可能な限り双方向での参加型学習となるよう工夫した。
- ・グループワークは、学生 6 名ずつのブレイクアウトームを 15 編成し、折々に学生間のディスカッションを取り入れた。教員は各部屋を訪問しながら全体をファシリテートした。
- ・看護キャリア形成の実例として、授業 4 回目に本学看護学科 OG 4 名(助産師、地域包括ケア(訪問看護師)、大学教員、海外での看護師育成支援事業に貢献)を外部講師として招聘し、Meet でのパネルディスカッションを企画・実施した。学生達の興味・関心は極めて高く、積極的に質問する学生も見られ盛会であった。次年度も様々な場で活躍中の講師を選定して継続する。
- ・当該科目の達成度評価は、学習成果としての課題レポート(50%)、発表(口頭、プレゼンテーション:10%)、レポート外の提出物(20%)および「その他」として、日ごろの遠隔授業への取り組み(積極的・主体的学習姿勢・態度、Meet Meeting への参加度/貢献度、出席状況など:20%)により総合的に評価を行った。

最終評価はクラス平均が 79.1±6.23 点(最高 100 点,最低 70 点)で、成績分布の内訳は、標準レベル以上の学生が 92/93 名(残り 1 名は前期休学後退学)、98.9%、うち理想レベルに達した者は 37/92 名、40.2%、努力を要する「可」レベルの者は 0/92 名、学期途中休学(2020.7.1 付)の 1 名のみ「不可」とした。なお、当該学生は 2020.9.30 付で退学となっている。総合評価の内訳は、秀 8 名、優 29 名、良 55 名、可 0 名で、92 名の学生が当該科目の履修を修了した。

授業科目名【 生活援助技術論演習 】

- ・1 年次生 109 名(→後期～休学 1 名, 残り 108 名)を対象に, 後期開始後の 10 月, 11 月第 1 週までは COVID-19 感染拡大防止策を講じつつ対面授業を実施した. その後, 学内 COVID-19 班による BCP レベル 4 への引き上げに伴う入構禁止措置を受け, 残り全ては遠隔授業として実施した.
- ・当該科目は複数教員が單元ごとに授業を担当するオムニバス形式(3 単位 90 時間)で実施している. 今年度は「食事援助技術」を講義・演習合せて 6 コマ(12 時間)のみ担当した.
- ・遠隔授業下, DVD, 自作動画視聴による反転学習, 遠隔講義, 課題を基にブレイクアウトルームに分かれて行うグループ学習活動, 及び実際に教員がデモンストレーションする技術を配信し実践し, それを LIVE 配信するなど, 昨年までと異なり, 演習を通して技術の実際を体験的に学ぶ機会を失った学生達の看護の基本技術習得を促すために, 「どうすればより分かりやすいか」「どうすればリアルに実践をイメージできるか」など, 関係教員間で日々検討を重ね, アイデアを出し合い, 協力し合いながら, 様々な工夫を凝らして授業を展開した.
- ・講義資料はもちろんのこと, 基本看護技術の習得に必要な「技術手順書」, 反転授業用の自作動画や DVD 等, 資料は事前に Classroom にアップロードし, 学生の自主学習を支援した.
- ・授業後は, 知識の整理と蓄積を目的に学修ポートフォリオの作成を促した. また, 一定期間を置いた後の「理解度確認テスト」も準備・実施し, ケア技術のエビデンスとなる知識の定着化を図った.
- ・実技試験については, 対面から遠隔に変更となる事態を予測し, 例年より 2 ヶ月早く本試験を 10 月末の実施とした. 学生は熱心に練習に励んだが, 3 密を避け, 時間, 場所, 機会と様々な制約ある中での練習量の不足は否めず, の連取時間的には 11 月以降対面授業ができなくなったため, 課題レポートに変更し, これをもって達成度評価の指標とした.
- ・筆記試験については, 担当した「食事援助技術」の問題(全体の 10%分)を作成・出題した.

最終 108 名の受講生に対し, 筆記試験(60%), ポートフォリオ(10%)及びその他(30%)(課題レポート(25%) + 学習貢献度(5%))による総合評価を行った. その結果, 最終評価としてのクラス平均は 68.7 ± 9.21 点(最高 86 点, 最低 24 点)で, 秀 0 名, 優 11 名, 良 44 名, 可 52 名, 不可 1 名の結果となり, 108 名中 107 名が当該科目の履修を修了した. 再試験受験対象者 9 名のうち「不可」1 名が, 次年度当該科目を再履修することとなった. 休学した 1 名については, 2021.3.31 付退学となっている.

授業科目名【 フィジカルアセスメント技術演習 】

- ・1 年次生 106 名(1 年次生 104 名 + 再履修者 2 名, →後期～休学 1 名, 残り 105 名)を対象に, 後期開始後 10 月末までの 3/7 回は, COVID-19 感染拡大防止策を講じつつ対面授業を実施した. その後, 学内 BCP レベルの引き上げに伴う入構禁止措置を受け, 残り全ては遠隔授業として実施した.
- ・例年, 授業は, 観察技術としてのバイタルサイン測定技術, 呼吸・循環器系, 消化器系, 感覚器・神経系, 筋・骨格系のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の順に進めているが, 今年度については, COVID-19 感染拡大への懸念から, 対面授業の期間中に, まずはバイタルサイン測定技術」の習得を優先し, 自主練習も含めた時間の確保に努めた.
- ・100 名を超える学生に看護基本技術を確実に習得させることは容易ではない. その上, COVID-19 感染拡大防止策の徹底を図りながら学生個々の技術習得に向けた演習を支援・指導するために, クラスを 4 分割し 26~28 名の少人数グループを編成して技術演習を行ったり, グループ毎の自主練習時間を確保したり, 練習場所の確保・使用物品の準備, 指導教員の担当時間の確保・調整を図るなど, 様々な工夫・配慮が必要であった.
- ・授業 3 回目に予定通り「バイタルサイン測定技術」の実技本試験を実施するに至ったが, 前述状況下での実技試験となり, 結果は, 受験者 105 名中本試験合格者 57 名(54.3%)と例年を大きく下回った. 当日, 発熱等を理由に欠席した追試験対象者も 3 名おり, 不合格となった 45 名と合わせて, 残り 48 名について実技再試験の実施が必要となった. しかし, 本試験後間もなく BCP レベル 4 で入構禁止措置がとられたため, 再度, 学生の大学への入構が許可され, 対面で実技追再試験を実施できたのは, 本試から約 3 か月後の 1 月末であった. このため, 急遽, 事前の練習期間を設定し, 対象学生の技術習得への支援を行ったが, 結果的には, 追試験対象者 3 名は合格, 再試験受験者 45 名中 33 名は合格, 残り 12 名は不合格であった(※不合格者の数は例年の 3~4 倍に相当). 不合格となった 12 名の学生については, 次年度臨地実習(基礎看護学実習Ⅱ)の前までに, 改めての実技指導が必要と考えている. なお, 後期より休学中の 1 名に

については、2021年3月31日付退学となっている。

筆記試験のクラス平均は60点満点中43.0(42.2)点(最高55(55)点, 最低25(29)点)で昨年度とほぼ変わらなかった。総合評価は筆記(60%), 実技(25%), 課題レポート(10%)及び学習貢献度(5%)で行ったが, 総合評価のクラス平均は74.8点(最高94点, 最低45点), 成績の内訳は, 秀4名, 優30名, 良46名, 可16名, 不可9名であった。不可=再試験該当者9名については筆記(100点満点)による再試験を実施, その結果, 6名は再試験に合格して履修を修了, 残り3名は不合格のため, 次年度再履修となった。(※()内の数値は前年度)

授業科目名【 看護総合演習 】

- ・4年次生7名を対象に, 前期は全て遠隔で, 後期は10月対面, 11月以降遠隔で, 看護総合実習(看護管理)に向けてのゼミナールを展開した。
- ・ゼミナールは, 当初8月末実施を予定していた臨地での「看護総合実習(看護管理)」に向けた課題学習を中心に, 学生2名ずつが担当する3テーマについてのプレゼンテーション(資料提示, 口頭発表)を基に進行した。
- ・4年間の学びの集大成と位置づけた「看護総合実習(看護管理)」の実施に向けて, 学生は2～3名に分かれて担当した課題を調べ学習し, その成果をゼミでプレゼンテーションする, その発表を基に実習の目的・目標を検討・決定するところから, 本実習に関する企画・実施・評価に至る一連の過程にメンバー全員で協力して主体的に取り組む。この間, 教員はファシリテーターとしての役割を担い, 適時, 助言・指導を行った。
- ・ゼミでは, 「看護管理」に必要な知識の獲得を促すとともに, 学生の「前に踏み出す力」「考える力」「チーム力」など, 社会人基礎力(3つの能力/12の構成要素)強化を目標に, 主体的学習者としての姿勢・態度・行動を求めることを意識しながら関わった。
- ・毎回のゼミ終了後は, 当日の学習活動の振り返りとして, 学生にはGoogleフォームで作成した「振り返りシート」に記入・提出してもらった。記載された内容は次回ゼミで活かせるよう整理し, 学生に還元した。ゼミのたびに学生個々の「振り返り」を促し, その内容を共有することで, 学生が他との意見の違いに気づいたり, 事象の捉え方・考え方の広がりや深まりに繋がることを期待した。また, ゼミナール活動の活性化を図った。
- ・看護総合演習及び看護総合実習での学習成果(まとめ)は, 個別に「課題レポート」として提出を求め, 評価の対象とした。

当該科目の達成度評価は, 課題レポート, ゼミナール中の発言や口頭説明の適切さ及び遠隔授業全般を通しての学習貢献度(マインドセット, グループワークの参加状況・参加態度, 個人学習への取り組みなどによる総合評価とした。総合評価の平均点は84.1点(最高93点, 最低73点), 成績の内訳は, 秀2名, 優3名, 良2名で, 7名全員が当該科目の履修を修了した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護学教育学会		1998年7月～現在に至る
日本看護科学学会		1998年12月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999年4月～現在に至る
日本看護診断学会		1999年6月～2021年2月15日付退会
日本看護技術学会		2007年12月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009年6月～現在に至る
日本がん看護学会		2009年12月～2021年1月25日付退会
日本看護管理学会		2012年10月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文) 特記事項なし				
(翻訳) 特記事項なし				
(学会発表) 特記事項なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特記事項なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
特記事項なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・日本看護協会/福岡県看護協会 ・西南女学院大学認定看護師教育課程	会員 認定看護師教育課程検討委員 講師	2005年4月～現在に至る 2016年4月1日～現在に至る 2016年5月11日～現在に至る } 電話およびメールで対応 不参加
・門司掖済会病院看護部看護研究指導 ① 第1回：研究計画書の作成 ② 第2回：質問紙調査，質問紙の作成 ③ 第3回：データ分析，最終指導 ④ 第4回：院内研究発表		

・西南女学院大学認定看護管理者教育 課程ファーストレベル	「討議法」オリエンテーション講師(1 時間) 「資源管理 I・看護における情報の管理」講師(6 時間) 「討議法」講師(3 時間)	2020 年 9 月 3 日 2020 年 10 月 31 日 2020 年 12 月 19 日
・北九州市国民健康保険運営協議会 ① 令和元年度第 1 回北九州市国民健康保険運営協議会 ② 令和元年度第 2 回北九州市国民健康保険運営協議会	副会長 ←開催されず（資料郵送のみ）	2012 年 2 月～現在に至る 委嘱期間(継続)：2019 年 9 月 1 日～ 2022 年 8 月 31 日まで(3 年間) 2021 年 2 月 10 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

【大学委員会】

● 2020.4.1～2021.3.31 看護学科入学試験委員

- ✓ 大学委員会のうち「入学試験会議」に属し、看護学科入試委員として、看護学科長とともに 2021 年度入学試験に関する事項（入学者選抜要項の検討、入学試験実施に関する事項、入学者選抜方法に関する事項、入学者の選抜に関する事項等）の審議に加わり、コロナ禍における入学試験の円滑な実施に向けて自身に課せられた業務・役割を COVID-19 感染拡大防止策にじゅうぶん配慮しつつ粛々と遂行した。
- ✓ 推薦入学試験(指定校推薦・公募推薦)の折、担当した業務・役割を支障なく遂行した。
- ✓ 一般入学試験（前期）の折、主任監督者としての業務・役割を支障なく遂行した。
- ✓ 一般入学試験（後期）の折、担当した業務・役割を支障なく遂行した。
- ✓ 助産別科一般入学試験に関して、依頼された業務・役割を支障なく遂行した。

● 2016.4.1～現在に至る 学び場プロジェクト委員

- ✓ 2016 年度より、旧 FD 研修企画委員会メンバー（5 名）のうち、上村眞生准教授（福祉学科）を中心に、教・職・学合同の全学的な取り組みとして、「学びの拠点づくり」として、主に看護学科、福祉学科の学生有志による自主活動グループ；STEP UP への支援を継続して行っている。
- ✓ 昨年度に引き続き、看護学科、福祉学科の新 1 年生を対象に、教務課との連携を図りながら、先輩学生による新 1 年生へのリモートによる「履修指導支援」を企画・実施した。今年度も多くの学生が参加しており、次年度もさらに充実した支援が行えるよう工夫していきたい。
- ✓ 教員集団としては、本学共同研究費の助成を受けた「社会人基礎力養成のための『意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム）』構築に関する研究」に継続して取り組んでいる。

【学科役割】

- 2016 年度より、看護学科入学試験委員を継続して担当している。また、実習コーディネーター、3 年生アドバイザー責任者、認定看護師教育課程検討委員及び助産別科一般入学試験関連業務等、学科で与えられた業務・役割を誠実に遂行した。

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	鹿毛 美香	職名	助教	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2008.3 月)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護学 産業保健学 労働衛生学 環境医学 公衆衛生学 公衆衛生看護学	労働衛生 ワークストレス 雇用不安 疲労蓄積 大学生の健康 現任教育 住 民の健康 保健行動

研 究 課 題
・労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について考察する. ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する.

担 当 授 業 科 目
保健福祉学入門 (前期:保健福祉学部) 基礎看護学実習 I (後期;看護学科) 対象別公衆衛生看護活動論 I (前期;看護学科) 疫学 (前期;看護学科) 在宅看護学実習 (前期・後期;看護学科) 公衆衛生看護技術演習 (前期;看護学科) 地区活動論演習 (前期;看護学科) 公衆衛生看護学実習 (前期・後期;看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 保健福祉学入門 】 1. 保健学の一領域である産業保健を活動の場でどのように活かしているのか、事例を通して実践的に捉えることができるように努めた. 看護学科以外に栄養学科, 福祉学科の学生対象であるため, 管理栄養士や社会福祉士, 精神保健福祉士など保健活動する中で, 連携先の専門職となりうる仲間と学習していることを意識できるようにも努めた.
授業科目名【 基礎看護学実習 I 】 1. 学内実習において臨床現場を疑似体験できるように Simulated Patient を務めた. その際, 科目責任者と密にコンタクトをとり, 学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.
授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論 I (産業保健・看護) 】 1. 産業保健および産業看護について, 国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ, 図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした. また, 産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた. 2. 産業保健師の活動の一部を実践させることで, ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた. 今回は遠隔授業であったため学生自身の VDT 作業状況を振り返り, 3 管理の視点で改善提案書を記録するなどした.
授業科目名【 疫学 】 1. 保健師 (主に行政・産業) が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法, また, 国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ, ペーパーシュミレーションを取り入れた. 2. 協同学習を取り入れ, 学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた. 協同学習が未体験の学生を考慮し, まず Think-Pair-Share を用い, グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した. 3. 授業資料の 1 枚目には, 毎回, 新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ, 今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるように試みた.

4. 今年度より、保健師課程以外の学生も受講できるようになったため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら、現場との連動を行った。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

1. 病棟実習とは違い、療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか、また生活経験が少ない学生に対し、生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた。
2. 実習指導者と密にコンタクトを取り、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
3. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
4. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
5. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
6. 実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間を取り、在宅看護学領域の教員間で検討を重ね、指導の方向性を調整した。
7. 遠隔および学内実習の際には、1. ～6. を踏まえ、療養者の生活の場に伺うことができないデメリットを補うために動画共有サービス（プラットフォーム）等を活用し、動画映像によるイメージ化を図り、尚且つ、可能な場合は実習指導者を介して療養者の生活の場を撮影してもらいながら訪問の疑似体験ができるようにするなど工夫した。

授業科目名【 公衆衛生看護技術演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、**共同**学習のメンバーを実習メンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヶ月児までの母子への訪問を題材とし、電話によるアポイントから次の訪問の予約まで、一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。
4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である。
5. 健康教育（集団）では、地区活動論演習と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。
6. 遠隔演習のメリットを活かし、保健活動現場でも行っている **web** 会議アプリを使った **web** 健康相談や健康教育を体験させるなど、社会動向にあわせた活動スキルを養えるように演習組み立てを工夫した。

授業科目名【 地区活動論演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、**共同**学習のメンバーを実習メンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 保健師に必要な情報収集能力を獲得できるように演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

1. 実習指導者と密にコンタクトを取り、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
3. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。

5. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。
6. 遠隔および学内実習の際には、1. ～5. を踏まえ、活動の場に伺うことができないデメリットを補うために動画共有サービス（プラットフォーム）等を活用し、動画映像によるイメージ化を図り、尚且つ、卒業生の協力を得、生活の場を撮影してもらいながら乳児訪問の疑似体験ができるようにするなど工夫した。

授業科目名【 その他 】

1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008年11月～） 倫理審査委員（2018年1月～）	2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006年4月～）	2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会		2003年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008年4月～現在に至る
日本産業保健師会		2013年1月～現在に至る
日本産業看護学会		2014年4月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015年5月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 特になし				
（学術論文） ある末期がん患者の経験から考える意思決定支援のあり方	共	2021. 3	西南女学院大学紀要 Vol.25	①がん患者の語りをまとめた事例報告である。対象は60歳代男性で、胃がんの末期患者であった。ギアチェンジ期の前後において、療養中の出来事と経験の意味を明らかにすることを目的とした。対象の語りから8つの出来事と20の経験が抽出された。 ②石井美紀代、水原美地、中山昌美、吉原悦子、鹿毛美香 ③pp23-32
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
◎（公社）日本産業衛生学会 ・学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員	2018年1月～現在に至る
◎（公社）日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。 また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事	2006年4月～現在に至る
学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）		
・実習コーディネーター	2016年4月～2021年3月	
・生協理事	2012年5月～現在に至る	

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	金山 正子	職名	教授	学位	修士
----	-------	----	----	----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎看護学、看護教育	看護教育、看護学生、看護倫理、看護実習

研 究 課 題
看護学生の看護倫理に対する意識についての教育効果の研究

担 当 授 業 科 目
看護学概論、看護倫理、看護理論、看護技術論、看護過程論、診療関連技術論演習、生活援助技術論演習、フィジカルアセスメント技術演習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護総合演習、看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 看護学概論 】 1 年次前期に遠隔授業を実施した。「人間」「環境」「健康」「看護」の概念、および、ナイチンゲールとヘンダーソンの看護に対する考え方について、個人の課題学習によるレポート作成とグループでのミーティングを導入し、相互に学ぶ機会を設定した。また、看護の事例を紹介し理解を助ける工夫を行った。講義終了後に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。
授業科目名【 看護倫理 】 2 年次後期に対面授業と遠隔授業を実施した。看護者の倫理綱領、看護倫理の原則、倫理的課題、倫理的意思決定の方法などの基礎的知識の修得をめざした。事例を用いて説明し、グループ学習と発表により、相互に理解が深まるように工夫した。また、過去の国家試験問題を練習問題とし、考える時間を作るようにした。講義終了時に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。
授業科目名【 看護理論 】 3 年次前期に遠隔授業を実施した。看護理論のテキストにそって、主要な看護理論家の看護理論の特徴と看護実践への活用について概説し、課題レポートで理論の特徴と活用について考える機会を作った。また、講義終了後に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。
授業科目名【 看護過程論 】 2年次前期に遠隔授業を実施した。看護過程論のグループ学習ではmeet機能を利用して、グループの指導を行った。学生の学習内容を把握し、事例患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、学習が進むように、助言や指導、提出物へのコメントなどを工夫した。
授業科目名【 看護技術論 】 1 年次前期に遠隔授業を実施した。対面授業が可能となった時に、実習室において、感染予防対策を厳重に行い、ベッドメイキング、シーツ交換などの技術について、複数の教員で指導を行った。
授業科目名【生活援助技術論演習】 1年次後期に、対面授業と遠隔授業により、複数の教員とともに実施した。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。

授業科目名【フィジカルアセスメント技術演習】 1 年次後期に、複数の教員とともに、フィジカルアセスメント技術演習への指導を行った。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 1 年次生 2 月の 1 週間の実習である。遠隔授業と対面授業により、感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して学内で実習を行った。教員が模擬患者となり、学生が患者からの情報収集やアセスメント、コミュニケーションの取り方やプロセスレコードの作成などについて学習し、助言や指導を行った。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 2 年次生 9 月に遠隔授業と対面実習により、感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して実習した。実習室において、模擬患者の事例と模擬電子カルテを作成し、ロールプレイを導入して受持ち患者の情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、実施、評価のプロセスに従って、実習が円滑に進むように工夫し助言を行った。
授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】 4 年次に遠隔授業と対面授業により実施した。市内の感染状況により、実習は学内の実習室において、感染予防対策を厳重にして行った。紙上患者事例のアセスメント、看護計画の立案を行った。また、輸液中の患者の寝衣交換と清拭、輸液管理・輸液ポンプ、呼吸法・排痰法、心電図モニター、酸素療法、呼吸音・心音の聴取、血糖測定、インシュリン自己注射の指導法、集中治療室・気管挿管介助、吸引(気管内・口腔内・鼻腔内)、標準予防策、褥瘡予防(ポジショニング)などについて、事前に課題学習・レポート作成を行い、実習室で演習を行った。また、実習のまとめの発表会と意見交換を行い、看護専門職の役割への理解を深めるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会 日本看護科学学会		1990年～現在 1990 年-2012 年、2014 年～現在

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
西南女学院大学 認定看護管理者教育 課程 ファーストレベル	講師	2020 年 10 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教務委員会委員 キャンパス・ハラスメント防止・対策委員長 4 年生アドバイザー 看護学科カリキュラム検討委員

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	財津 倫子	職名	講師	学位	修士 (看護学) (広島大学 2005 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、臨地実習適応感、 アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研 究 課 題
看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめて投稿した。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について再度調査を行い、結果を論文にまとめて投稿する予定である。 成人看護学（急性期）に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担 当 授 業 科 目
救急・クリティカル看護学演習（後期：看護学科） 成人看護学演習（前期：看護学科） 成人急性期看護方法論（後期：看護学科） 成人急性期看護学実習（後期：看護学科） 看護総合実習・演習（前期・後期：看護学科） 看護研究の基礎（前期：看護学科） 健康教育論（前期：看護学科） 看護学（後期：栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 救急・クリティカル看護学演習 】4 年生後期 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で 質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた（6 コマあるうちの 3 コマは、対面での演習が可能であったが、残り 3 コマは COVID19 感染者が学内で認められたため、遠隔授業へ変更）。
授業科目名【 成人看護学過程演習 】3 年生前期 <講義> 1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても解説（遠隔）する。 <看護過程> 1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。 2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明（遠隔）を行い、全員が理解できるよう努めた。 3. 遠隔でのグループワークであり、クラスルームを出入りし、グループの進行状況を確認しながら、また

質問に答えながら、それぞれのグループワークでの学びが深まるよう指導した。

4. グループで記録提出させるため、指導はグループに対して行った（遠隔）。
5. 中間評価とし、遠隔にて事例を読みアセスメントし計画立案をさせるテストを実施した。

＜看護技術：周手術期の看護＞

1. 術直後の観察の実際や観察の根拠やポイントの講義（遠隔）
2. 実習室より遠隔にて、JVAC ドレーン管理方法の解説・深部静脈血栓症の予防法の解説・腹帯の作成から使用方法の解説を行った。
3. 実技テストではなく、筆記テスト（グーグルフォーム）にて評価した。

＜ストーマ造設時の看護＞

1. 実習室からの遠隔での講義（外部講師）
2. ストーママーキング方法・ストーマ交換・便破棄方法の演習（遠隔）

授業科目名【 成人急性期看護方法論 】2年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。
3. 課題は、そのまま3年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがつながるよう配慮した。

授業科目名【 成人急性期看護学実習 】3年生後期～4年生前期

1. COVID19 により臨床実習が行えない状況での実習であった。事例を8事例準備し、学生に患者を選ばせ実習に臨む方法とした。
2. 臨地実習の流れと同様の流れを組み（外来⇒入院⇒手術⇒術後⇒退院指導）、DVD や実習病院協力のもと、作成した動画などを活用し、大学の教室や実習室にて実習を行った。
3. 対面実習期間は、2020年10月5日（月）～11月6日（金）、2021年1月12日（火）～1月13日（水）であり、その他の期間は、全て遠隔実習であった。
4. 事例は、ABCDEFGH としたアルファベットの使用であるが、全て実際に存在する患者様の情報であり、情報の取り扱いには十分注意した（USB 管理）。USB 以外の管理場所は、クラスルーム内のドライブで記録物は管理し、メール送信は一切行わなかった。実習終了後は、USB データを含めすべての情報を削除させ、教員も削除した。
5. 対面実習が可能であれば、学生自身で人形に創部やドレーン・点滴・尿道留置カテーテルなどのルート類を装着させ、術直後の観察・清拭・離症の実践を練習後、技術チェックを行った。遠隔実習の場合は、学生のコメントで教員が動く方法を取り（学生の指示が無ければ動かない）、人形の作成から清拭・離症までを同じように学べるように工夫した。
6. 人形からはデータは取れないため、情報収集（会話）の際は、教員が患者役となった。検査データやフローシート等は、クラスルームに日程に合わせ UP する形をとった（模擬電子カルテ）。
7. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
8. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。
9. 対面実習における記録物の提出は、最終日の16時で問題なかったが、遠隔実習の際は、レターパックでの記録提出（郵便ポストの回収状況も踏まえ、土曜日の消印有効）とした。

授業科目名【 看護総合実習・演習 】4年生（通年）		
- 事前学習として「血糖自己測定」「インシュリン自己注射」「輸液中の清拭及び寝衣交換」「酸素療法・排痰法・呼吸法」「12誘導心電図」「気管挿管の介助・チューブ固定・口腔ケア及び吸引」「心電図モニター」「輸液ポンプ」目的と方法と注意点と根拠を課題とした。 - COVID19禍にて臨地実習は行えなかったが、大学の実習室を使用し対面実習を行った。事前課題として学生が学んできたことを全て実践し学べるできるよう日程調整した。患者は、急性期では人形で、慢性期では学生自身が患者役となり演習を行った。技術演習時間を設け、その後、教員の前で実践し、教員はチェックをする。を、援助技術ごと繰り返した。また、実践後の後片付けも看護師の大切な仕事であり、その体験もできるように配慮した。 - 文献研究・ケースレポートにおいては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週に1度ゼミ日（遠隔）を設けて、完成まで指導を繰り返した。 - レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（遠隔）する（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。		
授業科目名【 看護研究の基礎 】3年生前期		
- 科目の主担当の教員が講義（遠隔）を行い、それを受けた形でグループワーク（遠隔）をおこなった。 - 研究テーマの選定から、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、実践、データ集計、結果の分析、まとめ、発表までをグループワーク（遠隔）し、その助言を行った。講義時間内ではまとめきれない内容については、学生と話し合い、時間外に指導を行った。		
授業科目名【 健康教育論 】2年生前期		
- 遠隔にて講義を行った。理論の講義から指導案・パンフレット作成、発表（遠隔）までの実践を行った。 2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた。事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え、その項目内容で個別性をふまえるとどのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かを、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。またパンフレットを作成するだけでなく、指導を受ける側（患者体験）も経験させ、客観的に自己を振り返る機会（自己評価表の配布）を設けた。		
授業科目名【 看護学 】3年生後期：栄養学科		
- 看護の歴史・理論・看護の定義・生活者として人間について・多職種チームとしての情報共有について解説した。 - オムニバスで、小児・慢性期・急性期・老年・精神・在宅のそれぞれの担当教員が担当領域の看護について解説した（成人急性期看護学担当：胃がんの手術を受ける患者の看護を解説） - 最終日には、看護の役割と看護師と栄養士との協働の在り方をレポートの整理し、発表会を行いディスカッションし、学びを分かち合う良い機会となった。 - オムニバスであり、評価点は担当教員がレポート課題などで評価し、その評価点を合計する形で算出した。		

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会 日本運動器学会（日本整形外科 看護研究会より改名） 日本看護科学学会 日本看護学教育学会会員	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る 2005年6月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2015年12月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<u>3年生ゼミアドバイザー(2019年4月1日～継続中)</u> 1. 学生を4クラスに分け、名簿を作成。それぞれのクラス委員長を決定後、連絡網の作成。 2. 前期及び後期に1回ずつ担当クラスメンバーに面接（遠隔）を実施。 3. COVID19禍における遠隔授業中の学生に対するアンケート調査を実施し、現状を把握し対応した。 4. 各論実習前に模試を遠隔で実施。 5. 11月に、保護者懇談会（遠隔）を実施（COVID19禍における講義・演習・実習をどのように実施しているかを説明・模試結果報告・就職活動について） 6. 各論実習期間中に担当クラスの学生に問題があれば、その都度対応（保護者を交えての面談等） 7. 3月に各論実習後知識確認模試を実施。

教育経費予算配分委員会（2019年4月1日～継続中）

1. 当該年度予算について
 - 1) 5月に、5月1日現在の学生数によって決定した確定シーリング額を会計課よりメール報告を受ける。
 - 2) 6月末までに2020年度の確定予算を会計課に提出した。
 - 3) 学科内の予算執行は、実習関連以外は可能な限り11月末までに終了するよう8月の学科会で依頼した。
2. 翌年度予算について
 - 1) 8月の学科会議で翌年度の予算計上の依頼を行った。
 - 2) 各領域から提出された予算を確認して、暫定シーリング額内に収まるように調整した（調整する際は、前年度と購入物品の相違や金額を確認し、大幅に違いがある場合、予算作成者へ直接確認をおこなった。消耗品については、文具は定価の7割、医療・実験用は定価の9割がけで購入可能であるため、実質金額は、それぞれ $\times 0.7$ 、 $\times 0.9$ で計算しているはずであるが、そのように計算されていないものに関しては、再計算した。
 - 3) 2021年度暫定シーリング額におさまるよう、調整・話し合いを行った。
 - 4) 2021年度の暫定シーリング額に調整し、暫定シーリング内におさまった2021年度の予算書を10月30日（金）に会計課へ提出
3. 委員会の開催について
委員長選出会議のみ対面で会議が行われ、その後リモートにての開催あるいは、メールにて意見交換が行われた。
4. その他
会計課より、予算内容を整理するフォーマットが提示され、そのフォーマットに合わせ、2021年度の看護学科予算表を作成した。

BLS 受講調整（2019年4月1日～継続中）

1. 受講料は、前期の学費へ追加納入いただくこととしていたが、COVID19の状況を踏まえ、後期の学費で追加納入いただいた（会計課へ3月に受講者名簿をメール送信した）。
2. 3月初旬に博多トレーニングセンターの担当者に連絡し、受講日の調整を行ったが、COVID19の影響で日程を2度変更する。
3. 実習室の予約及び施設使用願いの提出
4. 受講者の名簿作成（英語記およびメールアドレスを入れたもの）
5. 教材と案内書が博多トレーニングセンターより郵送されてくるため、午前班、午後班の通達も兼ねて教材を学生に配布（ゼミごと）。
6. 就職試験と受講日が重なる学生が報告に来るため、博多トレーニングセンターへ欠席の連絡を入れる。学生には、直接トレーニングセンターで受講できる手続きについて説明した。
7. 受講日当日は、8時30分からの開始となるが、当日にBLS人形等の搬入があるため、7時から搬入が開始される。体温測定及び出欠確認はインストラクターの方が実施くださった。欠席者・遅刻者へは教員が連絡しなければならないが、2020年度は欠席者・遅刻者はなかった。
8. インストラクターに受講中の写真撮影の許可を得て、写真撮影を行った後、ブログへUPする準備を整えた。
9. 終了時、機材の消毒を実施した。

実習コーディネーター(2019年4月1日～継続中)

1. COVID19禍における臨地実習が可能であるかを、実習病院へ必要時メールにて確認を行った。
2. 各論実習前のオリエンテーション運営（第1回・第2回）と、「個人情報取り扱いとSNS利用について」スライドを用いて説明した。さらに、手指消毒液やポシェット、フェイスシールドの配布。
3. 2021年度の実習病院（2病院）の実習配置を作成し調整（他大学）後、病院へ提出。

キャンパスハラスメント相談員（2019年4月1日～継続中）

- 4月の学年別オリエンテーションでメールアドレスを公開し、常に相談を受け付けている。

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	笹月 桃子	職名	准教授	学位	医学博士 (九州大学)
----	-------	----	-----	----	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
・小児緩和ケア ・小児の生命倫理・臨床倫理 ・医療プロフェッショナリズム・医学教育	小児、生命倫理、臨床倫理、緩和ケア、代理意思決定、きょうだい支援、医プロフェッショナリズム

研 究 課 題
1. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児のいのちに関わる医療の方針決定に際する医師と家族の協働意思決定の在り方について 2. 自己決定概念が基盤にある現代医療において脆弱な立場に置かれた子どもの最善の利益、尊厳はいかに捉えうるか 3. 重篤な病態や重度の障害を抱える子どものきょうだいの心理社会的体験と彼らへの支援の在り方について 4. 子どものいのちに関わる医療、その決定に携わる小児科医、看護師、家族の心理社会的体験と、現場還元性の高い支援の在り方について 5. 子どものいのちに関わる医療のその不確実性に耐え得る医療者を育てる医学教育について

担 当 授 業 科 目
・看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ ・疾病学各論：小児科 ・遺伝看護学 ・緩和・終末期看護：小児緩和ケア ・初年次セミナーⅠ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ 】 身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。 復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。後期に実施した解剖実習見学を通じて、いのちへの畏敬の念と医プロフェッショナルとしての覚悟を自身の内に芽生えさせ、自覚できるよう、綿密な事前事後学習の上で実習に臨めるよう支援した。
授業科目名【 疾病学各論：小児科 】 範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【 遺伝看護学 】 外部講師 2 名を迎えてのオムニバス講義であった。臨床、実戦からの話が多いことが予想されたため、それらの話が理解できるよう、基礎的な遺伝学の知識の予習と復習ができるよう配慮した。また、倫理的な思考や心理的葛藤を経験する分野であり、負担にならないよう、表出の機会を設けた。
授業科目名【 緩和・終末期看護学：小児緩和ケア 】 子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

授業科目名【 初年次セミナー I・II 】

初年次セミナーI

- ①初めてのオンライン講義のため主要な講義資料は、事前に印刷物にして学生の手元に届けた。また、Google Forms を使い学生の情報環境の整備状況を把握した。
- ②本科目は教員 5 名で担当するため、講義の内容・指導方法について、講義前後に Meet 会議を行い詳細な打ち合わせをした。
- ③講義についての連絡や指示内容については、毎回、Google classroom を使い学生に詳細に掲示した。とくに、オンラインによるグループ活動は、初めての取り組みであったため、毎回の講義の指示については、教員間で統一をはかった。
- ④レポート作成の習熟を図るために、今年度は、レポート作成に関する講義を 2 回、文献の読み方についての講義を 1 回実施した。とくに、2 回目のレポート講義では書き方のポイントを再度抑える、文献の読み方では文献モデルを使い講義する、など講義担当者が学生の習熟度を上げることを意識し講義を実施した。
- ⑤情報収集に関する講義は、情報課・図書課に依頼しオンラインによる講義を行った。また、学生の情報環境で不具合などが発生した時には、情報課と連携し対処した。

初年次セミナーII

- ①初年次セミナー II では、初年次セミナー I で学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8 回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。
- ②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。
- ③初年次セミナー I での学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるような課題発見のためのシートなども改良した。
- ④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索は CiNii、Google Scholar の利用方法について説明を行った。
- ⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。
- ⑥DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。
- ⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを 1 つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医 倫理委員会委員（2020 年～）	1994 年～ 1998 年～
日本小児神経学会	第 58-62 回日本小児神経学会学術大会実践教育 セミナー企画責任 第 59-62 回日本小児神経学会学術大会シンポジウム 企画責任	2010 年～ 2015 年～
日本重症心身障害学会		2008 年～
日本小児血液・がん学会	教育研修委員会（緩和ケア等事業委員会）委員（2015 年～）	2015 年～

日本緩和医療学会	日本緩和医療学会緩和ケア研修指導者（2011 年～） 将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員（2014 年～）	2015 年～
日本生命倫理学会	第 28 回日本生命倫理学会年次大会プログラム委員 第 30-31 回同大会シンポジウム企画者	2016 年～
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士（2016 年～）	2016 年～

2020 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 小児医療の臨床倫理アプローチ～話し合いを始めるときに共有したいこと～	その他	2020.4	へるす出版 著書名：小児看護と倫理 ～日常的な臨床場面での倫理的看護実践～ 編者：松岡真里	執筆者：松岡真里、笹月桃子、他 18 名 担当箇所概要：臨床における倫理的課題について、医師と看護師がいかに協働し得るかについて整理、提案した。(p28-34)
呼吸器症状に対する医療介入における倫理的な論点	単著	2020.5	脳と発達 52(3),38-43	重症心身障害児・者の呼吸器症状が進行した際、気管切開や人工呼吸器などの医療技術的介入に関し、本人を主眼に置いた、その方針の妥当性をいかに担保できるか。倫理的アプローチの論点を整理した。
話し合いのガイドライン 特集：いま求められる周産期生命倫理の知識	単著	2020.6	周産期医学 50(6),959-64	自己決定が基盤となる医療現場において最も脆弱な立場にある新生児や胎児の、最善の医療の方針を決定するための対話の礎となる話し合いのガイドラインについて、その意義と限界について整理した。
小児神経疾患の倫理的課題とアプローチ 特集：神経倫理ハンドブック	単著	2020.7	BRAIN and NERVE72(7), 785-96	成人の神経難病患者と比し、重篤な神経疾患を抱える小児に特徴的な倫理的課題と、最善の方針決定に至る過程の在り方について、最新の研究を紹介しつつ、事例ベースに概説した。
言語表出できない患者の苦痛の評価 特集：小児の鎮痛・鎮静」を実践するための TIPS	単著	2020.7	小児内科 52(7),906-10 東京医学社	神経疾患や脳障害を抱える子どものように、言語表出できない子どもの苦痛の評価と対応について、その考え方とアプローチについて整理した。

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) Neurodevelopmental outcomes of high-risk preterm infants: A prospective study in Japan	共著	2020Aug	Neurology Clinical Practice	Torio M, Iwayama M, Sawano T, Inoue H, Ochiai M, Taira R, Yonemoto K, Ichimiya Y, Sonoda Y, <u>Sasazuki M</u> , Ishizaki Y, Sanefuji M, Yamane K, Yamashita H, Torisu H, Kira R, Hara T, Kanba S, Sakai Y, Ohga S
De novo ATP1A3 variants cause polymicrogyria.	共著	2021 Mar	Science Advances	Miyatake S, Kato M, Kumamoto T, Hirose T, Koshimizu E, Matsui T, Takeuchi H, Doi H, Hamada K, Nakashima M, Sasaki K, Yamashita A, Takata A, Hamanaka K, Satoh M, Miyama T, Sonoda Y, <u>Sasazuki M</u> , Torisu H, Hara T, Sakai Y, Noguchi Y, Miura M, Nishimura Y, Nakamura K, Asai H, Hinokuma N, Miya F, Tsunoda T, Togawa M, Ikeda Y, Kimura N, Amemiya K, Horino A, Fukuoka M, Ikeda H, Merhav G, Ekhilevitch N, Miura M, Mizuguchi T, Miyake N, Suzuki A, Ohga S, Saitsu H, Takahashi H, Tanaka F, Ogata K, Ohtaka-Maruyama C, Matsumoto N.
(翻訳)				
(学会発表) 小児緩和ケア総論・意思決定における倫理的な論点	単	2020.8.17	第62回小児神経学会実践教育セミナー	小児神経科医が知っておくべき、小児緩和ケアの総論と意思決定に関わる倫理的な論点を整理した。
『小児神経疾患の緩和ケア 2020』	単	2020.8.19	第62回小児神経学会シンポジウム	重篤な神経疾患を抱える子どもの医療方針を決定する際に、価値的議論に先んじて、医学的事実として疾患の軌跡を共有する意義について概説した

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
疾患の軌跡を辿る意義 (疾患の軌跡を意識する～重篤な神経疾患を抱えるこどもの意思決定支援～)	筆頭 (他 15 名)	2020.8.22	第123回日本小児科学会 ポスター	小児神経科医が知っておくべき、小児緩和ケアの総論と意思決定に関わる倫理的な論点を整理した。
代理意思決定における小児科医の葛藤と役割	単	2020.8.23	第 123 回日本小児科学会 特別企画	重篤な病態を抱える子どもの医療の現場にアドバンス・ケア・プランニングの概念をいかに導入し得るか、その問題点や危惧も含めて問題提起した。
子どもの命に関わる意思決定の現状とこれから (「重篤な疾患を抱えるこども・家族と「これから」について話し合う～倫理学者・法学者とアドバンス・ケア・プランニングについて考える～」)	単	2020.12.6	第 32 回日本生命倫理学会 シンポジウム	子どものいのちに関わる代理意思決定における医療者と家族の協働の過程の対話に着目し、何が共有され、その最終判断に至るまでにどのようにその判断の重荷を分かち合っているか、その関係性について研究した結果と併せ、報告した。
一人ひとりの子どもに個別の価値を創成する対話、家族と医療者の協働意思決定の対話に迫る～何を共有し、いかに分かち合うか～				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討	本学共同研究費：2020年度	○ <u>笹月</u> 、野井、文屋、樋口、山本	1,671,000
小児緩和ケアの対象となる子どもの QOL 向上に向けた看護師教育プログラムの開発	2019-2023 年度科学研究費基盤 C	(○松岡、奈良間、川合、岡崎)、 <u>笹月</u>	4,680,000
新生児臨床倫理コンサルテーションシステム構築及び新生児医療の倫理的判断基準の検討	国立成育医療研究開発費：2020-2023 年	(○賀藤、高橋、掛江、加部、横野、武藤、稲森、瀧本)、 <u>笹月</u>	4,700,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・厚労省委託事業、現在日本緩和医療学会及び日本小児血液がん学会共催事業、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム：CLIC」 ・新生児生命倫理研究会 ・九州大学病院小児緩和ケアチーム及び小児倫理コンサルテーションの活動 ・福岡市立こども病院 ・小児がんのこども・家族のための手引き（九州大学病院小児医療センター小児がん拠点病院事務局） ・第12回小児がんピアサポーター養成研修会 ・ニコゼミ講演会「命について」 ・こどもホスピスサミット in 福岡 ・研究支援（学会雑誌論文査読）	プログラム作成・コアファシリテーター・講師 ・世話人 ・特別講演（2021.3.6） ・医師 ・倫理委員会外部委員 ・分担執筆 ・講演（2020.9.1） - 講演（2021.1.16） - 座長（2021.3.6）	2010年～現在に至る 年に2～4回定期開催継続中 2019年～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2018年4月～現在に至る 2020年7月発刊 小児がん患者への支援に際し、小児緩和ケアの役割とそのアプローチについて概説した。 NPO 法人ニコちゃんの会（重い病気や心身に障害のある者及び社会的弱者に対して、保健、医療及び福祉の増進を図る活動に関する事業団体）、定例勉強会 全国のこどもホスピスプロジェクト活動団体が一堂に会し、地域社会にこどもホスピスの理念が広がるために何が求められているか議論した

・九州大学医学部小児科	非常勤講師	2017 年度～：医学生の講義
・中村学園大学栄養科学部栄養科学科	非常勤講師	2019 年度～：小児疾病の講義
・京都大学大学院医学研究科	非常勤講師	2019 年度～：医療倫理の講義

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
西南女学院大学 倫理審査委員	2018 年～現在に至る
西南女学院大学保健福祉学部 附属研究所 運営委員	2018 年～現在に至る
西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 研究推進委員	2018 年～現在に至る
西南女学院大学保健福祉学部 看護学科	国試対策強化学習講義

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式9)

氏名	新谷 恭明	職名	教授	学位	博士 (教育学)
----	-------	----	----	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
教育学	人権教育 道徳教育 唱歌

研 究 課 題
近代日本における道徳教育の形成 1900 年における教育唱歌

担 当 授 業 科 目
教育原理 教職概論 教育課程論 教育方法論 初年次セミナー 教職実践演習 事前事後の指導

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【教育原理】 途中からオンライン授業となった。なので、パワーポイントを活用した。高橋メソッドを使い、文字情報を増やした。聴覚障害の学生がいたので有効であった。
授業科目名【教職概論】 オンライン講義であった。初めての経験なので、試行錯誤があったと思う。黒板がないために文字情報についてはパワーポイントを活用した。一部には不評であったが、全体で好評なのか不評なのかはわからない。
授業科目名【教育課程論】 途中からオンライン授業になった。なので、パワーポイントを活用した。高橋メソッドを採用してみたが、授業評価では「よくない」と書いてきた学生はいたが、大半がどう評価したかはわからない。
授業科目名【教育方法論】 途中からオンライン授業となった。しかし、後半は模擬授業をやってもらうために対面でなければならず、また、学生の実習等との日程調整もあり、結果的に2グループに分けて集中講義でおこなった。結果的に全員が授業の制作にかかわることができ、よかったと思う。今年度も教員の負担は増えるが結果を考えるとそうしてみたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育学会 教育史学会 大学教育学会 全国地方教育史学会		1976 年～現在に至る 1975 年～現在に至る 2013 年～現在に至る 1982 年～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 人権教育における道徳 的課題	単	2020 年 8 月	福岡県人権・同和教育 研究協議会『WINDS』 96	
人権教育における道徳 的課題（続）	単	2020 年 11 月	福岡県人権・同和教育 研究協議会『WINDS』 97	
学士課程における研究 体験の教育的意義を再 考する	共	2020 年 12 月	大学教育学会『大学教 育学会誌』42-2	
（翻訳）				
（学会発表） 学士課程における研究 体験の教育的意義を再 考する	共	2020 年 6 月	大学教育学会	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
近現代日本の地方教育行政と「教員育成コミュニティ」の特質に関する総合的研究	日本学術振興 会	○（須田将司） 新谷恭明 （白石崇人） 他 14 名	5,070,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
公益社団法人福岡県人権研究所 NPO 宗像地区人権と共生の会 社会福祉法人福岡サンテラス 福岡市人研行政に関する懇話会	理事長 理事長 理事 委員長	2022 年 6 月まで 2021 年 6 月まで 2022 年 3 月まで 2023 年 3 月まで

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員長 宗教委員

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	隅田由加里	職名	講師	学位	修士(看護学)(産業医科大学 2017 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護管理 基礎看護学	看護実践能力、相互支援、 看護技術、シミュレーション教育

研 究 課 題
・看護管理：経験年数 1～3 年における看護師の看護実践能力とその習得過程に関わる影響要因の因子構造分析 (2021 年 3 月 25 日附属研究所発表) ・基礎看護学：シミュレーション演習が看護学生の思考に与える影響

担 当 授 業 科 目
<前期> ・診療関連技術論 (必修) ・看護技術論 (必修) ・看護過程論 (必修) ・看護マネジメント論 (選択科目) ・基礎看護学実習Ⅱ ・看護総合演習・実習 <後期> ・生活援助技術論演習 (必修) ・看護マネジメント総論 (必修) ・フィジカルアセスメント技術演習 (必修) ・基礎看護学実習Ⅰ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 診療関連技術論演習 】 遠隔授業となったため、可能な限り、学生が理解できるように、実習室での「生配信」スタイルとした。まずはパワーポイントで授業を行い、その後、携帯や IPAD の動画機能を活用して、詳細な技術が視聴できるように配慮した。また、学生個々が演習できない分、時間に余裕があるため、今回は根拠理解に重点をおき、根拠説明に時間を活用し理解が深まるよう配慮した。さらに振り返り課題を作成し、これを実技試験の代行とした。
授業科目名【 看護マネジメント論 (4 年生) 】 看護総合演習・実習の中の「看護管理」を選択したゼミ生が中心に選択しているため、看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、学生の実習部門を考慮し授業を構成した。最も看護管理を学ぶにあたってわかりやすい組織である「医療安全管理部門」を軸に看護管理とは何かから実践例を盛り込み遠隔授業で対応した。
授業科目名【 生活援助技術論演習 】 地域の COVID-19 の感染拡大のリスクがあったため、「活動」「清潔」をまずは優先して授業を構成した。遠隔授業変更後は、診療関連技術論演習同様に、実習室での「生配信」スタイルとした。また、演習ができない分、時間的余裕を認めたため、根拠理解と患者の個別性を考慮できる思考の向上を鑑みたワークシートを作成し、学生とコミュニケーションを図りながら授業を行った。実技試験はできなかったため、生活援助技術を提供する際に重要となる「安全・安楽・自立」の視点の必要性に関してのレポート提出に変更した。

授業科目名【 看護マネジメント論総論（2年生） 】

看護管理は経営学などの要素も入っているため、まずは用語理解に努めること、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえて授業を展開した。現在の医療において重要性が高い医療安全は国家試験にも出題されるため、講義内に4単位盛り込み、医療安全の基礎知識と、実際の過去の事例を活用して危険予知トレーニングを実施し、医療事故の発生機序、改善策を考えることに視点を置き授業を展開した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護技術学会	なし	2017年4月
日本看護学教育学会	なし	2017年4月
日本看護管理学会	なし	2017年4月
日本看護科学学会	なし	2017年4月

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 (教育運営委員役割) (質管理Ⅰ：看護サービス管理の安全管理授業担当)	教育運営委員	2017 年より継続

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
・学生募集委員会 ・看護師国家試験対策担当 ・1 年生アドバイザー

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	高橋 甲枝	職名	准教授	学位	修士 (看護学)
----	-------	----	-----	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 初年次教育 がん看護 運動器疾患を持つ患者の看護	・ シミュレーション教育 ・ 初年次教育 ・ 乳がん患者の就業支援 ・ 運動器疾患を持つ患者の QOL

研 究 課 題
・ がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する。 ・ 笹月准教授を中心に看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナリズム形成に関する調査研究のために、インタビュー結果の検討を行っており、今後、学生を対象に調査を行う予定である。 ・ 急性期看護技術教育の一環として、ストーマ造設した学生の学びを明らかにする。 ・ 初年次教育の効果を経時的に検討する。

担 当 授 業 科 目
初年次セミナーⅠ (前期) 成人看護学演習 (前期) 健康教育論 (前期) 看護総合演習 (前期) 看護総合実習 (前期) 初年次セミナーⅡ (後期) 成人急性期看護方法論 (後期) 成人急性期看護学実習 (後期) 救急・クリティカルケア看護学演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 15 コマ, 30 時間 ①科目担当者 5 名で約 21 名の学生を担当した。 遠隔授業となったことで、学生の Wi-Fi 環境の確認調査を実施し、教員間で共有を行った。 講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。 ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。 ③スタディスキルの習得をより図るためミニレポート・レポート作成に取り組んだ。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。 ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。 ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。例年は図書館へ行き調べるという課題を設けていたが、今年度は CiNii、GoogleScholar の使用方法を中心に説明を加えた。
授業科目名【成人看護学演習】前期 30 コマ, 60 時間 遠隔授業 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例 (胃がん)、慢性期事例 (肝硬変) の 2 例を展開した。 グループワーク人数を 4 名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。グループワークは小グループのクラスルームでグループワークができるようにした。本年度は中間試験を取り入れた

が、看護過程を理解できていない人のフォローを行うように試みたが、遠隔での試験はパソコンが苦手な学生もあり、不満が聞かれた。明らかに理解ができていない学生のフォローはできたと考える。

看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、術食後の観察と援助と報告の演習を行った。遠隔授業となったことで、実践を行うことができなくなったため、実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。また、自宅にあるものを代用してイメージ化を図った。

ストーマ造設した患者の看護については、事前にパウチなどを郵送して、遠隔授業下で患者体験を行った。

授業科目名【健康教育論】前期 7 コマ、15 時間 遠隔授業

健康教育論は、科目担当者 2 名で講義・個人ワーク（パンフレット作成）、発表をとおして、健康教育、患者教育の学びを共有した。

ヘルスプロモーションの定義および行動変容について解説を行った。パンフレット作成および発表に対してコメントをとおして患者指導の必要性について説明を行った。

授業科目名【看護総合演習】通年 15 コマ、30 時間

看護総合演習では、7 名の学生を担当し、遠隔授業にて行った。

「急性期看護学実習」で受け持った患者をもとに課題を見だし、文献検討、ケースレポートを論文形式にそって作成した。作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、他者評価・自己評価を行うことができていた。

授業科目名【看護総合実習】通年 10 日間（対面実習）

看護総合実習では、「急性期領域」「慢性期領域」「看護技術領域」の学生 35 名を対象に行った。そのうち 7 名を担当し、事前に肺を切除する患者事例のアセスメント、看護計画の立案をもとに下記の技術演習を行った。

輸液管理、呼吸管理、循環器の検査、血糖・インスリン注射指導、BLS 講習、褥瘡予防、挿管の介助（吸引・口腔ケア、標準予防策）について事前課題を行い、それぞれの技術実践を行った。最後に学びの発表を行った。

基本的な技術の修得と既習の知識の確認を行い、実践の根拠と技術習得を目指した。

授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 15 コマ、30 時間 8 回目より遠隔授業を行った。

主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。

①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8 回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。

②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。

③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。

④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索は CiNii、GoogleScholar の利用方法について説明を行った。

⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。

⑥DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。

⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを 1 つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。

⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 15 コマ、30 時間（8 コマ担当）7 回目より遠隔授業

成人急性期看護方法論は、2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の総論を 3 コマとした。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、乳腺外科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。また、3 年前期につながるように看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に

繋がることを実感できるようにした。
授業科目名【成人急性期看護学実習】 ①成人急性期看護学実習は本来 2 週間の病棟実習と 3 週目に ICU および手術室見学実習の 3 週間実習である。今年度は学内実習（対面実習、一部遠隔実習）となったため、プログラムを検討し、実習目的が達成できる内容に変更した。 ②周術期の理解を深めるために、性、年齢、術式、既往歴の違いによる術後経過の変化および予測する必要性を学べるようにした。さらに身体的な面だけではなく、ボディイメージの変化など心理面を理解するねらいとして、乳がん事例 4 例、肺がん事例 4 例を準備した。 ③周術期にある模擬患者および模擬電子カルテを用いて、臨床での実習に近づけて看護展開を行うようにした。 ④術前の看護（入退院センターから入院後の術前処置・訓練、術前準備、不安の援助）、術当日の看護、術直後の看護、回復へ向けた看護（離床、清潔援助、退院指導）と周術期の時期を考えながら学ぶことができるようにした。 ⑤DVD 視聴、模擬患者に使用する物品は実際に臨床で使用されているものを使用し、イメージ化を図り、使用方法の修得を目指した。
授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期 15 コマ 30 時間 遠隔授業、一部対面授業 2 名の急性期の教員で遠隔と一部対面での演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護を対面授業で行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～（現在に至る）
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～（現在に至る）
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～（現在に至る）
日本看護技術員		2011 年 4 月～（現在に至る）
日本運動器看護学会員		2015 年 2 月～（現在に至る）

2020 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～大学連携講座 2019 年度事業報告～	共	2020.9.2	第 67 回日本栄養改善学会総会	永田純美、田中貴絵、石井愛子他

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～参加回数が食嗜好および生活習慣改善に及ぼす影響～	共	2020.9.2	第 67 回日本栄養改善学会総会	田中貴絵、石井愛子、手嶋奈津子 他

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
人生100年時代を健康に豊かに生きるための地域貢献活動の展開～他職種連携による食育推進～		近江雅代	1,278,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生委員：2020.4.1～2021.3.31 学科教務：2020.4.1～2021.3.31 4年生（ゼミ）アドバイザー：2020.4.1～2021.3.31

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	中原 智美	職名	講師	学位	修士 (保健学) (山口大学 2011 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学, 遺伝看護学	慢性期看護, 糖尿病教育・看護, 生活習慣病, 多因子遺伝, 遺伝看護

研 究 課 題
・慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 ・2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 ・初年次教育の学修効果に関する研究

担 当 授 業 科 目
緩和・がん看護学 (看護学科) (旧カリ：緩和・終末期看護学) 成人看護学演習 (看護学科) (旧カリ：成人・老年看護学演習) 成人慢性期看護方法論 (看護学科) 成人慢性期看護学実習 (看護学科) 2019 後期～2020 前期 / 2020 後期～2021 前期 初年次セミナーⅠ (看護学科) 初年次セミナーⅡ (看護学科) 看護研究 (看護学科) (旧カリ：看護研究の基礎) 看護総合演習 (看護学科) 看護総合実習 (看護学科) 看護学 (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 緩和・がん看護学(緩和・終末期看護学) 】 主な担当内容は、がん看護 (5 コマ)、症状緩和のためのマネジメント (1 コマ) であり、実際に 3 年次以降の実習で知識を活用できるように、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、それに対応した看護方法を示すことで、看護の根拠を理解しやすいように工夫した。 講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、テレビドラマなどの話題を盛り込んだりした。 特に、本年度は遠隔授業へと変更になり学生の反応を直接見られないこと、1 コマ 100 分授業と長いため集中が途切れないように、遠隔授業ならではのツールを活用して工夫した。例えば、講義前に事例への関心度や治療へのイメージなどについてアンケートを行い、リアルタイムで結果を共有して患者・家族の理解につなげたり、講義内容の理解度をチェックするために国家試験出題基準をふまえた小テストを実施したりして、関心を維持できるように努めた。 また、講義終了後にフォームに学び、質問、感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。

授業科目名【 成人看護学演習（成人・老年看護学演習） 】

看護過程演習では、慢性期疾患（肝硬変）の事例を通して看護過程の展開（12 コマ）を主担当として講義した。対象（成人、慢性疾患を持つ患者）の状態を根拠に基づいてアセスメントするためのポイントを解説し、看護上の問題を引き起こしている原因やなりゆきを考え、看護目標・看護計画とのつながりを考えられるように繰り返し説明した。

遠隔授業となりグループワーク等で困難が生じることが予想されたため、さまざまなマニュアル作成を行ったり、内容・方法の見直しを行ったりした。各グループで作成した Classroom 上の Meet で話し合いを行えるようにし、成果物を共同で作成できるように Google ドライブ等も活用できるようにサポートした。個別性のある看護が導き出せるよう、グループワークで担当グループの Classroom を巡回しながら提出物へのコメントを細やかに行った。

1 事例終了時に中間テストで看護過程の展開に関する理解度を確認したが、理解度が低いものには事後に個別面談（遠隔）で口頭試問と理解が不十分な点の解説を行い、その後も個別にフォローして次の事例の看護過程の展開につながるように努めた。

技術演習では、糖尿病の食事療法に関する演習、血糖自己測定・インスリン自己注射に関する演習などを通して患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。技術演習も遠隔授業では困難であったが、それぞれ、技術の手技習得のみならず、事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながらグループワークできるようにした。事後には必ず振り返りの機会を設け、学生が患者の生活を思い描きながら患者の心身の状況に沿った援助を導きだせるように指導を行った。

前期の期間は一切対面授業が叶わなかったため、血糖自己測定・インスリン自己注射の技術を実際に実施することができなかったが、デモンストレーション映像も繰り返し見られるように掲載し、後期からの成人慢性期看護学実習のなかで実践する時間を設けるようにして、実習と連動させて技術習得できるように努めた。

授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計 7 コマ）を担当した。それぞれの機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、代表的疾患を例に挙げ観察項目やアセスメントの視点を具体的に示した。また、慢性疾患をもつ成人やその家族の心理・社会面の特徴をふまえ、QOL をより高め、その人らしく生きるために必要なセルフケア支援についても、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法を具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

全体を通して、病態の理解などは既習科目の復習を本科目の予習として課し、講義中に指名して問いかけながら知識を確認することで学習への動機づけができるように意識した。また、病態の理解をもとにアセスメントの視点や看護の方法を思考するトレーニングができるように、課題を出したり、講義中に意図的に問いかけ思考を促す機会を増やしたりするように工夫した。単元（2～3 コマ）ごとに小テストを行うことで授業への集中力を高め、学生もこまめに自分自身の理解度を確認できるように工夫した。

また、講義終了後にカードまたはフォームに質問や感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。

授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

本年度は全面学内実習となり、臨地実習は行うことができなかったため、全面的に実習内容を見直し、本実習の目的・目標に到達するための事例や方法について検討を重ねた。さらに、時期によって全面遠隔授業、実技実施日のみ対面授業などパターンが異なったため、状況に合わせながら実技実施の機会をできるだけ多く確保できるように努めた。遠隔であっても意図的な情報収集やコミュニケーション技術を実践できるように働きかけ、対面の場合も患者の心情、環境等をできるだけリアルに再現し、看護者としての実践能力を少しでも高められるように工夫した。ビデオ映像等も活用し、実際に病棟で治療中の患者の様子などを思い描きやすいように工夫した。

実習中の実践、カンファレンスや最終面談においては、次の 2 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。

②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで

論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。

学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】

- ①初めてのオンライン講義のため主要な講義資料は、事前に印刷物にして学生の手元に届けた。また、Google Forms を使い学生の情報環境の整備状況を把握した。
- ②本科目は教員 5 名で担当するため、講義の内容・指導方法について、講義前後に Meet 会議を行い詳細な打ち合わせをした。
- ③講義についての連絡や指示内容については、毎回、Google classroom を使い学生に詳細に掲示した。とくに、オンラインによるグループ活動は、初めての取り組みであったため、毎回の講義の指示については、教員間で統一をはかった。
- ④レポート作成の習熟を図るために、今年度は、レポート作成に関する講義を 2 回、文献の読み方についての講義を 1 回実施した。とくに、2 回目のレポート講義では書き方のポイントを再度抑える、文献の読み方では文献モデルを使い講義する、など講義担当者が学生の習熟度を上げることを意識し講義を実施した。
- ⑥情報収集に関する講義は、情報課・図書課に依頼しオンラインによる講義を行った。また、学生の情報環境で不具合などが発生した時には、情報課と連携し対処した。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8 回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。
- ②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。
- ④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索は CiNii、Google Scholar の利用方法について説明を行った。
- ⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。
- ⑥DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。
- ⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを 1 つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【 看護研究（看護研究の基礎） 】

本科目では、研究の基礎となる知識や考え方を講義で学びながら、同時に研究計画から発表までの研究のプロセスを実践することで、クリティカルシンキングや看護研究の視点をもち疑問を追求する姿勢を育むように工夫した。担当教員ごとに 4 グループ（20 名程度）の看護研究を受け持ち、グループワークを通して指導、助言を行ったが、少しでも疑問を追求することの楽しさを感じられるように、テーマ設定から意欲を高めることを意識して関わった。また、発表会を通して他のグループとも学びを共有でき、それぞれのグループが達成感を感じられるように関わった。

遠隔授業であったため、各グループで Classroom を作成し、Meet や Google ドライブを活用しながらグループワークが円滑にいくようにサポートした。また、調査方法として遠隔でも実施できる Google forms を利用できるようにサポートした。

授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】

自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。

レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、達成感も感じられるように計らった。 そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。
授業科目名【 看護総合実習〔慢性期・終末期〕 】 根拠に基づいた看護実践能力を培うことや看護実践における自己課題の明確化、これまで学習した看護実践の基盤となる知識や技術を駆使することにより、卒業時に求められる基礎的看護技術を修得することを目的として 17 項目の看護技術の実践を設定した。17 項目に関する事前学習を行い、技術を実践しながら事例に適した方法を追求し、振り返りを行う、というプロセスを通して各々の自己課題を明確にできるように指導した。 本年度は、臨地実習が行えず、学内実習であったため、実際に患者を受け持つ総合的な判断力やコミュニケーション技術を高めるには限界があったが、1つ1つの技術を追求することができ、国家試験で問われる基本的知識の復習にもつながるように工夫した。また、技術の発表やまとめの発表会を通して学びを共有する機会を設けるよう工夫した。
授業科目名【 看護学 】(栄養学科) 発達段階別の看護を意識して、慢性期患者の看護、がん看護、終末期患者の看護について解説した。それぞれの患者の特徴、看護の特徴、看護師の役割の理解を目標に、概論的な内容に加えて一部具体例を示しながら、栄養学科の学生にもイメージしやすいように工夫して講義した。また、保健福祉医療チームにおける看護と栄養の専門職間の連携の必要性や具体的内容について説明することで、今後の栄養の専門職としての活動に結び付けられるように努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会 日本糖尿病教育・看護学会 日本遺伝看護学会 日本看護科学学会 日本看護学教育学会		2007 年 4 月～現在に至る 2007 年 5 月～現在に至る 2007 年 5 月～現在に至る 2012 年 7 月～現在に至る 2013 年 7 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) プチナース 2020 年 10 月号 Vol.29, No.11 (387 号) 別冊付録 実習でよく挙げる看護診断・計画 BOOK	共	2020.9	照林社	①各領域・病棟の実習でよく挙げる 10 の看護診断について、看護診断の意味と標準看護計画を解説している ②監修者名：小田正枝 共著者名：下舞紀美代，中西順子，坂田扶実子，福田和明，古川秀敏， <u>中原智美</u> ，安藤敬子（掲載順） ③担当部分： ＊7 非効果的呼吸パターン（P19～P20） ＊総頁数 P27 ④B5 版

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・ギラヴァンツ北九州 救護ボランティア (ミクニワールドスタジアム北九州に於ける試合の際、観客を対象とした救護活動)	学生ボランティアのコーディネーターおよび指導、引率	2019年2月～現在に至る (2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止中)

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
・国家試験対策担当 国家試験対策として、模試の計画・準備・実施・事後分析、強化学習や補講等の計画・調整・実施・評価、学生の個別サポート、看護師国家試験当日の引率、国家試験結果の分析など ・2年生アドバイザー 学年全体の活動方針策定、模擬試験実施および事後の振り返り学習指導、担当学生の定期個別面談・履修指導、学業不振者や退学希望者等の個別面談・保護者面談、アンケートによる生活習慣と健康状態の実態把握と支援課題の抽出など ・公開講座委員 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催困難のため公開講座の開講は見合わせとなった。

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	樋口 由貴子	職名	助教	学位	修士(看護学)(産業医科大学 2017 年)
----	--------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援

研 究 課 題
・小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実践について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・発達障がい児とその家族への支援について考察する。 ・病気や障害をもつ子どものきょうだいへの支援について考察する

担 当 授 業 科 目
看護学科 小児看護学演習(前期) 小児看護学概論(前期) 小児看護学実習(通年) 小児看護学方法論(後期) 助産別科 助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)(前期) 栄養学科 看護学(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 小児看護学演習 】 ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習をリモート形式で行った。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開を理解できるように工夫した。リモート形式であったため、自己学習・質問時間を設定し、学生が講義の時間に、疑問などを解決できるよう工夫した。実技演習では、援助技術の根拠と発達に応じた工夫をすることの重要性について説明し実践することで、学生が技術を習得できるよう援助した。リモート講義のため、DVD や実際にカメラ前で実施するなど視覚的に理解できるよう工夫した。同時に、学生も自宅でできる限り同じ手技を実施できる環境を求めた。手技の確認としては、学生にカメラで自分の手技を映してもらい指導するなどを行った。
授業科目名【 小児看護学概論 】 「各発達段階の特徴と健康生活」の乳幼児期を担当した。正常な子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。リモート形式での講義であったため、学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義を行った。また、講義開始時に前回の講義の内容について小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。
授業科目名【 小児看護学実習 】 新型コロナウイルス感染症流行のため、病院施設の実習受け入れ中止となった。代替として、大学内のBCPに合わせて学内・リモートでの実習とした。実習内容は、教材用 DVD などを用い架空患者を設定。患者役を人形とし、家族・看護師役を教員が行った。病院実習同様のスケジュールとし、病院に類似した電子カルテを作成し目的をもって学生が情報収集できるように工夫した。また、看護技術も可能な限り人形を用い実施した。技術が実習中に比べ実施できない分、教材 DVD や論文などを用い学生と実技についてのディスカッションや技術発表会を行うなどして、学生の技術習得と達成感が得られるよう工夫した。また、

NICUや多職種連携などを自己学習し、カンファレンスでディスカッションすることで、本来病院実習で学習する予定だった小児特有の看護も学習できるよう工夫した。しかし、看護師役が担当領域の教員のみであるため、実習で多くの臨床看護師のケアを見て学ぶなどのモデリング学習の機会を作ることができなかった。今後臨床実習に行けない状況の際は、多くの手技や学生がモデリングできるような看護場面の提供を工夫することが課題である。
授業科目名【 小児看護学方法論 】 「検査・処置を受ける子どもの看護」「急性期にある子どもの看護」の講義を担当した。子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、子どもの理解の仕方を学生が考えることで、検査・処置時における看護の工夫の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。また急性期にある子どもの看護として手術を受ける子どもと家族の援助方法や、急に入院する子どもと家族への心理社会的な影響についても DVD などを用い、学生がイメージできるよう講義した。小児医療現場を見たことがない学年の学生も、次年度実習に行くことを意識し、臨床現場や実習のイメージが出来るように工夫した。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児） 】 助産別科前期「助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児）」では、助産師として乳幼児と関わる中で、遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉えることができるよう工夫した。
授業科目名【 看護学 】 栄養学科 3 年生後期「看護学」では、「子どもの健康と栄養」として、学童期を担当した。栄養士として、学校現場や保育現場などで活用できるよう離乳食やアレルギーなどの子どもの特徴だけでなく具体的な援助方法までを講義と体験を通して習得できるよう工夫した。リモート形式であったため、エピペンの実技では、実演し、学生は自宅にあるボールペンなどをエピペンとみたてて実演してもらい手技が習得できるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		2002 年 4 月（現在に至る）
日本小児看護学会会員		2009 年 1 月（現在に至る）
日本小児保健協会会員		2009 年 4 月（現在に至る）
日本環境感染症学会会員		2010 年 10 月（現在に至る）
日本看護科学学会会員		2013 年 6 月（現在に至る）

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
重篤な疾患や重度の障害を抱える子どもの きょうだいに対するパフォーミングアーツを 活用した支援の検討	西南女学院大 学共同研究費	○ 笹月桃子 野井未加 文屋典子 山本佳代子 樋口由貴子	1,671,000

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・保健福祉学部１年生および助産別科１年生への感染症予防 ／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨 （2011年６月～現在に至る） ・親子遊びの会（ほほえみの会） （2016年４月～現在に至る） ・看護学科２年生アドバイザー （2020年４月～2021年３月）

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 布花原 明子	職名 教授	学位 看護学(修士)
-----------	-------	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育(授業及び実習方法) 保健師のキャリア形成 公衆衛生看護活動に関するコンサルテーション

研 究 課 題
地域の健康課題の解決をめざす公衆衛生看護活動のあり方や、その発展要因との関連、支援課題について考察する。 公衆衛生看護活動についてコンサルテーションの観点から実践的に考察する。

担 当 授 業 科 目
<2年次> 公衆衛生看護方法論Ⅰ、公衆衛生看護方法論Ⅱ <4年次> 地区活動論演習 公衆衛生看護技術演習 看護総合演習 公衆衛生看護学実習 看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅰ】 2年生前期保健師必修・看護師選択科目である。遠隔授業で基礎的な理論や知識を具体的に理解し考えることができるよう、教材動画コンテンツを検索しメディア教材を利用して、講義、視聴、ワークを取り入れながら100分の授業時間の運用を工夫した。また、学生から送信されるチャットでの質問コメントなどに対し、タイムリーな回答を心掛けた。
授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅱ】 2年生後期保健師必修・看護師選択科目である。後期からはGoogle クラスルームの機能が向上したことにより、グループワークなどのプレミアム機能を最大限に活用し、授業では学生が主体的に参加、発言できる場を提供するよう工夫した。遠隔授業では学生の反応を直に感じにくいため、授業の途中で声かけに加え、最後に質問時間を設け、個々の理解に応じて早期に疑問が解決できるように努めた。
授業科目名【4年次集中講義：公衆衛生看護技術演習・地区活動論演習】 保健師課程4年生前期の必修科目である。公衆衛生看護学実習の開始前に、実習地域の地域診を行う「地区活動論演習」と、実習地域の健康課題の解決のための健康教育技術演習及び家庭訪問技術演習「公衆衛生看護技術演習」を連動させて計画した。特に、学生が遠隔授業でも実施可能な技術内容と事例選定を再検討し、授業方法を検討した。また、授業中だけでは十分な理解が困難な学生に対しては、授業外の時間での補講を行い、到達レベルを対面授業と同等程度に達成できるよう努めた。
授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】 4年次前期科目である。演習前半では、学生が関心をもつ実習テーマに関して、事前に指導保健師から施設の情報を得て学生に提示し、企業特性を理解して実習テーマと実習目標を説明できるよう留意した。テーマに関する情報を収集し実習計画を立案できるよう指導し、現場との遠隔指導を取り入れて学内実習を実施した。実習後には実習指導者からいただいたコメントや説明内容などを再度振り返り、文献を活用しながら情報の解釈を深め、各学生がテーマに沿って考察しレポートを作成できるよう心掛けた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～ 〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～ 〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～ 〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014年4月～ 〃

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009 年 4 月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファースト レベル	講師	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉法人審査会	審査委員	2020 年 4 月～現在に至る
北九州市八幡西区地域保健係業務改 善及び「北九州市保健福祉研究発表論 文」支援（優秀賞 1 題、入選 1 題）	コンサルタント	2018 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
1. 学生募集委員会 1) 高校訪問については前年度の実績をふまえ、今年度の拡大対象校を選定し計画した。しかし、COVID-19 感染症による影響により今年度の高校訪問実績は 0 となった。 2) 高校模擬授業および進路ガイダンスの学科実績は 0 である。 3) Zoom でのオープンキャンパスが決定された。担当教員及び参加学生の体制を見直し、対面での実施に近い内容を工夫し参加者の満足度を得られるよう工夫した。初めての Zoom 企画であったため、毎回内容を改善し参加者の満足度を高めるよう配慮した。 4) 入試説明会をはじめ、学生募集に係る本学の PR（パンフレット等）などを作成した。 5) 今年度は、在学生による高校訪問の活動実績は 0 である。 2. 2 年生アドバイザー アドバイザー責任者として、アドバイザー活動方針を設定し、4 名のアドバイザー体制のもと年間活動計画を作成、実施した。 1) 学習支援 国家試験対策の一環として業者模試の実施（9 月）。その後、テーマ「看護師国家試験の動向と 2 年次の国家試験対策」について 2 年生を対象に研修を実施（1 コマ）。その後、模試問題のやり直し学習とポートフォリオファイルの作成支援を行った。 2) 保護者懇談会 リモートで保護者懇談会を開催した。企画、準備、当日の説明及び運用を行い、参加者アンケートを実施した。 3) 生活支援 新年度及び後期開始時に個別面談を行い学生個々の状況を把握し、履修計画や生活指導等を行った。成績不良者や留年確定者へは学科長や実習指導者と連携し随時、面談を実施した。同時に保護者対応を実施した。 4) コロナ禍における緊急事態宣言期間中の健康調査 遠隔授業を終了した春休み開始時点にアンケート調査を行い、学生の生活習慣と心身の健康状態を把握した。全体の傾向を把握し 3 年次のアドバイザー活動の課題を検討する目的と、学生自身に生活を振り返り 4 月からの対面授業開始に向けた春休みの過ごし方を考える契機とする目的で行った。結果は保護者へも郵送し、春休み期間中の過ごし方への家庭からの支援を依頼した。 5) 成績不良者への個別対応 本試験で必修科目 1 科目以上不可となった学生へ、個別に連絡を取り、追再試験に向けて学習指導

を行った。その結果、追再試験で留年確定者については、学科長、学科教務、各アドバイザーと連携し本人と保護者との個別面談を行い進路に関する指導を行った。

3. 保健師国家試験対策

保健師課程 4 年生を対象に模試を 3 回実施し、結果に基づき公衆衛生看護学担当教員と対策を講じた。強化学習を実施し、また国家試験直前まで個別に質問等に対応した。(2020 年度保健師国家試験合格率 100.0%)。

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	前田 由紀子	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学 2004 年) 博士 (教育学) (福岡大学 2010 年)
----	--------	----	----	----	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア、リカバリー、ストレングス

研 究 課 題
精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究

担 当 授 業 科 目
精神看護学概論 (後期) (看護学科) 精神看護方法論 (後期) (看護学科) 精神看護学演習 (前期) (看護学科) 精神看護学実習 (通年) (看護学科) 看護総合演習 (前期) (看護学科) 看護総合実習 (前期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅰ (前期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅱ (後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【精神看護学概論】 新型コロナウイルス感染症のため、感染予防に留意し対面授業を進めた。授業は対面授業を実施できたが、感染拡大の影響で試験のみがリモートになった。心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。
授業科目名【精神看護方法論】 新型コロナウイルス感染症の影響で、授業・試験はすべてリモートでの実施となった。精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。対象者やその家族の心理面の理解、共感能力の向上を目的に、精神疾患当事者や家族などの著作 (動画を含む) を 5 編読み、感想を提出させた。授業の進行と読書を重ねることで対象者の理解が進んだと思われる。国家試験対策を兼ねて、精神看護学に関する問題の解説を記述させポートフォリオの作成を行った。
授業科目名【精神看護学演習】 新型コロナウイルス感染症の影響で、授業・試験はすべてリモートでの実施となった。精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例を展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについて演習を実施した。例年、実習病院の指導者が演習に参加し、精神科看護のイメージが捉えやすくなっていたが、

今年度はできなかったため、病棟がイメージしやすいような DVD を購入し適宜活用した。例年、グループワークを実施しているが、今年度はリモートのため個人ワークに変更したが、理解度は良かった。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。		
授業科目名【精神看護学実習】 実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与え、指導を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、現地オリエンテーションができなかったため、実習病院から資料をいただき教員が説明したり、看護部長にリモートでオリエンテーションをしていただくなど、できるだけ学生が理解しやすいように配慮した。新型コロナウイルス感染症の影響で、臨地実習が実施できたのは 2 グループのみであった。2 グループ以外は、学内実習またはリモート実習で対応した。教員が患者役を担い、学生との対話を進めた。教員は、統合失調症やうつ病の患者役になりきり、対話を中心に進めることで患者理解が図られた。学内実習時は、感染予防に留意し、感染状況によって適宜リモートを取り入れた。		
授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】 7 人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響で、看護総合演習の授業はリモートでの実施となった。また、実習は縮小して実施することになった。精神科訪問看護の実習は実施できず、精神科デイケアのみとなった。しかし、実際に地域で生活している精神障害者と対話することで、精神障がい者の地域生活への理解が深まったと考える。4 年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、リモートで文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミでリモート発表会を行った。		
授業科目名【看護教科教育法Ⅰ】 新型コロナウイルス感染症の影響で、授業の前半はリモートでの実施となったが、模擬授業の指導は、感染予防に留意し対面授業を行った。「講義」形態の授業ができることを目的に授業を展開した。学習指導要領に基づき、高等学校看護科教育の目標・教育課程を理解できるように、教育方法論・学習理論について学びを深めさせた。模擬授業の展開においては、教材研究及び教材開発に積極的に取り組み、授業案の作成に取り組ませた。模擬授業の練習を重ね、実際に模擬授業を展開し、自身の授業について客観的に評価でき、自己の課題を明確にすることができた。今年度は受講者が一人であったため、助手の応援を得て授業がスムーズに進むように工夫した。		
授業科目名【看護教科教育法Ⅱ】 新型コロナウイルス感染症の影響で、授業の前半はリモートでの実施となったが、模擬授業の指導は、感染予防に留意し対面授業を行った。看護教科教育法Ⅰの学びを活かし、看護基礎教育における「演習」「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読むことで広い視野で考えることができるように指導を行った。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学生が臨地実習を経験しておらず、臨地実習における指導計画・指導方法について、具体的に考えさせることは困難であった。模擬授業は、「演習」の授業形態について授業案の作成を指導し、実習室における練習を重ねた。模擬授業の展開後は、授業を客観的に評価するとともに、授業研究の必要性の理解にもつなげた。今年度は受講者が一人であったため、助手の応援を得て授業がスムーズに進むように工夫した。		

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本精神保健看護学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008 年 4 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2008 年 4 月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) iOS/Android アプリケーション e-learning N プラス (国家試験対策用 e-learning) 監修：安酸史子（関西医 科大学看護学部教授	共	2020, 4	メディカ出版 iOS/Android アプリ ケーション	第 108 回看護師国家試験問題 についてメディカ出版より依 頼を受けた。今回は精神看護学 分野の全4問について解答とそ の解説をした。 共著者：前田由紀子、安藤愛
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求 められるコンピテンシーの関連性の究明	文部科学省科 学研究費補助 金(平成29～令 和2年)	○（立石和子）、前 田由紀子、(有澤舞)	4,550,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
精神保健看護学会	第 30 回学術集会執行役員 編集委員長	2018年12月~2020年10月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

〔大学委員会〕

 図書委員会 2020 年 4 月 1 日～現在

〔学科委員〕

 国家試験対策委員長 2020 年 4 月 1 日～現在

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 溝部 昌子	職名 教授	学位 博士(保健学) 東京大学 2003年
----------	-------	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護技術 高齢者看護 循環器疾患の看護 国際看護	看護技術、循環器看護、血管看護、老年看護学 異文化対応能力

研 究 課 題
・看護師が行う下肢血流障害の評価、深部静脈血栓症予防対策 ・看護基礎教育における血管看護技術教育 ・血管看護教育における教材開発 ・異なる文化的背景をもつ患者への看護ケア ・外国につながる人々への看護におけるコミュニケーション

担 当 授 業 科 目
・老年看護学概論(前期) ・老年看護学演習(前期) ・看護研究(前期) ・看護総合看護学演習(前期) ・看護総合看護学実習(通年) ・老年看護学実習Ⅰ(通年) ・老年看護学方法論(後期) ・国際保健論(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【老年看護学概論】 ①老年看護では、いわゆる高齢者介護だけではなく、様々な新しい技術や学問体系を用い、価値観や社会の変化の中で豊かに生きることを支えるという特徴を理解していただく必要があります、そのために教科書だけでなく様々な書籍、調査、テレビ番組、記事、論文、資料、実体験を用いてその実例を紹介した。前半は老年看護の基礎知識として、記憶すべき理論や制度、統計情報が多く、後半は価値や信念、サクセスフルエイジング、看護理論など抽象的内容が主であった。前半はかつこ抜きプリントやフォームを使ったクイズ、繰り返し説明するなどして知識の定着を図り、後半は様々な社会の事例を紹介し、老年看護学を身近なものとして解釈できるよう工夫した。 ②授業ごとに実施したフォームへの回答から、「わかりやすい」や、将来看護師になった時に〇〇したいと思ったという回答が多く得られた。通常は教科書と紙の配布資料で講義を進めていたが、遠隔授業に際して、写真を多く取り入れたパワーポイント教材を新たに作成し利用した。これに対して毎回のフォームでの振り返りで、興味を持って100分の授業を集中して受講できたことにつながったという回答を多く確認できた。 ③7回の講義で提出されたフォーム回答、3回の提出課題、前期試験の合計で最終評価とした。平均点85.1、中央値85.8 最低62、最高94点 尖度26.9、歪度1.3で、80点以下が5人おり左に裾野を持ちながらも正規性の高い分布となった。 ④講義で話すスピードがゆっくりでちょうどよいと、フォームに書いた学生が毎回複数おり、どちらかと言えば早口で分量が多すぎるのではないかと考えてきたので、学生の反応を見ながら進めていくことが大切だと感じた。

これまで、客観的事実や情報のみで授業は構成すべきであると考えてきたが、学生が親しみや興味を持てるように、自身の考えや体験、身近なテーマを話したことにに対する学生の反応を毎回多く確認できたので、今後も参考に取り入れていきたいと考える。少人数でのグループディスカッションはできなかったが、学生フォーム回答を集計、編集して学生と共有し、他者の意見を知ることにつなげることができ、教室でのディスカッションに比べ、手間はかかるが有効であったと思う。

授業科目名【看護総合看護学演習・実習】

- ①緊急事態宣言により、通学ができないまま新年度が始まったため、4 月当初より GoogleMeet を用いてゼミを開催してきた。はじめは、国家試験対策として過去問集の回答と解説や、講義を行い、学習の習慣づけを図り、就職活動への対応を個別に行った。遠隔でのやり取りで進められることがわかり、5 月遠隔授業が開始となってからは、総合演習・実習の課題を設定し取り組みを開始した。
- ②深部静脈血栓症予防と看護に関して分担して学修し、最終的に 55 ページの冊子を作成した。参考文献を学内で調達し PDF 化し、GoogleClassroom に保管。学生は該当の文献を選択し精読、要約を作成し GoogleClassroom で共有、プレゼンテーション。最終的に提出された物について、内容、出自、表現を溝部が編集し、冊子にした。総合実習としては、この深部静脈血栓症の観察と予防ケアに関連して、富士フィルムメディカルの協力を得て、ハンディエコーで深部静脈の観察をした他、下腿計測、ABI 測定、弾性ストッキング着用とその指導、間歇的空気圧迫装置、足関節運動の一連の看護技術演習を実習室で行った。演習で獲得した知識をもとに、技術演習の方法は、各自が自律して取り組めており、学んだ充実感があったという記録があった。プロセス、成果においても、看護基礎教育課程 4 年生として優れた内容となったことから、学ぶ障壁や手間を軽減することは、高学年では有意義であると感じる。また、学修について信頼できる学生であったとも言える。
- ③コロナ禍において、特に 4 年生では、学ぶ方法とその支援方法が従来とは全く異なるものになったと感じるが、学生は、遠隔のメリットを生かして GoogleMeet での友人同士のつながりや勉強を継続できたものとする。一方では、家庭環境によっては、必ずしも有利ではなかった学生もいただろうと思うし、学生が大学施設を利用できる権利や自由がもう少し柔軟に確保されたらよかったのではないかと思う。また、総合実習に対する学科の方針が検討されていたが、結論がないまま進行していった点は、次年度は事前にいろいろ申し合わせて戦略的に計画していく必要があると感じる。

授業科目名【看護研究の基礎】

- ①研究結果が人の生活や看護の提供にどのように役に立ち、必要なものであるかについて様々な実例を用いて解説し、受講のモチベーションを上げるための教材作成に前半は注力した。特に COVID-19 に関する情報収集や情報利用について研究の基礎知識と共に説明できたことは、興味をひくことができたと思う。学生がグループで取り組む課題の設定や、研究計画書の作成、フォーム作成、データ集計、論文化、プレゼンテーションについて、担当教員から適宜講義を受けながら進めていく科目構成は効果的で効率的であったと考える。
- ②学生が設定した課題のテーマは、遠隔授業に関すること、大学生の飲酒、健康・睡眠習慣、受動喫煙に関するものなどで、看護学生としての知識と関心を反映したアンケート調査を実施し、結果の解釈、論文化に至った。プレゼンテーションにおいても、制約が多い中、グループメンバーと協力して準備、練習をして臨んでおり、誠実な学修姿勢を確認することができた。
- ③当初グループでの取り組みを予定していたが、感染予防対策の観点から個人課題としてシラバスを変更した。その後遠隔講義となり、結果的にグループワークに変更したが、オンラインでのグループワークは学生同士のディスカッションや、フォームを使ったアンケート、ドライブ上のファイルの共同編集などの機能を使いこなしながら想像以上に活発にできたと感じると同時に、オンラインでつながっていない部分での学生の負担や頑張りを把握することは困難で、学生アンケートなどの意見から知るのみで、グループワークの参加度について不満に思う学生がいたようだった。グループでの課題作業が学生によっては負担になったという意見があったが、グループ内での学修役割を平等に果たすことは困難であり、円滑に学修活動を行える人間関係の構築についての 3 年生の課題があると思われる。

授業科目名【老年看護学演習】

- ①成人老年看護学演習から分離独立して初年度にあたり、老年看護学実習Ⅰの前提科目であり、老年看護学概論、方法論を踏まえ、高齢者アセスメントや看護技術を学修するための順序性や合理性を考慮されたプログラムを提供できたと思う。遠隔授業となったために、授業準備に時間的猶予ができたため、本来

今年度取り組む予定ではなかった「老年看護アセスメントガイド」を独自に作成し、学生に提示、活用することができた。その他、様々な教材についても想定以上に充実した内容で用意することができた。看護過程の展開がこれまで以上に時間・内容とも多く計画できることに合わせて、事例を想定できるよう、協力会社に依頼してイラストを描き起こしたり、学生アルバイトに依頼し、高齢者安全に関する KYT 危険予知トレーニング用のイラストを描き起こしてもらうなど、通常の講義資料のほかの教材についても格段と充実した。新規採用した老年看護過程の参考書は、遠隔授業で看護過程を進めるうえで、学生が資料・情報不足にならずによかったと思われる。

- ②看護過程に関する提出 2 回、技術課題に関する提出 7 回、試験の合計で最終評価した。平均 84.0、中央値 86、最高 98、最低 52 点、80 点以下 12 人であった。看護過程、技術課題の完成度は個人差があるが、繰り返し指導する中で、おおむね達成されていたと考える。80 点以下の学生は、課題を提出しないことが主な原因であり、学修の困難さを反映しているわけではなく、逆に繰り返し指導して目標を達成した学生の中にも、今後臨地実習で看護過程を展開するうえで難渋する者も含まれると思われる。
- ③GoogleClassroom 上での看護過程の展開についての指導は、効果的効率的でもあったと思うが、操作に慣れない学生にとっては大きな負担になったと考えられる。金曜日 4 限科目で、フォームや課題の提出、質問とその対応が土曜日に及ぶことも多く、学生教員とも非常に負担の多い科目であったと思う。にもかかわらず、学生・教員とも最後まで熱心に取り組み、学習成果と共に良いプロセスを共有できた実感がある。科目で行ったアンケートや授業評価においても、学ぶことが多かったと記載されていた。
- ④学生が学修するための資料や教材などは毎回十分量提供できていたと考える。むしろ授業時間の中に課題に取り組む時間を設けるなど、教員側から提供するものを減らしてもよかったのではと、学生意見からも感じている。他の科目についても看護過程を展開するため、課題量が多いという意見が多くあった。3 年前期の課題量については一度学科で検討しても良いのではないかと感じる。次年度は、看護過程の展開はパターンを絞り（健康管理、栄養、活動休息、運動、価値信念）取り扱う病態・症例を増やし、課題学習の割合を減らし、講義メインで展開していきたい。

授業科目名【老年看護方法論】

- ①老年看護では、様々なツールを用いて患者の状態を評価し、ガイドラインを用いてケア方法を検討することが多く、どの単位においてもエビデンスに基づいて看護を実践し評価するという原則に沿った授業を展開した。また、栄養や排泄など、どの単位においても、患者の生活歴や意向、環境によって目標や手段、方法が変わってくることも特徴的であり、知識の提供と同時に必ず説明するようにし、課題についても単なる情報整理でなく思考を伴う形式とした。
- ②最終評価は、課題提出 50%、筆記試験 45%、その他 5%で、定期試験のみの点数は、平均 74.8 点、最高 50 点、最低 98 点であった。最終評価は、平均 82.6 点、最低 69 点、最高 99 点であった。課題提出 8 回については、毎回優れた成果がある学生は、筆記試験でも高得点であった。課題は、授業で説明したことを宿題として課題に取り組み、提出後振り返りを授業で聴くという段取りとしていたが、途中授業で説明が十分でないまま課題に取り組む回もあったので、その点は難しかったのではないかと感じている。課題が多いという意見も複数があるが、資料を見て情報を分析しながら検討していくものは、そもそも暗記で実施するものではなく、課題での学修が適切だと考えるし、実際にその活動が筆記試験前に行われていることで合格できているのだと考える。
- ③授業で毎回回答してもらっているアンケートや授業評価においても、幅広い知識が身についたと記載があることから、ある学生にとっては満足度が高いと考えるが、情報量が多く複雑な検討課題が多くなると、混乱して習得が難しい学生もいると思われ、ある程度範囲や情報量を絞っても良いのではないかと考える。遠隔授業となったものの、皮膚のケア、食事のケア、排泄自立支援など実感できるような説明や教材提示ができたことは効果的であったと考える。
- ④課題の紙での提出や、対面での筆記試験、自筆での定期試験について、事前に案内していても、何かにつけ COVID-19 や自己都合に絡めた意見があった。学習意欲や対処能力が脆弱な学生と、様々なスキルを身に付け、強さを増した学生との対比を感じた。学生にとっても学習や生活環境に対するストレスは高かったと思われ、今後の成長に期待したい。科目の学修については、コロナ禍においても目標を達成できていると考える。
- ⑤科目の学修については、コロナ禍においても目標を達成できていると考える。今後は、4 年生に看護学特論が開講されるため、老年看護の発展に関する単元を移動し、方法論についてゆとりを持って講義・

課題・解説などのフィードバックが行っていく予定である。

授業科目名【国際保健論】

- ①看護における国際化について、インバウンド、アウトバウンド共に身近な課題となっていることを理解してもらうために、教科書の情報だけでなく、海外旅行や海外研修、留学などの経験談を写真を用いて示したり、映画やドラマの場面を紹介したりするなど教材選択を工夫した。また、調べ学習として海外に目を向けるだけでなく、アイヌ文化に焦点を当て、文化的背景が人の価値観や生活に影響を及ぼしていること、国内においてもすべての人が大切にしている文化があることと看護を関連付けられるように示した。学生は課題や遠隔授業の負担も多かったと考えられるが、授業の課題以外に具体的に取組んだことを8名の学生が記載しており、興味や関心が高まったと考えられる。
- ②Google Classroom の剽窃チェック機能で、レポートのデータソースがわかり、あつた資料の種類やまとめ方に違いが確認できた。非常に少ない情報からレポート作成、提出をしている学生については低評価とした。共通課題と、グループ別課題の2つが主な評価対象で、グループ別課題は、民話や神話と文化との関係、世界の出産と産後ケア、深部静脈血栓症予防ケアに関する資料の翻訳、世界の病院食について、2~5人グループでパワーポイント資料をまとめプレゼンテーションを行った。すべてのグループは丹念に情報を集め、整理し、プレゼンテーションの準備を行っていたことが遠隔においても伝わってきた。プレゼンテーションの聴取にあたっても、関心を持って聴くことができていた。
- ③将来看護師になったときに患者の文化的背景について配慮できるか、あるいは自らが海外で看護師として活動したいと考えるかがこの科目の学生にとっての意味だと考える。これまでの経験や将来の展望が異なる学生が同じ授業の中で看護の国際化について学ぶことは、多様性を理解する上で意義深いと考える。病院マップを使った外国人患者への看護対応については、イラストを用いた教材に親近感がもてるというアンケート結果が多く得られ、関連の研究資料としても初学者に対する教材提示方法の有効性についての示唆を得た。
- ④2つの課題を取り組むことが学生にとって過重であったかどうかわからないが、単元ごとに何を学んだかが最終的に記憶に残らないような課題の出し方は改め、単元ごとのディスカッションテーマを明確に示し、ディスカッションや思考のプロセス、活用した知識を想起できるような展開にしたい。ディスカッションの時間を設けることが少なかった。遠隔授業であっても意見交換ができるような技術的な課題をクリアし、単元ごとの構造化されたディスカッション課題を提示することを検討している。また、ディスカッションの記録として、グラフィックレコーディングは言語的障壁や文化的障壁をへらすことに役立つと考えられ、次年度からスキルの一つとして取り入れたい。

授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】

- ①新年度当初より、実習施設小倉リハビリテーション病院と臨地実習の方法について検討を重ねてきた。第1波緊急事態宣言下においては、全てが学内実習であり、実習施設との関係性の継続、臨地実習の臨場感を目的として、病院からの遠隔講義、看護場面の動画作成を依頼し、協力を得られた。これにより、臨地実習指導者による説明、患者の実際の看護場面を見学し解説を聴き学ぶことができた。動画作成においては、患者の同意取得に難渋されたとのことで、臨地実習が患者とその家族の十分な理解と協力と学生との相互関係の上に成り立っていると改めて知ることができた。さらに、小倉リハビリテーション病院の本学教育への惜しみない協力体制についても改めて感じ、その信頼関係が老年看護学実習の基盤にあることを理解し、教員、学生共々、感染予防対策方針を遵守したいと考える。なお、このような予算化や臨地実習の方法調整が各領域に任されており、ローカルに調整する部分と全体的な統括機能とが不明瞭で、学科方針との整合性を示すプロセスが必要と感じた。
- ②本科目は進行中のため、最終評価ではないが、平均点は80点前後となる見込みである。全体として、通学や臨地実習施設における教員・患者・実習指導者・グループ学生などの人間関係や緊張、感染症など様々なストレスから解放されたと思われるが、提出物の締め切り、出席などに問題があった学生は、心身や家庭環境の不安定さがあるものと思われた。概ね、設定した課題については、内容的にも達成されていたと考える。看護過程の展開や、テーマに対するディスカッションは遠隔であっても従来のカンファレンスよりも発言機会や内容も充実する傾向があった。事例についての分析についても、文献検討や情報収集が捗り、充実した成果が得られた学生が多かった。
- ③時期により、一部臨地実習5グループ、学内と遠隔（自宅）実習8グループ、完全遠隔（自宅）実習2グループとなった。時期により実習内容や方法が多少異なる点については都度説明し、特に苦情はなく、

学生には十分理解が得られていたと考える。臨地実習で行うものとして、看護技術の見学・実施、患者とのコミュニケーション、学内では看護過程の展開、倫理課題、継続看護の展開、技術演習（移動の援助・口腔衛生・褥瘡評価）と、区別して実習しつつ、従来の実習目標を達成できるよう再構成した。この成果について、8月、the13th International Nursing Research Conferenceにおいて、Webinar 発表した。今後も、日本看護系大学協議会の情報提供を参考にしながら、新しい時代の看護教育における臨地実習の在り方について、発展的に柔軟に検討していきたいと考える。既に、小倉リハビリテーション病院看護部とは、様々な情報共有を行い、学内実習と臨地実習を組み合わせた方法で老年看護学実習を継続していく方向性で検討を進めている。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本血管外科学会	チーム医療推進委員会委員	2014 年～現在に至る
日本血管看護研究会	代表世話人 研究会プログラム委員	2015 年～現在に至る
日本リンパ浮腫治療学会	評議員	2016 年～現在に至る
日本看護科学学会		1999 年～現在に至る
日本看護管理学会		2003 年～現在に至る
日本看護評価学会	編集委員会委員 2021 年 1 月～編集委員会委員長	2011 年～現在に至る
日本循環器看護学会	学術委員会循環器看護ワーキンググループメンバー	2014 年～現在に至る
日本看護理工学会		2016 年～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【著書】 なし				
【学術論文】 看護職の多文化対応能力研修プログラムに用いる教材開発	共著	2021年1月	国際臨床医学会雑誌, 第4巻1号	外国人患者への看護対応への困りごとに関するデータをもとに、15の看護場面での状況の理解、対応に関する情報を整理し、日本語・英語の説明文を示した「看護英語ノート」を制作した。看護師の文化能力対応研修で用いることを想定しており、この開発過程にいて示した。 A4版総頁数:70頁、p43-39 著者: 溝部昌子, 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, マシューポーター, 炭谷大輔, 大友英子, 小林康司, 浜崎美子
老年看護学実習においてライフストーリーを聞くことの学生の学習の意義	共著	2021年3月	西南女学院大学紀要 Vol.25	老年看護学実習において「ライフストーリーを高齢者が語る意義、援助者が聞く意義」について学生記録を分析し、学生の学びを明らかにした。高齢者が語る意義では、人に話すことで人生を振り返り、大変だった人生を思い出し、学生に話すことを楽しみにしていた。援助者が聞く意義としては、ライフストーリーの中で語られるその人の価値観を聞くことでその人に会った援助につながると考えていた。語られた内容から単に高齢者を理解しようとするだけでなく、非言語的なものをキャッチし、意味を読み取ろうとしており、高齢者との相互作用の中で学んでいた。 A4版総頁数: 頁、p13-21 著者: 吉原悦子、丸山泰子、金子由里、 <u>溝部昌子</u>

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【報告書】 10年後の見据えたグローバル人材育成・国際交流の推進 コンテンツ報告書 Vol.4	共著	2021年3月	看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	看護学教育研究共同利用拠点におけるFDマザーマップにおける国際交流における取組のまとめ。留学生への生活支援、学修支援、学生の国際交流推進、MOUに基づく大学間の交流の進め方、具体的な方法と配慮すべき事柄について示した。 A4版 頁数:全20頁 著者: 野地有子、 <u>溝部昌子</u> 、近藤麻理、小寺さやか、相原綾子、炭谷大輔 担当:p6-9、p19
令和2年度共同研究 看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究 コンテンツ報告書 nGlobe 研修	共著	2021年3月	看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	2020年度日本千葉大学とドイツシャリテ以下大学病院をWeinar で結んで提供した文化能力研修全5回と、Webinar 開催要領に関する2回の研修についてまとめたもの。 IPIKA プログラムの紹介、異文化環境における対立への対応、病院における差別・格差、異文化間コミュニケーション、多文化環境における医療倫理からなり、すべての研修に主催者として参加した。 A4版 頁数:全134頁 著者: 野地有子、 <u>溝部昌子</u> 他12名
外国につながるのある人たちへの看護コミュニケーションに関する研究-「看護英語ノート」の制作-	共著	2021年3月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2019 報告書	外国人患者とのコミュニケーションには言語だけでなく、文化的背景の考慮とその対応が必要であり、そのための教材開発について示した 4版 頁数:全15頁 著者: <u>溝部昌子</u> 、野地有子、藤田比左子、 <u>Mathew Lee Porter</u> 、近藤麻理、小寺さやか、飯島佐知子 担当:p10-11

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【学会発表】 外国につながるのある人たちへの看護ケアー異文化との出会い 42 病院マップの開発と活用 第2報ー	共著	2020 年 8 月	第 10 回日本看護評価学会 (Webinar)	「異文化との出会い 42 病院マップ」を用いた医療機関の看護職とそれ以外の医療専門職、市町村保健師を対象の研修会において実施したアンケートで、組織の支援として希望することについての自由記載は、通訳の確保、多言語の表示、ツールの活用、システム構築、研修・事例検討の6つに分類された。相原綾子,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,溝部昌子 第 10 回日本看護評価学会学術集会講演抄録集 p48
HCAHPS を用いた日本に滞在する外国人と日本人の日本の病院での入院経験の質の比較	共著	2020 年 8 月	第 10 回日本看護評価学会 (Webinar)	日本の病院に入院した外国人と日本人を対象に入院経験についての質問紙調査の結果、看護師のコミュニケーションについて、外国人受け入れ認証病院で非認証病院より、外国人が日本人より、自立度が高いほど高いという結果であった。飯島佐知子,松岡光,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,相原綾子 第 10 回日本看護評価学会学術集会講演抄録集 p49
ICT を活用した COVID-19 への対応例：看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第1報 タイムラインに沿って.	共著	2020 年 8 月	第 24 回日本看護管理学会学術集会 (於 金沢 Webinar)	2020 年 3 月 14 日東京で実施予定であった研修会を Web 開催した。これに至る準備の過程と、参加者の評価について示したもので、事前配信した実施要領の有効性は、役に立ったとの回答が 100%で、約 97%が今後も Webinar に参加したいと回答した。 野地有子,藤田 比左子,飯島佐知子,近藤麻理,小寺さやか,溝部昌子,小林康司,浜崎美子,大友英子,野崎章子 第 24 回日本看護管理学会学術集会抄録集, p235

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
ICT を活用した COVID-19 への対応例：看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第2報 参加者への導入と共創.	共著	2020年8月	第24回日本看護管理学会学術集会（於 金沢 Webinar）	2020年3月14日東京で実施予定であった研修会を Web 開催した。Webnar 参加のためのレディネス育成として、メディア・ユニバーサル・デザインの5原則に基づき、操作ガイドを作成し、事前に受講者に配布した事を示した。 藤田 比左子,野地有子,飯島佐知子,近藤麻理,小寺さやか, <u>溝部昌子</u> ,小林康司,浜崎美子,大友英子,野崎章子 第24回日本看護管理学会学術集会抄録集, p248
Geriatric nursing practicum on campus and at home during the COVID-19 pandemic.	共著	2020年9月	the13th International Nursing Research Conference（於 Seoul Webinar）	コロナ禍における老年看護学実習Ⅰの実施について、学内での技術実習、遠隔でのディスカッションや看護過程の展開を組み合わせにより、従来の学修目標を再構成して実施できた事を示した。 <u>Akiko Mizobe</u> , Yasuko Maruyama, Yuri Kaneko, Etsuko Yoshihara
Mode of Remote Elderly Facility Practice in COVID-19 Pandemic.	共著	2020年9月	the13th International Nursing Research Conference（於 Seoul Webinar）	コロナ禍における老年看護学実習Ⅱの実施について、高齢者施設とのリモートで、学生が高齢者とコミュニケーションをとったり、高齢者の生活場所を見学するなどの方法を取り入れたことを示した。 Etsuko Yoshihara, Yasuko Maruyama, Yuri Kaneko, <u>Akiko Mizobe</u>
日本循環器看護学会学術委員会 循環器看護の定義及びステイトメント作成に関わるワーキンググループ：循環器看護とは何か考える-循環器看護の敵の作成プロセス報告-	共著	2020年10月	第17回日本循環器看護学会学術集会（於京都 Webinar）	循環器看護の定義に関して、クリティカルケア、シナジーモデル、慢性看護、糖尿病教育看護、脳血管神経領域、血管看護の点から整理し、Cardiovascular Health として仮定義したプロセスを示した。 <u>岡田彩子</u> ,三浦英恵, <u>溝部昌子</u> ,北村愛子,瀬戸奈津子,南川貴子,

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
看護師の文化能力研修に用いる教材の検討-看護英語ノートの制作-	共著	2020年11月	グローバルヘルス合同大会 2020 (ポスター、於大阪 Webinar)	仲村直子,濱上亜希子 外国人患者とのコミュニケーションに関する検討として、「異文化との出会い 42 病院マップ」の 15 の場面に適用できる「看護英語ノート」を制作したプロセスについて示した。 <u>溝部昌子</u> ,野地有子,近藤麻理,小寺さやか,飯島佐知子,炭谷大輔
Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part1)	共著	2020年12月	10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia region Conference (於香港 Poster Webinar)	2020年9月19日、9月26日、日本・ドイツで行われた看護師の異文化対応における Webinar におけるアンケートで、年代により反応が違い、40歳代は最も多くテキストで反応があった。 Hisako Fujita, Arika Noji, Daisuke Sumitani, Sachiko Iijima, Mari Kondo, Sayaka Kotera, <u>Akiko Mizobe</u> , Koji Kobayashi, Yoshiko Hamasaki, Eiko Ootomo, Akiko Nosaki
Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part2)	共著	2020年12月	10th Hong Kong International Nursing Forum cum 3rd Sigma Asia region Conference (於香港 Poster Webinar)	2020年9月19日、9月26日、日本・ドイツで行われた看護師の異文化対応における Webinar への接続状況で、延べ170名参加者の内、40歳代、50歳代、30歳代が多く、90分、56分、150分のセッションで、時間が長くなるほど、年代が長ずるにしたがって、接続率が70%代前半まで低下することが分かった。 Daisuke Sumitani, Hisako Fujita, Arika Noji, Sachiko Iijima, Mari Kondo, Sayaka Kotera, <u>Akiko Mizobe</u> , Koji Kobayashi, Yoshiko Hamasaki, Eiko Ootomo, Akiko Nosaki

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
医療通訳士と看護師の協働-看護師・病院として準備しておくべきこと-	共著	2020年12月	第40回日本看護科学学会学術集会（於東京 Webinar）	2019年11月nGlobe研修におけるパネルディスカッション「医療通訳士と看護師の協働」をまとめたもので、現状から改善できることとして、看護師は通訳者でなく患者に話す、委託内容と成果を共有する、委託の手続きやプロセスを共有し多職種連携のメンバーとして認識するがあげられた。 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 野崎章子, 浜崎美子, 小林康司, 松岡光
外国につながるのある人たちへの看護ケアー看護学生における「異文化との出会い 42 病院マップ」の活用ー	共著	2021年2月	第25回聖路加看護学会学術大会 (Webinar)	「異文化との出会い 42 病院マップ」を利用した看護学部学生を対象としたアンケートで、看護の状況を想起することができた、異文化の人の習慣や文化などについてもっと知りたいと思った、看護や医療は異文化への対応を整える必要があると思ったと 95%以上が回答した。 野地有子, 梅田麻希, 溝部昌子, 藤田比左子, 近藤麻理, 小寺さやか, 浜崎美子, 大友英子, 飯島佐知子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン (17H01607)	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (A) (H29-33)	代表：野地有子 (千葉大学) 研究分担者	分担研究者 100,000 円 (R2)
看護師による POCUS 活用に関する研究・DVT 予防対策と安全なケアへの効果・(20H03990)	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (B)	代表：○溝部昌子 (FY2020-2024)	1,170, 000 円 (R2)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	共同研究員	2015 年～1 年毎に継続更新中 研究会議出席 10 回
日本血管看護研究会	代表世話人 学術集会主催 学術集会プログラム委員	2015 年～ 2015 年～毎年 2015 年～毎年
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程	教育運営委員 検討委員	2018 年度より ファーストレベル開講式、閉講式出席 運営会議出席 2 回
日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	2020 年 12 月 1 日 ～2021 年 11 月 30 日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
国際交流委員会委員 紀要委員会委員 看護学科 1 年生アドバイザー 新カリキュラムワーキンググループ

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	目野 郁子	職名	教授	学位	博士 (医学) (九州大学 1994 年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 予防接種免疫抗体

研 究 課 題
・ 保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。 ・ 看護学科 1 年生を対象にした 2020 年度の初年次教育プログラムについて教育効果の検証を行う。

担 当 授 業 科 目
感染と免疫 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (福祉) 初年次セミナーⅠ (前期) (看護) 初年次セミナーⅡ (後期) (看護) 微生物学 (後期) (福祉)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【感染と免疫：看護】 ①例年は教科書を中心に講義を行い、パワーポイントを使い補足説明を行うという方法を取っていた。しかし、今年度は、オンライン講義ということで、学生の学びの習熟度をあげるために、最初にパワーポイントを使い講義の要点を説明し、振り返りに教科書を使うという形式をとった。 ②パワーポイントで作成した資料は、見やすいことを第一に考え、学生が選んで印刷できるよう印刷パターンを二種類準備した。また、スライドには、振り返りの際に教科書と連動できるよう該当する教科書のページ番号を入れた。 ③科目内容には、感染症を主軸に解剖・生理を意識した内容を入れ専門基礎科目や専門科目に繋ぐようにした。 ④今年度は、オンライン講義のため、学びの習熟度を把握しながら習熟レベルを担保する目的で、毎回、講義後に Google Forms を使い、講義に関する意見・質問を受け付けた。その結果をもとに講義開始時に前回の講義の振り返りを行い、質問・意見に対する応答を行なった。この学生の意見・質問は、毎回印刷し資料として学生に配布した。 ⑤小テストは、学生に復習する機会を設ける意味で回数を 2 回に増やした。
授業科目名【生物と生命科学：看護】 ①高校で学ぶ生物の内容を基盤に、大学の学びへと展開できるような内容を加え講義内容を組み立てた。特に、看護学科では、専門教育につなぐために"体の構造と機能"を知り、その上で疾病が生じる原因を根拠に基づき説明できるように、疾病モデルをいくつか提示し講義を行った。 ②受講動機が、"関心ある内容と答えた学生が 80%"、"単位取得のためとする学生が 57%"であり、学生に興味関心を持ってもらうため身近な疾病モデルを講義の題材に選んだ。 ③今年度は、オンライン講義のため、学びの習熟度を把握しながら習熟レベルを担保する目的で、毎回、講義後に Google Forms を使い、講義に関する意見・質問を受けた。その結果をもとに講義開始時に前回の講義の振り返りを行い、質問・意見に対する応答を行なった。 ④上記の学生の意見・質問は、毎回印刷し資料として学生に配布した。 ⑤小テストは、学生に復習する機会を設ける意味で回数を 2 回に増やした。

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

- ①高校で学ぶ生物を基礎に大学の専門教育に生かすことができるような内容を加え講義を行った。この科目では、人体の生物学に焦点を当て、体の正常なしくみと異常(疾患)に焦点を当て説明した。
- ②特に受講生の 90%が、"関心のある内容である"と回答しており、日常生活にこの講義を生かすことができるような内容を含めた。
- ③今年度は、オンライン講義となったため、学びの習熟度を把握し、習熟レベルを担保する目的で、講義の後に毎回 Google Forms を使い、講義内容に関する意見・質問を受ける場を設けた。その結果をもとに必ず前回の講義の振り返りを行うとともに質問・意見に対する応答を行なった。
- ④上記の学生の意見・質問は、毎回印刷し資料として学生に配布した。
- ⑤小テストは、学生に復習の機会を設けるために回数を 2 回に増やした。

授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8 回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。
- ②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるような課題発見のためのシートなども改良した。
- ④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索は CiNii、Google Scholar の利用方法について説明を行った。
- ⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。
- ⑥ DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。
- ⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを 1 つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【微生物学：福祉】

- ①例年は教科書を中心に講義を行い、パワーポイントを使い補足説明を行うという方法を取っていた。しかし、今年度は、オンライン講義ということで、学生の学びの習熟度をあげるために、最初にパワーポイントを使い講義の要点を説明し、振り返りに教科書を使うという形式をとった。
- ②パワーポイントで作成した資料は、見やすいことを第一に考え準備した。スライドには、振り返りの際に教科書と連動できるよう該当する教科書のページ番号を入れた。
- ③講義進行に合わせポイントの整理を配布し、講義の振り返りを早期からするよう促した。また、小テストは例年 1 回実施していたが、より学生に復習する機会を設ける意味で回数を 2 回に増やした。
- ④特に、実戦に役立つような知識の習得を目指し、基礎的な知識の習得の後に学校や医療福祉現場での感染症対策・対応について講義を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本細菌学会		1987 年 4 月～現在に至る
日本感染症学会		1996 年 4 月～現在に至る
日本小児保健協会		2000 年 4 月～現在に至る
日本環境感染学会		2004 年 4 月～現在に至る
日本ワクチン学会		2016 年 4 月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

[illegible]

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

- ・人事委員会委員 2017年4月1日～ 現在に至る
- ・動物実験委員会委員 2016年4月1日～ 現在に至る
- ・保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～ 現在に至る
- ・公的研究費内部監査部門担当者 2017年2月～ 現在に至る
- ・看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当
課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。
- ・学生の健康支援
保健室と協働で保健福祉学部、人文学部、および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011年～現在に至る。
(今年度は新型コロナ感染流行により実施できていない)

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	吉原 悦子	職名	講師	学位	修士 (看護学) 大分大学 2007 年
----	-------	----	----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
老年看護学	排泄ケア 認知症ケア 地域貢献活動 実習における学生の学び

研 究 課 題
・認知症高齢者の排便ケア ・地域貢献活動に参加した学生の学び ・実習における学生の学び

担 当 授 業 科 目
(前期) ・地域連携協働支援論 ・地域生活支援論 ・老年看護学演習 ・在宅看護学 ・在宅看護学演習 ・看護研究 ・高齢者支援学Ⅰ ・高齢者支援学Ⅱ (開講なし) (後期) ・老年看護方法論 ・看護学 (栄養学科) (通年) ・老年看護学実習Ⅱ ・看護総合演習 ・看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【地域連携協働支援論】 「地域で生活する人々」をキーワードとし、自らの生活に着眼するところから始めた。①自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージするような課題を提供し、具体例を挙げながら講義を行った。②講義に集中できるように講義の途中に個人ワークを取り入れた。③学生の自由な発想を妨げないように行った。④講義の中で地域・看護・認知症・高齢者・障害者などのキーワードでのトピックスなどを交えて提供し、幅広い視野を持てるように内容を工夫した。⑤遠隔講義であったが、提出された学生の課題を提示し、解説を行った。
授業科目名【地域生活支援論】 本科目は今年度開講の科目で「地域連携協働支援論」に続く科目である。地域で生活するあらゆるライフステージにある人々の健康を支えるための知識ケアを学ぶ。これまでに学んだ概論や方法論をベースに、保健・医療・福祉・教育などの領域の専門職との協働連携や包括的にケアする方法、その中においての

看護師の役割などを講義した。遠隔の講義であったためグループワークの時間の確保が難しく、学生個人の考えが偏ったり、課題に対して意義が見出しにくい学生もいるため、課題については解説を行い、コメントを返していった。講義の途中には、既習の科目であっても復習を含め講義を行った。
授業科目名【老年看護学演習】 本科目は今年度開講の科目である。概論・方法論をもとに演習を行った。今年度はすべて遠隔講義で行った。事例患者を用いて看護過程を行う際に、具体的な視点を学生に伝えていった。教員の模範解答ではなく、学生自身が記載したものを元に解説を行った。事例については2年次の方法論でも触れており、老年特有の疾患で、対象理解を進めていった。事例患者をイメージしながら看護実践が行えるように関連性を持たせ、技術演習を行った。遠隔講義であったため、パソコンやタブレットなど複数の機器を使い、教員がリアルに看護実践を行う様子を映像として映し、伝えていった。特に安全面やプライバシーの配慮、十分に気を付けることが望ましい場面については、繰り返し伝えた。
授業科目名【在宅看護学】 継続看護、地域包括ケアの部分を担当した。地域包括ケアは背景がさまざまであり、なぜ地域包括ケアが必要になったのかを制度を含めて解説した。これまで、概論や方法論で学んできたことを想起しながら、講義を行った。また、病院、在宅など切れ目のない看護を提供することをイメージ付けるためにも具体例を挙げながら、病院から在宅、在宅から病院での継続の方法や関連職種などを含めた連携を伝えた。特に学生は、これまで学んだ内容等を想起しながら講義を聞くことが難しく、「習ったか」「この用語は聞いたことがあるのか」など、確認をしながら、講義を進めた。国家試験にも出題される分野であるため、知識の定着を意識し繰り返し伝えた。また、今回は遠隔講義であったため、例年よりはゆっくりと進めた。
授業科目名【在宅看護学演習】 在宅看護学を踏まえながら、演習を行っていった。特に看護過程では在宅の特徴を踏まえることができるように指導を行った。特に自己課題が進まない学生については、担当教員で個別に指導を行った。在宅看護では、看護師だけでなく、多職種と連携する必要や家族への視点も重要であり、意識して伝えるようにしていった。疾患を治療することだけでなく患者さん本人と家族の可能な限り望ましい生活に近づけるための援助を伝えていった。
授業科目名【看護研究】 本講義は5名の教員で担当した。研究の基本となる講義とグループワークで構成している。研究計画書の作成から簡易的な調査を実施し、抄録を作成し、発表する一連の流れを行っている。初めて行う作業であり、学生はイメージがつかず、グループワークを行っていることが多いため、具体的にどう進めていくのか考え方を説明した。今回は特にオンラインでのグループワークを行ったため、学生の困りごとには耳を傾け、修正を行った。
授業科目名【看護総合演習・実習】 今年度は7名の学生を担当した。看護総合演習・実習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。しかし、今年度は、遠隔での実施となったため、実習につながる演習といった位置づけは厳しく、なかなか深まりを持つことは難しかった。さらに、前半は実習を行うための実習計画から文献検討に切り替えたことや、図書館の利用ができない時期があったため、文献検索を一緒に行った。そのうえで、遠隔でのディスカッションであったため、効果的には進まなかったがそれぞれの興味を持った内容について各学生がプレゼンテーションを行ったりしながら共通理解を深めていった。 今年度は、実習として臨地に出向くことはできなかった。しかし、これまで行ってきた実習を振り返ることを心掛け、そこから学びを深めた。さらに、看護職としての展望を持つためにもオンラインで開催されている研修会や講演会に参加を促し、発表を行うことで共通の学びとした。また、総合演習・実習の報告会において、プレゼンテーションを行い、学生たちのまとめたレポートの有意義な振り返りとなった。 総合演習・実習は、これまでとは異なり、自ら興味のあるテーマを絞り込み、実習の計画を立ててその成果を自身が枠組みを作成し、レポートを書くというものである。就職活動や国家試験の学習も並行して行う時期であり、計画を立てて遂行するという点では、今後つながるものであると考える。
授業科目名【老年看護学方法論】 高齢者のリハビリテーション、認知症、高齢者に起こりやすい症状とケアについて担当した。基本的な疾患や症状はすでに学んでいるため、高齢者では特に気を付けるべきことについて具体的な実習場面を盛り込み、講義を行った。特に認知力の低下した高齢者については一般的なかかりわりの原則は理解しているが、

実習中のエピソードなどを取り入れることで、具体的な場면을イメージしながら講義を聞くことができた。また、認知症の講義のあとに認知症サポーター養成講座も受講したこともあり、関心をもって講義に取り組むことができたと言える。

また、講義ごとに質問や学びの意見を収集し、次の講義で解決し、さらに追加の解説を行っていった。

授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】

4 年生前期についての実習では、初めての遠隔実習であった。その中でいかに療養者の全体像を捉えられるのかは難しい状況ではあったが、教員の施設への立ち入りを許可していただき、オンラインで療養者と学生をつなぎコミュニケーションを行った。難聴や認知力の低下がありオンラインでのコミュニケーションは難渋したが、パソコンやスピーカーなどを使用し、出来るだけ直接やり取りができるようにおこなった。認知力が低下している高齢者とのかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。

授業科目名【看護学（栄養学科）】

栄養学科の学生でもなじみのある、また、今後必要となる疾患を取り上げた。3、4 年生であるため、ある程度の知識はあると考えたが、その都度、用語の確認などを行い、講義を進めていった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001.4～現在に至る
日本老年看護学会		2003.4～現在に至る
日本老年社会科学会		2003.4～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006.4～現在に至る
日本看護科学学会		2008.6～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016.5～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 老年看護学実習においてライフストーリーを聞くことによる学生の学習効果	共著	2021 年 3 月	西南女学院大学紀要 Vo125	①老年看護学実習において課せられた「ライフストーリーを高齢者が語る意義、援助者が聞く意義」について学生が記述した記録を分析し、学生の学びを明らかにすることを目的とした。高齢者が語る意義では、人に話すことで人生を振り返り、大変だった人生を思い出し、学生に話すことを楽しみにしていた。援助者が聞く意義としては、ライフストーリーの中で語られるその人の価値観を聞くことでその人に会った援助につながると考えていた。語られた内容から単に高齢者を

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
ある末期がん患者の経験から考える意思決定支援のあり方	共著	2021年3月	西南女学院大学紀要 Vol25	理解しようとするだけでなく、非言語的なものをキャッチし、意味を読み取ろうとしており、高齢者との相互作用の中で学んでいた。 ②吉原悦子、丸山泰子、金子由里、溝部昌子 ③pp13-21 ①がん患者の語りをまとめた事例報告である。対象は60歳代男性で、胃がんの末期患者であった。ギアチェンジ期の前後において、療養中の出来事と、経験の意味を明らかにすることを目的とした。対象の語りから8つの出来事と20の経験が抽出された。 ②共著者：石井美紀代、水原美地、中山昌美、吉原悦子、鹿毛美香 ③pp23-32
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護師による POCUS 活用に関する研究—DVT 予防対策と安全なケアへの効果—	文部科学省科学研究費	代表：溝部昌子 研究分担者	研究分担者 60,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
・ 情報システム管理運用委員	2020.4～2021.3
・ 地域連携室員	2020.4～2021.3
・ 学生募集関連 (ブログ担当)	2020.4～2021.3
・ キャンパスハラスメント相談員	2020.4～2021.3
・ 看護学科 1 年生アドバイザー	2020.4～2021.3

福 祉 学 科

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 荒木 剛	職名 准教授	学位 修士 (社会福祉学)
---------	--------	---------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

研 究 課 題
・ 高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方。 ・ 社会福祉士養成教育における実習のあり方。

担 当 授 業 科 目
福祉入門 (1 年次通年) 介護技術演習 (1 年次後期) 高齢者福祉論 (2 年次通年) 相談援助実習指導Ⅰ (2 年次通年) 相談援助演習Ⅱ (2 年次前期) 相談援助演習Ⅲ (2 年次後期) 高齢者支援学Ⅰ (2 年前期) 相談援助実習指導Ⅱ (3 年次通年) 相談援助実習 (3 年次通年) 相談援助演習Ⅳ (3 年次前期) 相談援助演習Ⅴ (3 年次後期) 専門研究Ⅰ (3 年次通年) 社会福祉特講Ⅱ (4 年次後期) 専門研究Ⅱ (4 年次通年) 【不開講科目】 基礎実習 (1 年次通年)、高齢者支援学Ⅱ (4 年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【福祉入門】 本科目は、1 年次開講の福祉基礎科目 (必修) で、学生の社会福祉への動機や関心を高めることを目的としている。講義では、初学者である 1 年生が福祉課題の現状や対人援助職の魅力・やりがいを理解できるよう、統計資料や DVD 等を活用した。また、授業全体のマネジメントを担い、教授内容の検討や外部講師との日程調整等を行った。
授業科目名【介護技術演習】 本科目は、外部講師 2 名による介護技術の実技指導を主な内容としている。講義では、講義環境の整備や使用物品の準備等について外部講師との調整を行った。また、単元ごとにレポートを提出させ、技術面だけでなく、介護者としての視点や考え方の習得度を把握した。 ※本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、6 回で終了。残り 8 回は、次年度に開講予定。
授業科目名【高齢者福祉論】 本科目は、社会福祉士指定科目の 1 つである。講義では、教科書を中心としたレジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。また、遠隔授業であることを考慮し、授業の展開を図った。講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】 本科目は、相談援助実習（3年次）の実施に向けた準備学習を主な内容としている（高齢者福祉領域を担当）。講義では、自己学習とグループ学習を通して、実習領域、施設、利用者理解が深まるよう努めた。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 本科目は、相談援助実習（3年次）の事前および事後指導を主な内容としている（高齢者領域福祉を担当）。実習前には、実習計画書、個人紹介票、誓約書等の作成指導を通して、学生の動機づけを行った。実習後には、個別面談により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。また、本年度は新型コロナウイルスの影響で実習時期や期間にばらつきが出たため、各人の状況に応じた指導を行った。
授業科目名【相談援助実習】 本科目は、社会福祉士受験資格取得のための学外実習（180時間）を行うものである（高齢者福祉領域を担当）。実習を実施するに当たり、実習指導者との連絡調整を密に行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、本年度は新型コロナウイルスの影響で実習時期や期間にばらつきが出たため、各人の状況に応じた対応を行った。
授業科目名【相談援助演習Ⅱ】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程、面接技法、記録等について教授した。また、遠隔授業であることを考慮した授業展開を行い、教育効果の担保に努めた。
授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。講義では、要支援高齢者の事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを教授した。また、遠隔授業であることを考慮した授業展開を行い、教育効果の担保に努めた。 ※相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴはオムニバス形式のため、講義内容・方法は同じ。
授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本科目は、保健福祉学部3学科による合同講義である。内容は、アクティブ高齢者への支援について、講義とPBL（事例検討）を通して検討するものである。本年度は遠隔授業で実施したため、例年以上に、学生の内容理解を助けられるよう、説明方法や提示資料を工夫した。また、PBLにおいても、学生の議論が円滑に展開できるよう授業運営に努めた。
授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】 本科目は、4年次の開講科目であり、社会福祉士国家試験対策としての位置づけもある。講義では、高齢者福祉を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を深め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、レポート作成に取り組んだ。学生指導においては、コミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉士会		1998年4月～現在に至る
日本社会福祉学会		2002年3月～現在に至る
日本地域福祉学会		2007年3月～現在に至る
日本介護福祉学会		2007年3月～現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2008年1月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
北九州市社会福祉協議会 (権利擁護・市民後見センター運用委員会)	委員	2009年4月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 (福祉人材バンク事業運営委員会)	委員	2012年4月～2020年3月
北九州市社会福祉協議会 (総合企画委員会)	委員	2018年4月～現在に至る
社会福祉法人兼恵園 (評議員会)	評議員	2017年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教務委員（2019年4月～現在に至る） 地域連携室室員（2016年8月～現在に至る）

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	稲 木 光 晴	職名	教授	学位	博士 (体育科学) (筑波大学, 1994 年)
----	---------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
運動生理学	持久性パフォーマンス、トレーニング、栄養

研 究 課 題
長距離走者の競技力向上に関する研究

担 当 授 業 科 目
運動と健康 (前期) (看護学科) 運動と健康 (前期) (福祉学科) 生涯スポーツ (後期) (看護学科) 生涯スポーツ (後期) (福祉学科) 生涯スポーツ (後期) (栄養学科) 生涯スポーツ (後期) (英語, 観光文化学科) 運動処方論 (後期) (福祉学科) 専門研究Ⅰ (通年) (福祉学科) 専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科) 母性の運動科学 (前期) (助産別科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【運動と健康】 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。 2. google form で作成した様式を用いて、授業内容についての理解度を確認し、また授業内容に関する質問を受け付けた。授業のはじめに前回の復習と質問についての回答を行った。
授業科目名【生涯スポーツ】 1. バドミントン、硬式テニスおよび卓球の一流アスリートの試合動画で視聴させることによって、それぞれの競技力向上に必要な技能や体力等について考えさせた。 2. 筋力トレーニングなどの動画を視聴しながら、実際にトレーニングを行わせることによって、トレーニングのポイントを理解させると同時に、オンライン授業による運動不足の解消を目指した。
授業科目名【運動処方論】 1. 学生の理解度合いをチェックしながら授業を進めた。 2. google form で作成した様式を用いて、授業内容についての理解度を確認し、また授業内容に関する質問を受け付けた。授業のはじめに前回の復習と質問についての回答を行った。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 1. 様々な健康や体力に関連する記事を読ませることによって、興味関心の幅を広げた。 2. google form で作成した様式を用いて、記事内容についての理解度を確認し、また知らなかった用語等について調べさせ、より多くの知識を獲得できるよう促した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】 - 専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。 - 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。
授業科目名【母性の運動科学】 - 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 - google form で作成した様式を用いて、授業内容についての理解度を確認し、また授業内容に関する質問を受け付けた。授業のはじめに、前回の復習と質問についての回答を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本体力医学会 American College of Sports Medicine	評議員（1999 年～）	1988 年 4 月～現在に至る 1993 年 4 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
福祉学科長 人事委員長 衛生委員 保健福祉学研究所 運営委員 西南女学院 評議員

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 今村 浩司	職名 教授	学位 修士(福祉社会)(福岡県立大学)
----------	-------	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス(精神保健福祉)領域におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス(精神保健福祉)、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研 究 課 題
メンタルヘルス領域における地域生活支援に関する研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究 精神保健福祉士の専門性向上に関する研究 精神障害者の成年後見に関する研究 触法障害者・高齢者の地域定着に関する研究 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史的変遷の研究

担 当 授 業 科 目
相談援助の基盤と専門職(福祉学科1年通年必修4単位) 福祉入門(福祉学科1年前期必修2単位) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(福祉学科3年前期選択4単位) 精神保健学(福祉学科3年後期選択4単位) 精神障害者地域生活支援論(福祉学科4年後期選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(福祉学科3年通年選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(福祉学科4年通年選択2単位) 精神保健福祉援助演習Ⅰ(福祉学科2年後期選択1単位) 精神保健福祉援助演習Ⅲ(福祉学科4年後期選択1単位) 精神保健福祉援助実習Ⅰ(福祉学科3年選択4単位) 精神保健福祉援助実習Ⅱ(福祉学科4年選択4単位) ボランティア概論(保健福祉学部看護学科・福祉学科・栄養学科1年前期選択1単位) ボランティア概論(人文学部の英語学科・観光文化学科1年前期選択1単位) 専門研究Ⅰ(福祉学科3年通年必修2単位) 専門研究Ⅱ(福祉学科4年通年必修2単位)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【相談援助の基盤と専門職】 福祉学科1年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。2020年度はwebによる講義が中心になったが、毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、刑務所福祉専門官やスクールソーシャルワーカーの現任者をwebにてゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパー的な機能を使用して理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い、理解を深めた。

授業科目名【福祉入門】 対人サービスを行う福祉専門職養成のために、福祉学科 4 名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。2020 年度は web 中心であったが、リアクションペーパー的な機能を利用して、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対しての援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。毎時間 web にてリアクションペーパー的な機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神保健学】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士国家試験を受験しない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。毎時間 Web にてリアクションペーパー的な機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神障害者地域生活支援論】 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解してきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。本年度は web 中心であったが、毎時間リアクションペーパー的な機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】 精神保健福祉士レーン担当の 3 人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。web ではあったが、実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】 上記同様 3 人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、受講生全員で理解を深める努力をした。web ではあったが、実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】 精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、まずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。web 中心ではあったが、次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。
授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】 精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。Web ではあったが、特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4 年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
授業科目名【ボランティア概論】 人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を

実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、webではあったがさまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 16名のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、精神科病院や福祉施設等のwebによる施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的なイメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、webによる参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 14名のゼミ生に対して専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生の合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年4月～2020年3月）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 1. 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 6 「ソーシャルワークの理論と方法」	共	2021年2月	中央法規出版	①日本ソーシャルワーク教育学校連盟が編集した、社会福祉士・精神保健福祉士養成の「ソーシャルワークの理論と方法」に関する専門書である。 ②編集 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 ③担当部分 第2章「ソーシャルワークの展開技法」における第2節「インテーク」（p.47～p.53）、第3節「アセスメント」（p.53～p.62）、第6節「アウトリーチ」（p.81～

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 7「ソーシャルワーク演習」	共	2021年2月	中央法規出版	p91)を担当した。 ④総頁数 320頁 A4版 ①日本ソーシャルワーク教育学校連盟が編集した、社会福祉士・精神保健福祉士養成の「ソーシャルワーク演習」に関する専門書である。 ②編集 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 ③担当部分 第3章「支援の場に応じた相談援助の理解」における事例12「高齢者福祉施設 地域包括支援センターにおける多機関連携による認知症高齢者への危機介入」(p.164～p.173)を担当した。 ④総頁数 322頁 A4版
3. 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 9「権利擁護を支える法制度」	共	2021年3月	中央法規出版	①日本ソーシャルワーク教育学校連盟が編集した、社会福祉士・精神保健福祉士養成の「権利擁護を支える法制度」に関する専門書である。 ②編集 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 ③担当部分 第6章「成年後見制度」における第1節「成年後見制度の概要」(p.188～p.194)、第2節「後見の概要」(p.194～p.200)、第3節「保佐の概要」(p.200～p.204)、第4節「補助の概要」(p.204～p.206)、第5節「任意後見の概要」(p.206～p.211)を担当した。 ④総頁数 324頁 A4版
4. 「福岡県精神障がい者の障がい特性と支援技法を学ぶ研修」テキスト	共	2021年3月	福岡県精神保健福祉士協会	①福岡県が指定した「精神障がい者の障がい特性と支援技法を学ぶ研修会」用のテキストある。 ②編集 福岡県精神保健福祉士協会 ③担当部分「精神保健福祉法、関連法令、関連制度等の歴史

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				的背景」(p.1～p16)を担当した。 ④総頁数 111頁 A4版
(報告書) 「北九州市教育委員会事務点検・評価報告書(令和元年度実績)」	共	2020年9月	北九州市教育委員会	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会の管理及び執行状況について点検と評価を実施し、学識者としてコメントをまとめ報告書とした。
「北九州市不登校等に対する総合的な検討に関する有識者会議報告書」	共	2020年11月	北九州市教育委員会	北九州市における長期欠席児童生徒の現状や対策を整理し、今後の施策に対し6つ基本方針と新たな取り組みを提言としてまとめて報告書とした。
(翻訳)				
(学会発表等) 「遠隔システムを活用した遠隔実習に関する教育実践報告～学内・リモート実習を通してみた実習教育の効果・課題に関する一考察～」	共	2021年3月	日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック教育研究大会	西南女学院大学福祉学科精神保健福祉士養成レーンの精神保健福祉援助実習におけるWeb実習に関しての効果と課題を考察し報告を行った。 (○今村浩司・高口恵美・梶原浩介)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本精神保健福祉士協会	理事	2001 年 4 月～2020 年 3 月
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001 年 4 月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012 年 7 月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002 年 9 月～
北九州地区社会福祉専門職 5 団体連絡協議会	代表世話人	2006 年 4 月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005 年 10 月～
北九州成年後見センター	理事	2006 年 3 月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005 年 4 月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001 年 4 月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005 年 7 月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012 年 4 月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005 年 4 月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006 年 4 月～
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006 年 4 月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008 年 7 月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013 年 4 月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013 年 4 月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター） 精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014 年 6 月～2021 年 5 月
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016 年 8 月～
北九州市社会福祉協議会	評議員	2021 年 3 月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
西南女学院大学・短期大学部 地域連携室 室長 西南女学院大学 入学試験 委員 西南女学院大学 精神保健福祉研究会 顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会） 福祉学科 精神保健福祉士養成レーン 担当

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	上村 眞生	職名	准教授	学位	博士 (教育学) (広島大学 2012 年)
----	-------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研 究 課 題
・ 保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・ 保育者の研修効果に関する研究 ・ 保育者のストレスマネジメント ・ 幼児の言葉に関する研究

担 当 授 業 科 目
保育原理 (前期) 保育内容 環境 (前期) 保育内容 総論 (前期) 保育内容 言葉 (後期) 保育内容の理解と方法Ⅲ (後期) 保育実習Ⅰ (通年) 保育実習Ⅱ (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ (通年) 保育実践演習 (通年) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。毎年受講人数の増減があるため、授業進行においてグループ化等に配慮している。
授業科目名【保育内容環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。
授業科目名【保育内容総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。

授業科目名【保育内容言葉】 保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。
授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】 保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。
授業科目名【保育実践演習】 保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】 保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。
授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】 実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 日本小児保健協会 日本保育園保健学会 日本ウェルネス学会 日本乳幼児教育学会		2005年6月～現在に至る 2006年7月～現在に至る 2007年8月～現在に至る 2009年5月～現在に至る 2018年5月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
多声的保育評価の開発：子どもと保護者の声 を評価に導入する方法	科学研究費	○（松井 剛太） 上村 眞生 （松本 博雄） （水津 幸恵） （片岡 元子） （中西 さやか） （岡花 祈一郎） （大野 歩） （越中 康治） （佐藤 智恵）	200,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
専門職 SNS を活用した保育士の研修効果に 関する研究	保健福祉学研 究所	500,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場 ・福岡県保育協会遠賀中間地区 ・福岡県保育士等キャリアアップ研修 ・北九州市児童福祉施設等第三者評価 委員会専門委員	ボランティア委員 研修コーディネーター 指定講師 専門委員	2001 年 4 月～現在に至る 2018 年 4 月 2017 年～ 2020 年 4 月～

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
・情報システム管理運用委員 2017 年 4 月 1 日～現在に至る ・PHOTO 部 顧問 2010 年 12 月 14 日～現在に至る ・FD 委員 2018 年 4 月～2021 年 3 月まで ・学生募集委員 2019 年～現在に至る ・WEST 管理責任者 2018 年 4 月～現在に至る

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	岡田和敏	職名	教授	学位	修士(社会学)(佛教大学 1984年)
----	------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学	医療福祉、保健医療福祉制度

研究課題
医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の諸問題に関する研究

担当授業科目
医療福祉論 (2年前期) 福祉行財政と福祉計画 (3年前期) 社会福祉特講 (4年後期) 相談援助演習 I (1年後期) 相談援助演習 II (2年前期) 相談援助演習 III (2年後期) 相談援助演習 IV (3年前期) 相談援助演習 V (3年後期) 相談援助実習指導 I (2年前・後期) 相談援助実習指導 II (3年前・後期) 相談援助実習 (3・4年) 専門研究 I 専門研究 II

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【医療福祉論】 身近な問題であるが、国家試験での正答率が低い。その為、基礎的な理解ができ、医療が身近な問題で誰しもに共通するものであることを説明し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性についてと医療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。
授業科目名【福祉行財政と福祉計画】 社会保障制度を構築するうえで、必要になるのが財源である。福祉行財政の実際と実施体制について解説し、福祉行政の骨格や法制度、社会福祉の基礎構造改革、支援体制の実際を取り上げて解説した。 また、各種福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明し、計画策定の実際を解説した。
授業科目名【社会福祉特講 II】 最新動向を理解できる 『福祉行財政と福祉計画の動向』 社会福祉の領域、特に福祉行財政と福祉計画における制度・政策の最新動向について講義を行った。 『保健医療施策の動向』

保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。
授業科目名【 相談援助演習 I 】 社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてロールプレイ、グループワーク、グループ討議などを交え、体験的に学ばせた。また、現在生じている福祉的課題・問題についてグループで調べさせ発表させた。
授業科目名【 相談援助演習 II 】 ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践について考えさせる形で学ばせた。
授業科目名【 相談援助演習 III・IV 】 問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。
授業科目名【 相談援助演習 V 】 地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価について地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。
授業科目名【 相談援助実習指導 I 】 医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。
授業科目名【 相談援助実習指導 II 】 他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。 コロナ禍により実習が年度内に行えてない者がおり、学年を越えて実習可能となるよう個別に対応している。
授業科目名【 相談援助実習 】 学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。 配属先が感染者を出し受入れが中断している。その為、実習先の変更で調整している。
授業科目名【 専門研究 I 】 病気やケガを中心に据え、各自が考え、気付き、そして、人々の生活課題から研究してみたくなったことを見つけられるよう指導した。
授業科目名【 専門研究 II 】 専門研究 I から各自が気づき研究していくテーマについて個別に指導している。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 福岡県医療ソーシャルワーカー協会 佐賀県医療ソーシャルワーカー協会 日本医療社会福祉協会 日本医療ソーシャルワーカー協会 日本キリスト教社会福祉学会		1990 年 10 月～現在に至る 1985 年 4 月～現在に至る 1998 年 6 月～現在に至る 1998 年 4 月～現在に至る 2010 年 9 月～現在に至る 2001 年 4 月～現在に至る

2 0 2 0 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) (その他)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
北九州市民生委員推薦委員会	委員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005年8月～現在に至る
福岡県鞍手町地域福祉計画策定委員会	委員長	2020年10月28日～2022年10月27日
北九州市小倉南区社会福祉協議会評議員	評議員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク第三者委員会	委員	2021年5月～2022年3月31日
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013年5月～現在に至る
社会福祉法人 北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2017年4月1日～2021年3月31日
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003年4月～現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003年4月～現在に至る
社会福祉法人 敬寿会	理事	2019年6月～2021年6月
特定非営利法人 生活支援館「パートナー」	理事	2002年3月～現在に至る
社会福祉法人 療養介護事業所「ひなた家」	理事	2019年6月15日～2021年6月14日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
① 附属図書館長 2020年4月1日～2022年3月末日
② 就職委員会委員
③ ITK（イラスト制作）顧問

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	梶原 浩介	職名	講師	学位	博 士 (社会福祉学)
----	-------	----	----	----	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	家族福祉、子ども福祉、ファミリーソーシャルワーク、 ソーシャルワーク

研 究 課 題
地域で生活する家族が抱える生活課題（不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患など）に各当事者（家族一人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等）に取り組む上で生じる語りを対象として、主に質的研究・量的研究を用いて考察する。家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成などについて社会福祉学の観点により研究している。

担 当 授 業 科 目
相談援助演習Ⅰ（1 年次後期） 精神保健福祉に関する制度とサービス（2 年次前期） 地域福祉論（2 年次通年） 精神障害者の生活支援システム（2 年次後期） 相談援助演習Ⅲ（2 年次後期） 相談援助演習Ⅳ（3 年次前期） 相談援助演習Ⅴ 〇 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（3 年次通年） 精神保健福祉援助実習Ⅰ（3 年次通年） 専門研究Ⅰ（3 年次通年） 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（通年） 社会福祉特講Ⅱ（4 年次後期） 精神保健福祉援助実習Ⅱ（4 年次通年） 専門研究Ⅱ（4 年次通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 近年の社会福祉に関する問題を取り上げ、その事例を基にグループワークを通して他者と意見を共有しながら、自分なりの理解を深めていく機会をできるだけ確保した。学生同士の振り返りを通して、個別の内容をグループ全体に共有することにより、学生自身の気づきを共有できる時間を設けた。福祉的課題・問題の理解については、主に複合課題を抱える家族の問題を事例として取り上げ、自己覚知・他者理解の促し、支援者に求められる基本的なコミュニケーション技術等について学生同士の関わりを生かして理解を深めた。
授業科目名【精神保健福祉に関する制度とサービス】 メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。

授業科目名【地域福祉論】 地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
授業科目名【精神障害者の生活支援システム】 精神障害者の生活支援の意義と特徴およびそれに関する制度と施策、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 本科目は、社会福祉士指定科目の 1 つである。講義では、複合課題を抱える家族への支援事例を用いて、ケースワークの展開プロセス、アセスメント技法、地域組織化活動の手法等について教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。 ※相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴはオムニバス形式のため、講義内容・方法は同じ。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】 福祉学科 3 年生を対象にした実習科目。精神科医療機関への実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】 福祉学科 4 年生を対象にした実習科目。3 年次の医療機関の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指していけるよう、4 年次の地域実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。
授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】 本科目は、4 年次の開講科目であり、社会福祉士国家試験対策としての位置づけもある。講義では、地域福祉論を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会	九州地域部会事務局員（2018 年 6 月～現在に至る）	2014 年 6 月～現在に至る
日本地域福祉学会		2019 年 6 月～現在に至る
日本ソーシャルワーク学会		2014 年 7 月～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会		2012 年 5 月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 「第4章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題」	共 著	2021年 5月 (発行予定)	ミネルヴァ書房・『入門 地域福祉と包括的支援体制』・1-171 頁	担当章では、まず地域社会の概念と理論を概観した。次に、日本の人口動態の推移や過疎化、都市化、地域間格差等の現状を理解した。そして、地域住民が抱える地域生活課題の現状と課題について説明できるようになることを目標に学習内容を構築した。近年、問題視される地域生活課題の背景には社会的孤立や社会的排除、セルフネグレクトの問題が潜んでいる。担当章を通し、主に公式な統計資料などをもとに近年の地域生活課題の現状と課題について理解を深められる内容を目指した。(213 字) (著者) 川村匡由, 豊田宗裕, 小野篤司, 岡部由紀夫, 松永尚樹, 倉持香苗, <u>梶原浩介</u> , 山村靖彦, 石田路子, 谷川和昭 (担当頁) 第4章を担当。
(学術論文) 【研究ノート】 「地域共生社会と制度の狭間の問題を抱える家族支援に関する一考察- 8050問題に焦点を当てて-」	共 著	2021 年 3 月	日本社会福祉学会九州部会・『九州社会福祉学』・第17号・69-81 頁	本稿では、制度の狭間の問題を抱える家族支援に関する研究である。特に 8050 問題を抱える家族に焦点を当てている。主に公的資料に基づき、8050 問題を抱える家族の現状について整理し、家族に対する支援の課題について考察する。その結果、(1) 家族の現状として、①8050 問題を抱える家族の特徴、②高齢者支援を通じてのひきこもり当事者の発見、(2) 家族の課題として、①制度外サービスの不足、③ひきこもり当事者に対する生活支援の不足、③地域を基盤とするジェネラリストソーシャルワーカーの必要性について明らかにした。(251 字)(※査読有) (著者) <u>梶原浩介</u> , 本郷秀和
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割	日本学術振興 会	研究代表者(○本郷 秀和)、分担研究者 (鬼崎信好、村山浩一 郎、松岡佐智、畑香 理、田中将太、島崎 剛)、梶原浩介	4,420,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問 題に対するソーシャルワーカーの役割と技能	日本学術振興 会	2,210,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡県社会福祉士会 熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員 会 日本精神保健福祉士協会 福岡県精神保健福祉士協会 北九州地区精神保健福祉士協会 北九州市民カレッジ企画運営委員会	研究誌 査読委員 調査研究班 企画運営委員	2018 年 10 月 2014 年 11 月～現在に至る 2014 年 5 月～現在に至る 2019 年 12 月～現在に至る 2019 年 12 月～現在に至る 2019 年 12 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
宗教委員会	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月
・ 委員	2019 年 4 月 ～ 2020 年 3 月
・ 副委員長	2020 年 4 月 ～ 2021 年 3 月
地域連携室	2020 年 4 月 ～ 現在に至る
・ 室員	2020 年 4 月 ～ 現在に至る
学生アドバイザー	2019 年 4 月 ～ 現在に至る

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	金谷 めぐみ	職名	講師	学位	修士 (芸術学) (日本大学 2003 年)
----	--------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
キリスト教音楽 子どもの音楽表現 モーツァルトの声楽作品	讃美歌 音楽表現 声楽技術

研 究 課 題
キリスト教の礼拝における音楽の意義を考察する。 保育園における子どもの音楽活動の実践を通して、子どもの歌の歌唱法について検討する。 モーツァルトの声楽作品について楽曲分析を行い、声楽上の意義を検討する。

担 当 授 業 科 目
保育の表現技術Ⅰ (前期) (福祉学科) 保育の表現技術Ⅱ (後期) (福祉学科) 西洋の音楽と文化 (前期) (人文学部 英語学科・観光文化学科) 西洋の音楽と文化 (後期) (保健福祉学部 看護学科・福祉学科) 保育内容表現 (前記) 初年次セミナーⅠ (前期), Ⅱ (後期) (福祉学科) 保育実習指導Ⅰ (通年) (福祉学科) 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅰ】 (遠隔授業) ピアノ奏法は、映像および音声のタイムラグがあり十分に指導を行える環境を整えることが難しく、演奏におけるニュアンスに関する指示はオンラインでは伝わりにくかった。そのため、学生の手指が画面に映るよう、機器の置き場を工夫させ、演奏表現の指示については出来るだけ曖昧な表現を避け、具体的な言語を用いて学生に伝わる説明を心がけた。歌唱指導では、画面を通して表情豊かに歌えるよう、顔の表情、音程および歌詞の発音の仕方などを指導した。
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅱ】 (対面+遠隔授業) ピアノ奏法では、対面期間 (1-7 回) に演奏時の姿勢、手指のフォームについて指導を行い、遠隔になった時の備えをすることができた。遠隔期間 (8-14 回) では学生に自主練習を促し、ピアノの弾き歌いを行い、演奏技術の向上を図った。
授業科目名【西洋の音楽と文化】 (遠隔授業) 西洋音楽の歴史について、とくにキリスト教音楽の歴史について概説した。学生が西洋音楽の歴史について知識を得るだけでなく、日本への洋楽移入の経緯について解説し、西洋の音楽文化と日本の音楽文化との接触について深く考えることができるよう、授業内容を工夫した。楽曲鑑賞については、教員が指定した観賞用のサイトを授業後に視聴させ、感想を提出させて授業内容の充実を図った。
授業科目名【保育内容・表現】 (遠隔授業) 保育所保育指針解説を用いて、表現領域だけでなく他領域をふまえた表現に関わる事項について解説し、保育内容について総合的な理解を深めるよう工夫した。子どもの表現を引き出すためには、学生自身が自分の表現の可能性について考え、実践を通して深める必要があることから、素話等のワークを行い体験しながら学習できるよう工夫した。

授業科目名【保育実習指導Ⅰ】(遠隔授業) 実習先の理解について学習を行ったうえで、実習の現場で行う保育を想定し、オンライン上で指導案の作成と手遊びや絵本の読み聞かせの発表を行った。改善すべきところや感想を全員で共有することで、実習での実践力を養うことができるよう工夫した。また、指導案作成においては、繰り返し個別の指導を行うことで、一人ひとりの指導案を書く力を養うことができるよう工夫した。
授業科目名【保育実習指導Ⅱ】(遠隔授業) 「保育実習指導Ⅰ」に引き続き、実習先の理解について学習を充実させた。そのうえで実習の現場を想定した指導案の作成および設定保育の発表を行った。また外部講師の講義を設け、子どもの具体的な支援方法について学習し、保育現場における子どもの理解について実習生としての学びを深める工夫を行った。
授業科目名【初年次セミナーⅠ】(遠隔授業) 高校と大学での学習意識の違いについて説明し、前期の授業レポート課題に対応できるよう、レポートの作成の手順について解説した。学生の文章を書くことへの苦手意識を取り除くために身近にあるテーマを扱った解説と演習による授業を行った。
授業科目名【初年次セミナーⅡ】(対面+遠隔授業) 初年次セミナーⅠで学んだ内容をもとに、授業レポート課題に対応できる授業を行った。日常生活における身近な疑問や問題、課題をテーマとして、調べた事柄を整理し、問題意識をもって発表するなど、セミナーⅠとの関連性をもって学習できるよう工夫をした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本演奏連盟 日本保育学会 日本声楽発声学会 日本音楽療法学会		2009年12月～現在に至る 2012年10月～現在に至る 2013年～現在に至る 2018年3月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) モーツァルトの《声楽のためのソルフェージュ Solfeggien für Eine Singstimme K.393(385b)》とアスパーシアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」(《ポントの王ミトリダーテ Mitridate, re di Ponto K.87(74a)》)における類似する旋律：声楽上の共通点とアリアの背景	単著	2021年3月	西南女学院大学紀要 Vol.25	①アスパーシアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」と「ソルフェージュ1」の一節に類似する旋律を見出した。アスパーシアのアリアは、オペラ《ポントの王ミトリダーテ K.87(74a)》の初演で歌唱したベルナスコーニの要望に添って調性および旋律に修正が施され、アリアの一節は、妻コンスタンツェの歌唱訓練を想定して作曲した「ソルフェージュ1」に書かれたと推察した。 ②P.33-38

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				
(資格取得) リトミック指導資格 (上級4,5歳児)		2021年3月	特定非営利活動法人 リトミック研究センター	リトミック指導者養成において4,5歳児の指導法を習得し、指導者として認定された。
(研修会講師) 保育協会研修会講師		2021年3月	遠賀仲間地区保育協会	保育士を対象とした子どもの歌の歌唱法について講義をオンラインにて実施した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
苅田キリスト教会 国立音楽大学同調会北九州支部 地域密着型 通所介護施設「和楽庵」 ふたば保育園	奏楽者 副支部長 音楽講師 リトミック講師	2006年～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2018年6月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
懇親会委員 合唱サークル クールベルフィーユ顧問 秋の入学式讃美 大学および短期大学部チャペルのオンデマンド讃美（CD演奏） 新任研修会講師 クリスマス礼拝オンライン独唱（2020年12月オンデマンドCD演奏）

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	木村 茂喜	職名	准教授	学位	修士 (法学) (九州大学 1997 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、犯罪をした者、自立支援

研 究 課 題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 犯罪をした者に対する社会復帰・自立支援と社会保障のあり方

担 当 授 業 科 目
法学(前期) (看護学科) 法学(前期) (福祉学科) 法学(前期) (栄養学科) 日本国憲法(後期) (看護学科) 日本国憲法(後期) (福祉学科) 日本国憲法(後期) (栄養学科) 社会保障論(通年) 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 初年次セミナーI(前期) 初年次セミナーII(後期) 専門研究 II(通年) 社会福祉特講 II (集中)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【全講義科目】 2020 年度は後期の一時期を除いてほぼすべての講義が遠隔で行うことになったことに伴い、以下の工夫を行った。 ①配布レジュメ・資料を講義前日までに Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が事前にダウンロードすることを可能にした。対面授業の配布レジュメではキーワードや重要な語句を学生に書き込ませていたが、遠隔授業の配布レジュメについては、学生の通信環境が不安定になるおそれがあることを想定して、キーワードや重要な語句はあらかじめレジュメに記載した。 ②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表等を多用して講義を行った。また、スマホで講義を受けている学生がいることを想定して、文字の小さな図表の使用は極力避けた上で、スライドの文字を対面授業より大きめのポイントで作成した。 ③講義時間が 100 分となったことに加え、パソコン・スマホの画面を長時間見ることによる疲労を考慮して、途中 10 分程度の休憩を入れた。 ④講義内容の理解度の確認のため、講義途中 (休憩前) と講義終了後の 2 回、Google Form を使った確認テストを実施した。確認テストは出席確認に用いたほか、成績評価に加えた。 ⑤講義終了後、出席確認と学生の理解度の確認を兼ねて、Google Classroom を用いて、学生からの講義

内容に関する感想・質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。
授業科目名【法学】 講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。
授業科目名【日本国憲法】 抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介するほか、とりわけ女性・性的マイノリティに対する差別の現状と憲法上の論点について重点的に講義を行い、学生の理解の一助に努めた。
授業科目名【社会保障論】 非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を2回（前期末・後期末）行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【公的扶助論】 最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。 生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【司法福祉論】 社会福祉士国家試験の試験科目である「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【権利擁護論】 成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【初年次セミナーⅠ・初年次セミナーⅡ】 1年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。前期は「調べる」とことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。 後期は、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1クラスを3グループに分けて「ディベート」を行った。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 オンラインにより、学生が作成する卒業研究について、丁寧な指導を行うように努めた。また、国家試験対策も行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月～2017年3月) 企画委員(2018年10月～現在に至る)	1995年12月～現在に至る
日本労働法学会		1998年5月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008年8月～現在に至る
日本更生保護学会		2012年12月～現在に至る
日本障害法学会		2016年12月～現在に至る
九州社会法研究会	事務局員(会計監査担当)(2013年4月～2014年3月)	1995年4月～現在に至る

社会法判例研究会	1995 年 4 月～現在に至る
----------	------------------

2020 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
(その他) 「犯罪をした知的障がい者の自立支援と社会保障法」	単	2021 年 1 月	第 497 回九州社会法研究会 (Zoom によるオンライン)	社会との関係における困難性及びその困難から発生する社会生活からの疎外などを要保障事故と捉え、社会生活から疎外されている状態にある犯罪をした者が社会復帰し、自立するための支援体制の現状と課題について考察する。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
放送大学 総合科目「社会福祉と法 (20)」第8回～第10回	印刷教材執筆担当講師・放送 教材担当講師	2020年4月～2024年3月

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
西南女学院大学生生活協同組合 理事長 2020年6月1日～2021年5月31日 図書委員会 委員 2020年4月1日～2022年3月31日 フォークソング部 顧問 KOIKOI 顧問

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	高口 恵美	職名	講師	学位	修士(社会福祉学)(福岡県立大学 2011 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
1.子どもの「生活力」に着目したグループワーク 2.メンタルヘルス課題に対する集団認知行動療法	メンタルヘルス、グループワーク、子どもの生活力、 ストレングス、学校ソーシャルワーク

研 究 課 題
子どもの貧困や虐待環境などが及ぼす様々な行動課題に対し、子ども自身がレジリエンスを高め、対応しうる力を高めるために必要なソーシャルスキルについて考察し、プログラムを作成する。

担 当 授 業 科 目
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（前期・後期） 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（前期・後期） 精神保健福祉援助演習Ⅱ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 専門研究Ⅰ（前期・後期） 専門研究Ⅱ（前期・後期） 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（後期） 相談援助演習Ⅰ（後期） 相談援助の理論と方法Ⅰ（前期・後期） 精神保健福祉相談援助の基盤専門（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ 】 精神科病院への実習に向け、支援を行う上で必要な、精神疾患に対する理解や制度サービスに関する知識を深めることが出来るよう指導を行った。また、自分の意見や思いを言葉で発信するスキルを高めるため、グループディスカッションや発表の場を多く設けた。また、Ⅱでは地域実習に向け、精神障害者が地域で生活する上での困難さについて理解し、一人ひとりがその人らしく生きるために、精神保健福祉士として担える役割について、ディスカッションを用いて理解を深めた。
授業科目名【 精神保健福祉援助演習Ⅱ・Ⅲ 】 精神科医療に限らず、メンタルヘルスに関する支援を行う上で必要な「家族・組織システムを理解する」という広い視点でのアセスメントを意識した演習を取り入れた。また、人のとらえ方（認知）と行動の関連性について理解を深めるため、自己覚知および他者理解の上での違いを受け入れるなどの視点を伝えた。
授業科目名【 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 】 精神保健福祉士としてクライアント理解を深めるための相談援助技術はもちろんのこと、精神疾患の理解を基盤とした、リハビリテーションの理解やプログラムの構築に必要な基本的知識を身に付けられるよう指導を行った。また、現場での多職種連携によるリハビリテーションの実際などを伝え、より実践的なイメージが深まるよう工夫した。
授業科目名【 精神保健福祉相談援助の基盤(専門) 】 精神保健福祉士を目指すうえで基礎的な知識を広く身に付ける教科であるため、テキストに沿って知識の共有を図ることを重視しながら、一方で現場に出たときに役立つよう、要約する、見やすくまとめるなどノートを活用した授業展開を行った。

授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】 主にリモートによる演習となったため、事前にグループワークの方法や視点を伝え、グループでの作業を多く取り入れ、相互交流の中で相談援助技術の基本的動作を実践できるよう工夫した。
授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅰ 】 クライアント理解、相談援助技術、支援の流れを学ぶ基本的な教科となるため、それぞれの項目について講義と簡単な演習もしくは動画視聴をセットにして、知識的な学びと体感的学びを取り入れた。とくに相談援助の展開方法については時間をかけて説明し、事例を使って小グループによるグループワークなどで理解を深めた。
授業科目名【 専門研究Ⅰ・Ⅱ 】 ゼミ生は様々なレーンに所属しているという強みを生かし、それぞれの関心や領域に応じたテーマを設定したプレゼンを基に、グループディスカッションを用いて視野を広げられるよう指導した。 また、4年生に関しては進路選択に繋がるよう、自己理解を深めるワークなどを取り入れた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		2009年～現在に至る
県立大学社会福祉学会		2010年～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会		2009年～現在に至る
心理臨床学会		2017年～現在に至る
日本精神保健福祉学会		2018年～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. ADHD タイプの大人のための時間管理プログラム：スタッフマニュアル	共	2020.12	星和書店	①ADHD タイプの大人のための時間管理ワークブックを使ってグループセラピーを実施する上でのガイドブックである。参加者の傾向に合わせて各セッションにおける目標を達成するための専門的見地をまとめている。 ②監修者：中島美鈴 共著者：谷川芳江 他 ③担当部分 総ページ数 P144 ④B5版
2. 働く人のための時間管理ワークブック	共	2021.1	星和書店	①働く人にとって必要なスキルである時間管理を基軸に、自己理解やコントロールを促すワークを通して、多様なスキルを身に着けることを目的としている。 ②監修者：中島美鈴 共著者：前田エミ 他 ③担当部分

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				総ページ数 P128 ④A4版
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1.コロナ禍における地域 公益活動の成立要因	共	2020.8	日本社会福祉学会	①コロナ禍における要保護児童の見守り、繋がり支援を目的とした、食事を通じた学校での居場所作りにおける、他機関や行政との連携、活動生起の流れについてまとめた。 ①共同発表者：前田佳宏

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 社会福祉士会 精神保健福祉士協会 北九州市精神医療審査会 大牟田市地域福祉計画推進委員会 福岡県教育委員会義務教育課	理事(2012～現在に至る) 委員 地域福祉推進委員 スクールソーシャルワーカーSV	2012年～現在に至る 2005年～現在に至る 2018年～現在に至る 2018年～現在に至る 2013年～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

学生募集委員会 委員 2020 年 4 月～

学生相談室 アドバイザー 2018 年 4 月～

地域活動支援室 女性活躍委員 2018 年 月～

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	杉谷 修一	職名	准教授	学位	教育学修士 (九州大学 1990 年)
----	-------	----	-----	----	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、ニューメディア、ゲーミフィケーション

研 究 課 題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2) 教育におけるゲーミフィケーションの社会学的分析に関する研究。 (3) ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担 当 授 業 科 目
道徳教育の理論と実践 (前期) (看護学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (福祉学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (栄養学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (英語学科) 社会調査の基礎 (前期) (福祉学科) 現代と教育 (前期) (英語学科) 現代と教育 (前期) (観光文化学科) 教育原理 (後期) (福祉学科) 教育社会学 (後期) (看護学科) 教育社会学 (後期) (福祉学科) 教育社会学 (後期) (栄養学科) 教育社会学 (後期) (英語学科) 社会学概論 (後期) (福祉学科) 初年次セミナーⅠ (前期) (福祉学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (福祉学科) 教職実践演習 (後期) (看護・福祉・栄養・英語学科) 養護実習 (福祉学科) 事前および事後の指導 (三期にわたる) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 道徳教育の理論と実践 】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。 遠隔授業であったため、道徳教育の動画視聴、クラスルームを活用した 指導案の添削指導などを心掛けた。
授業科目名【 社会調査の基礎 】 国家試験科目の中でも学生が得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などについて複数の比較を行うなど工夫して理解を助けた。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。

遠隔指導による板書指導の不足を補うため、ホワイトボードアプリの導入など工夫した。		
授業科目名【 現代と教育 】 現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。遊びの様子を理解させるために伝統玩具の製作プロセスのビデオを解説し、玩具の実物を手にとって理解できるよう心がけた。現代の動向についてはVRやARなど仮想空間上の遊びと現実の遊びや消費行動との結びつきについて解説した。 遠隔授業であったため、過去の遊びコンテンツを動画で視聴したうえで解説するなど工夫した。		
授業科目名【 教育社会学 】 子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関連をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。発展的学習として、キーワードを用いて複雑な対象を説明する方法について解説した。遠隔授業であったため、テキストの図表およびそれを補う視聴覚教材を準備し、そこに書き込み等ができるよう教材を工夫した。		
授業科目名【 社会学概論 】 国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や身近な現象でたとえた具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、抽象的な概念を映画のシーンなどを教材として活用した。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。本年度は遠隔授業中心であったため、クラスルームを活用して丁寧な指導となるよう心掛けた。		
授業科目名【 初年次セミナーⅠ・Ⅱ 】 1 年生対象授業でありながら遠隔授業となったため、できるだけ学生の発言を促す取り組みを行った。 Meet で小グループを作ってディスカッションを行い、スライド作成アプリでグループ共同作業を行うなどの形式を取り入れた。一方でグループ活動に抵抗感がある学生や、初年次セミナー以外でのつながりを希望する学生の要望に応えるために、時間外に初年次セミナーの Meet を活用して困らねどける機会を設け、そのリアクションを学生にフィードバックするなど、遠隔授業から大学生活を開始せざるをえなかった新入生支援を行った。		

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育社会学会 九州教育社会学会	紀要編集委員 (2009 年 4 月～2011 年 3 月、 2016 年 3 月～2016 年 12 月)	1985 年 6 月～現在に至る 1985 年 6 月～現在に至る
日本教育学会 九州教育学会 日本社会学会 日本教育方法学会		1990 年 5 月～現在に至る 1990 年 5 月～現在に至る 1990 年 11 月～現在に至る 1997 年 5 月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
特定非営利活動法人生涯学習指導者 育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー 講師	2007.9～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員 2014年4月1日～現在に至る 福祉学科リカレント委員 2019年4月1日～現在に至る

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	杉本 有紗	職名	講師	学位	人間環境学 (修士)
----	-------	----	----	----	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学 心理学的介入 心理リハビリテーション	高齢者臨床 臨床心理学的援助 役割意識 心理劇

研 究 課 題
・認知症高齢者の臨床心理学的理解及び臨床心理学的援助 ・対人援助場面における自己と他者の行動及び心理の理解を促す研修のあり方

担 当 授 業 科 目
初年次セミナーⅠ (前期) (福祉学科) ヒューマンサービス基礎演習 (前期) (福祉学科) 心理学概論Ⅰ (前期) (福祉学科) 発達心理学Ⅱ (前期) (福祉学科) 発達臨床心理学演習 (前期) (福祉学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (福祉学科) 社会心理学 (後期) (福祉学科) 高齢者臨床心理演習 (後期) (福祉学科) コミュニティ心理学 (後期) (福祉学科) 専門研究Ⅰ (通年) (福祉学科) 専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】 本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。2020年度は15～16名のグループを1グループあたり4回、全3グループを担当した。心理学研究法を題材とし、研究デザイン、実証的データのとり方、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。最後に一つの実験報告レポートを作成させた。本年度は遠隔授業であったため、家庭でも可能な実験デザインを提案し、人の心理や行動に関心に向け、問題意識を持つ、観察の意義を意識する、実証的データの分析への意欲を高めるなど、専門科目への導入がスムーズに進むよう工夫した。
授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】 本演習では、ヒューマンサービスの基礎となる対人場面での援助につながる自己理解の向上を目指した。2020年度は全1年生をAクラス3グループ、Bクラス3グループの計6グループに分け、1グループ約12名に分けた。教員3名は、各々Aクラス1グループ、Bクラス1グループの計2グループを担当した。本年度は遠隔授業であったため、自己理解を深めるワークを通して一人ひとりの学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回授業への導入として課した質問を通して全ての学生の意見を聞く機会を設けた。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況を把握し、次回フィードバックを行うなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう工夫を行った。

授業科目名【 心理学概論Ⅰ 】 本講義では、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学の研究手法、基礎となる理論や著名な研究、導き出された理論等、心理学の概論について解説を行った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。本年度は遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
授業科目名【 発達心理学Ⅱ 】 本講義では、青年期から老年期までの生涯発達心理学について、特に老年期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。本年度は遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
授業科目名【 発達臨床心理学演習 】 本演習では、事例論文についての解説ののち、論文講読を行った。発達心理学、臨床心理学に関係する事例論文を提供し、理解を深めるよう促した。本年度は遠隔授業であったため、ワークシートを作成し、シートに沿って、事例論文の特徴をつかみ、内容を吟味できるよう工夫した。論文の比較についての課題を課すなど、発達臨床分野での研究の動向について整理し、理解が深まるよう指導した。
授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】 本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。2020年度は15～16名のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。乳幼児の発達に関する文献を課題図書とし、課題図書の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課した。ワークシートを作成し、シートに沿って課題に取り組めるよう工夫した。 対面授業期間は、学生同士がグループで発表や意見交換ができるように促し、遠隔授業期間は、各学生より提出されたワークシートの内容を次の回までにまとめ、他の学生の意見を共有できるよう、学生に資料として提示した。また、最後に一つのレポートを作成させ、レポート能力の向上を実感できるようにした。
授業科目名【 社会心理学 】 本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて例示するよう促し、知識の定着を図った。本年度は少人数の受講者であったため、対面授業期間も、遠隔授業期間も、毎授業の初めに出席確認を兼ねて対話し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。
授業科目名【 高齢者臨床心理演習 】 本年度は受講する学生は0名であった。
授業科目名【 コミュニティ心理学 】 本講義では、コミュニティ心理学の基本的理念と具体的実践についての講義、解説を行った。前半は、教授内容を整理したプリントを配布して解説し、後半はコミュニティ心理学実践についての事例研究論文を講読した。対面授業期間、遠隔授業期間共に、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。また、前回の振り返りとともに小レポートの学生の意見を紹介し、学生の理解が深まるよう工夫した。
授業科目名【 専門研究Ⅰ 】 本年度は受講する学生は0名であった。
授業科目名【 専門研究Ⅱ 】 研究テーマの決定、関係する論文・文献の検索と収集、データの分析の指導を行った。また、目的から考察に至る文章の添削、研究レポートとしての体裁を整えるまでの指導を行った。遠隔授業による指導であったが、学生が手に入れにくい学内資料や文献情報を提供したり、オンラインで議論し合うなど、学生の研究レポートの質が高まるよう工夫した。1年間を通して、学生は自分自身で選択した研究テーマに基づいて研究を進め、研究レポートを仕上げることができた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理臨床学会 日本臨床心理劇学会 日本リハビリテーション心理学会 日本臨床心理士会 日本発達心理学会 日本心理学会	監事（2012年4月～現在に至る）	2001年～現在に至る 2001年～現在に至る 2002年～現在に至る 2004年～現在に至る 2007年～現在に至る 2008年～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州大学大学院人間環境学府付属総合臨床心理センター 大分県中津児童相談所 大分県中津児童相談所令和2年度施設支援専門事業「LSW研修」	研究員 非常勤心理判定員 講師	2020年4月～2021年3月（1年間） 2020年4月～2021年3月（月1回） 2021年3月5日（2時間）

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

(大学)

公開講座委員会 委員

職員研修委員会 委員

(学科)

ヒューマンサービス基礎演習 担当

福祉学科ニューズレター ワーキンググループメンバー

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 通山 久仁子	職名 講師	学位 博士 (コミュニティ福祉学)
-----------	-------	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動、NPO、持続可能性

研 究 課 題
発達障害のある人の親が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性（「親当事者」性）を基盤とした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通した「親当事者」への主体化過程とその意義について明らかにする。さらにこれらの活動の持続可能性に関わる課題について検討する。

担 当 授 業 科 目
相談援助演習Ⅰ（後期） 相談援助演習Ⅱ（前期） 相談援助演習Ⅲ（後期） 相談援助演習Ⅳ（前期） 相談援助演習Ⅴ（後期） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） 福祉入門（前期） 福祉経営論（前期） 生命倫理（後期） 社会福祉特講Ⅱ（集中） 専門研究Ⅰ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】 本年度は主に遠隔での実施であったが、グループセッションの機能を用いて、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。また学生自身が設定した問題意識に基づいてグループワークを行い、プレゼンテーションをする機会を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】 本演習は相談援助に関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的理念を同時に伝えられるよう努めた。本年度は主に遠隔での実施であったが、対面時と同様に、学生が技術・技法を体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイで練習する機会を設けた。ロールプレイの際には、面接場面をクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅲ 】 本演習は相談援助実習前の準備段階にある時期に開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で実際に用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないように、

その基盤にある福祉的理念を十分に説明する機会を設けるようにした。本年度は主に遠隔での実施であったが、グループセッションの機能を用いて、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅳ 】 本演習は相談援助実習と連動して開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。実習後の指導では、実習生の自己評価結果をレーダーチャートで示せるようにし、自身の到達度を視覚的に認識できるよう工夫した。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅴ 】 本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であるため、実習で習得した知識や技術を総合して、学生が創意工夫しながら福祉課題に対する課題解決方法を見出していけるような演習となるよう努めた。また個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。その中で、学生の学びとしては馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得できるような事例を取り入れた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】 実習前指導を行う本科目では、実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いすの使用法や、実習施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けるとともに、基礎的知識の習熟度試験を行い、基本的な技術と知識を確認する機会を設けた。本年度は見学実習を実施することができなかったため、視聴覚教材等を用い、利用者の障害特性や障害者支援の方法や課題等をできるだけイメージできるようにした。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法については演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、それぞれの実習施設ごとにプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。 今年度は実習の中止や延期等への対応が必要であったため、学生や各実習施設への説明を十分に行い、感染症予防を徹底して安全に実習が行われるよう調整を行った。
授業科目名【 福祉入門 】 本科目は 4 人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の 2 コマを担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。
授業科目名【 福祉経営論 】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。 本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢が近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。
授業科目名【 生命倫理 】 本科目では、生命倫理の課題に対して、学生が第三者としてではなく、当事者として考えられるよう、学生も将来的に直面する可能性のある、生殖補助医療や出生前診断といった、身近な話題を取り上げるようにした。

またこれらの課題を具体的に理解できるよう、DVD 等の視覚教材をできるだけ用いるようにした。そしてこれらの課題を通じて学生が人間の生死に対する自身の考えを深められるよう、できるだけ授業中に学生の意見を求め、相互に学び合える機会を多く設けるようにした。
授業科目名【 社会福祉特講Ⅱ 】 本科目は 5 人の教員によるオムニバス形式の講義である。4 年次の国家試験対策として位置づけられており、「福祉サービスの組織と経営」、「就労支援サービス論」を担当した。講義では、本試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中心に、問題演習を取り入れながら実施した。
授業科目名【 専門研究Ⅱ 】 前期は学生の関心のある文献を取り上げ、その読み方を中心に、論文作成の方法についての学習を進めた。後期は学生の関心のあるテーマにしたがって、論文作成に向けた指導をした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2004 年～現在に至る 2005 年～現在に至る 2009 年～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（学術論文） 発達障害のある人の「親当事者」団体における組織の継承 — A 特定非営利活動法人にみるフォロワーの主体形成を促す組織運営 —	単	2021.	西南女学院大学紀要 Vol.25	①本稿では、発達障害のある人の「親当事者」団体が地域における社会資源のひとつとして有効に機能していくための組織の持続可能性について、組織を担う人材の主体形成の側面から検討した。 ②pp.

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
発達障害者の「親当事者」組織と多様なアクターの協働による地域生活支援に関する研究	日本学術振興会	○通山 久仁子	1,950,000

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害支援区分認定審査会 北九州市児童福祉施設等第三者評価 委員会	理事 委員 委員	2008 年 6 月～現在に至る 2013 年 4 月～現在に至る 2020 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
【教育経費予算委員】 2020 年度より本委員を務めている。学科の教員に対しては学科全体の予算をわかりやすく説明できるよう資料等を工夫した。今年度は感染症対策のための予算が必要となり、予算の組み換え等の学内の調整を行った。 【保健福祉学研究所運営委員】 2017 年度より本委員を務めている。研究所報告会の運営の補助等を行った。 【社会福祉士国家試験対策委員】 オリエンテーション時に国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1 年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。今年度は週 2 コマ国試対策を行い、前期に穴埋め試験、過去問演習、後期に一問一答試験（基礎編、応用編）、過去問 3 年分の問題演習を継続して行い、互いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくるようにした。また個別面談を行い、特にフォローが必要な学生について、丁寧に個別指導を行えるようにした。

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	中島 俊介	職名	教授	学位	博士 (学術)
----	-------	----	----	----	---------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
心理学	メンタルヘルス 心理教育 地域精神保健

研 究 課 題
平和・文化的活動における学生のメンタルヘルス向上効果の心理教育モデルの構築

担 当 授 業 科 目
保育内容 (人間関係) 教育心理学 こころと人間 発達心理学 保育の心理

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育内容 (人間関係)】 少人数なので学生との対話型授業に工夫と努力した。心理劇を演じて学習をする計画であったが、オンライン授業のため、それに代わる方法を模索した。「ケンカや遊び場面」での人間関係の問題点に自然に気付くように配慮した。人間関係の基礎である、「聞く力・書く力・話す力」が向上したと自負している。
授業科目名【教育心理学】 教育学と並んで教職科目の重要科目の一つである。教員採用試験合格を意識して、必ず「試験問題風の課題」をテーマにするように心がけた。期末の課題レポートも採用試験を意識した内容とした。教師として最も重要な「人権感覚」のセンスも磨けるように配慮した。
授業科目名【こころと人間】 オンライン授業では学生の講義に対する興味と集中力をいかに高めて持続させるかについて苦慮した。今年度も「映像を講義中に必ず入れる」は実行できた。「学生の感想・質問をできるだけ活かす」に挑戦し、できるだけ発問をして意欲を喚起した。
授業科目名【発達心理学】 看護の仕事は人間の年齢ごとの発達課題を学習しておくことは必要である。看護学科の必須科目の訳である。エリクソンの「人生 8 段階説」を基盤にして胎児期から老年期までをその周辺のトピックと共に講義した。
授業科目【保育の心理学】 保育の心理学は子どもを対象とする保育士の重要な科目であると認識している。オンラインだったので他の学生の反応に対して丁寧に返すように努力した。次年度も挑戦したい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本心理学会		2018 年 4 月加入
日本教育心理学会		1982 年 4 月加入
日本人間性心理学会		1998 年 4 月加入

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市人権施策審議会委員（第一期・二期・三期・四期、現在に至る）	第三期より委員長	2003年から2021年6月まで

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
なし

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	西丸 月美	職名	講師	学位	教育学修士
----	-------	----	----	----	-------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
学校保健、健康教育	専門性、養護教諭、多職種連携

研 究 課 題
養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。具体的には、不登校・教室外登校の児童生徒に対する支援において、養護教諭と多職種連携について考察する。さらに現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。

担 当 授 業 科 目
地域保健学Ⅱ 看護臨床実習 事前及び事後の指導 基礎看護技術 養護実習 学校保健教育法 養護概説 教職実践演習 看護学 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習(病院実習)、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク(ロールプレイなど)も取り入れておこなう。授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会を行った。オンラインの授業においても classroom を活用しグループワーク等を行った。
授業科目名【基礎看護技術】 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。当科目では、養護教諭として必要な基礎的看護技術、および児童・生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法に関する知識を養うことを目的とする。感染防御技術を中心とした「健康と環境」、健康状態を判断するための「フィジカルアセスメント」、学校現場で起こりうる状況に対する「応急処置」に関する基礎的知識と看護技術、学校現場で遭遇することの多い健康問題への対応としての「健康問題がある場合の援助技術」について、講義による解説と、現場で役立つ技術の演習を実施した。オンラインの授業では、看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例や用具を用いて行った。また、実技のライブ配信を行い、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるための工夫を行った。

授業科目名【看護臨床実習】 本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。机上の学修を実際の医療の現場に参加することにより、より実践的な知識および技術を深めることを目的として実習をおこなう。さらに、医療活動の実態を知ることにより、広く保健医療の一環としての学校保健の在り方について考察し、養護教諭の果たすべき役割を見出せるよう実習をすすめていく。 3年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより具体的な事例を用いて授業を行った。 4年生の看護臨床実習では、オンラインの授業において学校現場で実際行う保健指導ができるようグループワーク等を取り入れた。
授業科目名【学校保健教育法】 学校における保健教育の意義及び学習指導要領の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校における保健学習、保健指導の位置づけ、目標・方針・内容等について解説する。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中・高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。オンラインの授業において一人ひとりが、保健指導の指導案、教材を作成し、10分間の保健指導を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。 教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。
授業科目【養護概説】 学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、保健指導と健康相談などである。 オンラインの授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。特に保健室経営についての講義では、「私の理想とする保健室」について、ディスカッションを行い、グループごとに発表を行った。
授業科目【事前及び事後の指導】 養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的にこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることを期待する。 授業は新型コロナウイルス感染症の影響で予定通りに進まないこともあったが、養護実習前にオリエンテーションを行い、人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、報告会を実施した。
授業科目【看護学】 看護の概念、看護の歴史及び養護教諭として必要な看護の基礎理論と養護診断について解説する。各論においては、ライフサイクルに応じた、小児看護、思春期看護、耳鼻咽喉科疾患の看護、眼科疾患の看護、歯科保健などについて解説する。また、学校保健と看護との関係について考察を加える。児童生徒等に多く見られる突発的な傷病について、緊急度の判断の方法及び適切な処置・対応を行うために必要な知識と技術についても解説する。 オンラインの授業では、各論ごとに特徴的な疾患についてプレゼンテーションを行い、基礎的な知識の定着を図った。
授業科目【教職実践演習】 この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的スキルと資質・能力の向上を目指す。 養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習をおこない、学校現場における実践的な力を身につけるために授業の構造を工夫した。さらに、現職の養護教諭の講話「性に関する指導」、「特別支援

教育における養護教諭の役割」について外部講師を招き、実践力を高めるための工夫を行った。オンラインの授業においてもできるだけ実践力を高めるために、グループワークを多く取り入れた。
授業科目【養護実習】 養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において3週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実習期間が変更になる学生が多かったが、全ての学生が実習を終了し、実習報告会を実施した。
授業科目【専門研究Ⅰ】 専門研究Ⅰでは、テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。また、3年生と4年生の交流を行い、教員採用試験対策等につて情報交換を行った。さらに、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるように工夫した。オンラインの授業においてもできる限り、グループワークを取り入れるなどの工夫を行った。
授業科目【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭として視点から専門性を深め、さらに、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成にも工夫した。オンラインの授業においてもできる限り、グループワークを取り入れるなどの工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本学校保健学会員 日本教育心理学会員(現在に至る) 日本教育保健学会会員(現在に至る) 日本人間性心理学会会員(現在に至る) 日本教育カウンセラー学会員(現在に至る) 日本学校心理士会学会員(現在に至る) 日本アロマコーディネーター協会会員(現在に至る) 日本養護教諭教育学会 第23回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局 日本産業カウンセラー協会学会員(現在に至る) 日本養護教諭教育学会 第28回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局		平成21年4月～(現在に至る) 平成21年9月～(現在に至る) 平成21年6月～(現在に至る) 平成22年6月～(現在に至る) 平成26年8月～(現在に至る) 平成27年1月～(現在に至る) 平成27年1月～(現在に至る) 平成27年10月 平成28年2月～(現在に至る) 令和元年4月～(現在に至る)

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

(学会発表)				
(その他附属研究所 報告会発表) 「教職実践演習」における養護教諭と多職種連携の教育効果の研究	共	2021.3.25	西南女学院大学 保健福祉学部研究所 報告会 (於 西南女学院大学)	①「教職実践演習」においては 学生の受講前と受講後に自己評価式アンケート調査を行い、行動目標の変化を分析し、「教職実践演習」で事例を用いた養護教諭と多職種連携のあり方について、学生の自己評価をもとに教育効果について発表した。 ②共同発表者名 西丸月美 一期崎直美
(共同研究) (その他附属研究所 報告会発表) 養護教諭の専門性に関する基礎研究 (中間報告) 養護教諭の専門性に関する基礎研究 (中間報告)	共	2021.3.25	西南女学院大学 保健福祉学部研究所 報告会 (於 西南女学院大学)	①男性養護教諭が発行した通信をテキストデータ化し、男性養護教諭と子どもとの相互関係について分析した。養護教諭の専門性の再構築につながる可能性について報告した。 ②共同発表者名 一期崎直美、 新谷恭明 西丸月美

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位 : 円)
「教育実践演習」における養護教諭と多職種連携に関する事例を用いた教育効果の研究	西南女学院大学 保健福祉学部研究所	○西丸月美 一期崎直美	227,000
養護教諭の専門性に関する基礎研究	西南女学院大学 保健福祉学部研究所	○一期崎直美 新谷泰明、西丸月美	298,480

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位 : 円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会委員 2019年4月～2021年3月31日 教員免許状更新講習プロジェクトリーダー 2019年4月～2021年3月31日 教員免許状更新講習講師 2019年4月～2021年3月31日 キャンパスハラスメント委員 2020年4月～2021年3月31日 オープンキャンパス模擬授業 講師 2018年8月～2021年3月31日

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	文屋 典子	職名	講師	学位	修士 (社会学) (関西学院大学 1994 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研 究 課 題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担 当 授 業 科 目
相談援助の理論と方法Ⅱ (通年) 相談援助実習指導Ⅰ (通年) 相談援助実習指導Ⅱ (通年) 相談援助実習 (通年) 相談援助演習Ⅱ (前期) 保育実習指導Ⅲ (通年) 保育実習Ⅲ (通年) 家庭支援論 (前期) 保育者論 (後期) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅱ 】 一般システム理論がソーシャルワーク理論の中にどのように組み込まれ、現在のソーシャルワーク実践に結びついているかを理解すること、ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用視点を理解し、問題状況を捉える“視点を涵養することに重点をおいた。ソーシャルワークのアプローチについてはその起源となる社会的背景や基盤理論をふまえてそれぞれの特徴を理解できること、具体的な事例を用いることにより、アセスメントや介入における各アプローチ固有の“視点”を理解することに重点を置いた。 オンラインでの授業が中心となったため、毎回の授業で提出される学生のコメントに必要な応じて返答すること、他の学生のコメントを紹介して共有することを丁寧に行うよう心がけた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】 通常は、グループディスカッションやロールプレイを行うことを中心に進める授業であるが、今年度はオンラインでの授業となり、授業開始当初は学生の通信環境に大きな差異があり、数名の学生においては学生側が発言しようとする通信が途絶えるなどの現象が生じていたため、すべての学生が参加、発言できる授業であるために、コメント送信機能による双方向授業の形で授業を行った。学生の授業感想としては「初めてコメントを送信するときは緊張したが、慣れてくると Meet でカメラやマイクをオンにするより抵抗がなく、積極的に意見を表明することができた」「みんなのさまざまな意見を聞くことができ、改めて自分自身のものの見方をじっくり振り返ることができた」などの意見が多く見られた。このような形態で授業を進めることができたのは、一人ひとりの学生の積極的な参加と文字入力スキルの高さによって支えられたものであると考える。

授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習前の事前学習では個別指導を複数回行い、各自の関心事と実習に臨む姿勢・準備性をふまえたうえで、実習課題を明確化しよう心掛けた。前期実習終了後には、自己の実習課題に対する達成度と後期の実習までに自身が取り組むべき課題について各自が振り返りを深めるワークに取り組み、さらに成長して後期実習に臨むことをめざした。Covid-19 の感染拡大状況により実習中止や延期が繰り返されたため、学生のモチベーションを支えることが重要な課題だったが、このような状況だからこそ、一人ひとりの学生の実習に真摯に向き合う姿勢が見られたと考える。約半数の学生が後期実習を終えられていないが、十分な準備を行って実習開始を迎えられるよう、引き続き取り組んでいく。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】 子どもの発達や特性、障害の理解、実習施設の役割と機能、援助の実際について、資料や視聴覚教材による学習とグループ学習を中心に学びを深めた。Covid-19 感染拡大により今年度は見学実習を実施することができなかったが、3 年生の実習報告から実習へのイメージを深め、事前に学ぶべき課題を明確にすることができた。
授業科目名【 家庭支援論 】 現代の家族をとりまく状況を概観し、個人と深いかかわりをもつ家族に目を向けて支援することの意義、家族の様々なかたち、家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論をふまえ、家庭支援に求められる援助者の視点や姿勢を涵養することに努めた。
授業科目名【 保育実習指導Ⅲ 】 これまでの保育実習、相談援助実習で学んできたことと自身の課題を踏まえつつ、実習目標を各自が設定し実習計画書を作成すること、事前学習として実習先での支援の実際、障害特性、利用者や児童福祉施設の現状について理解を深めて実習に臨むよう、個別指導に重点を置いた。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいて各学生の学びや課題を整理し実習報告会を実施、実習のまとめを行った。
授業科目名【 保育者論 】 視聴覚教材を用いて保育者の職務内容と実際の子どもの姿を具体的にイメージし、保育者の役割と倫理、保育士に求められる資質・能力・専門性について理解を深めた。福祉学科においてソーシャルワーク・心理学・保育の知識・技術を修得することと、子どもと家庭の支援に携わるうえで求められる専門職としての姿勢や知識・技術とが結びつき、これからの大学での学びに対する学生の意欲につながるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1992 年 10 月～ 現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 3 月～ "
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991 年 11 月～ "
日本家族研究・家族療法学会		1998 年 11 月～ "
日本小児保健学会		1997 年 5 月～ "
日本特殊教育学会		1999 年 8 月～ "
日本保育学会		2011 年 10 月～ "
日本医療保育学会		2016 年 5 月～ "

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月 桃子 野井 未加 山本 佳代子 樋口 由貴子	1,671,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
社会福祉法人喜久茂会 北九州市 指定管理者の評価に関する検討会議 社会福祉法人あゆみの森たけのこ会	評議員 臨時構成員 評議員	2017年4月1日～2021年6月 2020年7月 2021年3月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員 キャンパスハラスメント相談員 吹奏楽部顧問

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	水貝 洵子	職名	講師	学位	臨床心理修士 (専門職)
----	-------	----	----	----	--------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学	青年期 発達障害児者 生涯発達 アクションメソッド

研 究 課 題
青年期前期後期における発達障害者への臨床心理学的支援の在り方について検討を行う。 特に、臨床動作法や心理劇などのアクションメソッドを用いた支援の在り方について検討を行う。

担 当 授 業 科 目
ヒューマンサービス基礎演習 (福祉学科, 前期) 初年次セミナーⅠ (福祉学科, 前期) 家族心理学演習 (福祉学科, 前期) 保育の心理学Ⅱ (福祉学科, 前期) 対人関係論 (看護学科, 前期) 初年次セミナーⅡ (福祉学科, 後期) 臨床心理学概論 (福祉学科, 後期) 発達臨床心理学 (福祉学科, 後期) 認知行動療法基礎演習 (福祉学科, 後期) 臨床健康心理学 (看護学科, 後期) 専門研究Ⅰ (福祉学科, 通年) 専門研究Ⅱ (福祉学科, 通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 対人援助に関する専門知識を学習するうえでの基礎的態度の涵養を目的として、各授業回では、これまでの自身の経験を振り返るなどの自己理解を深めるワークを実施した。1 年生は互いのことを知らないまま遠隔にてワークをすることとなったため、緊張感が高いことが推測された。そのため、遠隔でも実施できる自己紹介ワーク等を適宜実施して緊張感を低減し、自己理解が深まりやすい心理状態となるよう配慮した。
授業科目名【家族心理学演習】 家族の成立から、その後の家族がたどる発達段階についてその特徴や課題、支援の在り方についての解説を行った。事例などを提示して、受講学生にとって、より実践的に家族の特徴や課題を捉え、支援について考える機会となるよう心掛けた。
授業科目名【保育の心理学Ⅱ】 乳幼児の発達に関する解説では、具体的な子どもの様子を伝えたり映像を見せるなどして、学生の理解が得られやすいよう配慮した。また、発達状況にあわせた適切な関わり方について学生自身が考える機会を設けた。子どもへの一律的な対応でなく、個性や発達状況に応じた関りについて考えることの重要性について伝えた。
授業科目名【対人関係論】 1 年生を対象に看護の対人関係の基礎となる心理学的理論や知識について解説を行った。心理学を学習するのは初めての学生が多いと考えられたため、学生からの各授業への質問や感想などに対し、次の授業で回答や解説を行った。相互的なやり取りを増やし、学生の理解が促されやすいよう配慮した。

授業科目名【臨床心理学概論】 1 年生を対象に臨床心理学の基礎的理論について解説を行った。学生からの各授業への質問や感想などに対し、次の授業で回答や解説を行うなどして、学生の知識の定着や理解の深まりをはかった。
授業科目名【発達臨床心理学】 発達障害当事者の手記などを題材として、障害当事者の体験理解を目指した。少人数の授業であったため、資料を読んで考えたことなどの意見交換の場を多く設けた。障害に対し多面的に考える機会となるような様々な事例を提示した。
授業科目名【認知行動療法基礎演習】 認知行動療法について初めて学習する受講学生もいたため、授業前半では基礎的な用語や理論について時間をかけて解説した。後半は、医療や福祉など様々な領域において実践された事例を紹介し、学生が学習した知識や理論をどのように実践臨床の場で活かしていくのかイメージできるよう工夫した。
授業科目名【臨床健康心理学】 臨床心理学についての基礎知識および医療現場で出会う患者の心理についての解説を行った。受講生によって臨床心理学に関する基礎知識への理解度の差がみられたため、基礎的な内容について解説を行うとともに、医療現場ではどのように活かされるのか具体例を挙げたり、適切な対応例を挙げるなどして発展的な内容となるよう配慮した。
授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 受講学生の提出した課題に対し、学生の中で多かった回答内容や模範となる回答内容などを示しながら、ポイントの解説を行った。課題に関して教員と学生間で一方的なやり取りに限定されないよう、上記のような方法で課題に対するフィードバックを行うなど受講学生との相互的なやり取りを心がけた。
授業科目名【専門研究Ⅰ・Ⅱ】 学生の興味関心のあるテーマに沿って文献を選択し、そのテーマや領域での基本的概念の整理や課題の検討を行った。学生が意欲的に学習に取り組めるよう、学生それぞれの興味関心に応じ文献を選択してもらった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本臨床心理劇学会		2010 年 4 月～現在に至る
日本リハビリテーション心理学会		2010 年 4 月～現在に至る
日本心理臨床学会		2013 年 4 月～現在に至る
日本発達心理学会		2016 年 4 月～現在に至る
特殊教育学会		2016 年 4 月～現在に至る
日本心理学会		2019 年 4 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター	研究員	2020 年 4 月～2021 年 3 月
大分県立病院	非常勤心理士	2019 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会 2020 年 4 月～2021 年 3 月

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山根 正夫	職名	教授	学位	教育学修士
----	-------	----	----	----	-------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害児保育・発達障害児（者）の援助方法・応用行動分析・保育ソーシャルワーク	障害児保育・発達障害・自閉スペクトラム障害・応用行動分析・保育ソーシャルワーク

研 究 課 題
障害児・者の援助全般について行動分析的視点から考察する。 保育におけるソーシャルワークのあり方に関する検討。

担 当 授 業 科 目
子ども家庭福祉論 障害者福祉論 障害児保育 社会的養護 社会的養護内容 相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 保育実習指導Ⅰ・Ⅲ 保育実習Ⅰ 保育実習Ⅲ 専門研究・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 子ども家庭福祉論・障害者福祉論 】 社会福祉士養成のための必修科目であり、遠隔授業でレジメを準備しパワーポイントを利用して講義した。子ども家庭福祉論については、授業のまとめノートを作成し、提出を求めた。障害者福祉論は少しの期間対面授業があったが遠隔授業となり、最終レポート提出で評価した。両科目とも一方的になりがちであったので授業の途中で学生に語り掛け応答することで理解の深化に勤めた。
授業科目名【 障害児保育 】 演習系科目であり、副読本についてノート作成し提出させ、点検の上返却した。今年の授業の大半のコマは、課題に沿って講義形式になり、遠隔授業が後期に少し慣れてきたので学生のグループを作り、在宅という環境の中でお互いに分担して調べた内容について、プログラム準備、プレゼンテーション、ディスカッション、教員による解説の流れで授業を進めた。学生にとって自分の担当課題は理解が深まっているがそれ以外の講義内容の理解についてはばらつきが大きい。
授業科目名【 相談援助演習 】 授業の方法はほぼ共通であるが、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（Ⅴの後半部分はコミュニティワーク）については、前期授業では教員が現代の児童家庭の課題を示して話題提供し学び、後期に遠隔授業に慣れてきたので、それについて学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられるきらいがあり、個々の生活実態の臨床的な側面からの学習の深化を得られなかったのではないかと危惧している。慣れない環境下であったが、学生同士で協力し画面上での共有はできたのではないかと考えている。

授業科目名【 保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅲ 】 複数教員による合同授業である。保育実践への導入教科であるため、より現場感覚に沿った遠隔授業構成とした。
授業科目名【社会的養護・社会的養護内容】 保育士資格取得のための必修科目であるが、前者はオープン科目で、教科書中心に解説し、理論的・制度的な理解を求めた。後者は演習科目であったが遠隔授業で情報等の利用に不慣れであることを想定し、教員が教科書を中心に話題提供し画面上で討議する方法を取った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本特殊教育学会 日本行動分析学会 日本発達障害学会 日本福祉学会 日本保育学会 福岡教育大学附属障害児治療教育センター研究部員 日本保育ソーシャルワーク学会		昭和51年4月～ 昭和61年4月～ 平成7年9月～ 平成12年11月～ 平成22年4月～ 平成28年～

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 特になし				
(学術論文) 特になし				
(翻訳) 特になし				
(学会発表) 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
九州市児童福祉施設等第3者評価委員会委員 北九州市福祉事業団評議員 社会福祉法人福音会評議員 社会福祉法人喜久茂会理事 北九州市社会福祉審議会委員 北九州市社会福祉協議会評議員	会長 児童福祉部会長	平成28年4月～平成30年3月 平成29年4月～平成30年3月 平成29年11月～ 平成29年11月～ 平成29年4月～平成31年3月 平成29年4月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生総合支援室長 倫理審査委員

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	山本 佳代子	職名	助教	学位	学士 (体育学) 福岡大学 1996 年
----	--------	----	----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会体育学 レクリエーション 障害 余暇	障害 余暇 きょうだい アート

研 究 課 題
学齢期以降の障害のある人を対象としたアート活動の意義 重篤な疾患や重度の障害を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討

担 当 授 業 科 目
相談援助演習Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 基礎実習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 対面授業が可能な時期に、学生同士の交流が深まるよう授業スケジュールを組んだため、その後の遠隔授業への切り替えも問題なかった。遠隔授業での演習ではあったが、少人数でのグループワークを定期的に行い、学生間で意見交換をしながら学びあえる環境が整えられるよう工夫した。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】 遠隔授業であったが、対面授業で行っていたプログラムを実施できるよう、適切な映像教材を探し、実習に関する基本的な知識を取り入れられるよう工夫した。また、グループワークでの学習では、パソコン作業に不慣れな学生を個別に指導し、メンバー間で協力し作業に取り組めるよう配慮した。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 コロナ禍のため、実習時期が定まらない学生が多数発生した。調整をし続けるとともに、随時連絡し不安が増さないよう配慮した。また実習が決定した学生に対しては、個別に実習指導を行い準備を整え実習を行った。終了後は、全体で実習生の学びを共有できる場を設け、一人ひとりの実習につながるよう工夫した。
授業科目名【基礎実習】 コロナ禍のため閉講。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本レジャー・レクリエーション学会		2004～
九州レジャー・レクリエーション学会		2013～

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月 桃子 野井 未加 文屋 典子 樋口 由紀子	1,818,200 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
障害のある子どもときょうだいの余暇活動支援 チャレンジ	子ども夢基金	120,000 円	コロナ禍で活動中止のため取り下げ

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
○ボランティア相談室 ○障害のある子どもときょうだいを対象とした余暇活動支援 チャレンジ

荣 養 学 科

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9(2020))

氏名	青木 るみ子	職名	講師	学位	修士(栄養学)(神戸学院大学 2004年)
----	--------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
給食経営管理 健康教育学・食教育 栄養学	給食施設・衛生管理・HACCP 食教育・ライフスキル 幼児期・学童期・食育

研 究 課 題
1. 中小規模給食施設における衛生管理体制に関する研究 2. 給食施設内厨房調理器具の洗浄度検査および洗浄方法の検討 3. 食中毒統計資料を用いた給食施設食中毒発生状況の分析 4. 児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討

担 当 授 業 科 目
給食計画論(2年前期) 給食経営管理論(2年後期) 給食経営管理実習Ⅰ(2年後期) 給食経営管理実習Ⅱ(3年前期) 総合演習Ⅰ(3年前期) 臨地実習Ⅰ(3年後期) 管理栄養士演習Ⅱ(4年通年) 卒業ゼミ(4年通年) 実践活動(3年後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【給食計画論】2年前期科目 後期開講科目である給食経営管理実習Ⅰ(以降、実習Ⅰとする)の基盤となる科目である。本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養・食事管理の内容として、①対象者の栄養アセスメント、②食事摂取基準 2020 年版の給食管理における活用、③献立立案、④栄養・食事管理の評価、改善について演習を通して理解と実務の習得を促した。講義は、指定教科書を中心に行うが、行政通知などの追加資料および重要ポイントをまとめたPPを活用した。また、実習Ⅰ(後期)の栄養・食事管理の資料とするため、履修学生個人の栄養アセスメントを実施させ、実務に結びつける指導を意識している。得られた情報の秘匿性は十分に説明した上で、教員が情報を集約し、実習Ⅰのアセスメント情報として活用することとしている。 本講義では、実習Ⅰに必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」、「衛生管理」も詳細に解説している。「衛生管理」については、厚労省食中毒発生状況調査等のデータを数値化して見せ、さらに実際の食中毒事故の原因や影響等を紹介し、「食中毒」という事故を身近な危険として認識させるようにし、衛生管理への意識向上を図っている。
授業科目名【給食経営管理論】2年後期科目 各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促している。本講義の中では、同時開講となる実習Ⅰの帳票類全般の解説も行っている。会計・原価管理に必須の「損益分岐点分析」や食材原価の管理に必要な「ABC 分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。特に「ABC 分析」には、前年度の実習Ⅰの食品の総使用量を使用して

おり実習と講義の連動性を重視している。衛生管理に関しては給食計画論で解説しているが、食中毒事故を防止するためにも重要な内容であるため、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則した帳票の確認も行い、周知徹底に努めた。さらに、3 年生後期に控える臨地実習Ⅰの実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。この項目はライフステージ別の栄養学である『応用栄養学』や行政の栄養学である『公衆栄養学』との関連もあるため、これらの科目との関係性も意識した解説を心掛けている。また、各種特定給食施設の内容として、定期的に改定が行われる『診療報酬』や『介護報酬』についても、改定部分を簡略化して説明している。
授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】2 年後期科目 給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得することに重点を置くが、2020 年度は調理工程及び提供管理を実施することができず、給食業務内の「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「衛生管理」について指導を行った。遠隔授業対応として「調理工程管理」および「提供管理」については、実習予定であった 6 種類の給食献立の大量調理を行う上での特徴及び注意点を調理デモを実施しながらオンラインで指導を行った。
授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3 年前期科目 実習Ⅰに引き続き、1 クラス 6 班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「大学生（女性：18～29 歳）対象給食献立」の立案を「実習Ⅰ」の課題として行い、献立をもとに提供食数 100 食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。「給食経営」という特殊分野の理解を深めるため、「給食計画論」～「給食経営管理実習Ⅰ」～「本実習」というように、連動した内容としている。 しかしながら、2020 年度は休講および遠隔授業のため、調理工程及び提供管理を実施できず、給食業務内の「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「衛生管理」についてのみ指導を行った。遠隔授業対応として『新調理システム』『給食施設におけるアレルギー対応』の項目を盛り込み、通常の実習では時間の関係上、導入ができない項目を積極的に実施した。
授業科目【総合演習Ⅰ】3 年前期科目 3 年後期科目である「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」のための事前指導を中心とした科目である。また、「高齢者施設」、「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関する講義を行うことで、「臨地実習Ⅰ」への理解を促した。給食施設では食事の提供と同時に健康・栄養情報の提供を行う義務があるため、臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、オンラインで栄養教育を実施させた。 また、本学科の臨地実習として最初に学外へと出る実習であるため、実習Ⅰ～Ⅲに必要な準備物から社会的なマナー指導までを 14 回の時間内および時間外で徹底して取り組んでいる。この部分に時間を割くことが最も多く、近年では指導の難しさを痛感しているところでもある。また、2020 年度は実習受け入れの条件として「新型コロナ感染症対策」が強く求められていたため、感染症対策指導に多くの時間を割いた。
授業科目【臨地実習Ⅰ】3 年後期科目 学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対しての栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に際し、実習先より課せられる事前課題（献立作成、栄養教育計画等）の指導を個別に実施した。事後指導として、実習先への礼状の指導および臨地実習Ⅰのまとめを行う報告会（対面＋オンライン）を実施した。2020 年度は、新型コロナ感染症拡大のため、実習施設からの受け入れ辞退が相次ぎ、学内での振り替え実習を実施せざるを得ない事態が発生した。振り替え実習対象学生に対しては、日本給食経営管理学会作成の「臨地実習振り替えプログラム」を活用し、十分な指導を実施した。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】4 年通年 「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。前期では、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、後期では、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、大量調理施設衛生管理マニュアルの改定内容等を中心に重要ポイントを解説した。診療報酬および介護報酬は近年の改定内容を中心に知識の定着を行った。各項目とも過去約 10 年間の国家試験問題および業者模試の問題を

徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その際、管理栄養士演習全体の指定教科書としている要点集と給食経営管理論の教科書の該当箇所を見直しを行った。以上の指導方法は例年通りであるが、本年度も得点率は飛躍的に上昇した。
授業科目名【卒業ゼミ】4年通年 障害者支援施設の給食部門と連携したお弁当の企画・販売を行った。販売店舗の立地、客層、現在の人気商品等のマーケティングリサーチから行い、献立計画・立案を行わせた。今回は九州各県の郷土料理を採用し、地域色を強く押し出した献立内容とした。栄養面はもちろん、衛生面でからも弁当として適しているか、また、給食施設の人事・設備面で生産可能かどうかを考慮し、計画を進めた。今回の実践活動から、献立はただ単に栄養面に着目するだけでは不十分であると身をもって学ぶことができたようである。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4～現在
日本調理科学会	正会員	2012.4～現在
日本栄養士会	正会員	2012.4～現在
日本給食経営管理学会	正会員、評議員、研修委員	2013.9～現在
日本災害食学会	正会員	2016.4～現在
JKYB	正会員	

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠第12巻 給食経営管理論 実習 給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解	共著	2021.3.15	医歯薬出版株式会社	① 管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラム2015準拠の第12巻目の教科書である。給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解について纏められている。 ②監修 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 編者 富田教代，神田知子，朝見祐也 共著者 青木るみ子他11名 ③担当部分 第3章 6) p.58 第4章 3) ～5) p.71～75
（学術論文） 給食器具洗浄用スポンジタワシの洗浄方法の検討～洗浄直後のスポンジタワシ表面に対するATPふき取り検査法を用いた評価～ 【査読あり】	共著	2020.9	日本給食経営管理学会誌 Vol.14 No.2	①本研究は、簡便、且つ迅速に洗浄度の評価が可能なATPふき取り検査法を用いて、大量調理衛生管理マニュアルに詳細な取り扱い指示の記載がない給食器具等洗浄用スポンジタワシの消毒・殺菌の前段階である「洗浄直後の

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
給食施設内設置冷蔵庫取っ手の洗浄方法の検討 【査読あり】	共著	2021.3	日本調理食品研究会誌 Vol. 26 No.3	スポンジ表面の洗浄度」の評価と「洗浄方法」の検討を試みた。 ②共著者 青木るみ子，竹之山愼一，朝見祐也 ③担当 データ分析，論文執筆 全頁 p76～84 ①給食施設において使用頻度が高く，調理従業者が高頻度で接触し，なおかつ標準作業書にて詳細な洗浄・殺菌方法が示されていない給食施設内調理済み食品保存用冷蔵庫の「取っ手」を対象とした4種の洗浄法について検討した。また，その衛生状態を簡便な検査法である ATP ふき取り検査を用いて評価することを試みた。 ②共著者：青木るみ子，甲斐達男，竹之山愼一，朝見祐也 ③担当：データ分析，論文執筆 全頁（p86～99）
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				
				教育研究業績総数 (2021年3月6日現在) 著書 3 (内訳単0,共3) 学術論文 14 (内訳単1,共13) 学会発表 30 (内訳単2,共28)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
社会福祉法人北九州市福祉事業団 北九州市社会福祉研修所	令和３年度 保育所調理員研修会・講師 「食品衛生・アレルギー対応 研修」	2021 年 1 月
日本給食経営管理学会	評議員・研修委員	2019 年 11 月～
北九州市学校給食調理等業務委託業者選考委員会	選考委員	2021 年 1 月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
公開講座委員会 地域貢献活動『だいすきにつぼん』運営委員 料理研究部顧問

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	天本 理恵	職名	准教授	学位	博士 (医学)	九州大学 2012 年
----	-------	----	-----	----	---------	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用栄養学 分野	小児栄養、母性栄養、栄養代謝 (特に葉酸)、生活習慣病 (主に癌、心疾患、加齢性疾患) とミトコンドリア

研 究 課 題
1. 生活習慣病 (主に癌や加齢性疾患) とエネルギーおよび栄養代謝 (ミトコンドリアを中心に) との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。 2. 極低出生体重児の成長、発達と栄養管理等について考察する。 3. 幼児と保護者の食生活および生活習慣に関する実態調査を行う。

担 当 授 業 科 目
応用栄養学Ⅰ (2 年後期 栄養学科) 応用栄養学Ⅱ (3 年前期 栄養学科) 総合演習Ⅰ (3 年前期 栄養学科) 総合演習Ⅱ (4 年前期 栄養学科) 応用栄養学実習 (3 年後期 栄養学科) 管理栄養士演習Ⅰ (4 年前後期 栄養学科) 管理栄養士演習Ⅱ (4 年前後期 栄養学科) 臨地実習Ⅰ (3 年後期 栄養学科) 卒業ゼミ (4 年通年 栄養学科) 実践活動 (3 年後期 栄養学科) 栄養学概説 (1 年後期 栄養学科) 母子栄養学 (前期 助産別科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 応用栄養学Ⅰ,Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説 】 今年度は殆ど遠隔にて講義を実施したが、遠隔講義であれ、これまでの講義スタイルを出来るだけ変更せず講義を展開した。 1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. 1 の教材を印刷したプリントと、関連資料を郵送にて配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書し (今回はパワーポイント上に手書きにて図式化し)、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書+スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。

授業科目名【 応用栄養学実習 】 毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。実習は、示範を LIVE 配信し、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。今年も書類上の献立作成では不安な料理や製菓に関しては、助手の方たちと一緒に勤務時間外に試作を行うなどして検討した。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。
授業科目名【 総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ 】 総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言をメールおよび meet で行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ、Ⅱ 】 管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。今年度から管理栄養士演習Ⅰも担当になり、Ⅰでは「基礎栄養学」の一部、Ⅱでは、「応用栄養学」を担当した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は手書きで書いたスライドを配信し、学生に書き取らせることで、理解を促した。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。
授業科目名【 母子栄養学 助産別科 】 視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 母性の栄養補給法に関して、実習先での課題に対するポイントの解説も行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。
授業科目名【 卒業ゼミ(4年生) 実践活動 (3年生後期～4年生前期) 】 4年生は、例年、福祉学科が開いている極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』にゼミ活動の一環として、学生たちを参加させているが、今年度はコロナ禍のため、ほほえみの会を実施することが出来なかった。そのため、幼児期の間食の作製や、栄養について考えること等を課題とし、ゼミを実施したが、やはりこどもたちと直接関わらせてあげることが出来なかったことは、残念に思う。3年生の実践活動は、メインテーマを『成長期のこどもたちの栄養管理』と『母性栄養』に分けて、グループで小テーマを設定し、活動を進めている。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会		2002年4月～現在に至る
日本栄養改善学会		2002年4月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2002年11月～現在に至る
日本スポーツ栄養学会		2017年4月～現在に至る
日本癌学会		2010年6月～現在に至る
日本分子生物学会		2012年9月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) ・イラスト 応用栄養学 第3版	共	2020.4	東京教学社	①イラスト応用栄養学第2版までの内容に関して、食事摂取基準(2020年版)の切り替わりを機に、大部分の加筆修正を行った。応用栄養学はライフステージ、スポーツ、特殊環境下の栄養管理について学ぶ科目であり、この書籍はイラストを多く使用し、対象の生理機能の変化から栄養管理に至るまでを理解しやすく作成している。 ②共著者名：藤木理代、 <u>天本理恵</u> 、熊原秀晃、田村明三田有紀子、大和孝子 ③担当部分：第4章妊娠・授乳期、第5章 新生児期・乳児期 (P.64～P.120) 総頁数 P.298 ④B5判
(学術論文) ・ Mitochondrial translation deficiency impairs NAD ⁺ -mediated lysosomal acidification	共	2021.2	The EMBO Journal (2021) e105268 1-17	①ミトコンドリアの翻訳と、ライソゾーム機能との関連性に関して、未だ不明な点が多く、本研究では、ミトコンドリアの翻訳機能を欠損させたマウスの心臓組織を用いて、ミトコンドリアとライソゾームの関連性を検討した。研究結果より、ミトコンドリア機能異常によって変質したNAD ⁺ の含有物は、ライソゾームの機能維持(酸性化)には必須であることが考察された。 ②共著者名：Mikako Yagi, Takahiro Toshima, <u>Rie Amamoto</u> , Yura Do, Haruka Hirai, Daiki Setoyama, Dongchon Kang & Takeshi Uchiumi ③主に免疫組織、細胞染色を担当している。形態機能観察(P.1～P.17)

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				2020年度教育研究業績 (2021.3.31 現在) 著書 1 (内訳 単0, 共1) 学術論文 1 (内訳 単0, 共1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
・北九州市立保育所給食調理業務 受託候補者選定検討会構成員（北九州市こども家庭局） ・北九州市 市民文化スポーツ局生涯学習課 キタキュー親力アップ漫画「ちょっとずつ思いやりランチ」の監修	構成員 漫画監修	2020年12月 2020年10月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
・地域連携室 室員（子ども・子育て支援分野）	2016年8月～現在に至る
・学生募集 委員	2020年4月～2021年3月
・国家試験対策委員	2020年4月～現在に至る
・動物実験委員会 委員	2019年4月～現在に至る
・ほほえみの会（主担当 福祉学科 野井 准教授）における栄養相談等の栄養士業務、子どもの遊びの支援	2014年4月～現在に至る（2020年度末にて活動終了）
・チアリーディング部（ルーシス）顧問⇒同好会	2002年4月～現在に至る

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	扇谷 恵美子	職名	教授	学位	学士 (教育学) (福岡教育大学 1975)
----	--------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
学校における食育 食育における栄養教諭の役割	栄養教諭、食育の系統性、食育の全体計画 食育と学習指導、食育と給食指導

研 究 課 題
1. 小学校や保育園における食育の現代的課題を探り、解決に向けての具体的手立てを検討する。 2. 栄養教諭に求められる資質や力量を、具体的に探る。

担 当 授 業 科 目
学校栄養指導論Ⅰ (3 年前期) 学校栄養指導論Ⅱ (3 年後期) 事前及び事後の指導 (3 年後期～4 年後期) 栄養教育実習 (4 年前期～4 年後期) 教育実践演習 (4 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 学校栄養指導論 Ⅰ 】 本科目は、栄養教諭の職務内容や職務の実態を学ぶ専門科目である。学校給食の意義と栄養教諭の使命や役割を理解して、児童生徒の食に関する課題とその解決策を探る意識・態度をもつことを目標とする。 教師として不可欠な「自ら学ぼうとする」力を伸ばすために、授業では、文献を調べる調査活動と感想や意見を発表する表現活動を多く設定して、授業に主体的積極的に取り組ませた。また、文を書く場面を多く設けて、文章を書くことへの抵抗感を減らすようにした。授業は、非常勤講師の先生に協力いただきオンラインで実施した。
授業科目名【 学校栄養指導論 Ⅱ 】 本科目は、学校栄養指導論Ⅰを踏まえて、小学校・中学校における食に関する指導内容を理解して、授業計画を作成したり具体的指導方法を理解したりすることを目標とする。授業は、非常勤講師の先生と担当し、自作ワークシートを中心に進めていった。毎回、小テストを実施して、重要ポイントの確認と知識の定着を目指した。 授業構想案は、個別指導を実施しながら、各自に 3 回以上修正させて、現実的な授業構想案へと導いた。なお、相手が理解しやすいスピーチ力を身につけさせるために、殆どがオンライン授業ではあったが、毎回、対象とする児童生徒の年齢を変えた 1 分間スピーチを実施した。
授業科目名【 事前及び事後の指導 】 本科目は、教育現場における栄養教育実習を受けるに当たっての心構えや留意事項、具体的な指導方法を理解し、習得して、効果的な栄養教育実習を実践することを目標とする。また、実習の終了後には、実習に関する反省や問題点等の分析を行って、今後の実践に繋いでいくことも目標である。 オンライン授業ではあったが、学習指導案の作成や模擬授業を繰り返して、実習校からの要望に対応できるレベルの指導スキルの習得を目指した。なお、大学に許可をいただいて、教育実習直前の 9 月中旬に希望者へ対面での個別指導を実施した。 実習終了後には、実習報告書や発表資料を作成しての実習報告会を実施した。これからの教師には、効果的なプレゼンができる表現力も必要である。そのため、資料や原稿を自作して一人当たりが 7 分程度のプレゼンでの報告会とした。

授業科目名【 栄養教育実習 】 本科目は、履修した教職科目での理論やスキルを基礎に、学校での食の指導を推進する一端を体験することを目標とする。また、児童生徒の人格形成、身体の成長と発達に寄与し、教育における研究課題を発見するとともに、自己の望ましい教師像を形成することも目標である。こうした実体験は、教師としての実践的・研究的能力を高めるものである。 大学の指導者は、実習中に実習校を訪問した。（ただし、コロナ流行の為に、訪問は遠慮してほしいとの実習校には、訪問せず。） 実習先の管理職や学級担任、栄養教諭等と意見交換を行うことによって、学生が大学に戻ってからの指導や次年度以降の栄養教育実習の改善に繋いだ。
授業科目名【 教職実践演習（栄養教諭） 】 本科目では、他学科の教職課程担当者と協力しての授業を一部含めながら、これまでの教職課程での学習や教育実習を振り返って、栄養教諭としての使命感、資質・能力、指導スキル等を考察していった。そして、将来的に栄養教諭になるためにまだ各自に不足している部分の向上を目標とした。 授業では、各自に残された課題に対して、具体的手立てを講じて解決を目指す場を構想させた。また、外部講師として現職の栄養教諭を招いて実践発表を聞き、オンラインではあったが、交流の場も設けた。実習先以外の栄養教諭と関わらせて多様な視点をもたせ、「栄養教諭になるための学び」の集大成とした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
社会福祉法人真照会 則松保育園	理事	2014 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教員採用試験対策の個別指導（一次試験、二次試験、三次試験）

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 岡部 明仁	職名 教授	学位 博士 (バイオサイエンス) (奈良先端科学技術大学院大学 2001 年)
----------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
神経科学、神経生理学、神経解剖学、自律神経機能、呼吸生理、病態生理	抑制性神経伝達物質 (GABA、グリシンなど)、Cl ⁻ 共輸送体、細胞内 Cl ⁻ 濃度、呼吸リズム、延髄、摂食・満腹中枢、視床下部

研 究 課 題
1. 発達期における細胞内 Cl ⁻ 濃度の減少に伴う、GABA 作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。 2. 哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部における GABA 神経回路変化の組織学的検討。

担 当 授 業 科 目
生物と生命科学 (前期) 解剖生理学 (前期) 人体の構造と機能基礎実習 (分担・前期) 初年次セミナーⅠ (分担・前期) 解剖学 (前期) (福祉学科) 応用生理学 (後期) 解剖生理学実習 (後期) 初年次セミナーⅡ (分担・後期) 管理栄養士演習Ⅰ (分担・通年) 生理学 (後期) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 生物と生命科学 】 毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。高校で生物を選択していない学生にも苦手意識ができないように、意識的に身の回りの出来事と関連させながら講義を行った。また講義スライドを全て PDF 化し classroom に公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。
授業科目名【 解剖生理学 】 講義スライドを全て PDF 化し classroom に公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。人体の構造と機能基礎実習と本講義が並行して進められたので、座学と実習の連携を特に意識して行った。
授業科目名【 人体の構造と機能基礎実習 】 後半 10 回を担当した。実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。実習では、前年度のデータを使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫した。マウスの解剖実習を行うことで、命の大切さと臓器の配置の精巧さを体験してもらい、座学の解剖生理学と強く連携していることを意識してもらえるようにした。加えて、提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】 栄養学科で必要な計算と単位について、講義・演習を行った。少しの油断で計算ミスや単位換算ミスをしてしまうことを特に意識してもらうようにした。大学生としては安易な計算ドリルを用いて計算速度を計ってもらい、その検算を電卓にて行ってもらった。ゲーム的要素を取り入れることで、退屈させないよう心掛けた。
授業科目名【 解剖学（福祉学科） 】 毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。
授業科目名【 応用生理学 】 講義スライドを全てPDF化しclassroomに公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。また、病気や病態と正常機能を比較することで理解を深めてもらうため、可能な限り病態の例を提示して意識してもらえるよう努めた。
授業科目名【 解剖生理学実習 】 実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けてもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の实習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】 栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて伝えた。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 解剖生理学分野を担当した。講義スライドを全てPDF化しclassroomに公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。また、単に過去問を解くのではなく、なぜこの選択肢が誤答になるのかを一つ一つ丁寧に解説し、類似問題にも対応できるようにした。
授業科目名【 生理学（福祉学科） 】 毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。また、講義スライドを全てPDF化しclassroomに公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会 日本解剖学会 日本神経科学会 北米神経科学会	評議員（2002年4月～現在に至る） 代議員（2019年3月～現在に至る） 九州支部代議員（2013年11月～現在）	1999年7月～現在に至る 2001年10月～現在に至る 1996年7月～現在に至る 1999年11月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 1. Development and persistence of neuropathic pain through microglial activation and KCC2 decreasing after mouse tibial nerve injury.	共著	2020年4月	<i>Brain Research</i>	doi: 10.1016/j.brainres.2020.146718 Kosaka, Y., Yafuso, T., Shimizu-Okabe, C., Kim, J., Kobayashi, S., Okura, N., Ando, H., <u>Okabe, A.</u> , Takayama, C.
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				
				教育研究業績 総数 (2021.3.31現在) 著 書 2 (全て共著、査読有、内訳 英文1 和文1) 学術論文 37 (全て共著、査読有) 学会発表 116 (全て共著、内訳 国際学会41 国内学会75)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
管理栄養士国家試験対策委員 動物実験委員会 委員 2017 年 4 月 1 日～現在に至る 同上 副委員長 2018 年 4 月 1 日～現在に至る 公的研究費内部監査部門 責任者 2019 年度～2020 年度

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	尾 上 均	職名	教授	学位	博士 (医学)
----	-------	----	----	----	---------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内 Ca^{2+} 動員機構 細胞内 Ca^{2+} 恒常性維持機構 タンパク質相互作用 インスリン分泌

研 究 課 題
① 細胞内カルシウム動員機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担 当 授 業 科 目
生活の中の化学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 人体の構造と機能実習 管理栄養士演習Ⅰ 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 生活の中の化学 】 - 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを目標の中心として講義を行った。 - 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントを Classroom に提示し(一部は郵送)、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた。 - 講義は、スライドを用いて行った。遠隔授業のためにスライドに改訂を加えた。講義時間内に情報を取り入れることに学生を集中させるため、スライドのレジュメは、鍵となる重要なものを特に選んで Classroom に提示した。 - 講義中に話した内容に関する質問を学生を指名して行い、理解度の把握に努めた。 授業科目名【 生化学Ⅰ 】 - 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた。 - 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした。 - 講義に用いるスライドには遠隔授業用に改訂を加えた。 - 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに改訂を加えて Classroom に提示(一部は郵送)した。 - 講義中に話した内容に関する質問を行い、理解度の把握に努めた。 - 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。

授業科目名【 生化学Ⅱ 】 ・ 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。 ・ 講義に用いるスライドには遠隔授業用に改訂を加えて使用した。 ・ 生化学Ⅰで Classroom に提示した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。 ・ 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた。 ・ 講義中に話した内容に関する質問を学生を指名して行い、理解度の把握に努めた。
授業科目名【 人体の構造と機能総合実習 】 ・ 本科目は岡部教授とのオムニバス科目であり、15 回中 5 回を担当した ・ 分子模型を用いた実習以外は、私が実験を行い収録したビデオを用いた。 ・ 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(後期に開講)で学ぶ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした。 ・ 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた。 ・ レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した。
授業科目名【 生化学実習 】 ・ 実験を通じて「事実（データ）を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを要求した。 ・ 分子模型を用いた実習以外は、私が実験を行い収録したビデオを用いた。 ・ 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てられるように指導した。 ・ レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 ・ 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした。 ・ 生化学ⅠおよびⅡでは取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った。 ・ 練習問題はオリジナルに作成した。
授業科目名【 卒業ゼミ 】 ・ ほとんどが遠隔授業であったため、生化学や分子生物学関連のトピックで管理栄養士にとって重要なテーマを選び、それらについて予習させた上で、討論する形式のゼミ活動となった。 ・ 国家試験や模試の解説書を学生自らが作成し、それに添削を加えた。これは受講生の希望で行ったことである。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会		1995 年 5 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
紀要委員 学生委員（船越淳子講師産休のため途中から代行）

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 甲 斐 達 男	職名 教 授	学位 農学博士(九州大学 1992 年)
------------	--------	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用微生物学、食品科学、分子遺伝学、音声学	発酵、微生物、発酵種、製パン、酵母、乳酸菌、パネットーネ、ゲノム解析、音声解析、音源修復

研 究 課 題
(1) パネットーネ乳酸菌と酵母のゲノム解析および分子進化の研究 (2) パン発酵種の製造過程における微生物叢変化の解析および有効な制御方法の研究 (3) 世界の主なパン発酵種の発酵微生物に関する網羅的調査研究 (4) 史上最後のカストラート Alessandro Moreschi (1858. 11. 11-1922. 4. 21) の歌声特性解析 (5) Alessandro Moreschi the Last Castrato Complete Vatican Recordings (OPALCD9823 英 Pearl) の Truesound Transfers 版 (TT-3040『Alessandro Moreschi』) の音源修復

担 当 授 業 科 目				
科 目 名		単 位 数		開講学期(備考)
		必 修	選 択	
微生物学	(栄養学科) × 1 クラス	1	2	前期
食品衛生学実験	(栄養学科) × 2 クラス		2	前期
調理師論	(栄養学科) × 1 クラス			前期
加工食品機能論	(栄養学科) × 2 クラス			後期
食品衛生学	(栄養学科) × 2 クラス	2	2	後期
栄養学概説	(栄養学科、オムニバス) × 1 クラス	2		後期(担当コマ数: 5)
食品流通・消費論	(栄養学科) × 1 クラス	2		後期
卒業ゼミ	(栄養学科) 個人別	2	2	通年
管理栄養士演習Ⅰ	(栄養学科、オムニバス) × 1 クラス		2	通年(担当コマ数: 4)
栄養学	(国立福岡教育大学) × 1 クラス		2	前期
食物学実験実習	(国立福岡教育大学) × 1 クラス	1		前期

授業を行う上で工夫した事項
授業科目名【食品衛生学(2年生対象)・加工食品機能論(2年生対象)】 1. 管理栄養士国家試験対象科目であり、かつ、出題比重の多い重要科目であるため、例年、他の科目に比べて合否基準を高め設定している。 2. オンライン授業となったため、教育効果を高めるために次のようなさまざまな試みを実施した。①休憩を適宜取り入れて集中力を維持させた。②チャット機能を活用してグループ単位で問題の解答を提出させることで参加意識を高めた。③定期試験を実際の筆記試験と同じような環境にすることに腐心した。 3. 成績は例年に比べ、良好であった。教室での授業よりも効果が上がったように感じられた。
授業科目名【微生物学(3年生対象)】 1. 本年度より選択科目となった。これに伴って、講義内容を発酵学の分野に特化した。なかでも製パン科学の分野に的を絞って、酵母、乳酸菌の発酵理論を講義した。 2. 受講生は予想に反して多く20名が受講し、良い成績を残した。 3. オンライン授業であったため、前述のような気配りを行った。
授業科目名【食品衛生学実験(3年生対象)】 1. 実験科目をオンラインで実施することは、極めて、困難を伴った。

2. 実験風景を動画に収めて YouTube にアップしたものを見せて、確認のための課題を課したところ、かなり良い成績であった。 3. 対面授業に比べ、どうしても知識偏重となる点、課題やレポートの数が倍以上に増える点などが、受講生の過重負担を招いた。 4. 成績自体は大変良好であった。
授業科目名【調理師論(1年生対象)】 1. 調理師免許を在学中に取得する学生が増えてきた背景があり、管理栄養士の就職に有利な資格であるためこの資格取得をより推進するためにこの科目を新設したものである。 2. 夏休みの集中講義であったにもかかわらず、熱心に受講してくれた。 3. 今後、資格取得者が増えることを、他大学との差別化を図る意味で重視して行きたい。
授業科目名【卒業ゼミ】(4年生対象、卒ゼミ6名が受講) 3名が研究を実施し論文を提出したが、3名は研究を実施できず単位取得が出来なかった。しかしながら、全員、就職を決めることができた。管理栄養士国家試験には、本人は全力で受験勉強をやったものの、残念ながら1名が不合格であった。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】(4年生対象) 1. 今年度の学生は補講の出席率が高く、やり易い学年であったが、合格率は73%と振るわなかった。 2. 担当分野である「食べ物と健康分野」の補講(単位とは無関係の補講)の回数は、これまで前期中心に実施してきたが、どうしても記憶に定着し難い内容であるため、今期は後期に集中的に実施した。新しいメンバーで国試対策委員会を組んだが、結果が伴わなかった理由は、成績の振るわない層に重点指導をするというこれまでの手法を踏襲しなかったためと思われる。 3. 「食べ物と健康分野」について言えば、全国模試での出来は例年と変わらなかった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本生化学会	正会員	1991年4月～現在に至る
日本生物工学会	正会員	1994年4月～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1995年4月～現在に至る
米国穀物化学会	正会員	1995年4月～現在に至る
日本食品科学工学会	正会員	2000年4月～現在に至る
日本食品衛生学会	正会員	2002年4月～現在に至る
日本音声学会	正会員	2010年4月～現在に至る
情報処理学会正会員	正会員	2012年4月～現在に至る
日本声楽発声学会	正会員	2014年4月～現在に至る
日本調理食品研究会	正会員・理事	2017年4月～現在に至る

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) ①食品衛生学 第4版	筆 頭 編 者・著者	2020年9月	化学同人	①全面を書き直すという大改訂を行った。筆頭編者として全体の編集を行い、かつ分担執筆を行った。 ②分担執筆箇所 第8章 食品添加物 p145-168 ③著者 15名 ④頁数 204頁

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
②食品学 第5版	筆 頭 編 者・著者	2021年2月	講談社	①全面を書き直すという大改訂を行った。筆頭編者として全体の編集を行い、かつ分担執筆を行った。 ②分担執筆箇所 1.1 食をとりまく環境と食品の分類 p1-5 1.2 食品成分表 p6-17 2.4 無機質 p57-61 2.6 核酸 p71-73 ③著者 10名 ④頁数 233頁
(学術論文) ① 大麦焼酎粕が製パン性に及ぼす影響 (審査論文)	共著 原著 論文	2020年5月	日本食品・機会研究会誌、Vol. 40、No1、2020、p1-5. 甲斐達男、吉野精一	産業副産物の有効利用の一環として焼酎粕のパンへの利用を検討した。小麦粉100に対して焼酎粕10までの添加によって、加工性を低下させることなく、風香味の優れたパンが得られた。
② 給食施設内設置冷蔵庫取っ手の洗浄方法の検討	共著	2021年3月	日本調理食品研究会誌、Vol. 26、No. 3、2020、p89-99.	ATP ふき取り検査法により給食施設内冷凍冷蔵庫取っ手の洗浄方法を検討した結果、有効な洗浄効果を得るには水分の介在、または複数回の拭く操作が必要であることが明らかとなった。
(講演・講習会) ① 調理師講習 「食品学」	単	2020年9月13日(日)、 10:00-13:00	福岡人材開発センター3F(福岡市東区千早5-3-1) 主催:職業訓練法人福岡地区職業訓練協会	福岡県調理師試験受験予定者を対象に、食品学分野の受験対策講習を行った。
② パン用小麦粉のハンドリング技術と製パン理論	単	2020年11月30日(月)、 14:00-17:00	Zoomによるオンライン講習 主催:株式会社テックデザイン	製パンおよび関連分野の一般企業技術者および国公立・私立研究組織に所属する技術者を対象とした基礎学、および、実践技術に関する講習を行った。具体的には、小麦粉の製粉技術とブレンドイングに関する基礎・応用技術、製パンシステムの基本原理と発酵種に関する

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
				知識、新たな製パン技術開発におけるヒントについて解説を行った。 研究業績 総数 (2021. 3. 31 現在) 著書 4 (単 0、編者・著者 2、共著 2) 学術論文 60 (単 12、筆頭 20、責任著者 19、共 9) 国内学会発表 15 (単 0、筆頭 6、責任発表者 4、共 5) 国際学会発表 6 (単 0、筆頭 6、責任発表者 0、共 0) 国内講演 5 (単 3、筆頭 2) 海外講演 1 (単 1) 申請特許 15 (筆頭発明者 6、筆頭責任発明者 9) 上市製品 12 (単独開発 6、筆頭責任開発者 4、産学共同開発 2) 公開講座・講習会講師 14 (単 14、共 0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
1. バイオインダストリー協会	正会員	1989年4月～現在に至る
2. 日本調理食品研究会	理事	2017年5月～現在に至る
3. 北九州市食品衛生懇話会	学識経験者会員・座長	2018年4月～現在に至る
4. 厚生労働省	行政モニター	2019年5月～2020年4月

5. 内閣府食品安全委員会	モニター	2016 年 4 月～2021 年 3 月
---------------	------	-----------------------

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
1. ハラスメント委員 2. 学科国試対策講義（担当コマ数：前期 4 コマ、後期 8 コマ、直前 4 コマ） 3. 学生の資格取得推進サポート担当 4. 学生の一般企業就職サポート担当（学年全体セミナー：後期に 6 コマ実施）

以上

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	坂田 郁子	職名	教授	学位	修士 (人間環境学) (福岡女子大学大学院 2010 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
公衆栄養学	食環境整備、生活習慣病予防、地域包括ケアシステム

研 究 課 題
1. 健康的な食生活を送れるよう、健康無 (低) 関心層も含めて自然に健康になれる食環境整備について考察する。 2. 「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」を普及するため、配食サービスの実態を調査し、健康支援型配食サービスのあり方について考察する。

担 当 授 業 科 目
公衆栄養学Ⅰ (後期) (栄養学科) 公衆栄養学Ⅱ (前期) (栄養学科) 公衆栄養学実習 (後期) (栄養学科) 地域栄養活動論 (後期) (栄養学科) 臨地実習Ⅲ (後期) (栄養学科) 管理栄養士演習Ⅱ (前期・後期) (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ】 集団や地域の健康・栄養改善のために、栄養課題やニーズを把握し、対象集団の特性に応じて、適切な栄養関連サービスを提供する公衆栄養プログラムの作成、実施、評価・フィードバックするための知識や方法を修得させるため、自治体で実施されている実践事例を紹介し公衆栄養プログラムへの理解を深めた。
授業科目名【公衆栄養学実習】 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識・技術を基に、地域診断、既存資料の活用、文献検索を行い、グループ毎の主体的な取組みを尊重しながら、PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムが作成できるように指導した。
授業科目名【地域栄養活動論】 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務について解説を行い、管理栄養士の役割や多職種連携について理解させるとともに、臨地実習Ⅲに臨むための基礎知識の修得に努めた。
授業科目名【臨地実習Ⅲ】 実習期間中に実施される実習課題内容を事前に確認し、課題への指導を徹底して行い、臨地実習が有意義なものとなるように取り組んだ。臨地実習の巡回時には、実習での学びが今後の授業や職業選択に活かされるように、実習中の学生への助言を行った。また、今年度はコロナ緊急事態宣言が延期されたことにより、2週間前から健康管理の記録、自粛行動を遵守させ実習を終えることができた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 管理栄養士国家試験教科「公衆栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解するために、国家試験の過去問題を分析し、出題傾向に的を絞った問題を作成し解説を行った。また、苦手な問題は何度も練習問題を解かせ、克服することに努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県公衆衛生学会 日本栄養改善学会 日本公衆衛生学会 日本在宅栄養管理学会		1987年2月～現在に至る 2005年3月～現在に至る 2006年5月～現在に至る 2018年5月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市学校給食審議会 公益社団法人福岡県栄養士会	委員 第46回福岡県栄養改善学会 座長	2020年7月1日 ～2022年6月30日 2020年10月10日

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
就職委員会 委員 2020年4月1日～2021年3月31日

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	相良かおる	職名	准教授	学位	博士(工学) 奈良先端科学技術大学院大学
----	-------	----	-----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
情報科学：自然言語処理	自然言語処理 辞書 データベース 医療用語 日本語学 語彙調査 語彙分類

研 究 課 題
医療文書の分かち書き用辞書 ComeJisyo を作成し無償公開している。 実践医療用語を対象とし、語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している。

担 当 授 業 科 目
情報処理基礎 (前期) (栄養学科) 情報処理応用 (後期) (栄養学科) 健康情報処理論 (前期) (栄養学科) 健康情報処理実習 (後期) (栄養学科) 卒業研究・演習 (通年) (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【情報処理基礎】 本授業では、情報処理に必要な基本的知識、クラウドコンピューティングや SNS 等の最新の ICT に関する情報、インターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と、Word 及び Excel の基本操作の演習が含まれる。タイピング教材には日本国憲法全文と、管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている。本年度はコロナ禍の影響で遠隔授業となったため、新入生を対象とする本授業では、遠隔授業を受講するために必要なパソコンのスキルとサイバー犯罪&セキュリティに関する内容に時間を割いた。また自宅で家族と一緒に受講する学生がいることを踏まえ、各家庭のパソコン環境に関する質問を受け付けるようにした。また、入学直後からの遠隔授業であることから、出席時は、カメラをオンにし自己紹介を兼ねて気になったこと等を話して貰うようにし、また、Google Jamboard を使って、クラスメートと交流する機会を作るように工夫した。 授業科目名【情報処理応用】 本授業では、Word の演習としては、「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成、Excel の演習としては、銀行およびクレジット会社で使われている利息計算、そして社会調査に必要な知識・スキルを学ぶための教材としてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を用い、情報の加工と表現法を行っている。また地域社会の一員としての貢献について気付き、学ぶために、自分の住む地域の名物料理、名産の食材とそれらの栄養成分、機能等を調べ、地域活性化事業を提案し、レポートにまとめ、PowerPoint を使ったプレゼンテーションの演習を行っている。パンフレットおよびプレゼンテーションについては、評価票を用いてクラス全員で評価し、成績評価に反映している。 本授業の殆どが遠隔授業となったことから、Google Jamboard を使って、クラスメートと交流する機会を作るように工夫した。

授業科目名【健康情報処理論】

マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と、自分が必要とする健康情報の収集方法、そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業である。本年度はコロナ禍により、PCR 検査に関するニュース等、コロナ感染に関する多くの健康情報がニュース等から流れたためこれらを教材として授業を行った。また「フードファディズム (Food faddism)」と「3 た論法 (飲んだ、治った、効いた)」については、具体的な事例を紹介した上で、身近にある事例を見つけて信頼性を評価するレポート課題を課し、問題解決型の授業を行った。

本授業の殆どが遠隔授業となったことから、スライドを見せて教員が話す一方向の授業は、学生にとって辛いだろうと考え、Microsoft Witheboard を使って板書をし、ノートを取る時間を設け、対面授業に近い形式で授業を行った。また質問の回答は Google Jamboard を使い、クラスメートの考えや回答をクラス全員で共有し、意見を投稿することで、「教えない」教育を心掛けた。

授業科目名【健康情報処理実習】

本授業は、「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし、「栄養疫学 (栄養学研究)」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である。管理栄養士として調査研究する際に必要な、食に関わるアンケート調査票の作成、実施、集計、分析、報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型、共同学習型の授業を構成し、成果物が卒業後も活用出来るように、教材 (統計分析やグラフ作成用課題の Excel シート等) を作成している。また、評価においてもグループ評価 20%、課題提出 20%、授業貢献 10%とし、毎回の授業の取組を評価するようにしている。

本授業の殆どが遠隔授業となったことから、グループ毎にオンライン上で共同学習ができるようにし、質問の回答は Google Jamboard を使い、クラスメートの考えや回答をクラス全員で共有し、意見を投稿することで、「教えない」教育を心掛けた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
情報処理学会		1996 年
教育工学会		2000 年
医療情報学会		2002 年
日本看護科学会		2004 年
大学女性協会		2008 年
日本女性科学者の会		2009 年
言語処理学会		2011 年
情報知識学会		2014 年

2 0 2 0 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. "実践医療用語の語構成と意味 一語構成要素語彙試案表の作成に向けて"	共著	2020 年 12 月	人文科学とコンピュータシンポジウム 2020 pp.289 - 296	"全 8 頁 相良かおる, 小野正子, 高崎智子, 東条佳奈, 麻子軒, 山崎誠 本研究では医療記録文に含まれる合成語 7,194 語を対象に, 語構成解析と意味解析を実施した. その結果, 医療の観点から意味的にも統語的に

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				も妥当な語構成要素 5,787 要素を抽出し、これらを意味的に分類するために 93 種類の意味ラベルを設定し、すべての語構成要素に意味ラベルを付与した。"
2. 意味ラベルを用いた「性」を含む病名の言い換え	共著	2020.12	人文科学とコンピュータシンポジウム 2020 pp.283 - 288	"全 6 頁 麻子軒, 相良かおる, 高崎智子, 東条佳奈, 山崎誠 本研究は、医療用語のうち、特に頻度が高い「性」を含む病名を対象に、それぞれの語構成要素に付与された意味ラベルを利用し、統語構造に関する情報を機械的に加えることによって、病名を分かりやすく言い換えることを試みた。"
(翻訳)				
(学会発表)				
3. 実践医療用語の語構成解析	共著	2020.6	第 24 回日本医療情報学会春季学術大会	全 2 頁 相良かおる 小野正子, 東条佳奈, 麻子軒, 山崎誠 本報告では、分かち書き用の実践医療用語辞書 ComeJisyoSjis-1 の登録語から抽出した一般的な語を含む合成語 2,770 語の語構成を明らかにする。具体的には、2,770 語を統語的かつ医療実践の領域で慣用的に使われる用語が一つの語構成要素となるように分割し、語構成要素列を求め、それぞれに意味ラベルを付与した。
4. 病名を表す合成語の語末調査	共著	2019.9	言語資源活用ワークショップ	"全 6 頁 相良 かおる, 高崎 智子, 東条 佳奈, 麻 子, 山崎 誠 本研究では合成語の語末により病名の判別が可能か否かを確認するために合成語の語末調査を行った。具体的には、病名を表す合成語 5,465 語について語末の unigram、

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				bigram、trigram を調べた。加えて、筆者等が着手している電子カルテに記載された合成語を対象とした語構成要素解析で定めた語単位で、合成語を分割した場合に語末となる語構成要素の頻度を調べた。"
5. 病名における「-性」の分析 一般書籍との比較から—	共著	2020.9	言語資源活用ワークショップ	全8頁 東条 佳奈, 相良かおる, 高崎 智子, 麻 子軒, 山崎 誠 本発表では、実践医療用語辞書 ComeJisyoSjis-1 より作業用に抽出した見出し語 7,194 語を対象に「-性」を含む病名を調査し、前要素の分析を行った。また、BCCWJ「図書館・書籍」サブコーパスにおける「-性」の用例と比較し、特徴について検討した。
6. 病名を表す合成語の語構成解析	単著	2020.11	第 40 回医療情報学連合大会 40th JCMI (Nov., 2020)	全3頁 相良かおる 本発表では、病名を表す 4,453 語の語構成要素列と意味ラベル列について調べた結果を述べた。
7. 実践医療用語における語構成要素の意味ラベルについて	単著	2021.3	言語処理学会 第 27 回年次大会 発表論文集 (2021 年 3 月) pp.559-562	全4頁 相良かおる 本発表では、本合成語 7,194 語から抽出した語構成要素 6,442 種類に付与した 86 種類の意味ラベルについて述べた。
			総数 112 (2021 年 4 月 26 日現在) 学術論文 35 (内訳 単著 8 共著 27) 学会発表 61 (内訳 単著 2 共著 59) 翻 訳 1 (内訳 単著 0 共著 1) 図書&テキスト 3 (内訳 単著 0 共著 3) 随 筆 10 (内訳 単著 10 共著 0) 報告書 2 (内訳 単著 1 共著 1) (特 許 5)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究(B))	○相良かおる、 小野正子、高崎智子（山崎誠、東条佳奈）	2020 年度 5,590 千円（直接経費: 4,300 千円、間接経費: 1,290 千円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
実践医療用語辞書 ComeJisyo プロジェクト（特定非営利活動法人 言語資源協会正会員）	代表	2012 年～現在

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
◆ 図書委員 ◆ その他：栄養学科全学生を対象に遠隔授業の受信状況調査を実施

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 高崎 智子	職名 教授	学位 博士 (医学) (九州大学 2001 年)
----------	-------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
予防医学	健康寿命、生活習慣、がん教育、がん検診、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん

研 究 課 題
・健康寿命の延伸を図るため、一般市民への啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。 ・がん検診に関する地域住民の意識と課題について検討する。 ・がん検診における要精密者の受診率を高めるための課題について検討する。 ・医療記録データを利活用するための自然言語処理を支援することを目的とした医療用語の語構成と意味の解析を行う研究に、医学的知識を持つ共同研究者として参加している。

担 当 授 業 科 目
病理基礎医学 (1 年後期) 疾病診断治療学Ⅰ (2 年前期) 疾病診断治療学Ⅱ (2 年後期) 臨床基礎医学実習 (3 年前期) 管理栄養士演習Ⅰ (4 年前期、後期) 初年次セミナーⅡ (1 年後期) 卒業ゼミ (4 年通年) 実践活動 (3 年後期、4 年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 病理基礎医学 】 1 年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目標とした。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていくよう努めた。授業の多くを遠隔で行ったため、講義内容をプリントし事前に郵送した。遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、文字も大きめにした。また聞き取りやすいようにはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。レポートを提出する授業が増えていることを考慮し、理解度を確認するための確認テストを授業の中で行って提出させ、学生の負担が過重にならないようにした。毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。
授業科目名【 疾病診断治療学Ⅰ 】 管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目標とした。授業のすべてを遠隔で行ったため、講義内容をプリントし事前に郵送した。遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、文字も大きめにした。また聞き取りやすいようにはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。レポートを提出する授業が増えていることを考慮し、理解度を確認するための確認テストを授業の中で行って提出させ、学生の負担が過重にならないようにした。毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。

授業科目名【 疾病診断治療学Ⅱ 】 疾病診断治療学Ⅰで学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めると共に、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高めるよう努めた。授業の多くを遠隔で行ったため、講義内容をプリントし事前に郵送した。遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、文字も大きめにした。また聞き取りやすいようにはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。レポートを提出する授業が増えていることを考慮し、理解度を確認するための確認テストを授業の中で行って提出させ、学生の負担が過重にならないようにした。毎回の授業の始めには、前回前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。
授業科目名【 臨床基礎医学実習 】 管理栄養士はチーム医療を担う一員である。栄養管理を行う上で重要となる栄養状態や健康状態を把握するために今年度より新たに設置した実習である。医療面接法・身体診察法・栄養評価に必要な臨床検査法などを体験する、およびモデル症例を呈示して病態把握・診断・栄養指導方法を検討・討議する演習を行うことを目的とした。しかし実習のすべてを遠隔で行ったため、実際の検査をイメージしてもらうために、教員によるライブでの検査デモンストレーションや、事前に教員が収録した動画・専門機関等による公式動画を視聴する方法をとった。同時に疾病や病態についての解説をスライドで行うことにより知識の定着を図った。実習内容を発展させた課題を提示したが、授業時間外にレポートを作成し提出する授業が増えていることを考慮して、学生の負担が過重にならないよう各実習時間の中で作成させた。できるだけ多くの学生に質問をあて、学生が意見を述べる機会を持つ参加型の実習となるよう工夫した。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 4年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出题された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。解答を導き出す過程や要点をまとめたスライドを作成し、暗記に頼るのではなく理解して考える習慣付けができるようにした。国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。
授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】 1年生を対象として、「研究倫理」に関する講義を行った。研究不正行為に関して事例を挙げながら紹介し、それらの行為が学生にとっても無縁ではないことを説明した。大学生としての身近な例として、不正のない実験ノートやレポートの書き方に関する指導を行った。
授業科目名【 卒業ゼミ 】 日本人で増加している大腸がんと乳がんは、欧米型食生活との関係が指摘されている。11名の4年生に対して、大腸がんと乳がんについて、「がんの予防と食事との関連」をテーマに、各自、文献検索等により情報収集・考察し、レポートにまとめることを指導した。学生の主体性を大切にしながら、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について、遠隔にて指導を行った。本学で実施する市民公開講座にて地域住民への情報発信と健康支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のために公開講座を中止したため、各自、調べた情報をもとに要点をわかりやすくまとめ、市民向けに配布することを想定したオリジナルのリーフレットを作成した。また、がんの予防に有益な食材を使ったレシピを調べ、紹介させた。若者ならではの感性で、レイアウト、色彩、イラスト等にこだわったリーフレットを作成しており、これらの活動を通じて、卒業後に管理栄養士として栄養指導等を行う上での具体的な知識や患者とのコミュニケーション能力を養うことができたと考える。
授業科目名【 実践活動 】 日本人で増加している大腸がんと乳がんは、欧米型食生活との関係が指摘されている。13名の3年生に対して、大腸がんと乳がんについて、「がんの予防と食事との関連」をテーマに、各自、文献検索等により情報収集・考察し、レポートにまとめることを指導している。資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について、遠隔にて指導を行っているが、学生が自主的に取り組んでいることが伺える。学生の主体性を大切にしながら、今後4年前期にかけて、調べた情報をもとに要点をわかりやすくまとめたオリジナルの一般向けリーフレットを作成したり、がんの予防に有益な食材を使ったレシピを調査・考案したりしていく予定である。これらの活動を通じて、卒業後に管理栄養士として栄養指導等を行う上での具体的な知識や患者とのコミュニ

ケーション能力を養うことを目指している。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本人間ドック学会	人間ドック認定医 人間ドック健診専門医 人間ドック健診指導医 人間ドック健診情報管理指導士 遺伝学的検査アドバイザー	2005年8月～現在に至る 2012年1月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2007年8月～現在に至る 2020年4月～現在に至る
日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医	2020年1月～現在に至る
日本がん検診・診断学会	がん検診認定医	2012年10月～現在に至る
肺がん CT 検診認定機構	肺がん CT 検診認定医	2017年4月～現在に至る
日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医	2006年10月～現在に至る
日本医師会	福岡県医師会認定総合医 日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医	2017年4月～現在に至る 2016年9月～現在に至る 2011年5月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
1. 意味ラベルを用いた 「-性」を含む病名の言 い換え	共	2020年12月	情報処理学会 人文科学とコンピュ ーターシンポジウム 論文集 2020	①「-性」を含む病名 569 語を 対象に、語構成要素に付与さ れた意味ラベルを利用して 病名を機械的に分かりやす く言い換えることを試みた。 ②麻子軒、相良かおる、高崎智 子、東条佳奈、山崎誠 ③ P283-288
2. 実践医療用語の語構 成と意味 ―語構成要素 語彙試案表の作成に向 けて―	共	2020年12月	情報処理学会 人文科学とコンピュ ーターシンポジウム 論文集 2020	①医療記録データを利活用す るための自然言語処理を支 援することを目的とした語 構成要素語彙試案表の作成 に向けて、医療記録に含ま れる合成語 7,194 語を対象に、 語構成と意味の解析を行っ た。 ②相良かおる、小野正子、高崎 智子、東条佳奈、麻子軒、山 崎誠 ③ P289-296
(翻訳)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～大学連携講座 2019 年度事業報告～	共	2020 年 9 月	第 67 回日本栄養改善学会学術総会	①地域住民の生活習慣の改善を図ることを目的として、「講演」と「食育イベント・食事提供」の 2 部制とした大学連携公開講座を継続して開催してきた。リピーターが 80%以上であり、参加者の 75.6%が 70 歳以上であることから、地域に根差した食育活動として定着し、かつ市民交流のひとつの場として高齢者の閉じこもり予防等にも繋がっていると考えられる。また野菜摂取や減塩を考慮した食事を喫食したことが、生活習慣改善への動機づけに繋がっていると推察された。 ②永田純美、田中貴絵、石井愛子、手嶋英津子、引地尚子、辻澤利行、中道敦子、高橋甲枝、長光里奈、高崎智子、八木康夫、近江雅代 ③ E-125
2. 「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～参加回数が食嗜好および生活習慣改善に及ぼす影響～	共	2020 年 9 月	第 67 回日本栄養改善学会学術総会	①地域住民の生活習慣の改善を図ることを目的として、「講演」と「食育イベント・食事提供」の 2 部制とした大学連携公開講座を継続して開催してきた。参加回数が多い者において「健康度の自覚」「食生活改善への関心」が高く、薄味を好むことがわかった。公開講座への参加が、生活習慣改善への動機づけに繋がっていると推察された。 ②田中貴絵、石井愛子、手嶋英津子、引地尚子、辻澤利行、中道敦子、高橋甲枝、永田純美、長光里奈、高崎智子、八木康夫、近江雅代 ③ E-126

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 病名を表す合成語の語末調査	共	2020年9月	言語資源活用ワークショップ (LRW) 2020	①病名 5,465語を対象に、語末1文字、2文字、3文字における語の頻度を調べ、ある合成語が病名であるか否かをその語末から判別可能であるかについて検討した。 ②相良かおる、高崎智子、東条佳奈、麻子軒、山崎誠 ③ P2-8
4. 病名における「-性」の分析 ～一般書籍との比較から～	共	2020年9月	言語資源活用ワークショップ (LRW) 2020	①医療用語 7,194語を対象に、「-性」を含む病名の前要素の分析を行い、一般書籍における用例と比較し、用法の特徴について検討した。 ②東条佳奈、相良かおる、高崎智子、麻子軒、山崎誠 ③ P4-9

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	文部科学省 科学研究費補助金（基盤研究(B)）	○相良かおる、高崎智子、小野正子（山崎誠、東条佳奈、麻子軒）	2020年度 5,590,000円
人生100年時代を健康に豊かに生きるための地域貢献活動の展開 ～他職種連携による食育推進～ (新型コロナウイルス感染予防の観点より、本年度は中止した。)	西南女学院大学共同研究費	○近江雅代、高崎智子、他、看護・福祉・栄養学科教員（・九州歯科大学教員）	1,278,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
国家公務員共済組合連合会 新小倉病院	非常勤医師・産業医	2019年2月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
倫理審査委員会 委員 (2019年4月1日～現在) 入学試験会議 委員 (2020年4月1日～現在) ハラスメント相談員 (2020年4月1日～現在) 学生募集委員会補佐 (2020年4月1日～現在) 学生アドバイザー (2019年4月1日～現在) 管理栄養士国家試験対策講座 (前期・夏期集中・後期・国試直前) 高校訪問 (2020年8月～9月) 栄養学科学生に対して「遠隔授業における学生の健康状態に関するアンケート調査」実施 (2020年7月、2021年1月)

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤和 太 (銀光)	職名	准教授	学位	博士 (医学) (九州大学 2005 年)
----	-----------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん 糖尿病 食生活習慣 遺伝子多型 疫学

研 究 課 題
1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 2. アルコール関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究 3. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究

担 当 授 業 科 目
公衆衛生学Ⅰ (前期) 公衆衛生学Ⅱ (後期) 公衆衛生学 (前期) 健康管理概論 (前期) 管理栄養士演習Ⅰ (前期) 管理栄養士演習Ⅰ (後期) 国際栄養学 (後期) 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆衛生学Ⅰ】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気をつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【健康管理概論】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【公衆衛生学Ⅱ】 公衆衛生学Ⅰでは、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学Ⅱの授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アジア太平洋がん予防学会	会員	2002 年 10 月～現在に至る
日本疫学会	会員	2003 年 1 月～現在に至る
日本癌学会	会員	2003 年 10 月～現在に至る
日本がん疫学研究会	会員	2004 年 8 月～現在に至る
日本公衆衛生学会	会員	2010 年 12 月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 健康管理概論 第3版 第8章	共著	2019 年 2 月	講談社	栄養学NEXT シリーズ教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論 第3版 東あかね・久保加織 編
(学術論文) 1. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.	共著	2018 年 2 月	<i>Gene</i> . 2018 5;642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究において、2006 年と 2007 の間で募集された 35—69 歳、4972 人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた 7 つの選択された SNP の連合を分析しました。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相互作用が見られた。 ② 共著者 Seiki T, Naito M, <u>Guang Yin</u> , 他 9 名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P172-177
2. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.		2016 年 9 月	<i>Nutrients</i> . 2016 Sep 6;8(9). pii: E545.	①日本多施設共同コホート研究において、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型 ADRβ3 との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型 ADRβ3 Trp64Arg の交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。 ② 共著者 Hinako Nanri, <u>Guang Yin</u> , 他 16 名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P1-16

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016 年 5 月	<i>Nagoya J Med Sci.</i> 2016 May;78(2):183-93.	①日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究において、ALDH2 遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2 遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。 ②共著者 Guang Yin, Mariko Naitou, 他 16 名。 ③役割 ：論文作成、データ収集、統計分析 P183-193
4. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015 年 3 月	<i>Asian Pac J Cancer Prev.</i> 2015;16(5):2019-26.	①この研究では、福岡大腸がん研究において、大腸癌患者 685 例および対照 778 例の比較検討を行った。ビタミン D レセプターである ApaI 遺伝子多型と大腸がんリスク低下との関連が見られた。 ②共著者：Takeshige N, Yin G, 他 12 名 ③役割： データ収集、論文作成 P2019-2026
5. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015 年 2 月	<i>Ann Rheum Dis.</i> 2015 Feb 2. pii: annrheumdis-2014-206191. doi: 10.1136/annrheumdis-2014-206191.	①この研究は、1994 名の日本人男性痛風患者と 2547 名の健康な対照を用いた Genome-Wide Association Study である。ABCG2 遺伝子と SLC2A9 遺伝子が痛風発症と関連していることが示唆された。 ②共著者 Mtsuo H Yin G 他 38 名 ③役割：論文作成、論文作成、データ収集 doi:10.1136/annrheumdis-2014-206191

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. PAPSS1遺伝子多型と空腹時血糖値との関連	共著	2021 年 1 月	第 31 回疫学会総会(オンラインで開催)	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2772 名である。この研究では、PAPSS1 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ②藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他 11 名 ③第 31 回疫学会学術総会抄録集 (P126)
2. カフェイン代謝酵素 CYP1A2 遺伝子多型、コーヒー摂取及び緑茶摂取と空腹時血糖値異常との関連	共著	2020 年 2 月	第 30 回疫学会総会(京都大学百周年時計台記念館)	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2695 名である。この研究では、CYP1A2 rs2472304 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ②銀光、細井菜穂子、内藤真理子、他 11 名 ③第 30 回疫学会学術総会抄録集 (P146)
3. 遺伝子多型と赤血球系検査値との関連:既報ゲノムワイド関連解析結果の検証	共著	2016 年 1 月	第 26 回 日本疫学会学術総会(米子コンベンションセンター)。	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 静岡地区ベースライン調査に参加した 35-69 歳の男女 4995 名である。この研究では、日本人における赤血球系検査値と 7 種の SNP との関連を確認した。②清木俊雄、内藤真理子、銀光、他 9 名 ③第 26 回疫学会学術総会抄録集 (P150)

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績総数 (2021年4月16日現在) 著書 3 (内訳 単 1, 共 2) 学術論文 40 (内訳 単 0, 共 40) 学会発表 27 (内訳 単 0, 共 27)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
情報システム管理運用委員会 委員 2013年度～2019年度 保健福祉学部研究所運営委員会 委員 2017年度～現在 衛生委員会 委員 2019年度～2020年度 予算委員会 委員 2020年度～現在 国際交流委員会 委員 2020年度～現在 FD委員会 委員 2021年度～現在

2020 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	南里 宏樹	職名	嘱託教育職員	学位	博士(医学)(九州大学 1983 年)
----	-------	----	--------	----	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
栄養代謝学 生化学 臨床栄養学 細胞生物学	活性酸素 酸化ストレス 抗酸化防御機構 糖毒性 糖化タンパク質 血管内皮細胞

研 究 課 題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担 当 授 業 科 目
基礎栄養学Ⅰ(1年生後期)2クラス 基礎栄養学Ⅱ(2年生前期)2クラス 栄養学実習(2年生後期)2クラス 運動・環境と栄養(3年生後期;分担) 2クラス

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 基礎栄養学ⅠおよびⅡ 】 基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多いため、基礎的な生化学と関連づけながら講義した。また、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習して、全体の流れが分かるように留意した。重要事項は繰り返し強調するように心がけた。講義で使用したスライドは、すべて印刷して資料として配布した。また、管理栄養士国家試験の過去問題(2000 年～2020 年)の解説集および基礎栄養学の重要項目の練習問題を配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。 今年度は新型コロナ感染予防のため、多くの授業がオンラインで実施されたが、学生の反応が分かるように、また、授業を身近に感じるように、その日の授業に関連する練習問題をなるべく多くの学生にあて、マイクを ON にして答えさせるようにした。
授業科目名【 栄養学実習 】 今年度は新型コロナ感染予防のため、後期の前半は対面授業、後半はオンラインで実施した。対面の実習では、従来通り、栄養素およびその代謝産物を測定し、各栄養素の栄養学的意義とその代謝について理解できるように留意した。後半のオンライン授業では、測定などのやり方については動画などを用いて説明し、測定結果については以前の代表的データを提示して、その意義を考察させるようにした。それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1, 2 年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。
授業科目名【 運動・環境と栄養 】 3 人の教員が分担する栄養学科 3 年生のための講義で、「環境と栄養」分野を担当した。ストレス、体内リズム、気温、気圧、重力など 5 つの環境因子について、「栄養」との関りを身近な具体例を挙げながら講義した。また、関連する管理栄養士国家試験の過去問の解説集を配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。 今年度は新型コロナ感染予防のため、授業がオンラインで実施されたが、学生の反応が分かるように、また、授業を身近に感じるように、その日の授業に関連する過去問題をなるべく多くの学生にあて、マイクを ON にして答えさせるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会 日本栄養・食糧学会 日本肥満学会 日本栄養改善学会		1977年4月より現在に至る 2003年5月より現在に至る 2008年4月より現在に至る 2014年1月より現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
大学嘱託教育職員（栄養学科）（2020年4月1日～2021年3月31日）

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	西村 貴子	職名	講師	学位	修士(栄養科学)(中村学園大学2018年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
食生活学(臨床栄養を含む) スポーツ科学・応用健康科学	健康と食生活、食教育、食と環境、栄養アセスメント スポーツ栄養学、障害者スポーツ、栄養指導

研究課題
1. 臨床における障がい特性に合わせた効果的な栄養アセスメント項目の探索 2. 日本人障がい者を対象とした基礎代謝量等のエネルギー消費量推定に関する基礎研究 3. 身体活動(運動を含む)量と摂食行動および摂食関与因子との関連についての検討

担当授業科目
臨床栄養管理学(2年後期) 栄養教育論実習Ⅱ(3年後期) 運動・環境と栄養(3年後期) 総合演習Ⅱ(4年前期) 管理栄養士演習Ⅱ(4年通年) 臨地実習Ⅱ(3年後期から4年前期) 初年次セミナーⅠ(1年前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【臨床栄養管理学】 本科目では、基礎分野(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち・基礎栄養学)で学んだ栄養についての知識(理論)を、病院や介護といった臨床(現場)でどのように活用するか、その実践方法の修得を目的とした。具体的には、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の手法、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用等について、理解を深め、多職種連携を含めた総合的な栄養ケアマネジメントの考え方について、病院で行われている事例を提示しながら、解説を行った。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】 栄養ケアマネジメントを行うためには、対象者の望ましい行動形成と変容を図るための教育的手法を修得する必要がある。本科目では、人間の行動に関する科学的な根拠をもとに、個人栄養指導・集団栄養指導それぞれの利点・欠点の理解するため、具体的な教育手法についてロールプレイングを取り入れた実習を行った。
授業科目名【運動・環境と栄養】 3人の教員が分担する栄養学科3年生のための講義である。運動刺激に伴った生理反応と栄養の関連について講義を行った。特に、スポーツ栄養分野で重要視されるパフォーマンスの向上のための競技別の体格獲得に向けた栄養管理について講義を行った。
授業科目名【総合演習Ⅱ】 本科目では、実践栄養分野において、管理栄養士としてのマネジメント能力を培うことを目的とする。基礎分野を踏まえ、「臨床栄養管理学」および「栄養治療学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を実際に演習した。具体的には、疾患を持つ症例を具体的に提示し、それらに対して、特有の病態や治療法の把握、栄養アセスメント項目の選択と総合的な栄養評価の実施、目標の設定、栄養補給方法の選択や症例に提示する行動計画といった詳細な栄養ケア計画立案に至るまでの一連のマネジメント手法について、実際の状況を想定した演習(訓練)を行った。

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】 本科目は、管理栄養士国家試験「臨床栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。演習問題の直接の内容にとどまらず、実際の現場での活用方法や他職種の理解及び連携について実例を提示し、一部に固執せず、多面的かつ総合的な判断ができるような講義展開を行った。
授業科目名【 臨床実習Ⅱ 】 本実習は、臨床栄養の実践活動の場（病院）における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3 週間の実習を行うため、事前学習として、オリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、個別に添削指導しできる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。
授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】 大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探究していく姿勢をもたなければならない。初年次セミナーⅠでは、大学で学ぶためのスタディ・スキルの基本の強化を図るため、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ICT 活用法等、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。特に、栄養学科の学生がさまざまな実験実習に対応できるように『栄養学科で使用する計算・単位』『レポートの書き方』等、実際の事例を用いることにより、理解を促した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003 年 4 月～現在に至る
日本スポーツ栄養学会会員	正会員	2014 年 4 月～現在に至る
九州体育・スポーツ学会会員	正会員	2015 年 6 月～現在に至る
日本健康支援学会会員	正会員	2015 年 12 月～現在に至る
日本体力医学会	正会員	2017 年 5 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1.Post-exercise appetite and adlibitum food intake responses to acute bouts of moderate- versus high-intensity exercise in young male adults: a randomized crossover	共著	2020 年 6 月	The International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity (ISBNA) 2020 (19th) meeting. (Auckland, New Zealand : SBNPA	①To investigate the effects of a single moderate- or high-intensity exercise session on subsequent appetite and energy and macronutrient intakes, which depend on food choice and feeding behavior. The results showed that in young adult males, high-intensity exercise suppresses appetite, especially the

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
trial.			XChange Initiativeとしてオンライン開催；誌面発表	desire to eat fatty and salty foods, and influences temporal foodchoice such that protein intake immediately after exercise is low. However, moderate-intensity exercisedoes not find significant effectson the subsequent appetite and feeding behavior. ②Kumahara H, <u>Nishimura T</u> , Ayabe M, Tobina T, Yoshimura E, Imamura M, Tai H, Itoh Y, Aoki S, Kakimoto N, Kitajima S, Ichida Y, Nakano S ③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能
(その他・報告) 1. 障がいのあるスポーツ選手を対象としたエネルギーおよび栄養素摂取、生活習慣および食生活に関する報告	共著	2021年3月	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会科学委員会	①公益財団法人日本障がい者スポーツ協会および日本パラリンピック委員会が平成18年から平成26年の9年間に渡って実施した栄養・食事に関する調査およびその報告書をふりかえり、データを再編集してまとめたものである。 ②元永 恵子、 <u>西村 貴子</u> 、秦 希久子、高木 久見子、影山 鈴美、内野 美恵 ③遂行においては共同研につき本人担当部分抽出不可能 教育研究業績総数 (2021年3月31日現在) 著 書 0 学術論文 3 (内訳 単0、共3) 学会発表 16 (内訳 単0、共1) 報告書 1 (内訳 単0、共1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
【委員会等】 ・公益財団法人福岡県体育協会 スポーツ医・科学サポート事業 ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポート事業 ・福岡県女性アスリート医科学サポート研究委員会 ・一般社団法人日本パラ陸上連盟 強化委員会 ・一般社団法人日本車いすテニス協会	スポーツ医・科学スタッフ (スポーツ栄養領域) 栄養領域スタッフ 委員 強化委員 栄養サポート強化スタッフ	2013年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る 2019年12月～現在に至る 2020年4月～現在に至る 2020年4月～現在に至る
【講習会・セミナー等 他】 ・日本車いす協会 次世代育成強化指定選手リモート勉強会 ・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第1回次世代アスリート育成強化合宿 ・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第2回次世代アスリート育成強化合宿 ・福岡県聴覚障害者協会 難聴者・中途失聴者のための情報講座	講師 栄養スタッフ・講師 栄養スタッフ・講師 講師	2020年8月1日 2020年8月1日～8月3日 2020年12月25日～12月28日 2021年3月13日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・学生個人情報保護委員会委員（2020年4月～現在に至る） ・情報システム管理運用委員会委員（2020年4月～現在に至る）

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	八木 康夫	職名	教授	学位	博士(医学) (産業医科大学 2003 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研 究 課 題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間 (RT) を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、運動パフォーマンスに及ぼすサプリメントが代謝経路に及ぼす効果、高次脳機能に及ぼす効果についても検討している。近年、アスリートのパフォーマンスに及ぼす栄養素の効果について検討している。

担 当 授 業 科 目
初年次セミナー (栄養学科、1 年前期) 保険福祉学入門 (栄養・看護・福祉学科、1 年前期) 運動と健康 (栄養学科、1 年前期) チームスポーツ (栄養学科、1 年前期) 生涯スポーツ (栄養学科、1 年後期) 運動生理学 (栄養学科、4 年前期) 健康体力評価論 (栄養学科、4 年後期) 卒業ゼミ (栄養学科、4 年通年) 卒業研究 (栄養学科、4 年通年) チームスポーツ (看護学科、1 年前期) 生涯スポーツ (看護学科、1 年後期) チームスポーツ (福祉学科、1 年前期) 生涯スポーツ (福祉学科、1 年後期) 運動と健康 (英語・観光文化学科、1 年前期) チームスポーツ (英語・観光文化学科、1 年前期) 生涯スポーツ (英語・観光文化学科、1 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 運動と健康 】 1. PC を用いてプレゼンテーション・ソフトウェアによる資料提示をおこない、全スライド資料を配布した。 2. 毎講義後に授業の要点を A5 提出用紙にまとめさせ、授業の把握と、把握度を出席と同時に確認した。 3. 全授業終了後に、毎講義のまとめと、自発学習ノートを作成させ、提出させ、学生に評価基準を提示し、採点後に返却した。 4. 最終日に本講の振り返りとして、テーマを設け論述説明記述を行わせ、理解の確認を行った。 授業科目名【 チームスポーツ 】 1. 受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 2. 3 回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、在学中、学外、将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。

3. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 4. 1 および 3 について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 5. チームスポーツでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。
授業科目名【 生涯スポーツ 】 1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。 2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 3. 1 および 2 について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 4. II では職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
授業科目名【 運動生理学 】 1. パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。 2. 毎講義後に授業の要点を A5 提出用紙にまとめさせ、授業の把握と、把握度を出席と同時に確認した。 3. 全授業終了後に、毎講義のまとめと、自発学習ノートを作成させ、提出させ、学生に評価基準を提示し、採点後に返却した。 4. 最終日に本講の振り返りとして、テーマを設け論述説明記述を行わせ、理解の確認を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本運動生理学会	常任理事・編集委員（2008.7～至現在）	1992.4
日本体力医学会	評議員・会計委員（2017.4～至現在）	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

2 0 2 0 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
第25回 九州大学バスケットボールリーグ戦 第6位	共	2018.9.8-11.11	九州大学バスケットボール連盟 (九州各地)	九州地区の大学の順位を決める大会は、一部リーグで全10試合を行い第6位であった。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○八木康夫 近江雅代 境田靖子 手嶋英津子 石井愛子 田中貴絵 永田純美 浅野嘉延 高橋甲枝 (日高勝美) (辻澤利行)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本バスケットボール協会 日本体育協会 公開講座シニアサマーカレッジ	JBA 公認C級コーチ バスケットボール指導員 講師	2011.5.25～ 2015.3.26～ ～2018.8

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
栄養学科長：2018.4.1～ 入試委員：栄養学科入試要項等検討 2018年度～ 人事委員：全学科人事審査及び昇格審査等 2014.4～ 総合人間科学小委員会委員：総合人間科学カリキュラムの検討（至現在） 管理栄養士国家試験対策委員長：栄養学科内委員（2018.4～至現在） バスケットボール部顧問：AO・B方式入学者指導（～現在）

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山田 志麻	職名	講師	学位	博士 (歯学) (九州歯科大学 2020 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域健康開発 高齢者の栄養、スポーツ栄養	調理科学 食育 高齢者 嚥下食 咀嚼 低栄養 口腔ケア 舌圧 健康増進 スポーツ栄養

研 究 課 題
・ スポーツセンターを利用する高齢者の身体状況 ・ 在宅高齢者の舌圧と栄養状態 ・ 地獄釜を利用した調理の応用 ・ 高齢者の食事

担 当 授 業 科 目
・ 応用調理学実習 ・ フードコーディネート論 ・ 管理栄養士演習Ⅰ ・ 初年次セミナー ・ 基礎調理学実習 ・ 調理学 ・ 高齢者支援学Ⅰ ・ 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 応用調理学実習 】 1 年前期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで簡単に時短料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へステップアップするため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。
授業科目名【 フードコーディネート論 】 フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に単元ごとにまとめて講義した。
授業科目名【 調理学 】 調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い (保存や調理加工)、それにとともなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。単元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度が高いキーワードについて学習させた。
授業科目名【 基礎調理学実習 】 食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理学実習で活用できるよう周知徹底させた。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 1 年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、基礎的な栄養士認定試験問題から複雑な国家試験問題まで、問題を解かせ解説を行った。

授業科目名【初年次セミナーⅡ】 初年次セミナーⅡは、前期初年次セミナーⅠより、ブラッシュアップした形で、大学生として必要な学習能力を向上するための支援を行った。遠隔授業だったため、グループワークを円滑に行えるよう努めた。
授業科目名【卒業ゼミ】 6名のゼミ生に対し、それぞれのペースや内容にあわせ、指導助言を行い最終的に本人の経験や学習につながるようなゼミとなるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 日本家政学会 日本家政学会 九州支部 日本口腔衛生学会 日本調理科学会	会計監査 九州支部大会実行委員	1997年から現在に至る 1997年から現在に至る 2018年3月～現在に至る 2019年度 2013年から現在に至る 2013年から現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
2020 グリーンパーク食育事業 (地域貢献活動：さつまいもの収穫)		2020 年 11 月 3 日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
・ハラスメン相談委員 ・宗教委員 ・COC+高齢者支援学委員 2016 年 4 月 1 日 ～現在に至る ・アドバイザー 2016 年 4 月 1 日 ～現在に至る ・高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ担当者 2017 年夏期より集中講義 ～現在に至る ・生協理事 2017 年 4 月 1 日 ～現在に至る ・フードスペシャリスト認定試験責任者 2018 年 4 月 ～現在に至る ・バレー部体組成測定および栄養指導 2019 年 2 月 ～現在に至る ・チャペルアワー 司会担当 ～現在に至る ・弓道部顧問 2019 年 4 月 1 日 ～現在に至る

人 文 学 部

英 語 学 科

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 アンデリュウ・ジッツマン	職名 講師	学位 修士(言語学)(マクウォリ大学 2008 年)
-----------------	-------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
クリティカルシンキング 社会言語学	異文化コミュニケーション アイデンティティ 学習環境の認知度

研 究 課 題
オンライン学習環境の認知度 アイデンティティの確立

担 当 授 業 科 目
英語コミュニケーション I, II 英語プロジェクト I, II ライティング基礎 パラグラフ・ライティング エリア・スタディ II 専門演習 I, II 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【英語コミュニケーション】 このコースでは、台本通りの会話ではなく、様々なボキャブラリーを使って自分で会話をすることを目指した。また、このコースでは、学生が次のレベルの会話能力を身につけるための実用的な側面にも注意を向けることを目的としている。しかし、オンラインでの授業ということもあり、今年は非常にチャレンジングなものとなった。
授業科目名【英語プロジェクト】 このコースは今年の新しいコースで、学生が積極的にディスカッションやプレゼンテーションに参加することを目的としている。グループワークを多く取り入れようとしていたが、残念ながらオンラインという状況のため、これを実現することは困難であった。個人のプレゼンテーションは成功したが、ディスカッションとグループのプレゼンテーションは、オンラインであることに大きく影響された。
授業科目名【ライティング基礎】 何年も英語を書いても、生徒たちが問題とする基本的な要素はたくさん存在する。そこで、基礎的な部分を強化し、エッセイやリサーチレポートなどの大規模なライティング課題に備えられるように、地道なサポートを行った。オンラインの状況で生徒のライティングをサポートすることはより困難なものだったが、生徒はなんとかコースの要求を満たすことができた。
授業科目名【パラグラフ・ライティング】 アイデアをパラグラフ形式にまとめることは簡単なことのように思えるが、多くの生徒がこれをうまく行うことができない。このコースでは、様々な種類のパラグラフに焦点を当て、その知識をエッセイライティングに移す方法を説明した。パラグラフからエッセイへの移行は、多くの生徒が苦手とする問題であり、このコースはそれを修正することを目的としている。オンラインであるがゆえに、長いライティング文の作成を支援することは非常に困難であった。

授業科目名【エリア・スタディ II】

隣国についての知識を持つことは、国際理解のための重要なステップとなる。このコースでは、ASEAN の国々に焦点を当て、彼らがお互いに、そして日本とどのような関係にあるのかを考察した。学期のほとんどをオンラインで過ごしたが、リサーチやプレゼンテーションは個人で行うことができた。最初の学期をオンラインで過ごした経験が、学生のオンラインでのプレゼンテーションスキルを高め、コースを成功させることに繋がった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	北九州支部報告担当（2019 年 11 月～現在に至る） 学会ビジネス・マネージャー(2006 年 11 月～2010 年 11 月) 学会企画担当理事(2004 年 7 月～2006 年 11 月)	1994～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) Seize the Keys of the TOEIC L&R Test	共	2020	金星堂	このテキストは、TOEIC を受験する学生のためのものである。文法 解説・語句解説などを詳細に行っており、受験しない学生にとっても英語力の増強が見込まれるよう配慮している。
(学術論文) Implementing a Peer Support Program for Incoming College Students: Assessing Effectiveness	共	2020	西南女学院大学紀要	この報告書は、英語学科に入学した新入生のための新たなピアサポート・プログラムの改善状況と両学年の学生たちへの効果を明らかにした。さらにこの報告書は、他の機関で実施されているプログラムに加え、今回の関係学生に対して行なった複数の方法を組み合わせた調査結果とコメントに基づきさらなる改善策を示唆するものとなった。
(翻訳)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) A Peer Support Program for Incoming Students	共	2020年5月	全国語学教育学会第19回 Pan-SIG Conference	本発表では、大学1年生を対象としたピア・サポート・プログラムの開発と実施について紹介し、このプログラムの開発段階について説明した。現在のプログラムについては、新入生を大学に統合するための成功したプログラムとして紹介。
Hosting a Foreign Exchange Student		2020年9月	Rotary International 門司西部	日本で外国人留学生を受け入れる際の先入観とその後の経験についての発表。
Peer Support for Incoming Students	共	2020年11月		本発表では、大学の新入生をサポートするための様々な方法について説明。この発表では、新入生支援するための様々な方法について、実際に実施した結果を紹介し、求める成果に応じた代替案を提案した。また、これらのプログラムの参加者からのフィードバックも紹介。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員 就職委員 学生個人情報保護委員 オープンキャンパスオンラインアクティビティの企画検討を行う。 第二回 KANAME 杯委員 ZIONCUP（スピーチコンテスト）の委員となって企画検討を行う。 Halloween イベントの企画検討を行う。

2020 年度 教育 研究 活動 報告 書

氏名 太田 かおり	職名 教授	学位 博士（教育学）（国際基督教大学 2007 年）
-----------	-------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学（英語音声学）・英語教育学（英語科教育法）・ICT 英語教育（e ラーニング）	英語の発音とリズムの指導法・小中連携英語教育・e ラーニング英語教育

研 究 課 題
英語学の分野において、初等・中等教育における英語の音声指導の調査研究を行い、その重要性と課題点について考察を行う。また、英語教育学の分野では、小中高大連携を視座においたグローバル時代の英語教育の在り方についてや、e ラーニング英語教育における教師の役割および効果的な指導に関する研究などを行っている。

担 当 授 業 科 目
[2020 年度 担当授業科目] 実践英語音声学Ⅰ（前期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅱ（前期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅳ（前期）（英語学科） 専門演習Ⅰ（前期）（英語学科） 卒業研究（前期・後期）（英語学科） 教育実習Ⅱ（前期・後期）（英語学科） 事前及び事後の指導（前期・後期）（英語学科） 実践英語音声学Ⅱ（後期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅲ（後期）（英語学科） TOEIC 演習Ⅰ（後期）（英語学科） TOEIC 演習Ⅱ（後期）（英語学科） 教職実践演習（中・高）（後期）（英語学科） 初年次セミナーⅡ（後期）（英語学科） 専門演習Ⅱ（後期）（英語学科）

授業を行う上で工夫した事項
授業科目名【実践英語音声学Ⅰ】 「実践英語音声学Ⅰ」の講義では、音声学を学問として初めて学ぶ学生が大半を占めているため、丁寧でわかりやすい授業を心がけた。英語の母音・子音の調音方法や IPA 表記に加え、文レベルにおける音変化（連結・省略・同化など）、英語特有のリズムについても理論と実践の両面で学ぶ。英語のリズムやイントネーションについては洋楽などを活用し、学生がより興味を持ちながら楽しく学べるよう工夫した。また、学生ひとり一人が実際に声に出して発音する機会をより多く設けることによって、授業後の英会話や英語学習に活用できるよう、実用的な授業実践を意識した。学生は全体としてたいへん意欲的に授業に参加しており、個別の発音訓練にも熱心に取り組んでいる。学生は、毎回の授業の終わりにコメントシートを記入し、学生からの質問に対してフィードバックを行うことによって、双方向型で活気ある授業を心がけた。

授業科目名【 英語教科教育法Ⅱ 】 「英語教科教育法Ⅱ」は、英語科教育に関する理論的な学びに加え、ミニ模擬授業を行うことによって学習指導案の作成方法や授業展開、指導技術の基礎を学ぶ。模擬授業後、学生は相互に評価・講評し合い、良い点や改善点について学ぶ。4年次の教育実習に備えるため、実践的な指導を心がけた。
授業科目名【 英語教科教育法Ⅴ 】 英語科の教職課程科目で学んできたことの集大成として、教育実習へ行く直前に、中学校・高等学校（英語）の模擬授業を実施する。模擬授業担当学生は、英語科学習指導案、配布資料、パワーポイント資料、板書計画等を事前に作成したうえで模擬授業に臨む。互いに授業を参観し合い、講評することによって、学生たちは相互に刺激を受け、改善点や課題点について学び合う。個別に一人一人丁寧な指導を行うことによって、各々の学生が自らの授業の良い点をさらに伸ばし、改善点を克服し、自信をもって教壇に立つことができるよう指導に力を尽くした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音声学会 日本教育学会 国際教育学会 小学校英語教育学会 九州教育経営学会	福岡県理事	平成 22 年 12 月～現在に至る 平成 22 年 12 月～現在に至る 平成 23 年 4 月～現在に至る 平成 26 年 4 月～現在に至る 平成 28 年 4 月～現在に至る

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. e-learning 英語教育の学習効果に関する研究－学習者の自律学習へ向けた教師の役割－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 7 巻第 2 号, 51-80.	大学生を対象に、4 ヶ月に亘って実施した e-learning 英語教育の成果報告を行った。また、e-learning 英語教育における教師の役割や、学習者の自律学習へ向けた授業運営の在り方等についても考察を行った。 (総頁数 30 頁)
2. 日本の英語科教育における音声指導の現状－初期英語教育における音声指導の導入及びその教授法の確立を目指して－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 69 号, 53-73.	日本の大学生を対象に、中学・高等学校の英語科教育における音声指導の実態調査を行い、その結果を報告した。調査結果に基づいて、英語科教育における音声指導の現状と問題点を提示し、さらには、小学校外国語活動も視野に入れつつ、今後の日本における英語音声教育の在り方について論じた。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
				(総頁数 21 頁)
3. 日本の英語教育における盲点－音声教育の現状と課題－	単著	平成 25 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 8 巻第 1・2 合併号, 37-70.	学校教育における英語の音声指導の実態について調査研究を行い、日本の初等・中等教育において英語の音声指導が充分に行われていない実態を明らかにした。また、音声指導の具体的な内容について詳細な調査を行った結果、子音や母音の音声指導だけでなく、リズム・強勢・イントネーション・連結・同化・省略などを含む超音節的側面についても、学校教育では、調和の取れた指導が十分ではない現状を明らかにした。日本における英語教育の盲点として、音声指導の必要性和重要性を論じた。 (総頁数 34 頁)
4. 学校教育の現場に学ぶ－小学校外国語活動の事例研究－	単著	平成 26 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 9 巻第 1・2 合併号, 19-38.	小学校外国語活動を論ずるにあたり、外国語活動の授業を参観した。その際の記録および所見について報告を行い、小学校外国語活動の現状と課題について考察した。 (総頁数 20 頁)
5. 教育の本質および教職の意義に関する一考察－全人教育としての教師の教育観・生徒観・指導観－	単著	平成 28 年 2 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 77 号, 23-45.	教育の目的及び教職の意義について考察し、教育の本質とは何かに迫った。教育基本法並びに学校教育法における教育の目的について概観し、全人教育を行う上での教師の教育観・生徒観・指導観、さらには、教師や学校の果たす役割について論じた。また、社会が求める人材について言及し、学校教育が育む人間像と実社会が求める人材像との一貫性について考察を行った。 (総頁数 23 頁)

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
6. 小学校外国語活動の課題と展望ー小学校外国語活動に関するアンケート調査から読み解くー	単著	令和2年3月	西南女学院大学紀 Vol. 24, 65-84.	北九州市内の全ての小学校135校（有効回答数 90校、有効回答率 66.7%）を対象に実施した「小学校における外国語活動に関するアンケート調査」の結果を分析し、小学校外国語活動の成果と課題について考察した。アンケート調査では、全体の97%（90校のうち87校）が小学校外国語活動に関して「課題はある」と回答し、ほとんどの小学校が外国語活動に課題を抱えつつも、学級担任とALTが授業工夫と努力を重ね、児童の英語力の素地づくりに鋭意取り組んでいる様子が明らかとなった。 （総頁数 19頁）
（翻訳）				
（学会発表） 英語科教育における音声指導のすすめー学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたかー	単独	平成24年8月26日	日本教育学会 第71回大会 （於 名古屋大学）	日本教育学会第71回大会において、『英語科教育における音声指導のすすめー学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたかー』と題し、音声教育に関する現状報告と問題提起を行った。 他

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
北九州市内の小学校における「外国語活動」に関する研究調査：現状と課題、及び改善策の提案～地域活性化へ向けたグローバル人材の育成強化を目指して～	産業経済局 高度人材育成課	500,000	平成25年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業

北九州市内の中学校における英語教育の小中連携に関する調査研究：現状と課題、および今後の展望～今後の教育改革を見据えた小中連携の在り方を考える～	産業経済局 高度人材育成課	350,000	平成26年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業
小学校・中学校・高等学校の英語教育をCAN-DO リストでつなぐ：「北九州市内高等学校の英語教育に関する調査研究」および「小中高一貫 CAN-DO リスト(試案)の開発」	産業経済局 高度人材育成課	1,000,000	平成27年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
中間市教育委員会 中間市点検評価委員 公益財団法人 日本英語検定協会 その他、県内外の小学校・中学校・高等学校の英語科教員や生徒を対象に、英語教育に関する講演会や研修会の講師を務める。	教育委員 評価委員 派遣講師	2019年7月8日～現在に至る 2018年4月1日～2019年6月18日 2019年4月1日～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
学生募集委員会	2019年4月1日～2021年3月31日
研究紀要委員会	2019年4月1日～2021年3月31日
学生委員会	2019年4月1日～2020年3月31日
教職課程委員会	2019年4月1日～現在に至る
教務委員会	2021年4月1日～現在に至る
地域連携室員	2021年4月1日～現在に至る

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	大谷 浩	職名	教授	学位	EFL 修士
----	------	----	----	----	--------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育、第 2 言語習得	日本の英語教育改革、小中高大連携、英語力評価試験

研 究 課 題
日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

担 当 授 業 科 目
英語学概論Ⅰ、英語学概論Ⅱ、ライティング基礎、パラグラフィティング、人文学入門、初年次セミナー、エッセーライティング (Academic English Writing)、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【英語学概論Ⅰ】 オンデマンド授業を行った。前日までに授業動画を英語学科の LMS にアップロードし、毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。よどみない授業進行にするため、例年に増して授業準備が必要であった。技術的な難しさやトラブルもあった。しかし、総じて授業力向上につながった。
授業科目名【英語学概論Ⅱ】 後期前半の 1 ヶ月ほどは対面で行ったが、その後遠隔オンデマンド授業に戻った。工夫した点は英語学概論Ⅰに同じである。
授業科目名【ライティング基礎】 遠隔ライブ授業にて、自主作成の e-learning ソフトと、教科書による説明を融合したブレンドラーニング方式で行った。
授業科目名【パラグラフィティング】 後期最初の 1 ヶ月は対面で授業を行った。この期間でクラスの雰囲気を知ることができたことが、のちに遠隔ライブ授業に戻った際に、授業運営のやりやすさに繋がった。授業の工夫は、前期のライティング基礎と同じである。

授業科目名【人文学入門の担当者】 まず授業の冒頭で、オンラインライブ授業に伴う新入生の不安を緩和するため、オンライン授業についての説明をした。また第1週目の講義担当者として、学問領域における人文学の位置づけを説明し、次週以降に続く各論が、学問領域でどのような位置を占めるのか明確にし、学習効果の効率化を図った。
授業科目名【初年次セミナーI】 オンライン授業で必須となる、教員とのメールでのコミュニケーションの取り方をまず指導した。そこでは、ネチケットや、詐欺サイトに騙されないような防衛手段も含めて講義した。続いて、公的な場での文書作成上の注意・指導を行った。
授業科目名【Academic English Writing】 オンラインライブ授業にて、教科書にある例題をきっかけに、関連事項を新聞記事から紹介して、その後、各自でリサーチを行わせ、英語でまとめる演習を行った。CreativeWriting までと異なり、引用文献の引用の仕方や、文献一覧の書き方も指導した。また、常に卒業論文の書き方と深く関係することを教示した。対面授業と質的に変わらない授業が提供できた。
授業科目名【専門演習 II】 オンラインライブ授業で、新聞記事を中心に、世の中での出来事が英語でどのように報じられているかを学習することに努めた。
授業科目名【専門演習 II】 後期最初の1ヶ月ほどは対面授業で行った。自分が関心を持つテーマに絞って資料を集める活動を行わせ、スクラップブックに保存させておくことで、卒業論文の下準備を始めさせた。オンライン授業に戻っても、基本的に同じように授業進行ができた。
授業科目名【卒業研究】 1人1人のテーマに応じて、前半は総論的指導、後半は各自にきめ細やかに指導した。必要に応じてフィールド調査にも連れていった。全員の完成原稿をゼミ卒論集としてまとめ、学位授与式で各自に渡した。ほぼ全てオンラインでの指導ではあったが、特段やりづらいことはなく、順調に推移した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国英語教育学会 九州英語教育学会	役員（常任）、幹事（常任）	1995年 1994年

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
英語学科学科長、第2回全国高校生英語スピーチコンテスト（KANAME 杯）オンライン開催、地域連携室室員、女性活躍WG責任者

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	倉富 史枝	職名	特別契約教員Ⅲ教授	学位	修士 (文学) (久留米大学 1995 年)
----	-------	----	-----------	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
ジェンダー論 家族社会学	ジェンダー構造、企業中心社会 日本型近代家族、性別役割分業

研 究 課 題
ジェンダー論に関して日本の近代化に伴うジェンダーの構造化を中心に考察する。また、ジェンダー意識の形成の過程と現在の意識変容を把握し、今後の女性と男性のキャリア形成連についても考察する。

担 当 授 業 科 目
ジェンダー論 (前期) (英語学科・観光文化学科) 共生社会とジェンダー (前期) (人文学部及び保健福祉学部の全学科、保育科の2年次) 女性史 (後期) (人文学部及び保健福祉学部の全学科、保育科の2年次) キャリア開発 (後期) (人文学部及び保健福祉学部の全学科1年次)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【ジェンダー論】 オンラインの効用としてCM映像やニュース報道などを最新のインターネット教材を使用し、学生の関心を高めた。その後の授業でも、講義以外の生活の場でも学習の目を向けるよう教材を選んだ。 英語学科・観光学科の学生であることを踏まえ、国際比較データを活用し、国際的な視野で日本の現状の課題を考えさせた。
授業科目名【共生社会とジェンダー】 男女共同参画社会やハラスメントや性暴力の根絶などのテーマでワークショップを実施した。社会や学問に存在する性差に関わる既成概念や諸問題について座学で学ぶとともに、性別にとらわれずに、国籍、人種、障害の有無などに関わらず多様な人々との共生社会のあり方について、オンライン上でグループに分かれて意見交換し、双方向でのアクティブラーニングで授業を進めた。
授業科目名【女性史】 現在の日本の女性の意識形成のルーツをたどるという趣旨で、主に明治以降と第2次世界大戦後の教育や政治体制を対比させ、さらに、学生の現状と重ね合わせることで学習意欲を高めた。卒業後、就職や家族形成など自己決定する際に、社会の仕組みの歴史的背景を理解したうえで適正に情報選択できるよう、課題を提供した。
授業科目名【キャリア開発】 多様な分野から外部講師から講師を招き、多角的な視野でキャリア形成ができるよう支援した。 講義内容を自分のキャリアと結び付けて考えられるよう、コメントシートを記載させた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称		役職名等（任期）		加入時期	
西日本社会学会 日本社会分析学会		会員 会員		1993 年 9 月 1993 年 10 月	
2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要	
（著書） 特になし					
（学術論文） 特になし					
（翻訳） 特になし					
（学会発表） 特になし					

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
特になし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称	役 職 名 等	任 期

(内 容)		期 間 等
苅田町男女共同参画推進委員 福岡家庭裁判所家事調停委員会 福岡家庭裁判所参与員 春日市男女共同参画審議会 遠賀町苦情処理委員 福岡県同和問題をはじめとする人権問題 に係る啓発・研修講師団 大木町男女共同参画推進協議会 古賀市男女共同参画審議会 大川市男女共同参画推進協議会 福岡県人権施策推進懇話会 志免町男女共同参画推進審議会 福岡県エイズ・性感染症対策推進協議会	家事調停委員 会長 会長 会長 会長	2001 年 4 月～現在に至る 2004 年 4 月～2020 年 10 月まで 2004 年 4 月～現在に至る 2011 年 5 月～現在に至る 2013 年 4 月～現在に至る 2014 年 4 月～現在に至る 2015 年 3 月 ～現在に至る 2015 年 4 月 ～現在に至る 2015 年 9 月～現在に至る 2016 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2017 年 7 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
特になし

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	塚本 美紀	職名	准教授	学位	修士 (教育学) (テンブル大学 2005 年)
----	-------	----	-----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研 究 課 題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担 当 授 業 科 目
グラマー・コンポジション I (A)、(B) (前期) 専門演習 I (前期) 教育ボランティア演習 (前期) グラマー・コンポジション II (A)、(B) (後期) 英語教科教育法 I (後期) 英語教科教育法 IV (後期) 専門演習 II (後期) 教職実践演習 (中・高) (後期) 北九州の過去・現在・未来 (後期) 初年次セミナーII (後期) 地域プロジェクト (後期) 国際ボランティア演習 (後期) 卒業研究 (通年) 事前及び事後の指導 (通年) 教育実習 II (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【グラマー・コンポジション I】 重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるようにした。オンライン授業でも質問がしやすいようにチャットをしたり、事前にメール等で質問を受け付けるようにしたりした。
授業科目名【専門演習 I】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、動画を見たり、さまざまな国の人々とインターネットを利用して英語で交流したりする機会を持てるようにした。

授業科目名【教育ボランティア演習】 日本の初等中等教育の現状と課題について理解できるようさまざまな資料を用いて解説した。中学校を訪問することができなかったため、学生が高等学校の授業や部活動に遠隔で参加させていただけるようにして、学習支援活動を実施できるようにした。
授業科目名【文法・ライティングⅡ】 授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、多くの演習問題を行った。授業のペースについてくるのが難しい学生や、より発展的な学修を望む学生については、授業外の時間で個別に対応した。
授業科目名【英語教科教育法Ⅰ】 毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。遠隔授業ではペア活動やグループ活動を行うことが難しかったため、方法等を変更し全体で行う活動で同等の内容ができるように工夫した。
授業科目名【英語教科教育法Ⅳ】 これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生同士、互いの模擬授業について、良かった点と改善点について討論する時間を設けた。模擬授業は遠隔授業の中で行うので、その特質を生かした指導案を作成するようにした。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。
授業科目名【教職実践演習（中・高）】 模擬授業については、遠隔授業の中でも実施できるような形態で行った。模擬授業の振り返りの時には、学生からの意見が出やすいようにいくつかの項目に分けて発言を促した。
授業科目名【北九州の過去・現在・未来】 北九州市についての基礎的な事項の紹介から始まり、北九州に関する新聞記事、書籍、映像などを用いたり、外部講師による講演を行うなどして、北九州について多角的に捉えられるよう紹介した。また、それぞれが学ぶ専門分野がどのように地域に貢献できるかということについてのオンライン・ポスターセッションを行い、学生同士が互いに学ぶ機会を設けた。
授業科目名【初年次セミナーⅡ】 レポート作成の際、どのように文章を構成したら良いかわかるように、例を紹介しながら、段階を追って説明し、スモールステップを設け、実際にレポートを作成してもらった。遠隔授業での学生のプレゼンテーションがスムーズにいくように事前にガイドラインを提示した。
授業科目名【地域プロジェクト】 コロナ禍の中でも実施できるプロジェクトに変更して実施した。プロジェクトの内容について学生が理解しやすいように、段階を追って説明し、具体的な指示を与えるようにした。
授業科目名【国際ボランティア演習】 一人一人が主体的に取り組めるよう、小さなグループでプロジェクトに取り組めるようにした。また、カンボジアの大学生とのオンラインでの交流は、事前に互いの質問事項を交換することによって、よりの確に説明できるよう準備した。

授業科目名【卒業研究】 計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。
授業科目名【事前及び事後の指導】 オンライン授業であることを活かして、東京都、大阪府、ソウル市の高等学校の教員に講演をしてもらい、近隣の学校だけではなく、他の地域、他の国の教育事情についても学ぶ機会を設けた。
授業科目名【教育実習Ⅱ】 教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあ るものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がと れるようにして対応した。また、本年度は特に体調管理については実習前から気をつけておくよう指導した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」 日本 ESD 学会 北九州サステナビリティ研究所	副代表理事（2016年8月～現在に至る）	1990年9月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年6月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
			教育研究業績 総数 (2021.3.31現在) 著書 1 (内訳 単 0、共 1) 学術論文 11 (内訳 単 6、共 5) 学会発表 10 (内訳 単 0、共 10)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
日本と中国における大学キャリア教育に関する研究 ～素質教育を中心にして～	西南女学院	○ 神崎 明坤 高橋 幸夫 塚本 美紀 (林 楽 常) (王 小 燕) (張 小 光)	1,300,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International（世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体）	面接委員 会員 北九州ゾンタ アドボカシー・奉仕委員長	1993年7月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2020年6月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会 副委員長（2018年4月1日～2021年3月31日） キャンパスハラスメント相談員（2014年4月1日～2021年3月31日） ゴールデンZクラブ 顧問（2014年4月1日～2021年3月31日） 教職員懇親会 委員（2016年4月1日～2021年3月31日） 学生個人情報保護委員会 委員長（2018年4月1日～2021年3月31日）

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	ブラウン馬本 鈴子	職名	講師	学位	文学博士
----	-----------	----	----	----	------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レスリング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、

研 究 課 題
主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。

担 当 授 業 科 目
前期 英検演習Ⅰ、英検演習Ⅱ、英語文学Ⅰ、英米文学研究、初年次セミナーⅠ、専門演習Ⅰ、卒業研究 後期 英米文学特殊講義、卒業研究、英語文学Ⅱ、専門演習Ⅱ、リーディングⅣ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 英語文学Ⅰ・Ⅱ 】 英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学Ⅰ」から「英語文学Ⅱ」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である <i>The Tale of Peter Rabbit</i> を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料（DVD）を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。遠隔授業となった時は、「英語文学Ⅰ」では英語学科独自のプラットフォームであるマイスタディポータルサイトを、「英語文学Ⅱ」では Google Classroom を使い、今までの対面授業ではむしろ困難であったネットからの資料を随時紹介したり、文章校正のツールを使用したりした。
授業科目名【 卒業研究 】 前期には、専門演習Ⅰ,Ⅱを得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターセッションの練習会も行った。遠隔授業となった際も、ビデオ会議システム zoom を使い、対面と変わらない内容で授業を行なった。

授業科目名【 英米文学特殊講義 】 小林章夫書作の『イギリスの詩を読んでみよう』（NHK 出版）の本が絶版になったので、学生に好評であったその本に書かれていた詩をベースに、技法説明や、詩の紹介などの内容は更に発展させ、詩の技法や鑑賞法を学習していくことができる書き込み式の学習教材を作成し、毎回の授業で配布した。更に、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習用のプリントも作成し、毎回配布した（遠隔授業となってからすぐ郵送で送った）。学期後半にはいくつかの有名な詩を暗唱するテストを個別に行い、リズムや発音の指導も行った。遠隔授業となった際も、ビデオ会議システム zoom を使い、対面と変わらない内容で授業を行なった。
授業科目名【 英米文学研究 】 Lauren Weisberger による The Devil Wears Prada: A Novel というベストセラーの小説のスクリーンプレイを映画と併用しながら精読することで、セリフや文化背景を紹介した。小説とスクリーンプレイの比較の中でフェミニズム的な文学の読みを実践した。学生には毎回の課題で、理解度をモニタリングすると共に、感想を書かせてそれにコメントをつけ返却した。遠隔授業となった際も、ビデオ会議システム zoom を使い、対面と変わらない内容で授業を行なった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本英文学会九州支部 映画英語教育学会（ATEM）九州支部 日本オースティン協会	支部評議員（なし）	2001 年 10 月～現在に至る 2006 年 10 月～現在に至る 2015 年 11 月～現在に至る

2 0 2 0 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表) 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
特になし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
特になし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員副委員長 教務委員

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 マルコム ロス スワンソン	職名 教授	学位 大学教育部大学院修士課程
---------------------	-------	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研 究 課 題
1. Language study through active learning 2. Digitizing language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担 当 授 業 科 目
• English Extension I • English Extension II • English Extension III • 専門演習 • 卒業研究 • 前期 ○ 英語ディスカッション I ○ エリア・スタディ I (2A & 2B) ○ メディア英語 I ○ 英語コミュニケーション I ○ 英語プレゼンテーション I (2A & 2B) • 後期 ○ 英語プロジェクト II ○ メディア英語 II ○ 英語コミュニケーション II (1a & 1d) ○ 英語プレゼンテーション II (2A & 2B) ○ 地域プロジェクト ○

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名 【英語プレゼンテーション I, II】 Because of the sudden switch to online classes, this course had to be completely rewritten. Using our “My Study” Moodle website, I created materials for the students to self-access so that they could learn the skills they needed. These included videos, quizzes, and online assignments. Most classes would begin with an introduction on Zoom, then the students would work on the activities in breakout rooms. At the end of class, the students would share their work. This system worked very well for these classes.

急遽、オンライン授業に切り替えたため、このコースは完全に計画し直す必要があった。Moodle の「My Study」というサイトを使い、学生が自分でアクセスして必要なスキルを身につけられるような教材を作成した。教材には、ビデオ、小テスト、オンライン課題などが含まれている。ほとんどのクラスは、Zoom での自己紹介から始まり、その後、生徒たちはブレイクアウトルームでのアクティビティに取り組んだ。授業の終わりには、生徒たちが自分の作品を共有した。このシステムは、これらのクラスでは非常に効果的であった。
授業科目名【エリア・スタディ I】 This course has the same evaluation as “English Presentation” because it faced the same issues of suddenly converting to online learning. このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。
授業科目名【英語ディスカッション I】 このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。 In addition, in this class we focused a lot on collaborative preparation of materials, especially presentations. This proved to be a feature of this course. また、このクラスでは、プレゼンテーションをはじめとする資料の作成を共同で行うことに重点を置き、これがこのコースの特徴でもある。
授業科目名【メディア英語 I, II】 このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。 These classes were particularly useful for teaching the students how to make the most of the Google applications included with their email. In particular, being able to collaborate on presentations and writing was a much-used feature. これらの授業は、電子メールに付属する Google のアプリケーションを最大限に活用する方法を学生に教えるために特に有効だった。特に、プレゼンテーションや文章作成の際に共同作業ができるのは、非常に便利な機能であった。
授業科目名【英語コミュニケーション I, II】 このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。 This was a hard class for Year 1 students, so we needed to spend a lot of time using Zoom break out rooms for communicative activities. このクラスは Year1 の生徒にとってはハードなクラスだったので、Zoom breakout room を使ってコミュニケーション活動に多くの時間を割く必要があった。
授業科目名【英語プロジェクト II】 このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。 As this was a 3rd Year class, we were able to make full use of the collaborative tools in Zoom, Google Tools, NearPod, Kahoots, MentiMeter, and so on with good results. 今回は 3 年生のクラスということもあり、Zoom、Google Tools、NearPod、Kahoots、MentiMeter などのコラボレーションツールを駆使して、良い結果を出すことができた。
授業科目名【地域プロジェクト】 このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。 In addition, we worked on community projects related to Kitakyushu’s environment, creating slideshows about the Sone Wetlands and translating the city’s karuta Geo Cards. The students went on to present at 第 8 回東田サステイナブル国際会議 さらに、北九州の環境に関するコミュニティプロジェクトにも取り組み、曽根湿地のスライドショーを作成したり、北九州市のかるたジオカードを翻訳したりした。学生たちは、第 8 回東田サステイナブル国際会議で発表を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	会員 第 45 全国語学教育学会 大会研究発表記録集編集長 Website 編集委員	1996年～現在に至る 2020年11月 2010年5月～現在に至る
CALICO (コンピュータ支援言語教育コンソーシアム)	会員	2005年5月～現在に至る
Moodlemoot		2020年1月～現在に至る
JASAL (Japan Association for Self-Access Learning)	会員	2015年7月～現在に至る
Online Teaching Japan	会員	2020年4月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
A peer support program for incoming students	共著	2020 年 8 月	JALT PanSIG 2020	This presentation looked at the evolution of a peer support program at Seinan 共同研究者：Andrew Zitzmann
Using Moodle for Online Courses	単著	2020 年 8 月	Online Teaching Japan	A workshop on how to use Moodle for online teaching
Creating a Peer Support program	共著	2020 年 11 月	JALT2020 Online	This was a poster session explaining the ongoing development of our peer support program. 共同研究者：Andrew Zitzmann
Developing Peer Assessment Skills With Moodle	単著	2020 年 11 月	JALT2020 Online	This workshop introduced how to use Moodle for peer assessment.

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Design Skills in the Classroom	単著	2020年11月	Apple ADE Workshop, Tokyo	A workshop for teachers on how to implement design theory into their classrooms
Use of iDoceo for Classroom Management	単著	2021年2月	JALT 北九州	A workshop on using the iDoceo Classroom Management app

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学 外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
梅光学院大学ESSスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2021年2月
キャンベル杯ディベート&スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート &スピーチ・コンテスト審査員	2021年3月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

- 教育経費予算配分委員
 - 英語学科の予算委員を担当し、2020 年度副委員長となる。
- 情報システム管理運用委員会
 - 英語学科の担当し、2020 年度副委員長となる。
- English Lectures（ZIONCUP スピーチコンテストを含む）, Movie Month, Board Games Night, Halloween Event, Christmas Intensive, 卒論のポスターセッションの運営担当を行った。.
- 英語学科ウェブサイトの管理
 - 英語学科のウェブサイト情報をアップデートするための委員会の責任者となる。
- Moodle サイトを使ったオンライン学習の管理とトレーニング。

觀 光 文 化 學 科

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 池口 功晃	職名 准教授	学位 博士 (経済学) (久留米大学 2019 年)
----------	--------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光経済学、地域活性化	日帰り観光、観光の経済効果

研 究 課 題
観光を通じた地域経済活性化に関する国内のこれまでの研究は、観光地の「魅力」こそその核心であると捉えたものが多く、例えば、地域における温泉、食事、レクリエーションなど、いわゆる観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達、人々の目的地への移動を短時間で可能ならしめるため、地域経済活性化の研究においては観光地のみならず観光者にも焦点を当て、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③観光客の観光消費額をもとに産業連関表を通じた精緻な経済分析などを通じて計量的・客観的に行う必要がある。そこで、私の研究では、まず観光の概念を整理した上で観光者の行動を制約する2つの要素、すなわち「時間」と「費用」に着目し、その費消関係に対して、経済学の効用概念を援用しつつ、観光行動の類型化とその分析を試みた。そして、観光者による観光目的地の選択場面において、これら「時間」と「費用」が意思決定の重要な要素になるとの仮定のもとに、国内の具体的な地域 (大分県) を対象に、GIS (地理情報システム) 等を用いて、各観光地が取り込む日帰り観光圏を分析し、さらに観光地間の競合関係を明らかにした。次に、大分県 14 市を事例に大分県産業連関表からそれぞれの産業連関表を作成した上で、観光客の観光消費額をもとに経済効果を測定し、観光がそれぞれの地域経済にどの程度寄与しているかを明らかにした。 このように私の研究は、地域社会の課題を「観光」という切り口で捉え、観光を通じた計量的・客観的な地域経済の分析および評価を主とするものである。今後の研究の方向性としては、(i) サーベイ法を用いた日帰り観光の経済効果を計測することにより、日帰り観光の経済効果とその当該地域の産業構造の関係についてより精緻な考察を行うこと、(ii) 修正ハフモデルを観光地間の競合関係により深く組み込んで精緻な分析を行うこと、(iii) 以上を含めた手法を福岡県、とりわけ北九州にも応用し、九州の日帰り観光を総体として研究することを課題としている。

担 当 授 業 科 目
(前期) ・ インターンシップ (観光文化学科) ・ 国際ビジネス論 (英語・観光文化学科) ・ 初年次セミナー I (観光文化学科) ・ 日本経済入門 (観光文化学科) ・ ビジネス演習 A (観光文化学科) ・ ビジネス演習 B (観光文化学科) ・ 国内旅行実務 (観光文化学科) ・ 専門演習 I ((後期)) ・ キャリアデザイン論 II (観光文化学科) ・ ビジネスファイナンス (観光文化学科) ・ 多国籍企業論 (観光文化学科) ・ 地域活性化演習 A (観光文化学科) ・ 地域活性化演習 B (観光文化学科) ・ ツーリズム演習 (観光文化学科) ・ 地域観光資源開発論 ・ 専門演習 II

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【インターンシップ】 2020 年度においては、新型コロナウイルスの影響により通常のインターンシップが実施できなかったため、業界研究を中心に講義形式にて実施した。

授業科目名【国際ビジネス論】 貿易取引のしくみ、貿易書類の読み取り方についてレジュメを作成し、学生に対しわかりやすく説明した。また毎回授業前に前回の授業を踏まえた復習を実施し、学習の定着を図っている。
授業科目名【初年次セミナーⅠ】 大学での学び方、学生生活など、大学生活を送るにあたり習得しておくべき、さまざまな内容を取り扱い、わかりやすく解説した。
授業科目名【日本経済入門】 経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、真に理解できない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図った。その後、戦後の日本経済（GHQ の占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス）について上述した基礎を踏まえながら順に説明した。
授業科目名【ビジネス演習 A・B】 ビジネス社会で必要とされる①仕事への取り組み方や②ビジネスマナー③知っておきたい会計・法律・税金の知識を詳しく丁寧に説明している。
授業科目名【地域観光資源開発論】 北部九州・山口の市町村における観光の取り組みについて、学生が各グループに分かれて実地・文献調査をおこない、それをもとに新しい観光のあり方について議論する場を設けた。
授業科目名【キャリアデザイン論Ⅱ】 大学生の就職・キャリア支援のため、エントリーシートや履歴書の書き方、また集団面接、ディスカッションのトレーニングをおこなっている。
授業科目名【ビジネスファイナンス】 ビジネスではいわゆる数字（例えば、売上、原価、利益など）を読めることが大切である。本授業では、あらゆる業種の財務諸表を実際に扱い、企業財務（ファイナンス）の分析手法について詳しく説明している。
授業科目名【多国籍企業論】 経済活動のグローバル化が進むなか、国際ビジネス活動において主要な役割を演じている多国籍企業は、経済・社会・文化などの面で、世界に大きな影響を及ぼしている。このような多国籍企業を理解することを通して、国際ビジネス、（貧困問題を含めた）世界の動き、日本企業、欧米企業などについて詳しく説明している。
授業科目名【地域活性化演習 A・B】 本授業においては例年、地域活性化の重要な担い手である企業等を中心とした生産主体に着目し、企業と学生の共同作業を通じて地域活性化に資する一定の成果を追求することを目的として実施している。しかし、2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、座学に切り替え、地域活性化に関する論文のレビューを通じ、これらの議論を深めた。
授業科目名【ツーリズム演習】 九州におけるインバウンド観光振興のために、観光マーケティング及びインバウンド観光の知識を有するインバウンド対応型の観光人材の育成が求められている。本授業においては、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を詳しく説明している。

授業科目名【国内旅行実務】 国内旅行業務取扱管理者試験を念頭に、国内の観光地理を紹介、また運賃料金計算のしくみなどについて説明している。
授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 前期はグループディスカッション、後期は卒業論文作成のための先行研究のレビューをおこなっている。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本企業経営学会 九州都市学会 人文地理学会 経営行動研究学会 観光学術学会 日本観光研究学会 日本地理学会 福岡地理学会	設立発起人	2018年4月～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2014年4月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2007年12月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
「輝こう！あまがせ・支援大使」（大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」）	観光に関する助言・指導	平成 25 年 9 月～現在に至る
宇佐市まち・ひと・しごと創生有識者会議 審議委員	副委員長	平成 27 年 7 月～現在に至る
津久見市まちづくり推進事業審査委員	副委員長	平成 28 年 8 月～現在に至る
日田市天瀬農業公園検討委員会	会長	平成 30 年 9 月～現在に至る
北九州市民カレッジ 【大学連携リレー講座】 メディアと私たちのよりよい関係づくり	講師	令和 3 年 2 月 12 日
北九州市政テレビ番組制作・放送業務委託業者選定会	選定委員	令和 3 年 2 月 2 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教務委員会副委員長

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 神崎 明坤	職名 教授	学位 修士 教育学 九州大学 1995 年
----------	-------	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研 究 課 題
① 中日の近代における思想家の道德修養に関する研究 ② 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担 当 授 業 科 目			
科 目 名	単 位 数		授 業 評 価 ポ イ ン ト ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必 修	選 択	
入門中国語会話 (前期)		○	4.5～5.0
初年次セミナー (前期)	○		5.0
キリスト教と現代 (前期)	○		5.0
応用日本語 (後期)	○		未開講
専門演習Ⅰ、Ⅱ (通年)	○		5.0
卒業研究 (通年)	○		5.0
初級中国語会話 (後期)		○	5.0
上級中国語 (後期)		○	4.0
中国語通訳ガイド演習 (後期)		○	5.0

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 入門中国語会話 】 1 テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 3 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。 4 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 5 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。
授業科目名【 初級中国語会話 】 1 テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 3 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。

- 4 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 5 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 上級中国語 】

- 1 テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の実力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
- 3 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
- 5 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 中国語通訳ガイド演習 】

- 1 テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の実力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
- 3 講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 5 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 キリスト教と現代 】

西南女学院の「感恩奉仕」という精神は、教義の基準を聖書におくキリスト教に基づいたものである。授業内容は「現代民主主義の根底にある人権思想は、ジョン・ロックが聖書の創世記の神による人間の聖書におくキリスト教に基づいて出張したもの」により、聖書の創世記を主として講義をすることである。本授業は現代における個人の尊厳、自由、平等の「不可侵性」というキリスト教の視点を手掛かりにして、人類が直面している問題に関して、学生が思索する力を培うことは本授業の旨である。

- 1 講義では多くの資料を提供し、学生の学習能力、研究興味を高め、キリスト教に関する最新研究情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の実力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
- 3 講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 4 キリスト教文化を理解するために、聖書のことばかりでなく、西南女学院の実態及び日本における有名なキリスト教教育者（新渡戸稲造等）を紹介して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

授業科目名【初年次セミナー】

本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び一生の知的財産とする、論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている、新聞や本を読む習慣が身についている、規則正しい生活習慣が身についていることがこの授業の旨である。

- 1 講義並びにテレビ、DVDなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味をタカ向上させ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
 - 2 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等学生の実力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
- 学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。

授業科目名【 専門演習Ⅰ、Ⅱ 】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきた。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文化漢字や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の日本文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

- 1 この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでもらい、その相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。
- 2 日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。
- 3 実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表や論文作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名【 卒業研究 】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

- 1 上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。
- 2 それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員とのコミュニケーションをして、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。
- 3 仮説を論文として展開する力等を養い、学生自分らしい論文をかくことを心がけてもらい、最終的に論文完成させる工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
九州教育学会	会員	1994年～現在に至る
日本比較文化学会	会員（理事）	2011年～現在に至る
日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 中国の高等教育カリキュラム改革について	単著	2019年6月28日～29日	日本比較教育学会 55回 東京外国語大学にて	2010年、中国の高等教育において、中長期教育改革・発展計画綱要を発表した。2015年中国の教育部「世界一流大学及び一流学科の構築を目指すプロジェクト」では「道德の樹立、人間お育成、主体的な学修教育への転換」人の全面的発達と社会の要請への適応の教育の質が求められている。従って高等教育の学士課程教育の構築が大きな課題となっている。特に学生の学習成果をどのようにあげるかが一つ焦点となっている。その中にカリキュラム改革が幅広く抜本的に進められている。その趣旨は大学生の総合的な能力の育成を理念として掲げ、従来の狭い専門教育偏重から深い教養教育と高い資質教育及び広い専門教育とのバランスを図るカリキュラム、教育内容への方向転換してきたことである。本研究の目的は重点大学と一般大学のカリキュラム調査の内、大学の教育の質的变化をカリキュラム問題に焦点を当てて、教養教育の実態の因子分析を行い、結果を明らかにしたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
近代における日本と中国の女子校教育とキリスト教との関わりに関する研究	西南女学院大学	○神崎明坤 相良かおる、東彩子 (何其輿、張奕雯)	1,210,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
観光文化学科長、宗教主事補

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式9)

氏名 高橋幸夫	職名 准教授	学位 経済学修士 (京都大学)
---------	--------	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
マーケティング (広告・ブランド) デザインマネジメント	地域におけるマーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研 究 課 題
- 石炭流通における小倉商人 (中原嘉左右) の研究 - デザイン重視の経営研究 (デザインマネジメント研究) - 大学における地域活性化活動

担 当 授 業 科 目
初年次セミナーⅠ (前期) 初年次セミナーⅡ (後期) 専門演習Ⅱ (前期・後期) 卒業研究 (前期・後期) マーケティング入門 (前期) 広告宣伝論 (前期) 消費者行動論 (前期・後期) イベント・テーマパーク論 (後期) ブランド戦略論 (後期) キャリア・デザイン論 (後期) 地域プロジェクト (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ (前期)】 大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。
授業科目名【初年次セミナーⅡ (後期)】 - 学生生活で必須とされるレポートの必要性和書き方を修得させるために「レポートとは何か」、「レポートの構成とルール」などを最前半回で解説し、それ以降の授業では毎回テーマを与え、書くことに対する「慣れ」と「論理的思考の重要性」を促した。また、レポートに対する学生相互の講評などを取り入れ、モチベーションの向上につなげた。 - 初年次セミナーⅡのステップアップ科目の認識のもと「情報検索力」・「発表力」の向上を目指し、毎回ワークシートを取り入れ、修得度の向上を目指した。 - さらに、新聞記事に親しむ事を目的に西日本新聞社の協力のもと、「まわし読み新聞」を導入し、社会の仕組み、動きに興味関心を喚起させる内容とした。

授業科目名【専門演習Ⅱ（前期・後期）】 ・ マーケティング論及びデザインマネジメントの基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ・ さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。
授業科目名【マーケティング入門】 ・ 受講者がマーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業活動の中でマーケティングが担っている役割を具体例、特に映像を用いて理解できる仕組みを構築した。 ・ 実用性の高い知識と応用力を身のつけるために実務家の講義も実施した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
商品開発・管理学会 日本商業学会 産業学会		2005 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
北九州市立響灘緑地および行橋市長井浜公園 において販売するオリジナル商品の開発およびイベント開発	(株) オリエンタル コンサルタンツ	500,000	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会 就職委員会委員 西南女学院大学生協理事 学生地域貢献活動支援 エアライン講座企画実施

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	友原 嘉彦	職名	准教授	学位	博士 (学術) (広島大学 2011 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光社会学	クリエイティブツーリズム、サードエリア

研 究 課 題
2020 年度に取り組んだのはさくらももこ研究である。応募者の現行までの研究における集大成となっている。それを以下に整理したい。 ①後期近代を豊かに生きるという視点において、クリエイティビティを発揮して、その先駆者的存在であったさくらももこは性別的には女性であり、後期近代に生きるクリエイティブクラスの女性を体現している。 ②受信・発信力のあるクリエイティブクラスの女性の観光を研究したものは少なく、脈脈の広がりが大きく、かつ、男女共同参画社会において意義がある。 ③2020 年度の学会報告では、さくらももこを活かした静岡市の観光振興とアイデンティティ形成について論じた。さくらももこはこれまで偉人として扱われにくかった女性であり、また、没後まだ 3 年である。今後の静岡市の展開について継続的に見ていきたい。 ④クリエイティブクラスの女性が観光をどのように人生の中で位置付けているのかを考察することは、現代を生きる女性、あるいは現代人全般について大きな示唆を与えてくれるだろう。 ⑤友原はサードプレイス論から着想を得た「サードエリア論」を提唱しているが、さくらももこの「サードエリア」は国境を越える。応募者はこれまで培ってきた国際性においても充分これにかかる研究を成す能力を有している。 今後の研究の構想は以下の通りである。 ①アーティストさくらももこを活かした持続可能な観光振興と地域アイデンティティづくりについて（継続。清水、静岡） ②アーティストさくらももこを事例としたクリエイティブクラスの好む持続可能な地域空間づくり（新型コロナウイルス関連の動向次第であるが、バリ、アルザス地方、ロッテルダムなど）

担 当 授 業 科 目
・前期：「初年次セミナーⅠ」、「ツーリズム英語」、「欧米観光文化地理Ⅰ」、「観光フィールドワーク」、「観光学入門」 ・後期：「初年次セミナーⅡ」、「欧米観光文化地理Ⅱ」、「フィールドワーク入門」、「旅行産業論」、「地域活性化研究」 ・通年：「卒業研究」

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 卒業研究 】 3 年次のゼミ「専門演習Ⅱ」からの流れを踏まえ、1 年間を通して卒業論文執筆の助言に費やした。特に夏季において、入念に調査研究を行ってくれたこともあり、結果、受講生全員が学士として相応しい水準の論文を執筆することができた。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】 本科目は1クラス30名規模の一年次後期の演習である。友原嘉彦編(2017)『女性とツーリズム 観光を通して考える女性の人生』古今書院、を教科書に選定し、これをクラスで輪読、観光を切り口として特に近代後期における女性の人生を検討した。
授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】 本科目は1クラス10名規模の一年次前期の演習である。受講生各自の気になるニュースの紹介などから、それらを全員で吟味、多様な角度から検討することで、大学という世界の物の見方や考え方について、これらの能力を涵養した。
授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅰ 】 西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【 観光社会学 】 教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅱ 】 東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【 観光フィールドワーク 】 北九州市、および、その周辺地域を対象地として観光フィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に過程を口頭発表してもらった。また、最終的にはフィールドワークの成果も発表してもらった。
授業科目名【 ツーリズム英語 】 アガサ・クリスティーの推理小説『オリエント急行殺人事件』の原文を教科書に選定し、輪読するとともに、20世紀初頭から第二次世界大戦前までにおける欧州の旅行のあり方についてもレジュメで補い、総じて観光史の知識・教養を身に付けた。
授業科目名【 フィールドワーク入門 】 最大3名までの小グループを作ってもらい、北九州市、および、その周辺地域を対象地としてフィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に口頭発表をしてもらった。予め、フィールドワークの意義や方法を説明してからの催行であり、各グループはそうした諸点を踏まえ、熱心に調査することができた。
授業科目名【 旅行産業論 】 ポスト・新型コロナウイルスの観光のあり方について、産業面から議論した。議論の展開として、マスツーリズムからの脱却、およびそれに伴う個人旅行の誘致となり、そのためには土地のクリエイティビティを上げていくことが重要だと結論付けられた。
授業科目名【 地域活性化研究 】 地域がクリエイティブかどうかは、地域が活性するかどうかにかかり、1つの大きな要因となっている。本講ではこうした点を踏まえ、クリエイティブな都市とそうでない都市とは何がどのように異なるのか、国内外の事例や研究者の言説を紹介し、検討した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本国際観光学会 日本観光研究学会 観光学術学会 コンテンツツーリズム学会 日本マンガ学会		2008年4月～現在に至る。 2008年7月～現在に至る。 2012年7月～現在に至る。 2020年4月～現在に至る。 2020年4月～現在に至る。

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 「女性クリエイターの 観光に対する行動と捉 え方 ―さくらももこ 『ちびまる子ちゃん』を 事例として―」	単著	2021年3月	西南女学院大学、西南 女 学 院 大 学 紀 要 (25)pp.93-101	本研究はさくらももこの代表作 「ちびまる子ちゃん」を通して、 女性クリエイターの観光に対す る行動と捉え方を考察したもの である。さくらの幼少期を投影し たキャラクターであるまる子が タイの南の島に滞在した話を掘 り下げて確認することで、さくら が観光活動においてどのように 振る舞い、また、観光をどのよ うに捉えているのかが明らかにな った。まる子はプサディーとい う地元の子と懇意になることで タイの南の島が自分と密接に関 係する地域となり、継続的に関 わっていきたい対象である「サ ードエリア」となった。女性ク リエイターさくらももこの観 光は第一義的に『「サードエ リア」の構築活動』であること が示された。
(翻訳)				
(学会発表) 「偉人の世界観を活用し た地域アイデンティティ の創出と観光振興 さ くらももこと静岡市を事 例として」(第9回観光学 術学会全国大会が開かれ る予定であったが、新型コ ロナウイルス感染拡大防 止のため口頭発表は行な われず、代わりに研究報告 要旨集として公開された)	単独	2020年7月	観光学術学会2020年度 研 究 報 告 要 旨 集、 pp.24-25（同年同月発 行）	後期近代適合型女性として、さ くらももこを取り上げた。彼女 の偉人としての出身地における 扱われ方と同地の観光資源とし ての扱われ方の両面から調査、 検討を行なった。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
図書委員会 副委員長

2020 年度教育研究活動報告用紙（様式 9）

氏名	林 裕二	職名	教授	学位	修士（文学）（西南学院大学 1993 年）
----	------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研 究 課 題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画（脚本）を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担 当 授 業 科 目
人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科） 初年次セミナーⅠ（前期）（観光文化学科） 基礎英語（前期）（観光文化学科） マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科） 専門演習Ⅰ（前期）（観光文化学科） 北九州の技と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科） 応用英語（後期）（観光文化学科） 応用 TOEIC 演習（後期）（観光文化学科） マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科） 専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科） 卒業研究（通年）（観光文化学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
【人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科）】 人文学部の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目（100 分 7 回）の 3 年目にあたる。人文学部の担当教員 7 名がそれぞれ 1 コマ担当する。人文学部での学びの導入として、先ずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることが目的とする。2019 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の約束事がシラバス（配布）にどのように示されており、それをどう理解するかにも触れた。担当は 2 回目分のみ。
授業科目名【初年次セミナーⅠ（前期）（観光文化学科）】 1 回目は大学全体で受講し、2 回目以降は学科の専任教員が担当する。専任教員 7 人で 1 学年の学生を均等に割り振りした少人数のクラス編成として、一人の教員が残りの 13 回を担当。先ずは学生間の人間関係を作らせ、学習集団への帰属意識をもたせようとした。そのためには授業の手法として遠隔授業でも、グループワークを取り入れた。7 名の学生からのクラスで非常にコントロールがしやすく、遠隔授業でもコミュニケーション能力の高め方を学び、グループとしての自主的な学習の動機付けを高めた。
授業科目名【基礎英語（前期）（観光文化学科）】 観光文化学科の専門必修科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目の 3 年目である。1 年次の学年を二分割したクラスサイズである。授業では基礎的な 4 技能を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところには、丁寧に繰り返し説明をした。対面授業時には行っている E-learning の CHJeru と英文多読活動は、実施しなかった。

授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科）】 2019年度の新規科目の2年目。E-LearningのCHleruを使う必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、ほぼ毎回課題を出し、理解度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるようにした。授業最初に小テストを毎回行い、遠隔でも遅刻者が出ないようにした。1年次の基礎英語、応用英語のCHleru学習の体験が生きた。
専門演習Ⅰ（前期）（観光文化学科） 2017年度入学生までは、3年次の演習研究科目は、専門演習Ⅱ（通年科目）だった。それを、2018年度入学者からは、前期後期のそれぞれの半期科目として分離した。文献の探し方、人前でのわかりやすいプレゼンテーションの仕方の学びや、新聞・雑誌等を使つての読み・書きの研究の基本を学ばせた。
北九州の技と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科） 2020年度の新規科目。短期大学部が先行した同名の授業があり、その知見を援用しながら、外部講師を招いて、科目名に相応しい内容となるように工夫した。外部講師には、打ち合わせ段階で、100分を遠隔で行う際の学習効果を上げるための休憩の入れ方、資料の提示の仕方等を説明した。120名を超える履修者が、それぞれの回の最後には活発に質問をしてくれた。これは遠隔だからこそできたという側面もある。
応用英語（後期）（観光文化学科） 授業では基礎的な4技能を伸ばすことを目的とした。これは前期の基礎英語でも目指したものである。但し、前期後期でクラスが異なる。前期の「基礎英語」ではできなかった学習活動として、E-learningのCHleruの学習と英語の多読がある。両方とも授業外の活動としており、対面授業となった後期最初に授業外でそれぞれの活動についての講習会を行った。対面授業時には、これらの講習会は4月の新入生オリエンテーションで行っている。CHleruの学習マイルコンテストで、上位者を表彰するという事で、学習の動機づけとした。予習をサボりがちな学生対策案が学生から出され、取り入れると効果があった。
応用TOEIC演習（後期）（観光文化学科） TOEIC演習シリーズの中での応用レベルである。応用とはしているが、基本的な文法力を養うことは必要であり、そこを強化しながら、リスニングや読解力を更に伸ばそうとして、少人数を生かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。音読の課題として、音読を録音させ、それを提出させた。これは個別指導が非常にしやすかった。
マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科） 前期マルチメディアイングリッシュ基礎で得た力を、更に継続して伸ばす授業である。1か月間は対面ができたが、コロナ禍ではペア学習等ができなかった。11月から遠隔に戻り、遠慮なく音読をさせられるようになり、グループ学習も可能となり、対面に負けない学習の質と量を確保できたと考える。CHleruの学習マイルコンテストで、上位者を表彰した。
専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科） プレゼンテーションスキルを伸ばし、文献をさがす方法、文献をどう解釈して、論文・レポートに生かすかを繰り返し、輪読を通して実践していった。学生が見つめる文献がオンライン上のものにかかなり限定されており、本の利用までは深まらなかったことは、次年度の卒業研究で補う必要がある。
授業科目名【卒業研究（通年）（観光文化学科）】 10名からなるクラス。卒論指導については、学年当初は全体指導を、そして年度が進むにつれて、個別指導の時間を増やしながら、卒論制作に取り組ませた。質的研究を取り入れることを3年の最初には伝えていたが、どうしても就職活動との関係で、取り組みが遅くなる傾向がある。今回は特にコロナの影響が大きく、遅くなり、大半がオンラインでのアンケートとなった。デジタル世代の学生であり、いろいろなツールを使いこなして、アンケートを実施していた。10月の対面授業時に図書館から本を借りていた学生とそうではない学生の間では、参考文献の取り込み方が大きく違っていた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) (旧日本商業英語学会)	九州・山口支部会長（2010年2月～2018年9月） 本部理事（2015年11月～2019年10月） 研究年報査読委員(2016年3月～現在に至る)	1993年6月～現在に至る
映像メディア英語教育学会(ATEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査（2006年1月～2011年12月） 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月） 紀要査読委員（2018年1月～現在に至る） 九州支部副支部長(2008年10月～2011年10月） 九州支部運営委員（2012年1月～現在に至る）	1994年2月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部紀要編集委員（2011年9月～2015年6月）	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会 英語コーパス学会 日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013年3月～現在に至る) 本部事務局長・理事	2002年10月～2004年3月 2003年4月～2009年3月 2010年2月～現在に至る
万葉学会		2018年5月～現在に至る 2014年2月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 英語の俳句	単	2020年5月	The Asahi Shimbun Asahi Haikuist Network http://www.asahi.com/ajw/articles/13332016	日付は2020年5月1日
(学術論文)				
(翻訳)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				教育研究実績 総数 (2021. 3.31 現在) 著書 1 (内訳 単1、共0) 学術論文 0 (内訳 単0、共0) 翻訳 0 (内訳 単0、共0) 学会発表 0 (内訳 単0、共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
財団法人日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接委員	1995年8月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
人文学部長 2018年4月1日～現在に至る

2020 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	八尋春海	職名	教授	学位	修士(文学)(1993年九州大学)
----	------	----	----	----	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学	観光資源、地方都市、ニューツーリズム

研 究 課 題
阿蘇市における観光資源の活用

担 当 授 業 科 目
人文学部 人文学入門 以下全て観光文化学科 前期 初年次セミナーⅠ、専門演習Ⅰ、卒業研究、海外旅行実務、基礎英語、初級英文講読、比較文化論 後期 専門演習Ⅱ、卒業研究、観光フィールドワーク、映画で学ぶ世界遺産、映画で学ぶ欧米文化、応用英語、中級英文講読

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【基礎英語】 学生がオンライン授業に慣れるように、最初は基本的なパソコン操作で対応できる授業を行った。
授業科目名【応用英語】 対面の授業では、なるべく一人一人に声をかけた。
授業科目名【初級英文講読】 学生がオンライン授業に慣れるように、最初は基本的なパソコン操作で対応できる授業を行った。
授業科目名【中級英文講読】 受講者が多かったため、机間巡視を行って学生との距離を縮めた。
授業科目名【初年次セミナー】 学生がオンライン授業に慣れるように、最初は基本的なパソコン操作で対応できる授業を行った。
授業科目名【中級英文講読】 授業科目名【専門演習Ⅰ】 学生がオンライン授業に慣れるように、最初は基本的なパソコン操作で対応できる授業を行った。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 途中からオンラインになったが、なるべくバーチャルになるようにした。
授業科目名【卒業研究】 全体指導と個別指導をうまく組み合わせるようにした。
授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 学生が興味を持つ映画や動画を選んだ。
授業科目名【観光フィールドワーク】 受講者は4年生だけだったので、卒業論文の執筆を意識した授業とした。

授業科目名【海外旅行実務】 学生がオンライン授業に慣れるように、最初は基本的なパソコン操作で対応できる授業を行った。
授業科目名【比較文化論】 学生がオンライン授業に慣れるように、最初は基本的なパソコン操作で対応できる授業を行った。
授業科目名【人文学入門】 担当は1回だけだったので、テーマを絞り込んだ。
授業科目名【映画で学ぶ欧米文化】 これまでで最も少ない受講者数だったので、学生一人一人に対応した授業にした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本比較文化学会	会長（2018年～現在）	1996年
日本比較文化学会九州支部	支部長（2010年～現在）	1996年
余暇ツーリズム学会	九州支部事務局長（2014年～現在）	2005年
	常任理事（2020年～現在）	
映画英語アカデミー学会	理事・福岡支部長（2015年～現在）	2013年

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 「クリエイティブ・ラー ニングを目指す日本語 教育」	共同（シ ン ポ ジ ウム）	2020年11月	2020年度台湾日本語 研究国際シンポジウ ム（於 オンライン・台湾淡江大学）	日本語習者について内発的学 習動機の観点から、主要な先行 研究の分析と日本における日 本語教育の課題について論じ た。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
記載事項なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
記載事項なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
記載事項なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
入試委員、学生募集委員、教育経費予算委員

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 劉 明	職名 教授	学位 博士 (経営学) [立命館大学 2011 年] 修士 (観光学) [桜美林大学 1996 年]
--------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違

研 究 課 題
1. アジア観光・特に日中両国の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光について 3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について

担 当 授 業 科 目
観光学入門 (前期) アジア観光文化地理Ⅰ (前期) アジア観光文化交流論 (前期) 初年次セミナー (前期) ホスピタリティ論 (後期) 観光産業論 (後期) アジア観光文化地理Ⅱ (後期) アジア観光文化地理 (後期) ツーリズム演習 (後期) 旅行商品企画論 (後期) 経営学入門 (後期) 専門演習Ⅱ (通年) 卒業研究 (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。 また、プリント・PC・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。 さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。
授業科目名【アジア観光文化地理Ⅰ】 「アジア観光文化地理Ⅰ」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらおう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらおう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。

授業科目名【アジア観光文化交流論】 「アジア観光文化交流論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア特に中国・上海からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。
授業科目名【初年次セミナー】 初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ITC 活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。
授業科目名【ホスピタリティ論】 ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。
授業科目名【観光産業論】 「観光立国」と 2020 年の東京オリンピックの影響で、観光産業界に多くのインバウンド対応型の観光人材が求められている。本講義ではこのような状況を背景に、観光産業とはいかなる産業なのか、観光産業の範囲・特徴及び各産業の実情について学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。
授業科目名【アジア観光文化地理Ⅱ】 「アジア観光文化地理Ⅱ」の授業では、映像を通して、学生たちにタイ、シンガポール、ベトナム等の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
授業科目名【アジア観光文化地理】 「アジア観光文化地理」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国をはじめ、アジア諸国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
授業科目名【旅行商品企画論】 「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。 また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでのフィールドワーク（FW）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。
授業科目名【経営学入門】 本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。
授業科目名【ツーリズム演習】 「ツーリズム演習」では、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を学び、観光文化学科が実施しているインバウンド観光研修や日本・九州での外国人観光客との異文化交流の具体的な事例をおこみ、インバウンド観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。
授業科目名【専門演習Ⅱ】、【卒業研究】 「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」では、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本ホスピタリティ・マネジメント学会入会		1994 年 09 月－現在に至る
日本観光研究学会入会		2001 年 01 月－現在に至る
ツーリズム学会（現在の余暇ツーリズム学会）入会		2007 年 12 月－現在に至る
観光学術学会		2012 年 02 月－現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
1. 人事委員 2. 学生委員 3. キャンパス・ハラスメント相談委員

助 産 別 科

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	古賀 玉緒	職名	講師	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2009 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	周産期・更年期・教育

研 究 課 題
周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

担 当 授 業 科 目
【助産別科】 女性の健康支援論・助産診断ケア学Ⅲ（産褥期）・助産診断ケア学Ⅳ（新生児期）・総合看護学・助産学基礎実習：（前期） 助産診断ケア学Ⅵ（健康教育演習）・助産診断ケア学Ⅶ（助産過程演習）・助産学研究演習（通年） 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習：（後期） 【看護学科】 母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論：（前期）、母性看護学実習・母性看護方法論：（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ 】 助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。遠隔講義では、演習や実習に向けて知識や思考が深められることを意図し、事前学習を実施し、それをいかした具体的な支援についてグループワークにて考える機会を設けた。また、教員が助産技術の動画を作成し、演習に向けたイメージ作り、準備に活用できるよう工夫した。演習では実践に活用できることを意図し模擬患者へのロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ、助産学研究演習 】 主に、健康教育の概要についての解説、産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に講義内容を組み立て実施した。演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。また、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。助産過程演習・助産学研究演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。 リモートによる個別対応ではあったが学生のリモート環境も整っており効果的にすすめられた。
授業科目名【 助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理） 】 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部学内実習にふりかえて実施した。学内であっても実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、臨地実習と併せ、特に不足する内容を学内実習で対応した。 なお、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。 臨地実習では適宜、施設担当者との連絡を取り施設の受け入れ条件の確認と厳守、本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めて臨んだ。時間や実習内容に制限はあったものの集中して学ぶことができた。 学内実習および臨地実習ともに、個々のレベルをふまえて指導方法を工夫した。

授業科目名【 母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論 】

看護学科 2 年生、3 年生を担当し、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的変化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。なお、看護過程演習では臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当教員との質疑応答の時間を確保した。本年度は遠隔授業に変更となりリモートによるグループ・個人対応となったが制限された時間のなかで効果的な指導が行えるよう、事前に学習成果を提出させ教員は予め内容を確認したうえで指導のポイントをふまえて臨んだ。演習では優先度の高い技術を中心に本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。

ウイメンズヘルス看護論においても、少人数を担当し、個々の学生がもつ興味から、テーマや課題が導かれるようかわった。また、遠隔授業により資料収集が困難な状況であったことから文献資料や新聞などの情報源を紹介し、学生の考察が深まるよう取り組んだ。

授業科目名【 母性看護学実習 】

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学内およびリモートによる遠隔実習を臨地実習にふりかえて実施した。実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、本学の感染対策方針に沿って適宜、実習方法を工夫した。なお、教員間で定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえ効果的な実習指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会		2007 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会		2008 年 4 月～現在に至る
福岡県看護協会		2008 年 4 月～現在に至る
日本助産学会		2011 年 5 月～現在に至る
日本看護科学学会		2014 年 5 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
入試委員、学生募集委員、学生アドバイザー

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	新郷 朋香	職名	助教	学位	助産修士 (専門職) 天使大学大学院 2009 年
----	-------	----	----	----	------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産ケア、産後ケア、母性看護学	助産ケア、産後ケア、継続支援、子育て支援

研 究 課 題
助産師の妊娠期から産褥期における継続的ケアについて考察する

担 当 授 業 科 目
<助産別科> 助産診断・ケア学Ⅰ 助産学Ⅰ研究演習 助産診断・ケア学Ⅱ 助産学Ⅱ基礎実習 助産診断・ケア学Ⅲ 助産学Ⅲ実習Ⅰ 助産診断・ケア学Ⅳ 助産学Ⅳ実習Ⅱ 助産診断・ケア学Ⅴ 助産学Ⅴ実習Ⅲ 助産診断・ケア学Ⅵ 助産学Ⅵ実習Ⅳ 助産診断・ケア学Ⅶ 助産学Ⅶ実習Ⅴ <看護学科> 母性看護学Ⅰ演習 ウィメンズヘルスⅠ 母性看護学Ⅱ実習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】 演習の準備や、実践を行った。助産学生の知識がケアに結びつけることが出来るよう支援を行った。また、ロールプレイで対象者や助産師、第三者の視点に立つことが出来るよう計画し、自分のケアを振り返る機会を設けた。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ・Ⅶ】 数名の助産学生を受け持ち、平等に学習を深めていけるよう調整を行った。遠隔での進行がメインであったため、学生の不安を最小限にするため授業時間以外でも学生と連絡を取ったり教員間でも理解の共有を図り学生の理解の確認を行い、学習が深まるよう努めた。
授業科目名【 助産学基礎実習・助産学実習Ⅰ】 校内実習と遠隔実習、臨地実習を組み合わせで行った。 校内実習では、基本的な助産技術の習得や助産過程の展開を行った。また様々な場面を想定した分娩介助練習を多数行い、臨地実習に生かせるよう支援した。 遠隔実習では分娩期を主に行い、刻々と変化する分娩状況を想定し思考力の向上を図った。 臨地実習では、学生の体調管理や感染予防に努め、実習施設や母児、学生の安全を最優先に配慮した。学生の個別性を考慮し、指導の方向性を他教員とも共有しながら支援した。また、臨床指導者との意見交換を行い学生の進捗状況や学びをフィードバックしより深く理解できるよう支援した。

授業科目名【 母性看護学演習 】 遠隔授業と対面授業で進化した。実際に実習で活用できるよう、事例を設け看護過程の展開を行った。看護過程の展開では数名を受け持ち、個別での時間を多く設け理解を深めることが出来るよう関わった。対面授業の際は感染予防対策をしっかりと行い、学生の人数や時間の管理に努めた。またその中でも知識とケアがつながるよう支援した。
授業科目名【 ウィメンズヘルス 】 数名の看護学生を受け持った。学生のウィメンズヘルスにたいする興味や関心を引き出すよう関わった。また遠隔での進捗であったため、授業時間以外でも話す時間を設けるなど学習が深まるよう支援した。
授業科目名【 母性看護学実習 】 遠隔実習、学内実習で行った。 妊娠期・分娩期・産褥期・退院してからの生活と、母児・そして家族を経時的に理解できるような実習内容の組み立てを行った。また実際の出産シーンや産後の生活など想像しやすいような教材を使用し理解を深めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会		2009年4月～現在に至る 2020年4月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
なし

2020 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	田中 満由美	職名	教授	学位	修士 (経済学)(山口大学 1999 年)
----	--------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助 産 学	就労女性の仕事と子育ての両立、ペリネイタル・ロス、不妊症患者に関する看護、父性の研究、女性の尿失禁、性教育

研 究 課 題
「就労女性の仕事と子育ての両立」を主軸に、「不妊症患者に関する看護」「ペリネイタル・ロスを経験した母親や父親についての援助方法」「妊娠・分娩・子育て期の看護」「性教育」「父性の研究」「女性の尿失禁」をテーマに研究をしている。学会発表においては、第 41 回日本母性衛生学会会長賞を受賞し、山口県母性衛生学会奨励賞は 5 回受賞している。特に助産学の研究に力を入れ、助産学の質向上に努めている。「就労女性の仕事と子育ての両立」については、就労女性の疲労度を軽減するにはどのような援助が必要かを明らかにし援助方法を提示している。「仕事と不妊治療の両立に必要な援助方法に関する研究」では就労女性の不妊治療における困難やストレスの内容、就労と治療の調整を困難にしている要因を明らかにし、看護援助や治療環境のあり方を提示している。「助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセス」の研究では助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセスを明らかにし、ペリネイタル・ロスのケアに対する助産師教育の方向性を提示している。

担 当 授 業 科 目	
基礎助産学Ⅰ（前期）(助産別科) 助産学基礎実習（前期）(助産別科) 助産管理学（前期・後期）(助産別科) 助産学実習Ⅰ（正常）（前期）(助産別科) 助産診断・ケア学Ⅶ（前期・後期）(助産別科) 助産管理実習（後期）(助産別科) 助産学研究演習（前期・後期）(助産別科) 母性看護学概論（前期）(看護学科) キリスト教と生命倫理（後期）(助産別科) ウィメンズヘルス看護論（前期）(看護学科) 子育て支援論（前期）(助産別科) キャリア開発（後期）(看護学科・人文学部・福祉学 科・栄養学科) 総合看護学（前期）(助産別科)	助産学基礎実習（前期）(助産別科) 助産管理実習（後期）(助産別科) ウィメンズヘルス看護論（前期）(看護学科) キャリア開発（後期）(看護学科・人文学部・福祉 学科・栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【基礎助産学Ⅰ】 範囲が広いため、授業にはパワーポイントで展開し、国家試験出題基準も意識し、資料はカラーの使用で覚えるところの強調等をして作成した。限られた時間ではあるが、学生に討議するなどの時間もつくった。

授業科目名【助産管理学】 病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅶ】 助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。 実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。
授業科目名【助産学研究演習】 前半は研究の講義を実施し、後半はグループ担当教員を決め、担当教員の元、グループでテーマを決めて研究計画書の作成を行い、構想発表会を実施した。 構想発表会では学生は自分たちで研究計画書作成のプロセスでの教員とのやり取りの中での学びをもとに活発な質疑応答を実施することができた。 効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。
授業科目名【キリスト教と生命倫理】 Ⅶコマ中、4コマ担当している。担当部分に関しては、倫理と助産業務、生命倫理(生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生診断)などについて講義をするとともに討論した。本科目のコマは受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、そのことを念頭に入れて申請書に沿った授業を展開した。 次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。
授業科目名【子育て支援論】 担当分については講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論することができた。 効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。
授業科目名【総合看護学】 担当部分は看護理論であるが、助産別科学生は大学卒、看護学校卒、専攻科卒、5年一貫卒と基礎教育がばらばらであり、それぞれの学校で看護過程を展開する基盤となる主に使用する理論も違っているため、そこを意識し、主たる看護理論を概説した。
授業科目名【助産学基礎実習】 本学も実習施設もコロナ禍の緊急事態宣言により、実習に大きく影響し、助産別科教員一丸となって、コロナ対応、調整、学内実習を実施し、例年と比べ、実習目標が低下しないための努力をした。
授業科目名【助産学実習Ⅰ(正常)】 本学も実習施設もコロナ禍の緊急事態宣言により、実習に大きく影響し、助産別科教員一丸となって、コロナ対応、調整、学内実習を実施し、例年と実習目標が低下しないための努力をした。 学内実習を実施するにあたり、教員一同会議を重ねて事例の検討や学習効果の向上、質担保に努めた。

授業科目名【助産管理実習】 一施設はコロナにより、実習中止となった。コロナ禍において実習日程の変更、条件など調整に努め、例年と同様の質担保に努めた。
授業科目名【母性看護学概論】 遠隔授業で7コマで教科書1冊を教授するという制約の中で、国家試験の意識しながら、ギュウギュウに内容を詰め込んでいるが、学習の理解を助けるため、授業初めに前回のポイントを5分程度使用して復習している。時間内に質問は実施しているが、もっとゆっくり考える時間をとりたい。 授業初めに前回のポイントを5分程度使用して復習については効果があるので、次年度も継続するが、優先度の低いところを削るという作業を少し実施し、時間的余裕をもって講義を展開したい。 遠隔で、顔が見えないまま、パワーポイントを用いて講義を実施したが、質問は行ったが、対面に比べて反応がわかりづらい面があった。
授業科目名【ウィメンズヘルス看護論】 学生の興味のあるテーマで助産別科担当教員が各人に対してマンツーマンで指導している。担当教員は時間内にすべて指導できるわけではないので、大変ではあるが、学生は指導の中で、研究の基礎となる「調べる」「書く」「まとめる」などの基礎をプロセスとして学習し、例年学生の満足度は高い。学生は自分の興味あることを積極的に図書館の利用、医中誌などの利用などを通して調べる、まとめることの面白さが分かるが、今年度は遠隔授業で学生は図書館が利用できず、満足に調べることができなかった。次年度は授業形態を変更する予定である。
授業科目名【キャリア開発】 キャリアを考える場合、大学生活は性についてしっかり考えたうえで、行動することが大事であることから、1コマを担当させていただいている。次年度も基本的なことからより丁寧に説明したい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会	2009.4～2016.3 評議員、論文査読委員	1974.4～現在に至る
日本看護学会		1975.6～現在に至る
日本助産学会	学術学会査読委員	1995.5～現在に至る
STTI	2012.7～2014.6 役員	2004.4 現在に至る
NHS		2002.9～現在に至る
山口医学	2003.4～評議員（現在に至る）（2003～2年幹事）	1999.4～現在に至る
山口県母性衛生学会	2003.7～2018.6 理事、2003.7～査読委員（現在に至る）	1984.7～現在に至る
日本母性看護学会	2019年3月～2019年4月学術学会査読委員	2015.10～現在に至る
日本看護診断学会		1995.4～2003.3
日本看護研究学会		1997.4～2003.3
日本解剖学会		1999.9～2018.3
日本神経科学学会		2000.5～2018.3
日本神経内分泌学会		2000.10～2018.3

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 1 産科における褥婦に対する退院指導の実態	共著	2021年3月	山口県母性衛生学会誌 Vol.37	①産科を標榜する山口・福岡・広島3県の産科において褥婦に対する退院指導の実態を明らかにすることを目的に 206 施設を対象に調査した。その結果、退院指導の際、口頭で指導していない施設が4割あった。指導内容については乳児の事故・健康被害の予防に関するものは7割以下であった。小児の発達について指導している施設は7割であり、そのうちの約7割は「生後1か月まで」の指導であった。異常がなければ保健指導を受けることがないことを考慮すれば、保健センターや小児科医との連携が必要であることが示唆された。 ②共著者名 坪井陽子、田中満由美、吉川友沙、富永千晶、 ③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
助産別科長、入試委員会委員、学生支援委員会委員

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 前田 幸	職名 講師	学位 助産修士 (専門職) 天使大学 2006 年
---------	-------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、助産師外来、バースレビュー、出産想起、分娩の振り返り、助産 (師) 学生、分娩介助、乳がん検診

研 究 課 題
・分娩体験におけるバースレビューの意義や役割について考察する ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着に与える影響について考察する ・助産師学生の分娩介助の習得過程に関して考察する ・乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

担 当 授 業 科 目
【助産別科】 ・助産診断・ケア学Ⅰ 妊娠期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅱ 分娩期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅴ 周産期のハイリスク (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ 健康教育演習 (通年) ・助産診断・ケア学Ⅶ 助産過程演習 (通年) ・女性の健康支援 (前期) ・助産学研究演習 (通年) ・実習: 助産学基礎実習 (前期) ・助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習 (後期) 【看護学科】 ・母性看護方法論 (2 年後期) ・母性看護学演習 (3 年前期) ・ウイメンズヘルス (3 年前期) ・母性看護学実習 (3 年後期～4 年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
2020 度は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、遠隔授業と対面授業を併用した授業形態となっている。 授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ】 助産別科すべての授業が遠隔授業からのスタートとなったが、助産診断・ケア学では、例年通り各領域の基礎的知識及び助産技術習得ができるように、事前課題やワークシートなどを用い、学生自身が主体的に自ら考え、意欲・関心が得られるように、より細やかなフォローをするなど工夫した。 遠隔授業でも、グループディスカッションや発表を取り入れるなど学生同士の学びの共有ができる工夫を行った。演習においては、感染対策を取りながら対面授業を中心に行っていた。机上の学習で得た知識を統合させ、助産ケアの実践につながるよう、担当教員とともにデモンストレーションの工夫を行い、また、実習で体験する場面やケアなどを取り入れていった。最新のガイドラインなどを意識し、活用しながら演習を実施し工夫した。 1. <u>助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期)</u> では、ワークシートを用い、個人ワークとグループワークを併用しながら基礎的知識の習得のための授業を実施した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第 3 者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。演習後は、観察したことをアセスメントするとともに、経験したことに対する振り返りの機会をもった。また、模擬妊婦体験を通して、日常生活を妊婦として体験する機会もち、その経験を共有しケアへ結びつけることができるように工夫した。

2. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）では、事前課題に取り組んでもらうと共に、分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法について学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるように DVD 視聴や模型を使用し、授業を実施した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準に沿って、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。実習において、必須である分娩介助やそれに伴う技術としては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。また、感染対策についても学生自身がより意識して行動できるように工夫した。

授業科目名【 助産学基礎実習 】

新型コロナウイルス感染症拡大の為、学内実習を実施した。臨床での実習と同レベルでの経験ができるように担当教員と共に、準備を行い取り組んだ。実習目標の到達に沿って、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行った。特に基礎実習では、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように各妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例を用い実習を実施した。また、より臨床での実習に近づけるため、小チーム制を取り入れ、それぞれのチームを担当教員が受け持った。実習計画発表・報告、申し送りなども経験できるよう工夫を行うと共に、リアルタイムで時間を意識しながら実習を行った。

学生個々の価値観等を考えながら支援するとともに、学生の実習に対して、助産ケアに関して、フィジカルアセスメントを考えたと、今後どのようなことが予測されるか、対象者に今必要なケアは何か、学習で得た知識を活用し、考えることができるようにフィードバックを行い工夫した。

授業科目名【 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理 】

新型コロナウイルス感染症拡大の為、臨地での実習と学内実習のハイブリット型で実習を実施した。すべての学生が臨床での経験ができるよう教員間で話し合い、実習を組み立てていった。また、臨地実習で学生が経験した事例を学内実習で共有するなどの工夫を行った。

実習目標の到達に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるよう学生の支援を行った。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者や家族を多角的に捉え、気づき、対象者に寄り添ったケアを提供できるように意識して、学内実習では事例を用い実習を実施した。正常経過と逸脱経過の判断を行いながら、倫理的視点を常に持ち、ケアを行えるよう助言等の工夫をした。臨床での実習では、臨床指導者や他の教員と連携をとり、適宜、意見交換しながら支援するとともに、学生がより個別性を考えたケアを行うことができるように工夫して、フィードバックを行った。また、正常からの逸脱の事例を経験した学生には、1 つ 1 つの場面やケアの振り返りを行う機会を持つとともに、グループ間での情報共有やディスカッションを通し、より客観的に学びを共有することができるよう支援した。また、助産学実習Ⅱに関しては、ハイリスク疾患を経験した妊産婦の方の声や思いを調べ、共有することでより対象者の立場に立ったケアができるように工夫した。助産管理実習は、臨地実習を通して学生の学びがより深まるように臨床指導者と連携を取りながら振り返りを大切にに関わり工夫した。

授業科目名【 母性看護方法論 】

今年度は、産褥期/新生児期を担当した。新型コロナウイルス感染症拡大の為、担当する後半の授業は全て遠隔授業となったが、学生が母性看護学に興味を持てるよう授業の導入に映像を取り入れるなどの工夫をした。また、主体的に学習ができるように、事前に講義資料を提示するとともに、予習範囲を提示した上で講義をすすめた。講義の中でワークシートを用いた学習や小テストなどを取り入れ、学生自身が知識の習得状況を確認できる機会を設けた。事例や周産期の現場で起こりうること、看護者としての考え方や対象者との関わり方、また学生自身の身体と結び付けるような情報を講義で紹介し、学生が教科書の知識と結び付けてイメージしやすいように工夫した。

授業科目名【 母性看護学演習・実習 】

母性看護学演習では、前半部分の看護過程に関しては遠隔授業で授業を実施した。遠隔授業であっても、助産過程の習得ができるように、ワークを取り入れ、小グループをつくり担当教員がサポートし、細やかな指導を実施した。また、看護技術に関しては、限られた時間の中で感染対策を行った上で対面授業を実施した。技術習得の不足部分に関しては、母性看護学実習の中にフォローを行った。

実習に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、遠隔実習・対面実習を併用していった。事例を用いて、より臨床での実習に近い形で実習ができるように工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会 母性衛生学会		2003年4月～現在に至る 2017年3月～現在に至る 2018年4月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
教務委員（2019年～現在に至る） 研究推進委員（看護学科/助産別科）（2016年～現在に至る） 助産別科 教務担当/助産師国家試験担当/家族計画実施指導員資格認定担当/アドバイザー担当

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 山田 恵	職名 助教	学位 学士 (教養)
---------	-------	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産ケア 母子の愛着 (アタッチメント) 女性の健康支援	母子関係 アタッチメント 敏感性 寄り添う支援 女性の健康 プレコンセプションケア

研 究 課 題
・アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。 ・思春期世代に対し、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

担 当 授 業 科 目
<助産別科> ・総合看護学 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅲ (産褥期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ (健康教育演習) (通年) ・女性の健康支援論 (前期) ・助産学基礎実習 (前期) ・助産学実習Ⅱ (正常逸脱) (後期) <看護学科> ・母性看護学演習 (前期) ・母性看護学実習 (後期)
・助産学研究演習 (通年) ・助産診断・ケア学Ⅱ (分娩期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅳ (新生児・乳幼児期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅶ (助産過程演習) (前期) ・助産学実習Ⅰ (正常) (後期) ・助産管理実習 (後期) ・ウイメンズヘルス (前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 総合看護学 】 オール遠隔授業であり、授業開始後間もない時期であったが、体験学習や共同学習を取り入れ、学生の自発性を高めるよう工夫した。特に時間内で学習したこと、理解した内容を言語化させ、「何となくわかった」から「このように理解した」とそれぞれの学びの内容を確認し、次回の講義に反映させた。
授業科目名【 女性の健康支援論 】 オール遠隔授業であり、授業開始後間もない時期だったため、事前課題 (調べ学習) を学生間で共有し、意見交換できるよう場の設定を行った。また、教科書内の内容だけでなく、最近の動向や新たな知見、助産ケアの対象者の実像を具体的に提示して、社会が求める助産師の役割について考える機会とした。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期)Ⅱ (分娩期)Ⅲ (産褥期)Ⅳ (新生児・乳児期) 】 遠隔と対面のハイブリッド形式の授業形態であったため、個々の学習の取り組みと理解度を適宜評価し、指導した。知識を統合させケア実践につながるよう、シュミレーション教育を行った。演習計画はできるだけ詳細に立案し、公平性が保てるよう時間調整した。また、学生全体で検討する機会を設け、意見交換できるよう工夫した。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅶ (助産過程演習) 】 母性看護過程展開の経験の有無や、理解度を把握した上で個別対応した。講義時間外でもできるだけ学生対応に努め、学習が円滑に進むよう支援した。

授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） 】 思春期の健康教育演習を担当した。カリキュラム改正とこれからの助産師に求められる内容を意識し、「プレコンセプションケア」の概念を中心に講義・演習内容を組み立てた。今年度は臨地実習等の期間が短く、机上で学習した助産実践能力を外部で発揮する機会が限られていた。そのため、感染拡大のため前年度は中止となったが、今年度は感染拡大状況に応じて「思春期健康教室」を遠隔でも開催できるよう中高に依頼し、実践することで学生の学修の達成感が得られるよう調整した。 企画立案から運営まで学生主体で行えるよう計画した。指導内容に関して中高の教育と齟齬がないよう指導案や教材の確認を行い、教育の質の保障をした。
授業科目名【 助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ）（管理） 】 助産学基礎実習ではすべて学内実習となったため、学内版実習計画を立案した。臨地実習同様の経験となるよう時間設定を行った。思考しながら実践できるよう場面設定を行い、経時的に評価し、翌日の実習へとつながるようにした。また常に実習目標を意識した指導を行い、到達できるようにした。 助産学実習Ⅰでは、2か所の県外実習（10週間）を担当した。コロナ感染拡大中の実習施設では、事前の受け入れ要件のすり合わせや実習内容の調整を行い、臨地実習が可能となるよう努めた。 学生に対しては常に連絡相談態勢をとり、実習の支援を行った。毎日、学生の心身の体調把握に努め、必要時指導者へ連絡し過度な負担とならないよう調整を図った。学生の急変の際は訪問し付き添い、保護者・指導者への対応を行った。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう配慮した。 助産学実習Ⅱ（病棟）では、施設の実習内容制限（病棟滞在時間2時間、非会話等）を遵守しながらも、効果的な学びができるよう、学生の計画を指導者に提示し、可能な限り指導者に実践していただけるよう調整した。また、振り返りの時間を確保し、間接的実践を直接的な実践に変換し、評価できるよう指導した。
授業科目名【 母性看護学演習 】 看護過程演習では24名の学生を担当した。8名1グループのリモート演習では、学生間の学び合いの場を設け、平等に質問や個別に指導ができるよう配慮した。国家試験対策につながるよう教科書を活用した学習を組み込み、知識の獲得を図った。
授業科目名【 母性看護学実習 】 予定されていた実習施設ごとに、病院ホームページ等を活用したオリエンテーション資料を作成・実施し、実習病棟の様子が具体的にイメージしやすくなるよう工夫した。母性看護に携わる看護者の実践場面、特に対象との接し方などについて、病院が配信している you tube 動画（新人助産師の1日）を視聴させるなどして、臨床で実習する際の看護学生としての態度や心構え等を考える機会をもたせた上で学内実習を開始した。学内実習では目標達成に必要な実践が行えるよう、臨地実習と同様に、作成した疑似電子カルテや申し送りから情報収集させるなど臨地実習同様の形態をとり、看護過程を展開させた。学生全員が平等に実践できる機会も設けた。実習記録の指導は臨地実習同様、毎日個別対応の時間を設けた。また、遠隔であっても学生からの質問等に関して、適宜対応できるよう時間調整を行った。
授業科目名【 ウイメンズヘルス看護論 】 3名の学生を担当した。遠隔講義であったため、文献検索等がスムーズに行えるよう支援した。また、ウイメンズヘルケアに興味関心を持ち、自主的に学習が進められるよう個々の進捗に合わせて課題提示を行い、学習意欲の向上を図った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

＜別科学生募集他＞

- ・2020年度のオープンキャンパス企画・運営担当
- ・助産別科ブログ担当

＜別科業務＞

- ・実習コーディネーター（補佐）
- ・助産学生3名のアドバイザー担当
- ・国家試験対策（補佐）
- ・クラス担当

＜学生支援＞

- ・看護学科教員や保健室職員、事務職員の要請に応じて、看護学科学生及び職員等の健康相談を行った。関連する病院の紹介や連絡調整を図った。

短期大学部

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式 9）

氏名 阿南 寿美子	職名 准教授	学位 修士（教育学）
-----------	--------	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
幼児心理 幼児教育 保育者養成	社会的能力の発達 規範意識 いざこざ 保育観 子どもの学び 保育カンファレンス 保育記録

研 究 課 題
幼児期の対人交渉場面において、乳幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得しているのかについて考察する。子どもの遊びの中における学び（育ち）の捉え方について考察する。 保育者養成校の学生が、2 年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。 保育の質を向上するための保育カンファレンスのあり方について考察する。

担 当 授 業 科 目
学校法人西南女学院 西南女学院大学短期大学部 保育科 ・保育の心理学（前期）（1 年生） ・保育内容「言葉」（後期）（1 年生） ・こどもの発達理解とあそび（複数担当教員）（前期）（2 年生） ・こどもの理解と援助（前期）（2 年生） ・教育実習指導（複数担当教員）（2 年間通年）（1 年生、2 年生） ・教育実習Ⅰ（複数担当教員）（通年・学外）（1 年生） ・教育実習Ⅱ（複数担当教員）（前期・学外）（2 年生） ・教育実習Ⅲ（複数担当教員）（後期・学外）（2 年生） ・保育・教職実践演習（幼稚園）（複数担当教員）（後期）（2 年生） ・こども学基礎演習（通年）（1 年生） ・こども学特別演習（通年）（2 年生） 学校法人弘徳学園 姫路大学教育学部 こども未来学科通信教育課程 ・発達心理学（後期）（3 年生）レポート試験 ・発達検査法（後期）（4 年生）レポート試験

授業を行う上で工夫した事項（※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育の心理学】 「保育の心理学」では子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。
授業科目名【こどもの発達理解とあそび】 共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に関しては、従来体験型としていたが、今年度はオンラインによる授業であったため、テーマに沿った遊びをゼミごとに発表し、その遊びの展開における留意点等を口頭で伝えるという方法をとった。

授業科目名【こども学基礎演習】 今年度はオンラインによる授業であった。前期は特に遠隔授業の相談や互いの学校生活についての話を行うことで交流を深めた。その後、喜久屋書店保育科コーナーの看板づくりやオンラインでできる簡単な遊びを通して、個人的活動及び集団での活動ができるように心がけた。
授業科目名【こども学特別演習】 オンラインによるゼミ活動となったため、実習に向けての教材準備や学生間の交流を中心に学生の状況を把握するための活動を行った。
授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2人1組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生自身に保育者としての意識が高まるように配慮した。
授業科目名【教育実習指導】 事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。報告会は1、2年生合同で行い、2年生によるスライドを用いた発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	会員	2012年～
日本保育者養成教育学会	会員	2018年～
日本乳幼児教育学会	会員	2018年～

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 1. 乳幼児の発達を促す遊び・遊びの中で育まれる10の姿-	共著	2021年3月	福岡女学院大学紀要人間科学部第22号	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017年告示)に示されている10の姿に着目した。子どもの育ちは遊びが基盤となることから、集団遊びと個人遊びに焦点を当て、その中で育まれる力を10の姿と照らし合わせながらと捉えた。

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 保育者養成校における保育者としての資質に関する調査～変数間の関連性の分析～	共著	2021年	西南女学院大学紀要VOL25	本研究では保育者としての資質に関わる要素として、保育観、子ども理解、共感性、社会性、援助観に注目し、要素間の関連性について検討することを目的とした。その結果、対人スキルや共感性が、保育者としての資質を整理するときに欠かせない要素であることが示された。保育観の形成には、共感性、対人スキル、援助規範意識などの影響がみられることが示されたが、今回の分析結果では、保育観のごく一部を説明するに過ぎない。保育観を形成する他の要因については今後明らかにしていく必要があるだろう。 <u>阿南寿美子・命婦恭子・篠木賢一・笠修彰・末寄雅美</u>
(翻訳)				

(学会発表) 1. 実習時における学生の困難事例についての検討～乳幼児との対応を中心に～	共著	2020年5月	日本保育学会第73回大会 (ポスター発表)	平成31年保育士養成セミナー報告の学会発表である。実習時の困難事例を「生活」「あそび」「課業(課業的活動)」の3つのカテゴリーに分けて集計を行った。その結果、学生多くが遊び場面について困難を感じていることが分かった。遊びの種類では、構成遊びでのトラブルが最も多く、学生はその働きかけがうまくいかずに悩む場面が多くみられることが分かった。 脇信明・古林ゆり・金子幸・上原真幸・阿南寿美子・島田知和・末寄雅美・藤本朋美
2. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究(5)	共著	2020年5月	日本保育学会第73回大会 (ポスター発表)	本研究では、保育者養成校に在籍する学生の運動指導観の変容について調査し、「援助的運動指導観」と「計画的運動指導観」を二つのサブスケールに分けて分析を行った。その結果、いずれも3回目の調査で得点が低くなっていることが分かった。先行研究(保育者対象)と比較しても低くなっており、経験による差が影響していることが示唆された。 篠木賢一・阿南寿美子・命婦恭子・笠修彰・末寄雅美

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究(6)実習前後の遊び環境に対する理解の変容	共著	2020年5月	日本保育学会第73回大会 (ポスター発表)	本研究では、実習体験を経た後に、遊び環境への理解の深まっているかに加えて、保育観、子ども理解の深まりとの関連についての分析を行った。その結果、遊び環境への理解が実習を経ることで深まっていることが分かった。また、入学時の遊び環境理解高群と低群では、低群の学生の理解が顕著に高まっていることが明らかとなった。末寄雅美・命婦恭子・阿南寿美子・篠木賢一・笠修彰

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 。代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
九州保育者団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員 第50回福岡集会副実行委員長	2012年4月～現在に至る 2016年～現在に至る 2019年～現在に至る
北九州市児童福祉事業第三者評価事業	専門委員	2016年4月～現在に至る
NPO 法人あゆみの森共同保育園	第三者委員	2018年1月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教務委員会 副委員長（2020年4月～現在に至る） 入学試験会議委員（2014年4月～現在に至る） 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員（2016年4月～現在に至る） 短期大学部第三者評価ALO（2016年～現在に至る） 認定絵本士資格講座責任者（2018年～） 2020年度ガイダンス等（2回） 他

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	池田 佐輪子	職名	専任講師	学位	修士 (人間関係学) (北九州市立大学 2014 年)
----	--------	----	------	----	--------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床教育学	代替的愛着、行動制御システム、内的作業モデル、 自我・社会性の発達、養育者支援、就学支援

研 究 課 題
臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みを感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りが感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。保育所での 3 歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であること、その愛着関係を基盤に就学までの養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

担 当 授 業 科 目
保育者論 (前期) 乳児保育Ⅱ (前期) こども文化 (前期) こども学基礎演習 (通年) こども学特別演習 (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年) 在宅保育 (後期) 乳児保育Ⅰ (後期) 保育・教職実践演習 (幼稚園) (後期) 保育総合表現 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 保育者論 】 テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。オンライン授業であることを踏まえて事前に課題を提示し、個別に考えをまとめたうえで発表を行うことで、自分の意見をもち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるようにした。
授業科目名【 在宅保育 】 基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、意見を交換しながら保育内容を検討する授業をオンライン上で行った。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討した。
授業科目名【 乳児保育Ⅰ 】 まずは保育所実習で 3 歳未満児と関わることを念頭に、3 歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な 3 歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点についてオンラインで講義を行った。また対面授業においては保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、具体的に関わり方の基礎が学べるようにした。
授業科目名【 乳児保育Ⅱ 】 1 年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びを踏まえて、知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるように指導計画を立てて検討し、保育所実習Ⅱで活用できるようにした。人形や教材を使って演習も行い、具体的に実践につなげるようにしていった。

授業科目名【 こども文化 】 具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、オンライン上で教員が資料を用いてデモンストレーションを行い、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が各自で実際に制作したものを、対面授業で発表することで実践力を身につけると共に、他者の様子も見て学ぶこともねらいとした。さらにお互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本士の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。
授業科目名【 こども学基礎演習 】 子どもや保育への理解を体験的に深めることができるように、学生が主体的に考え工夫し、他者と協力しながら活動することを意識しながら授業・演習を行った。実際に子どもたちと触れ合う機会はほとんどもてなかったが、学んだことを確認したり軌道修正したりしながら、実践力が定着するように心がけた。
授業科目名【 こども学特別演習 】 学生の主体的な学びを重視しながら、積極的に企画を出し合い、近隣の幼稚園や保育所、親子ふれあいルームなどに出向いて子どもたちと触れ合いながら、応用的な実践力が身につくように計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんど実践できなかったことが残念であった。その中でもオンラインでできる活動を工夫し、それぞれの自宅において楽しみながら実践力を身に付けることができたと思われる。
授業科目名【 保育実習指導Ⅰ 】 新型コロナウイルス感染症の影響で実習の制約はあったものの、実習先の理解と協力によって感染症に留意しながら子どもたちを守り育てるための実習に向けた学びができた。様々な児童福祉施設の特色を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己振り返りシートを活用した演習を行った。
授業科目名【 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ 】 自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的な取り組みができるようにしていった。またオンライン上でお互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。
授業科目名【 保育・教職実践演習（幼稚園） 】 実際に保育指導計画を作成して対面授業で模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりができるようにしていった。
授業科目名【 保育総合表現 】 新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた本学マロリーホールを会場に、市内の幼稚園、保育所の子どもたちを招待して作品の発表を行うことはできなかったが、これまで学んできたことを総合的に活用し、学生同士でアイデアを出し合って、現場で活用できる劇あそびのシナリオ作りを行った。演技・演出に加え、音響や照明も学生同士で話し合い、困難を乗り越えていく喜びを感じられるように心掛けた。教員はできるだけサポートに回り、学生の主体性を引き出しながら作品の完成へと導いた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
保育学会		2018年5月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 保育所における子どもの愛着形成の理解と支援 その3	共著	2021.3	北九州市立大学文学部紀要（人間関係学科）第28巻	① 養育者との愛着形成に課題を抱えた、発達の状態に課題を持つ子どもとその保護者に対し、保育所で行う代替的愛着形成と就学に向けた養育者支援について論じた。 ②共著者名 楠凡之
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・ コラボキャンパスネットワーク 親子ふれあいソレーム	実行委員 オブザーバー	2009年4月～2015年3月 2015年4月～現在に至る
・ 特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州	理事	2013年3月～現在に至る
・ NPO 法人あゆみの森共同保育園	苦情解決体制における 第三者委員	2018年9月1日～2021年3月31日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

図書委員会（副委員）	2018 年 4 月～現在に至る
学生募集委員会	2020 年 4 月～現在に至る
教員免許状更新講習講師	2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日（中止）
北九州市民カレッジ講師	2020 年 11 月（中止）

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 笠 修彰	職名 准教授	学位 修士(健康福祉学)
---------	--------	--------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉 地域福祉 ソーシャルワーク

研 究 課 題
・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担 当 授 業 科 目
こども家庭福祉(前期) 社会的養護Ⅰ(前期) 社会福祉(後期) 社会的養護Ⅱ(後期) 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習指導Ⅲ(通年) こども学基礎演習(通年) こども学特別演習(通年) 施設実習Ⅰ(学外実習) 施設実習Ⅱ(学外実習)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 こども家庭福祉 社会福祉 社会的養護Ⅰ 】 今年度は主にオンラインで授業を実施した。授業では、専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、单元ごとに予習プリントを作成、配布し、学習準備性の向上を促すとともに、個々の学生の学習状況が把握できるよう、適宜小テストを実施した。 今年度はオンラインでの授業が中心であったが、授業内容の質を落とさぬようチャット機能を活用した質疑応答や授業資料の見直しを行った。
授業科目名【 社会的養護Ⅱ 】 今年度は主にオンラインで授業を実施した。対面授業同様の教育効果を担保するため、具体的な事例を用いた個人ワークを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
一般社団法人日本社会福祉学会 日本保育学会	会員 会員	2008年7月 2016年9月

2 0 2 0年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008 年 4 月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009 年 6 月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015 年 4 月～現在に至る
『保育福祉小六法』（株）みらい	編集委員	2016 年 4 月～現在に至る
公益社団法人日本社会福祉士会	会員	2017 年 9 月～現在に至る
公益社団法人福岡県社会福祉士会	会員	2017 年 9 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等（8 役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会 副委員長（進学ガイダンス２回，高校訪問８校） ２０２０年４月１日～２０２１年３月３１日 キャンパス・ハラスメント相談員 ２０２０年４月１日～２０２１年３月３１日

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	篠木 賢一	職名	准教授	学位	修士 (体育学 鹿屋体育大学 2001 年)
----	-------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研 究 課 題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力との関連について考察する。

担 当 授 業 科 目
スポーツ実技、運動と健康、こどもの運動あそび、こども学基礎演習、こども学特別演習、保育・教職実践演習 (幼稚園)、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育所実習Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 こどもの運動あそび 】 子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。
授業科目名【 運動と健康 】 運動・スポーツが体に及ぼす効果や、運動によって健康・体力の維持、増進させる方法について学生の理解を深めるために、さまざまな事例を用いて解説している。
授業科目名【 こども学特別演習 】 子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。
授業科目名【 保育・教職実践演習 (幼稚園) 】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2 人 1 組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生に保育者としての意識が高まるように配慮した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会	会員 会員 会員	1997年～ 2012年～ 2013年～

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
九州大学バレーボール連盟 附属シオン山幼稚園「運動あそび」 九州大学バレーボール連盟	女子強化委員 講師 競技委員副委員長	2006 年～現在に至る 2013 年～毎月 1 回程度 2013 年～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員 2017 年度～現在に至る 教育経費予算配分委員 2018 年度～現在に至る 排球部 監督 2014 年度～現在に至る

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	末寄 雅美	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学大学院 1998 年)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研 究 課 題
① 2 年間の保育者養成における体験的な学びを通した保育観・子ども観の育成ー環境遊びを中心として ② 保育者養成教育における実習での保育の記録のあり方 ③ 現場保育者向けの生活体験プログラムの構築 (フィールドワーク) ④ 遊び技術を向上する保育士の研修のあり方

担 当 授 業 科 目
教育実習指導 (通年) こども学基礎演習 (通年) 保育原理 (前期) 教育原理(前期) 生活の中の環境学 (前期) (開講せず) 保育・教育実践演習 (後期) 保育メディア演習 (後期) 保育内容「環境」(後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。遠隔授業となったため、学生の学習ペースに十分配慮しながら授業進行を行った。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【教育原理】 保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。遠隔授業となったため、学生の学習ペースが保てるようノートプリント形式のプリントを配布し、要点をまとめやすくした。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【保育内容「環境」】 対面授業を実施した授業前半では屋外での体験学習を取り入れ、学生の生活環境への関心を引き出せるようなアクティブ・ラーニングになるよう工夫した。遠隔授業となった中盤以降も、自宅で実技や演習ができるよう工夫を行い、授業への参加意識を高めるよう配慮した。 また、地域環境と保育活動について、ゲストティーチャー (到津の森公園、獣医師) を招き、園外保育の引率を想定した話をして頂いた。

授業科目名【保育メディア演習】 対面授業を実施した授業前半では、メディア環境をテーマにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。また、今年度から「認定絵本土養成指定講座」を3コマ実施し、絵本や情報社会との関連について、より学生の理解が深まった。特に、大学図書館職員からの授業では、絵本検索を通じて絵本の関心を深める非常に良い機会となった。
授業科目名【教育実習指導】 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、遠隔授業での指導の難しさを感じつつも、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。例年入学一ヶ月後に行う「観察実習」は後期に実施、一年生の「教育実習Ⅰ」は一部学生が2月に延期、二年生の「教育実習Ⅱ」は「教育実習Ⅲ」と続けて9-10月に時期をずらして実施した。 実習事後指導では一人一人の学生に対しオンライン面談を行い、また丁寧な日誌指導を行った。オンラインで実習報告会を実施し、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。
授業科目名【教職実践演習】 現場での保育実践を見越したアクティブ・ラーニングの授業を行った。授業前半の対面授業を実施した期間に「模擬保育」を行った。クラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い、オンラインで意見交換を行った。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。
授業科目名【こども学基礎演習】 科目の主担当者として全体計画を作成した。オンラインで、まだ直接顔を合わせたことのない学生たちと懇親を深め、可能なゼミ活動を模索し、実施していくことは非常に困難であったが、学生が話しやすい雰囲気作りや学習成果を実感できる活動への取り組みなど様々な工夫を行った。 「認定絵本土」養成指定講座は複数回実施したが、特に外部講師を招いた授業では対面授業を実施し、認定絵本土としての実践力を高められるよう工夫と努力を行った。
授業科目名【こども学特別演習】 2年次のゼミ活動の科目であり、当初は体験学習や学外研修を中心に予定していた。遠隔授業になったため、予定していたゼミ活動はほとんど実施できなかった。唯一予定していた活動のうち、メディアにおける「炎上」を模擬体験できるゲームと、地域施設訪問（到津の森公園）のみ実施できた。遠隔授業では、一年生同様に、オンラインでできることは限られており、学生同士の懇親を深め、意見のやり取りがしやすいよう工夫と配慮をおこなった。科学への関心を深めるために自分の家庭でできる身近な科学遊びの紹介を行ったり、オンラインでできる運動遊びなどを実施した。
授業科目名【生活の中の環境学】 受講者が少なく、20年度は開講せず。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	理事（2004-2010年、2018年・） 事務局幹事（1996-1998年）	2013年5月～ 現在に至る
日本保育者養成教育学会		2017年3月～ 現在に至る
日本社会教育学会		1996年4月～ 現在に至る
日本生活体験学習学会		1998年10月～ 現在に至る
九州教育学会		1996年4月～ 現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1. 実習時における学生の困難事例についての検討～乳幼児との対応を中心に～	共著	令和2年5月	日本保育学会第73回大会（ポスター発表）	平成31年保育士養成セミナー報告の学会発表である。実習時の困難事例を「生活」「あそび」「課業（課業的活動）」の3つのカテゴリーに分けて集計を行った。その結果、遊び場面について困難を感じていることが分かった。遊びの種類では、構成遊びでのトラブルが最も多く、学生はその働きかけがうまくいかずに悩む場面が多くみられた。 脇信明・古林ゆり・金子幸・上原真幸・阿南寿美子・島田知和・ <u>末寄雅美</u> ・藤本朋美
2. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究(5)	共著	令和2年5月	日本保育学会第73回大会（ポスター発表）	本研究では、保育者養成校に在籍する学生の運動指導観の変容について調査し、「援助的運動指導観」と「計画的運動指導観」を二つのサブスケールに分けて分析を行った。その結果、いずれも3回目の調査で得点が低くなっていることが分かった。先行研究（保育者対象）と比較しても低くなっており、経験による差が影響していることが示唆された。 篠木賢一・阿南寿美子・命婦恭子・笠修彰・ <u>末寄雅美</u>
3. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究(6)実習前後の遊び環境に対する理解の変容	共著	令和2年5月	日本保育学会第73回大会（ポスター発表）	本研究では、実習体験を経た後に、遊び環境への理解の深まっているかに加えて、保育観、子ども理解の深まりとの関連についての分析を行った。その結果、遊び環境への理解が実習を経ることで深まっていることが分かった。また、入学時の遊び環境理解高群と低群では、低群の学生の理解が顕著に高まっていることが明らかとなった。 <u>末寄雅美</u> ・命婦恭子・阿南寿美子・篠木賢一・笠修彰

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
八女市子ども子育て会議	委員、会長	2016年9月～現在に至る（2022年9月迄）
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006年4月～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018年8月～現在に至る
山口県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2020年10月～現在に至る
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018年8月～現在に至る
NPO ドングリ研究部会	研究・実践担当	2020年9月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・保育科学科長 2020年4月～現在 ・人事委員会 副委員長 2020年4月～現在 ・教員免許状更新講習「保育の質の向上と保育の専門性：保育における遊び環境について」講師（20年度は感染症予防のため中止） ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 幼稚園運営委員 2018年4月～現在 他、学生募集のための高校訪問の実施等

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	末成 妙子	職名	教授	学位	教育学修士 (音楽教育学)
----	-------	----	----	----	---------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児の表現教育	・聴覚障がい教育 (聴覚障がい乳幼児) ・こども音楽療育 ・表現 (身体・音楽)

研 究 課 題
「こども音楽療育」の立場から、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据え、考察し、音楽の実践力をつける方法を研究する。こどもの演奏を存分に引き立たせ、技術的に演奏しやすい楽曲を創作し、実際の保育の場面で生かせるように楽譜に起こす。障がいのある子も、そうでない子も、共に活動ができ、発達を促す「表現活動」について研究する。2021 年 5 月に出版予定の『幼児期の表現活動』の執筆に加え、編者となっている『障がいのある子どもの保育・教育の実践 (仮)』の執筆も同時に進めている。

担 当 授 業 科 目
こどものうたあそび (後期) 保育内容「表現 (身体・音楽表現)」(前期) 保育総合表現 (後期) こども音楽療育概論 (前期) こども音楽療育概論 (後期) こども音楽療育実習 (後期) こども学基礎演習 こども学特別演習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 こども学基礎演習 】 コロナ禍の活動になり、学部全体で決まっていた年間の流れが大きく変更されることになった。末成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということであったが、画面上の練習を経たのち、唯一対面がかなった後期の「お話発表会」では、学生の積極的な発表を実現することができた。リーダーを中心に発表の流れを構築していく活動を学生自身が楽しみ、リーダーに任せきりになることがなく取り組めたので、この学びは保育の現場で必ず役立つものだと感じた。紙芝居では、内容の 1 部を歌にして他のゼミに発表するなど意欲的な活動もできた。
授業科目名【 こども学特別演習 】 わずかに対面活動が可能になった時期は奏でてみたい器楽合奏を各々が選び、実際に演奏することができた。「音楽の道しるべ」というべき楽譜の存在の大切さ、すばらしさを実感するために、リモートにおいても演奏したり、演奏を聴き合ったり、楽譜について見識を深める活動を重ねた。ハンドベルをつかって子どもの歌を美しく響かせる工夫も楽しむことができた。 入学以来リモートが続く 1 年生に向けて、実習や就職の話、手作り教材の披露などを通じて交流の機会を作ってくれて、画面を通しての楽しいゲームを考えてくれたりして後輩への働きかけを積極的に行った。
授業科目名【 保育内容「表現 (身体・音楽)」 】 ドラムジカの制作を行い「劇あそびと音楽を関連づけた表現あそび」を構成した。リモートではありながら役作りを考え、お互いの表現活動を考察する授業を展開した。末成自作の楽曲を用い、全音音階を用いた旋法の和声の響きを奏でてみたり、手作り楽器のギロを作り、実際に自分で作った楽器の音を鳴らしたり、形や工夫したことを披露することで、お互いの良い点を見つけ合った。子どもにとって表現することの大切さを学ぶ

ことで、表現の環境を整えるということについても考えを深め合うことができた。
授業科目名【こども音楽療育実習】 学生を3つのグループに分け、市内の幼稚園3園とリモートでつなぐ音楽療育の実践を行った。コロナウィルスの感染者が全国的に増えてき始めた2020年12月18日、最初の園とリモートでも触れ合える企画を考えて、園と遠隔授業で自宅にいる学生をZoomで繋いで音楽あそびの実習を行った。手あそびの《大阪うまいもんの歌》を題材に《福岡うまいもんの歌》を子どもの意見を取り入れながら作り、シルエットクイズを盛り込みながら最後は吉岡弘行作曲「合唱組曲《キューブ》」から《大阪風お好み焼き》を披露した。演奏の部分は事前にリモート演奏の動画を作成し、それを流す方法をとった。何回もZoomでのリハーサルを重ね、動画とライブの切り替えのタイミングを練習して行った。 幼稚園児たちは、園のホールに設置されたスクリーンの前に集まり、初めての体験ながら、学生の問いかけに元気に答え、画面を通して楽しい時間を過ごした。学生たちは園児の反応を画面で見ているので双方向のやりとりも大変スムーズに進めることができた。地元のおいしいものを考えるためのシルエットクイズが大変好評だった。最後の《大阪風お好み焼き》の歌は、「おもしろい！」と喜んで聴いてもらい、さようならのあいさつの後も、園児から「また面白いことしてね」という声援を聞くことができた。 年内に1園、年明けに最後の1園とそれぞれ異なる企画でリモート療育音楽あそびを行い、いずれも大変高評価をいただき今後の我々の励みともなった。
授業科目名【保育総合表現】 過去4年間は外部のホールにて土曜日の午後に開催し、昨年度は2020年1月15日（金）に、本学マロリーホールにおいて「シオンの丘子ども劇場」というタイトルで劇を開催した。しかし本年度はコロナ禍のリモートということで、学生による脚本制作を行った。セリフはもちろんのこと、劇中の曲作り、効果音、対面の時にわずかに出来上がった大道具小道具をもとに考えた舞台道具の制作方法などを100ページ余りのブックレットにまとめることができた。学生の振り返りによれば、「実に困難を極めたが、画面上の話し合いは非常に充実して、だれ一人他人任せにすることなく、みんながリーダーのように制作に携わった。」と書かれていた。保育科の学生はパソコン操作などに少し自信のない学生もいたが、今回のブックレットの制作に関して、ドキュメントからの写真の整理や文章作り、作図のテクニックなど、多くのことを学べたのは収穫だったようだ。
授業科目名【こども音楽療育演習】 ユニバーサルデザインの音楽ということに着目して、音楽の多様な力を使った様々なセッションについて解説した。この授業では障がいのある幼児さんとかかわるときに曲はどのようにアレンジしたらよいかということをも未成と個別に検討し、本当に自分が現場で使えるセッションを構築することを目指した。「オノマトペ」を図と一緒に提示する『どんなおと？』という絵本を作ることで、障害のある子にとって一つの大きな壁ともいえる言葉の領域についても深く考察して、ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことを含めて、研究することができた。
授業科目名【こどものうたあそび】 次週の課題となる曲目をはっきり提示して予習が必ずできるように心掛けた。保育園・幼稚園では毎日必ず何らかの音楽を使った活動や歌う活動がある。歌いながら手や指先、からだを動かしてあそぶことは人間関係を深めていくことにつながり、そうした遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つことを毎回多くの楽曲をとおして学ぶことができる授業とした。わらべ歌から最近のこどもの歌まで、14回の講義にどの曲を学ばせるかは、十分に精査して講義を進めた。リモートでありながら各家庭から互いに励ましあったりして伴奏を演奏してくれる学生が出て、各自が持ち前の個性を発揮して、積極的に取り組んだ。この積極性は保育科のすばらしさであると改めて実感した。明るくはっきりした歌声で歌い合い、見せ合い、様々な歌を自分のものにしていった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞って提示することもできた。
授業科目名【こども音楽療育概論】 未成の行ってきた実践を多く取り入れて講義を進めた。聴覚障害の実際について、具体的な様々な角度からの不自由さを理解し、映像などを提示しながら、音楽の力と障がいのあるこどもへの理解を深めさせた。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持って受講しているので32名の学生は向学心を持ち、緊張感を持っていた。リモートになっても回を追うごとに大変積極的な調べ学習や取り組みが見られた。発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知り、近年ますます多様化、重複化するこどもの障がいを理解するために、できるだけエピソードを交えながら講義を進めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011 年～現在に至る

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
国際交流委員会 公開講座委員会 学生委員会	副委員長 留学生選考の面接試験において試験官を務めた。 委員長 副委員長
7月8日（水）	高大連携講座 西南女学院附属高校 6年生対象に実施

以上

2020 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	谷崎 太	職名	准教授	学位	経営学修士
----	------	----	-----	----	-------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研 究 課 題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担 当 授 業 科 目
初年次セミナー (1 年前期) 経済学入門 (1 年前期) 子ども学基礎演習 (1 年前期・後期) 子ども学特別演習 (2 年前期・後期) メディアリテラシー (1 年後期) キャリア開発 (1 年後期) 情報処理入門 (2 年前期) 保育メディア演習 (2 年後期 AB クラス) 保育メディア演習 (2 年後期 CD クラス) 実践キャリアプランニング (2 年前期) 保育総合表現 (2 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナー】 汎用的技能、スタディスキル、スチューデントスキルを身につけるために、グループワークを中心とした演習を次の順序で行った。全体に共通した課題に対する討論をしながらグループを形成する。その後、グループごとに別途提示された課題について資料を集めながらグループとしての発表資料を作成する。一連の活動を振り返り、個人としての振り返りレポートを作成する。これらによって、「聞く、調べる、読む、書く、考える、発表する、討論する、を鍛錬・強化する姿勢を養う」「グループワーク、チームビルディングを通して、自己および他者を理解する姿勢を養う」「課題解決のために、テーマを探求し、解決の方策を探る姿勢を養う」「自らの行動を省察し、成長へと繋げる姿勢を養う」ことを促した。
授業科目名【保育メディア演習】 保育実践の記録化・可視化を行う上で有用な情報ツールを利用できるよう、文書ならびにプレゼンテーションの作成、利用についての技能向上を図った。現場で必要とされる資料作成の留意点等について考察する課題を提示し、課題の作成から提出までを、ブラウザ、Word、PowerPoint、電子メール等で完結させることでテーマの考察と PC 操作の習熟とを同時に促した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本簿記学会 日本会計史学会 国際会計研究学会 日本企業経営学会 日本会計研究学会 日本生産管理学会 広島大学マネジメント学会 経営行動研究学会	監事（2000年～現在に至る） 中四国支部幹事（2001年～2003年）	1994年4月 1996年11月 1996年11月 1997年3月 1997年9月 1998年4月 2000年12月 2008年8月

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
研究紀要委員会（2019年4月～2020年3月） 学生個人情報保護委員会（2019年4月～2020年3月） 情報システム管理運用委員（2020年4月～2022年3月） 短期大学部一般教育課程委員（2020年4月～2022年3月）

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	戸田 由美	職名	教授	学位	修士 (文学)
----	-------	----	----	----	---------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石・文芸学的諸相・東洋の見地・西洋の見地 見立ての思想

研 究 課 題
漱石文芸あるいは、日本の思想の根幹にある「見立て」の見地について、作品世界の文芸学的主題に沿って究明するものである。その際、「不思議さの究極にあるものは何か」という研究課題を研究のステージにのせて解明、論及するものである。

担 当 授 業 科 目
文学 (保育科・英語学科・観光文化学科・看護学科・福祉学科・栄養学科) 日本語表現法 (保育科・英語科・観光文化学科・看護学科・福祉学科・栄養学科) こどもの文学と物語 こども特別演習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【日本語表現法】 学生たちが卒業後社会に出ても通用するべく、あるいは就職試験に対応できるように数々の用例に則ったスピーチの仕方、書き方、表現の方法についてのテクニックを学ぶとともに、表現の重要課題が「観察」であることをマスターさせ、客観的表現の大切さを学ぶことを主眼とする。したがってただ単なる書き方の技術のみの講義をするのではなく、文章表現の上達は心の成長であり人格教育であることを重ねて学ばせた。
授業科目名【文学】 文学とはなにか、この学びは文学作品はもとより、生きている現象のすべてを対象とし、分析し、自分の考えを自分の言葉で表現できるよう、あらゆる視点から作品のテーマを解明し、文学が実学であることを学ばせた。
授業科目名【子どもの文学と物語】 一般の文学とは異なり、子どもの成長にかなった幼児教育が出来るか否かに重要な課題があるためその点を見極めて、絵本の与え方、内容、子どもの成長過程、右脳、あるいは左脳の発達に即した教育の仕方等々、多角的視点から、保育と国語の教育を兼ねて講義した。
授業科目名【子ども学特別演習 (ゼミ)】 ファンタジーとは何か、を学ぶにあたり、決して空想といった生易しいものではなく、「ゆきて帰りし世界」であり、主人公がファンタジーの世界へ行く前と行ったのちの世界観は全く違い、主人公の成長がみられるところにファンタジーの意義と魅力がある。それを子どもたちの世界になぞらえて、学生たちと共にファンタジーの重要な神髄を教育に生かせるように教育研究するゼミである。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本文芸学会 日本キリスト教文学会 日本近代文学会 日本語教育学会		1983年 1991年 1985年 2002年

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) ただいま継続中				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
子ども・子育て専門委員	専門委員	

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
短期大学部長 西南女学院理事 附属シオン山幼稚園園長

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 東 彩子	職名 講師	学位 修士 (宣教学) (Fuller Theological seminary)
---------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
①キリスト教教育・キリスト教女子教育 ②キリスト教と身体 (演劇・ダンス等身体表現含む)	キリスト教教育、キリスト教女子教育、宣教、礼拝、身体、神秘劇

研 究 課 題
1: キリスト教教育における身体の神学的意義を探り、演劇やダンスの実践を伴うキリスト教教育の教育的・宣教的効果について、ホリスティックな観点から研究を進める。 2: 中世の神秘劇研究を土台とし、現代の世界各地における神秘劇について神学的・宣教学的研究を進める。

担 当 授 業 科 目
<短期大学部保育科> キリスト教学Ⅰ (1年前期)、キリスト教学Ⅱ (2年後期)、キリスト教保育 (1年後期) こども学特別演習 (2年通年) <大学人文学科 (英語・観光文化) > キリスト教学 (旧約聖書) (1年前期)、キリスト教学 (新約聖書) (1年後期) <大学共通> キリスト教文学と文化 (全学後期) キリスト教と文化 (2年後期7コマ) キリスト教と西南女学院の歩み (1年前期4コマ)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【短期大学部キリスト教学Ⅰ・Ⅱ】 コロナ禍のため、遠隔授業で行うことになったが、紙芝居・絵本、映画など視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。チャペルについても遠隔となったが、Google Classroom を活用し、毎回の感想記述を行い、通年でのチャペルの振り返りが可能となり、建学の精神の学びの確認を行った。
授業科目名【キリスト教保育】 キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、遠隔ではあったが、少人数のグループにわけ「世界の子ども」の発表を行った。Google Classroom にて各国のルームを作成し、各国別に世界のこどもたちの現状について調べ、グループ発表を行い、自分たちに何ができるかを検討した。このプロジェクトにより、聖書に基づくチームワークやリーダーシップなどについて洞察を深める機会を作った。 また、コロナ禍で通常行なっている劇の授業ができなかったため、クリスマスの時期に、クリスマスに関する制作を行い、各自、聖書との繋がりを踏まえた上で、発表を行った。
授業科目名【大学人文学部 キリスト教学 (旧約・新約)】 前期は旧約聖書、後期は新約聖書にわけて講義を行うため、視覚教材もあわせて深い掘り下げが可能となった。学生が1年間を通して聖書全体を概観でき、「感恩奉仕」の精神の土台となる聖書の知識を身につけられるよう、聖書の登場人物を中心に解説した。コロナ禍の遠隔授業である中、通常行うグループワークは不可能であったため、「星の王子様と聖書」というテーマで、愛とは、命とは、生きるとは、などについて「星の王子様」と聖書の繋がりを元に、自らの考えを深める授業を行った。

授業科目名【大学共通 キリスト教と文化】

キリスト教文化に幅広く触れる機会を提供した。キリスト教の歴史や人物、芸術や文学などについての解説を元に、学生が興味をもった分野について、自らテーマを決めて文献検索を行い、レポート執筆の機会を設けた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本基督教学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本宣教学会	会員	2014年9月～現在に至る
日本キリスト教史学会	会員	2017年4月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
キリスト教学校教育同盟 全国新任夏期研修会	運営・実行委員	2018 年 4 月～現在
日本バプテスト小倉キリスト教会	会員	2011 年 4 月～2021 年 3 月
日本バプテスト宣教団	West Japan, Associate Staff	2020 年 7 月～現在
ワールド・ビジョン・ジャパン	会員・チャイルドスポンサー	2010 年 7 月～現在
日本 YWCA	会員	2010 年 7 月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
西南女学院キリスト教センター長	2020 年 4 月 1 日～現在
西南女学院大学・短期大学部宗教主事	2020 年 4 月 1 日～現在
キリスト教センター運営委員長	2020 年 4 月 1 日～現在
大学宗教委員会委員長	2020 年 4 月 1 日～現在
クリスマス礼拝総監督	2010 年 4 月 1 日～現在 (2013 年度を除く)
大学・短大 YouTube チャペル企画・制作	2020 年 5 月 1 日～現在
新任オリエンテーション聖書学課講師	2020 年 4 月 2 日
大学・大学短期大学部チャペル奨励	2020 年 5 月 11 日～17 日 (動画配信)
西南女学院中高クリスマスツリー点灯式司会	2020 年 12 月 3 日
西南女学院月報巻頭言執筆	第 672 号 (2020 年 4 月号) 第 673 号 (2020 年 5 月号) 第 682 号 (2022 年 4 月号)
キリスト教センターだより企画・編集	第 112 号～第 113 号
地域連携室女性活躍ワーキンググループ員	2017 年 4 月 1 日～現在

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤田 稔子	職名	准教授	学位	修士(看護学)(神戸市看護大学 2005 年)
----	-------	----	-----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護	感染症(感染症対策、予防接種) 小児ぜんそく 医療保育

研 究 課 題
【現在取り組んでいる研究課題】 ・医療保育専門士と小児病棟看護師との協働の在り方について―特に、子どもの理解が乏しい新人看護師に対して、保育の専門性を有効的に活用した取り組みについての実施と考察。 【継続していきたい研究課題】 ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査し、その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。 ・子ども達が身体や健康に関心を持つきっかけとなる「絵本」に着目し、発達段階にみた「内容」「(身体や症状を表す)ことば」について調査する。

担 当 授 業 科 目
こども学基礎演習(保育科1年 前期・後期) こども学特別演習(保育科2年 前期・後期) 初年次セミナー(保育科1年 前期) 保育内容「健康」(保育科1年 前期) こどもの健康と安全(保育科2年 前期) こどもの保健(保育科1年 後期) こども音楽療育実習(保育科2年 後期) 在宅保育(保育科2年 後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【こども学特別演習】 例年、井堀市民センターに出向き、実際に未就園児とその保護者と関わり合いながら活動を展開していたが、今年度は、新型コロナウイルス感染の拡大によって活動ができず、1 回しか開催できなかった。しかし、学生達の発案と行動力で、YouTube チャンネルを開設し、定期的に動画配信をすることができた。この動画作成に際して、著作権のこと、自分たちのプライバシーの保護、対象者へ画面を通して伝えるむずかしさ等、様々な学びの機会となった。担当教員としては、学生達が活動しやすいように環境を整えることに努めた。
授業科目名【初年次セミナー】 入学してから一度もキャンパスに来たことがないため、キャンパス内の動画を解説付きで撮影したり、図書館と協力して、図書館内の案内や使用方法等の説明を Live で配信したり等、対面授業になったときに困らないように、そして、本学の学生であることを少しでも実感できるように実際の映像を見ってもらうことでリアルに伝える工夫をした。また、仲間づくりのきっかけになるように、グループワークを多く活用した。グループワークの内容も難しいものではなく、例えば、名画を見ながらそれにあったセリフを考える、等のグループメンバー内で気楽にお喋りしながらできるような面白い題材を提供するようにした。

授業科目名【こどもの健康と安全】

本科目はすべて実技演習であるため、どうしても自宅でできない内容は集中講義として来校して受講してもらった。その際、できる限り感染症対策を施したうえで、時間の許す限り内容を濃縮して実施した。私1人では不可能であるため、教育支援職員の協力で予定した実技演習が全てできたことは感謝に堪えない。しかし、7割の内容が遠隔授業で行うこととなった。物品や設備等環境的に156乳児保育室からの配信ができることがベストであったが、Wi-Fi環境が整っていないため、自宅から配信せざるを得なかった。しかし、できる限り手技が見えるように撮影の機材等整え、デモンストレーションのやり方も学生の意見を聞きながら実施した。事前に動画を作成して配信することを最初に提案したが、学生からはLive配信の希望が強くあった。その時その時に例えば、「角度を変えて見たい」「もう一度この部分だけ見たい」などの要望が可能となるからだ、と言われた。実際に、デモンストレーション中の質問や要望、発言は多く、Live配信にしてよかったと思っている。(在宅保育は後期科目であったため、この科目のやり方が活用でき、学生からは好評であった)

授業科目名【こども音楽療育実習】

本科目は、例年、特別支援学校や保育園、地域の施設に出向いて音楽活動をしていたが、本年はできなかった。そのため、zoomで学生達と園と繋いで音楽会をすることとした。事前にリモート演奏の動画を作成し、当日はzoomで実施した。学生達の振り返りを見ると、担当教員が求めている以上の学びを得ており、初めての手探りの試みであったが、やってよかったと感じた。

学会における活動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本小児保健学会		2000年4月～現在に至る
日本小児看護学会		2005年4月～現在に至る
日本保育所保健協会		2009年4月～現在に至る
日本医療保育学会		2010年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2010年4月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				教育研究業績 総数 著書 4 (単0 共4) 学術論文 3 (単1 共2) 学会発表 12 (単2 共10) その他 8 (単0 共8)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市開発審査会 北九州市私立保育園連盟 社会法人 真祐会	委員 外部理事 評議員	2013 年 11 月～現在に至る 2018 年～現在に至る 2019 年～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・委員会 - 倫理委員会 副委員長 2010 年度～現在に至る - 就職委員会 副委員長 2016 年度～現在に至る - FD 委員 2019 年度～現在に至る ・S.D.C 顧問 ・アドバイザー関連 - 保育科 1 年ゼミ アドバイザー - 保育科 2 年ゼミ アドバイザー ・地域貢献 - いぼりの森の「みんな！だあ～いすき！」みんな♪フレアイ隊 - zoom で繋ぐ、楽しい音楽あそび ・執筆 - 附属シオン山幼稚園「しおんのそののあゆみ」2020 年 9 月号 巻頭言 - キリスト教センターだより 2020 年送別号 聖書の花束「心の中心にあるもの」 ・卒業生支援 - 医療保育専門士への支援

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	村上 里絵	職名	教授	学位	修士 (福岡教育大学 1995 年)
----	-------	----	----	----	--------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
発達心理学、応答的保育	乳幼児の言語発達、応答的保育、幼児の思考力

研 究 課 題
発達心理学を基盤に、乳幼児の育ちと保育を考える。特に、乳幼児期の子どものことばの発達と人的環境（特に母親を中心とする養育者や保育者）との関わりについて考察する。

担 当 授 業 科 目
・保育内容総論(前期) ・こどもの発達理解と遊び (前期) ・教育実習指導(前期・後期) ・こどもの生活と遊び (後期) ・保育の計画と評価 (保育課程含む) (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 保育内容総論 】 乳幼児期は、小学校以降の教科別教育と異なり、領域別に保育されるものではなく、子どもが主体の総合活動であり、環境を通して行うものである保育の本質について繰り返し説明する。また、五領域の視点は、保育の振り返りに必要であり、活動にバランスよく組み込まれていることが大切であることを実践事例を基に説明する。更に保育現場でのエピソードを用い、子どもの姿が思い描けるような工夫をしている。
授業科目名【 こどもの発達理解と遊び 】 乳幼児期の発達を理解しながら、子どもの成長発達に必要な遊びや活動を体験し、体で会得できるようにする。また、学生自身の実習での指導計画作成に生かされるように、授業中に説明した「配慮事項」や「援助」などを授業シートに記録する時間を確保し、指導している。
授業科目名【 保育の計画と評価 (教育課程を含む) 】 目の前にいない子どもの姿について想像力を働かせながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園保育要領から、各幼稚園・保育園(所)・認定こども園の保育計画 (教育課程・保育課程・全体的な計画) に繋がっていることを理解できるように説明する。また、実際の保育計画を見ながら、各年齢の繋がり、計画→実践→記録→評価のPDCA サイクルについて、理解を促すよう工夫している。
授業科目名【 子どもの生活と遊び 】 乳幼児期の生活と遊びが子どもたちに学びをもたらせ、小学校低学年の生活科に繋がることを様々な事例を通して理解できるように説明する。また、日常生活における子どもの遊びの種類や知識の引き出しが増やせるように実際に子どもの室内における遊びを体験し、興味を持って理解する時間を作った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 保育教諭養成課程研究会		1985 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市児童福祉施設第三者評価委員	委員	2012 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
なし

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	命婦 恭子	職名	准教授	学位
----	-------	----	-----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学	子育て支援 学校臨床 ストレス メンタル・ヘルス ソーシャルスキル

研 究 課 題
研究課題は大きく 3 つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、本学附属幼稚園での発達相談員としての臨床実践とその実践に関する臨床研究である。さらに、2016 年度から保育者養成校の学生を対象に学外実習の前後に保育者としての資質の変容があるかについての質問紙調査を実施している。

担 当 授 業 科 目	
心理学（前期） 障がい児保育演習（前期） こども家庭支援の心理学（後期） 教育相談とカウンセリング（後期） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年）	保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） 施設実習Ⅰ（学外実習） 施設実習Ⅱ（学外実習）

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【教育相談とカウンセリング】 これまでの臨床経験をもとに、架空の事例を作成し、それについて学生自身が自分に出来る対処法を考える授業を実践している。事例では、保育現場の実際に即して、園内のチーム連携や園外の専門機関との連携についても具体的な対処方法を伝えている。学生が考えた対応方法については、それぞれの個性が反映されているととらえ、学生の意図を尊重した上でよりよい対処法をさらに考えるような講義内容になるようにコメントを工夫している。
授業科目名【障がい児保育演習】 保育現場で接することが多い発達障害の子どもたちへの支援方法を中心テーマとして授業を構成した。2 年生を対象としていることから、指導案の作成や教材作成も取り入れて実践的な内容とした。
授業科目名【心理学】 進化的な視点から、心理学の幅広い分野について学ぶことができるように配慮した。特に、学習や認知については学ぶことは、専門科目である「保育の心理学」に連携するため、重点的に学べるように配慮した。
授業科目名【施設実習Ⅰ・Ⅱ】 本年度は、COVID-19 の感染防止のために、学外での実習ができなかった学生がいたために、特例措置として学内での演習をもって学外実習の代替とした。学内で、かつ遠隔での実施であったが、外部講師の招聘や視覚教材の活用により、児童福祉現場の様子を学生に伝えることができるように工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康心理学会 日本心理臨床学会 日本心理学会 日本行動医学会 日本ストレスマネジメント学会 日本こども健康科学会 日本健康支援学会 日本保育学会 日本生活体験学習学会		1997 年 4 月～現在 1998 年 4 月～現在 2000 年 4 月～現在 2001 年 4 月～現在 2002 年 4 月～現在 2009 年 4 月～現在 2010 年 4 月～現在 2014 年 4 月～現在 2018 年 11 月～現在

2020 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 保育者養成校における 保育者としての資質に 関する調査 ～変数間の関連性の分 析～	共著	2021 年 3 月	西南女学院大学紀要	本研究では保育者としての資質に関わる要素として、保育観、子ども理解、共感性、社会性、援助観に注目し、要素間の関連性について検討することを目的とする。分析の結果、対人スキルや共感性が、保育者としての資質を整理するときに欠かせない要素であることが示された。
（翻訳）				
（学会発表） 保育者養成における保 育者としての資質の変 容に関する縦断的研究 （5）運動指導観を中心 に	共	2020 年 5 月	日本保育学会第 72 回 大会	本研究では、実習体験による学生の保育者としての成長を量的に明らかにすることを目的とする。本発表では、そのうち運動指導観に注目し、入学時から卒業までの2年間の意識の変容を分析する。
保育者養成における保 育者としての資質の変 容に関する縦断的研究 （6）実習前後の遊び環 境に対する理解の変容	共	2020 年 5 月	日本保育学会第 72 回 大会	保育科の学生が授業や実習体験を経た後に、遊び環境への理解が深まっているかを分析する。入学時には遊び経験や遊び環境への理解が十分でなかった学生も、保育者として成長できるのかを分析し、明らかにしたい。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
日本臨床心理士会会員 福岡県臨床心理士会会員	会員 会員	2002 年 4 月～現在 2002 年～2007 年、2014 年 4 月～現在
北方シネマ運営委員会 わかぞのインクルーシブコミュニティ構想運営委員会	会員 会員	2017 年 2 月～現在 2018 年 11 月～現在
手づくり市場 in 北九州実行委員会	会員	2019 年 4 月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員 地域連携室室員 内部監査委員 キャンパスハラスメント相談員 附属シオン山幼稚園発達相談員

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山路 麻佳	職名	特任講師	学位	修士(教育学)(福岡教育大学 2013 年)
----	-------	----	------	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学	ピアノ演奏表現、音楽教育、保育者養成ピアノ教育 幼児の音楽表現、器楽アンサンブル(合奏)

研 究 課 題
保育者養成のためのピアノ教育において、経験のない初心者への効率的な指導法を童謡の弾き歌いにおけるピアノ伴奏を中心にして考察する。また、保育者養成におけるピアノ教育が幼児の音楽表現にどのように関わっていくのか、ピアノ演奏表現も関連させながら考察する。 幼児の音楽表現に関して、器楽アンサンブル(合奏)を中心にして考察する。 ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。

担 当 授 業 科 目
こどものためのピアノⅠ(前期) こどものうたと伴奏法Ⅰ(前期) 音楽の基礎(前期) こどものためのピアノⅡ(後期) こどものうたと伴奏法Ⅱ(後期) 保育総合表現(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【こどものためのピアノⅠ】 授業の最初にソルフェージュ課題を取り入れ、ピアノ実技の導入として読譜力をしっかり身につけ本科目の目的であるピアノ実技に活かしていくことができるようにした。 また、今年度前期は遠隔授業となったため時差等によってピアノレッスンへの問題が生じないよう、事前に動画で課題を提出させることで、時差等による音質障害だけでなく演奏の完成度を上げる意識を高めることができるようにした。
授業科目名【こどものためのピアノⅡ】 1年生は初めて対面でのレッスンであったため、模倣演奏を示しながら正しい奏法(姿勢・手のフォーム・ポジション・リズム・運指等)について改めて個々のレッスンで教授した。弾き歌いの課題ではコード伴奏課題を入れることで、前期で履修した「音楽の基礎」での学びを踏まえて、知識に加えて演奏を通して理解を深めることで、より実践的なピアノ技能を高められるよう進めた。
授業科目名【こどものうたと伴奏法Ⅰ】 授業の最初に個々のピアノ習熟度に応じてソルフェージュ課題を取り入れることで、学生の読譜力の向上につなげ、ピアノ演奏に活かしていくことができるようにした。また、1年次に学んだコード伴奏の内容を復習しピアノ実技に取り入れることで、より実践力を高められるよう進めた。 また、今年度前期は遠隔授業となったため、時差等によってピアノレッスンへの問題が生じないよう、事前に動画提出を課題とすることで、時差等による音質障害だけでなく、演奏の完成度を上げる意識を高めることができるようにした。

授業科目名【こどものうたと伴奏法Ⅱ】 これまでに習得したピアノ技術をもとに、学生の習得状況に応じた課題を準備し、各々が社会に出てから必要となる力を身につけられるよう個々の習熟度に合わせた指導を行った。また、個別レッスンの他に少人数ずつ学生を集め発表の場を設けることで、学生の意欲を高めより実践を意識して取り組めるようにした。
授業科目名【音楽の基礎】 遠隔授業であったため、例年のような机間指導ができない状況であったが、パワーポイントの画面に動画やアニメーションを利用して映像や音符の動きを加えながら説明することで、学生が理解しやすい資料の提示・説明を心がけた。また、課題への添削を個々にコメントを加えるだけでなく、必要に応じて個別に話す機会を設けながら進めた。
授業科目名【保育総合表現】 こどものためのミュージカルを学生主体で作り上げていくにあたって、作品にふさわしい音楽を作曲や選曲、効果音の提案をし、作品を表現していく上での音楽の重要さが伝わるよう進めた。また、今回は脚本を作成するにあたり、作品で使用する曲を記譜することで正しい記譜法だけでなく、今後の現場で活用できる脚本作成へと導いた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 九州公私立音楽学会		2018年10月～現在に至る 2019年9月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州音楽協会 福岡青年音楽家協会 むなかた第九コンサート	協会員 協会員 伴奏ピアニスト	2015年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る
「東京インテリア家具 MOA café コンサート」	ピアニスト	2020年4月5日
「九州山口ジュニアピアノコンクール」審査員	審査員	2020年7月25日
島村楽器「福岡地区音楽教室発表会」	伴奏ピアニスト	2021年2月27日
宗像ユリックス「ロビーコンサート」	ピアニスト	2021年3月26日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
チャペルアワー 奏楽 入学式 奏楽 クリスマス礼拝 奏楽